岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第561集

# 斉羽場館跡発掘調査報告書

さいのはばたて

緊急地方道路整備事業下門岡地区関連遺跡発掘調査

2010

岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部

(財)岩手県文化振興事業団

# 斉羽場館跡発掘調査報告書

緊急地方道路整備事業下門岡地区関連遺跡発掘調査

# 序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、緊急地方道路整備事業下門岡地区に関連して平成20年度に発掘調査された斉羽場館跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では後期旧石器時代のキャンプ地、平安時代の集落跡、中世の館跡であることが明らかとなり、北上盆地中流域の当該期の実態を解明する上で貴重な資料になることと思われます。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、御理解と御協力をいただきました岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部、北上市教育委員会、北上市埋蔵文化財センターをはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成22年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長　武　田　牧　雄

# 例　　言

1　本報告書は、岩手県北上市稲瀬町字前田164-1に所在する斉羽場館跡において、平成20年度に実施した発掘調査の結果を収録したものである。

2　本遺跡の発掘調査は、「緊急地方道路整備事業下門岡地区」に伴う緊急事前調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の調整を経て、岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部の委託を受けた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3　岩手県遺跡情報検索システムに記載される遺跡番号はＭＥ76－2110、遺跡略号はＳＨＴ－08である。

4　発掘調査期間は平成20年９月１日～11月21日、発掘調査面積は1,290㎡、野外調査担当者は北村忠昭・丸山浩治・吉田泰治、室内整理期間は平成20年12月16日～平成21年３月31日、室内整理担当者は北村忠昭である。

5　本書の執筆は、第Ⅰ章を岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部、それ以外を北村が担当し、編集は北村が行った。

6　遺構写真は北村が、遺物写真は岩間和幸が撮影した。

7　本書で用いる方位は、世界測地系による座標北を示す。レベル高は海抜である。

8　各種委託業務は、以下の機関に委託した（敬称略）。なお、黒曜石産地同定・火山灰分析・放射性炭素年代測定の結果報告は附編に収録している。

石質鑑定：花崗岩研究会、金属製品の保存処理：岩手県立博物館、放射性炭素年代測定：株式会社加速器分析研究所、火山灰分析：株式会社　火山灰考古学研究所、黒曜石産地同定：株式会社　第四紀地質研究所、遺物実測図化業務：株式会社ラング、基準点測量：株式会社キタテック、航空写真：東邦航空株式会社

9　野外調査、室内整理にあたり岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部、北上市教育委員会、北上市埋蔵文化財センター、北上市上下水道部上水道課、近隣住民の方々の御理解と御協力をいただいた。

10　発掘調査や整理・報告書の作成は、以下の方々に御教示・御協力を頂いた。（アイウエオ順、敬称略）

井上雅孝、宇田川浩一、大渡賢一、笠原　興、加藤朋夏、加藤　竜、神原雄一郎、菊池強一、熊谷仁志、小林　克、坂本尚史、鈴木宏行、直江康雄、西谷　隆、原田昌幸、広田良成、吉川耕太郎、秋田市教育委員会、秋田県埋蔵文化財センター、秋田県立博物館、財団法人北海道埋蔵文化財センター

11　本報告書では、国土地理院発行１：50,000地形図「北上」、１：25,000地形図「口内」「陸中江刺」「北上」「金ヶ崎」を使用した。

12　土層注記及び出土土器の色調の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所　色票監修『新版　標準土色帖』2002年度版に準拠した。

13　本遺跡の出土遺物と記録類は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

14　本報告書発行以前に平成20年度発掘調査報告書で調査成果を公表したが、本報告書を正とする。

# 目　　次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地・環境 …… 2

1　地理的環境 …… 2

2　歴史的環境 …… 9

Ⅲ　調査の方法 …… 14

1　野外調査 …… 14

2　室内整理 …… 16

Ⅳ　分類基準 …… 18

1　土器類 …… 18

2　石器・石製品 …… 18

Ⅴ　検出遺構と出土遺物 …… 23

1　後期旧石器時代 …… 23

2　縄文時代 …… 49

3　平安時代 …… 83

4　中世 …… 93

5　時期不明 …… 101

Ⅵ　まとめ …… 107

附編　斉羽場館跡の自然科学分析 …… 115

黒曜石産地同定 …… 115

火山灰分析 …… 121

放射性炭素年代測定 …… 127
報 告 書 抄 録 …… 167

# 図版目次

第１図　遺跡位置図…… 1
第２図　調査区と周辺の地形…… 2
第３図　地形分類図・表層地質図…… 4
第４図　基本層序…… 6
第５図　調査区土層断面図（１）…… 7
第６図　調査区土層断面図（２）…… 8
第７図　周辺の遺跡…… 11
第８図　全体図・グリッド配置図・遺構配置図… 15
第９図　石器分類図（１）…… 20
第10図　石器分類図（２）…… 21
第11図　旧石器分布図…… 24
第12図　器種別分布図（第Ⅰ文化層１）…… 25
第13図　器種別分布図（第Ⅰ文化層２）…… 26
第14図　器種別分布図（第Ⅱ文化層）…… 27
第15図　石器石材別分布図（第Ⅰ文化層１）…… 28
第16図　石器石材別分布図（第Ⅰ文化層２）…… 29
第17図　石器石材別分布図（第Ⅱ文化層）…… 30
第18図　第Ⅰ文化層以前の出土遺物…… 32
第19図　Ｓｂ 01 …… 33
第20図　Ｓｂ 02・Ｓｂ 03 …… 34
第21図　第Ⅰ文化層の遺物（１）…… 36
第22図　第Ⅰ文化層の遺物（２）…… 37
第23図　第Ⅰ文化層の遺物（３）…… 38
第24図　第Ⅰ文化層の遺物（４）…… 40
第25図　第Ⅰ文化層の遺物（５）…… 41
第26図　第Ⅰ文化層の遺物（６）…… 42
第27図　第Ⅰ文化層の遺物（７）…… 43
第28図　Ｓｂ 04 …… 45
第29図　第Ⅱ文化層の遺物（１）…… 46
第30図　第Ⅱ文化層の遺物（２）…… 48
第31図　縄文時代の遺構（１）…… 50
第32図　縄文時代の遺構（２）…… 51
第33図　縄文時代の遺構（３）…… 53
第34図　縄文時代の遺構（４）…… 55
第35図　縄文時代の遺構（５）…… 59
第36図　縄文時代の遺物（１）…… 60
第37図　縄文時代の遺物（２）…… 61
第38図　縄文時代の遺物（３）…… 62
第39図　縄文時代の遺物（４）…… 63
第40図　縄文時代の遺物（５）…… 64
第41図　縄文時代の遺物（６）…… 66
第42図　縄文時代の遺物（７）…… 67
第43図　縄文時代の遺物（８）…… 68
第44図　縄文時代の遺物（９）…… 69
第45図　縄文時代の遺物（10）…… 70
第46図　縄文時代の遺物（11）…… 71
第47図　縄文時代の遺物（12）…… 72
第48図　縄文時代の遺物（13）…… 73
第49図　平安時代の遺構（１）…… 84
第50図　平安時代の遺構（２）…… 86
第51図　平安時代の遺構（３）…… 87
第52図　平安時代の遺構（４）…… 88
第53図　平安時代の遺物（１）…… 90
第54図　平安時代の遺物（２）…… 91
第55図　中世の遺構（１）…… 94
第56図　中世の遺構（２）…… 95
第57図　中世の遺構（３）…… 97
第58図　中世の遺構（４）…… 98
第59図　中世の遺構（５）…… 99
第60図　中世の遺物…… 100
第61図　時期不明の遺構…… 101
第62図　縄文時代草創期の遺物…… 108
第63図　斉羽場館縄張り想定図…… 111

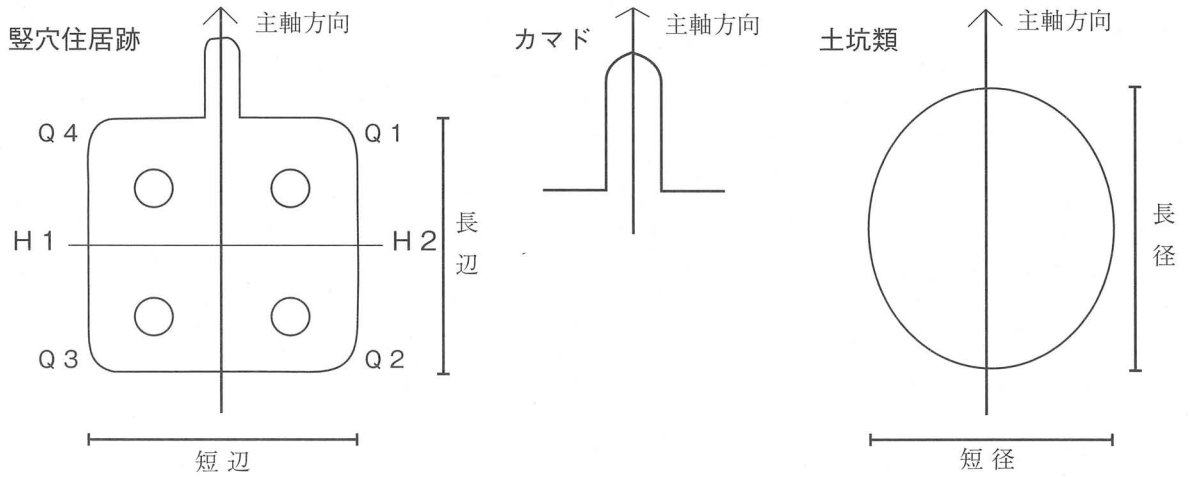
# 表　目　次


第１表　層名対応表…… 8
第２表　周辺の遺跡…… 12
第３表　遺構層名対応表…… 17
第４表　旧石器組成表…… 23
第５表　石器観察表（第Ⅰ文化層以前）…… 32
第６表　Ｓｂ 01 石器組成表 …… 33
第７表　Ｓｂ 02 石器組成表 …… 35
第８表　Ｓｂ 03 石器組成表 …… 35
第９表　石器計測表（第Ⅰ文化層）…… 42
第10表　石器観察表（第Ⅰ文化層）…… 44
第11表　表掲載石器観察表（第Ⅰ文化層）…… 44
第12表　Ｓｂ 04 石器組成表 …… 46
第13表　石器観察表（第Ⅱ文化層）…… 47
第14表　石器計測表（第Ⅱ文化層）…… 48
第15表　表掲載石器観察表（第Ⅱ文化層）…… 48
第16表　Ｓｂ 05 ａ石器組成表 …… 56
第17表　Ｓｂ 05 ｂ石器組成表 …… 57
第18表　Ｓｂ 05 ｃ石器組成表 …… 57
第19表　Ｓｂ 05 ｄ石器組成表 …… 58
第20表　Ｓｂ 06 石器組成表 …… 58
第21表　Ｓｂ 07 石器組成表 …… 59
第22表　Ｓｂ 08 石器組成表 …… 59
第23表　土器観察表（縄文時代）…… 74
第24表　石器観察表（縄文時代）…… 76
第25表　石器計測表（縄文時代）…… 78
第26表　表掲載石器観察表（縄文時代）…… 79
第27表　土器観察表（平安時代）…… 92
第28表　土製品観察表（平安時代）…… 92
第29表　石器観察表（平安時代）…… 93
第30表　金属製品観察表（平安時代）…… 93
第31表　土器観察表（中世）…… 100
第32表　石器観察表（中世）…… 101
第33表　遺物観察表（時期不明）…… 102
第34表　柱穴一覧…… 103
第35表　点取り遺物座標データ一覧…… 104
第36表　縄文時代早期中葉の主な遺跡…… 110

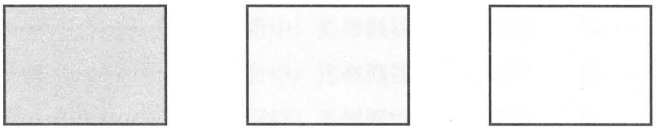

# 写真図版目次


写真図版１　空撮（１）…… 137
写真図版２　空撮（２）…… 138
写真図版３　調査前現況 …… 139
写真図版４　層序 …… 140
写真図版５　第Ⅰ文化層（１）…… 141
写真図版６　第Ⅰ文化層（２）、第Ⅱ文化層 …… 142
写真図版７　縄文時代の遺構（１）…… 143
写真図版８　縄文時代の遺構（２）、平安時代の遺構（１）…… 144
写真図版９　平安時代の遺構（２）…… 145
写真図版10　平安時代の遺構（３）…… 146
写真図版11　平安時代の遺構（４）…… 147
写真図版12　中世の遺構（１）…… 148
写真図版13　中世の遺構（２）…… 149
写真図版14　中世の遺構（３）…… 150
写真図版15　ＳＫ 01・ＳＫ 04 …… 151
写真図版16　終了状況…… 152
写真図版17　第Ⅰ文化層以前の遺物、第Ⅰ文化層の遺物（１）…… 153
写真図版18　第Ⅰ文化層の遺物（２）…… 154
写真図版19　第Ⅰ文化層の遺物（３）…… 155
写真図版20　第Ⅰ文化層の遺物（４）、第Ⅱ文化層の遺物…… 156
写真図版21　縄文時代の遺物（１）…… 157
写真図版22　縄文時代の遺物（２）…… 158
写真図版23　縄文時代の遺物（３）…… 159
写真図版24　縄文時代の遺物（４）…… 160
写真図版25　縄文時代の遺物（５）…… 161
写真図版26　縄文時代の遺物（６）…… 162
写真図版27　縄文時代の遺物（７）…… 163
写真図版28　平安時代の遺物（１）…… 164
写真図版29　平安時代の遺物（２）…… 165
写真図版30　中世の遺物、時期不明の遺物…… 166

<遺　構>



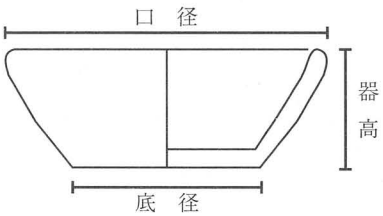

〔使用トーン〕



現地性焼土　焼土（弱変成）　カクラン

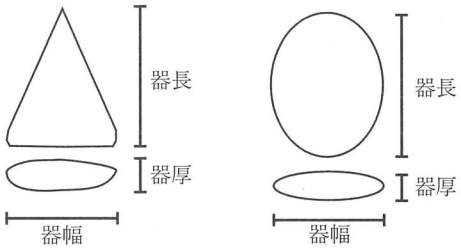
<遺　物>

土器類

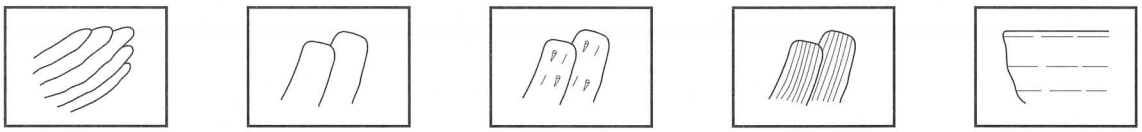



※須恵器の断面
はぬりつぶし

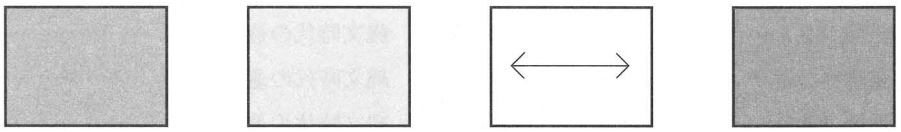
石器類




〔表現方法・使用トーン〕



ミガキ　ヘラナデ　ヘラケズリ　ハケメ　回転ナデ



黒色処理　使用面（石器）　使用範囲（石器）　黒色付着物

当センターで使用しているコンテナの大きさは以下の通りである。
大コンテナ：42×32×30 cm　中コンテナ：42×32×20 cm
小コンテナ：42×32×10 cm

凡　例

# Ⅰ　調査に至る経過

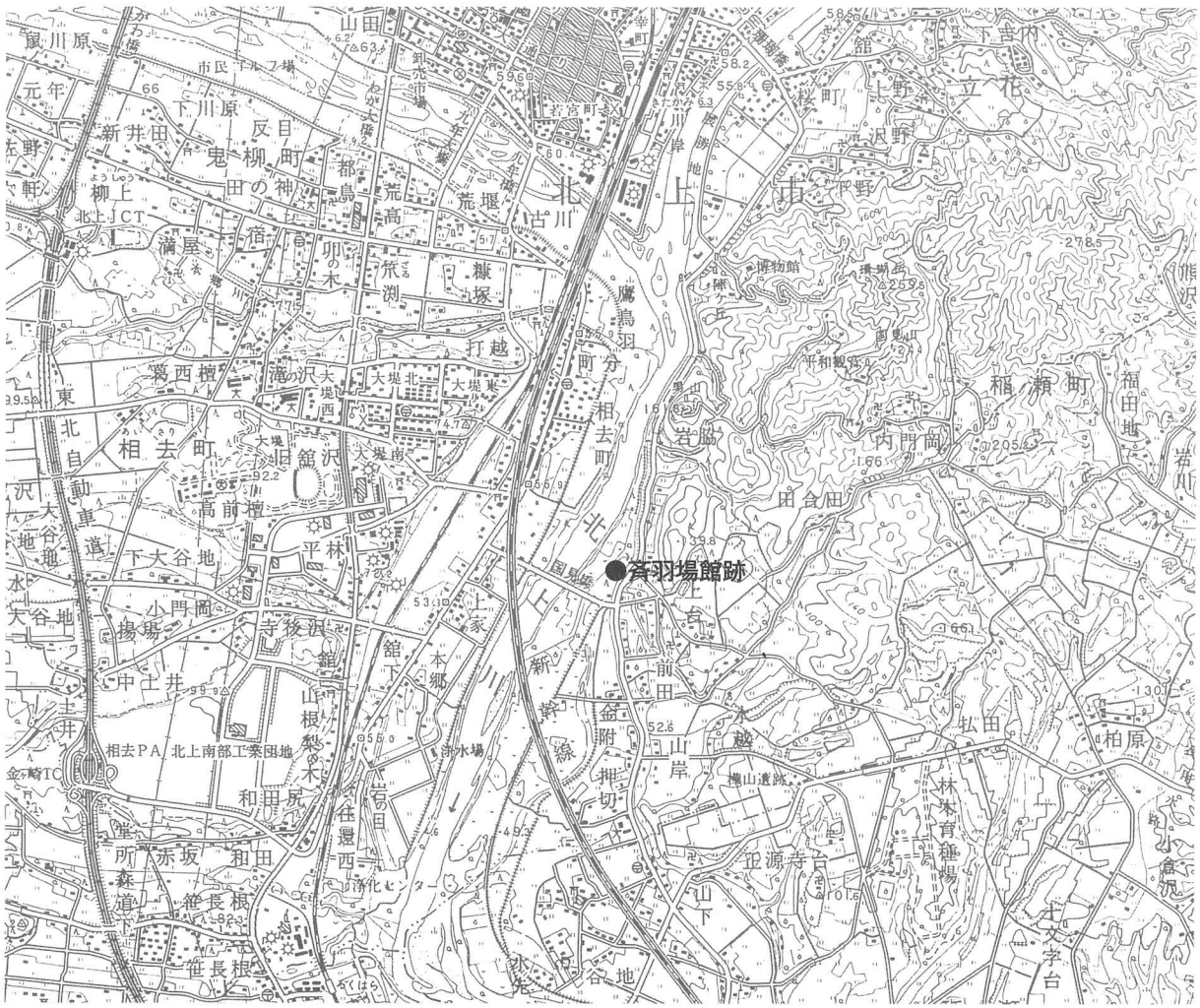
斉羽場館跡は、緊急地方道路整備事業である主要地方道一関北上線下門岡工区の事業区域内に存在することから、工事施行前の発掘調査が必要となり、平成20年度に発掘調査を実施した。

主要地方道一関北上線は一般国道4号を補完する重要な幹線道路であるが、当該区間は線形不良のため死亡事故を含む交通事故が多発し、通学時における児童の安全が脅かされていることから、道路の整備を進めているものである。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、当部から平成18年3月30日付北総土第321号にて岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課（以下、生涯学習文化課）に試掘調査を依頼し、平成18年4月18日に生涯学習文化課が試掘調査を実施した。その結果、工事施行前の発掘調査が必要であることが明らかになった。

その結果を踏まえ、生涯学習文化課の調整を受けて、財団法人岩手県文化振興事業団との間で平成20年8月20日に委託契約を締結し、発掘調査を実施したものである。

（岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部）




（1：50,000地形図「北上」に加筆）

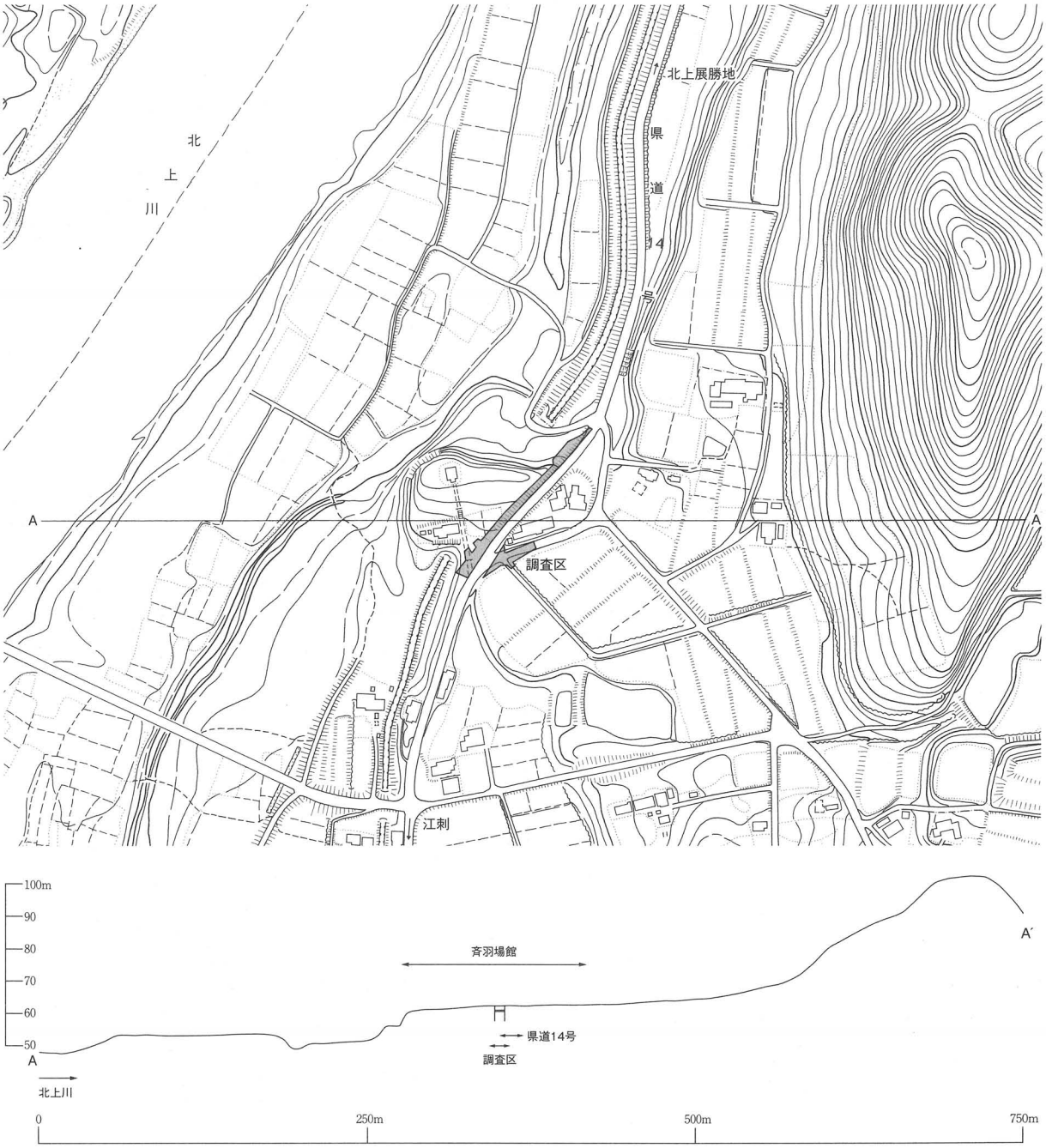
第1図　遺跡位置図

# Ⅱ　遺跡の立地・環境

## 1　地理的環境

### （1）遺跡の位置と立地

斉羽場館跡の所在する北上市は、西の奥羽山脈と東の北上山地との間を南流する北上川が形成した北上盆地の中程に位置し、北は花巻市、南は胆沢郡金ヶ崎町、東は奥州市江刺区・花巻市、西は和賀郡西和賀町と接している。現在の北上市は平成３年４月に旧北上市、和賀町、江釣子村の３市町村が




第２図　調査区と周辺の地形

合併し、面積437.55㎡、人口83,000人余の盛岡市に次ぐ人口規模を有する都市として誕生したが、平成の大合併を迎えた現在は人口93,771人（平成21年２月末現在）の盛岡市、奥州市、一関市、花巻市に次ぐ都市となっている。北上市は地理的条件に恵まれ、古くから交通の要衝であった。近世以降、奥州街道の宿場町としての役割を果たすとともに、南北に流れる北上川船運の最大の商港として繁栄してきた。現在でも国道４号と国道107号が交差し、東北本線（明治23年開通）、北上線（大正13年開通）、東北新幹線（昭和57年開業）、東北縦貫自動車道（昭和52年開通）、東北横断道秋田線（平成９年開通）等の交通網が次々と整備され、太平洋側と日本海側、北と南を結ぶ物流の中継地点として重要な役割を担っている。

斉羽場館跡は東日本旅客鉄道東北本線北上駅の南約3.1kmに位置し、北上市稲瀬町地内に所在している。国土地理院発行の２万５千分の１地形図「北上」ＮＪ－54－14－13－３（一関13号－３）、「口内」ＮＪ－54－14－13－１（一関13号－１）、「金ヶ崎」ＮＪ－54－14－13－４（一関13号－４）、同５万分の１地形図「北上」ＮＪ－54－14－13（一関13号）の図幅に含まれ、北緯39度15分10秒、東経141度７分14秒付近に位置する（第１図）。

調査区は、北上川東岸の中位段丘である村崎野段丘に相当する段丘上に立地している。東西方向の最大距離約100m、南北方向の最大距離約120m、調査区幅５～９ｍの県道14号に面した細長い調査区で、面積は1,290㎡である。調査前は宅地や道路等であり、標高は60～64mである。北上川との最短距離は約250ｍで、比高差は約15ｍである（第２図）。

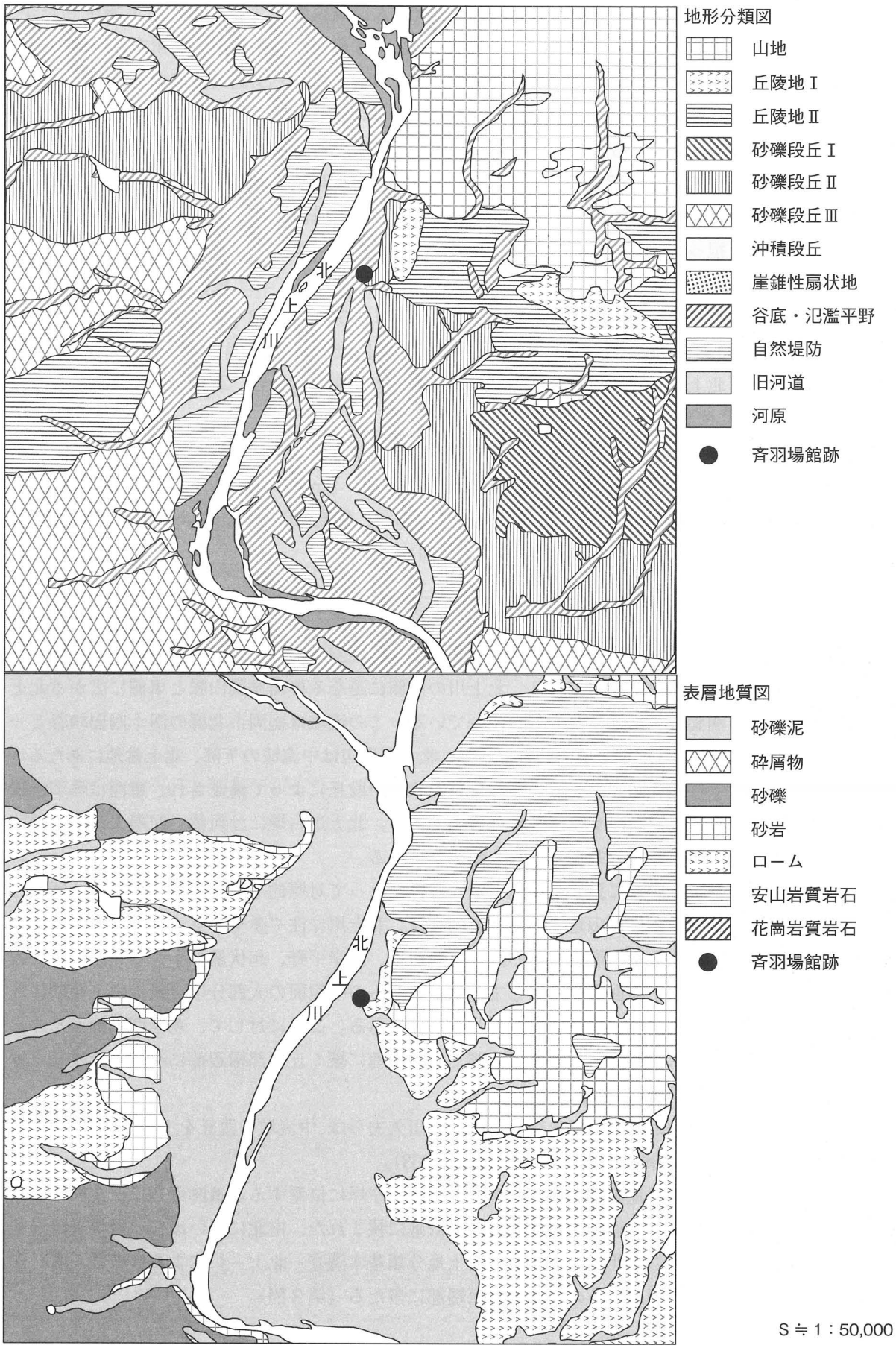
## （２）遺跡周辺の地形と地質

北上川は県北部の岩手町御堂観音境内にその源を発し、延長243km、流域面積10,720km²、支流数216を数える、東北地方最大の一級河川であり、北上川の西側に連なる奥羽脊梁山脈と東側に広がる北上山地の間の低地帯を涵養し、宮城県石巻湾に注いでいる。この流域は盛岡市北部の四十四田峡谷と一関市狐禅寺峡谷を境にして上・中・下流に分けられ、北上市周辺は中流域の下部、北上盆地にあたる。北上盆地は北上川とその支流が形成している様々な扇状地や段丘によって構成され、東西は奥羽山脈から北上山地に及び、南北90kmにも及ぶ帯状の盆地である。北上川右岸には新第三紀層の砂岩・凝灰岩を基盤とする台地、扇状地の末端に侵食崖を形成している。

北上川中流域の地形は、背後に控える山地構造の違いによって対照的な様相を呈している。新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山地である奥羽山脈は、北上川に注ぐ多くの支流を持ち、それぞれに多量の土砂を供給し、北上川右岸に大小の段丘や扇状地、河岸平野、起伏量の小さい丘陵地が複雑に入り組む扇状地状の広い平坦面を作り出している。これらの平坦面の大部分は更新世中・後期に形成されたもので、支流によって開析され段丘化したものである。これに対して、老年期山地がその後の地殻変動によって隆起準平原化した北上山地側では、山地に続く丘陵部縁辺部に小規模な段丘と沖積地が認められるにすぎない。

北上川流域の第四系及び地形の研究を行っている中川久夫らは、中流域の段丘を上部から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類している（中川ほか1963）。

斉羽場館跡の所在する稲瀬地区は北上市の南東、北上川左岸に位置する。遺跡周辺は、東側の丘陵地と小起伏山地、西側の北上川沿いに発達した河岸低地に挟まれた、南北に長い段丘（村崎野段丘相当；岩手県企画開発室発行の『北上川系開発地域土地分類基本調査－北上－』による砂礫段丘Ⅱ）が形成されており、調査地点周辺はその段丘の南西端部に当たる（第３図）。




第３図　地形分類図・表層地質図

## （3）基　本　層　序

本調査区は、主要地方道一関北上線沿いに細長く設定されている。遺構･遺物が確認された区域は、A区・D区・E区・凸区である。このなかでも、D区に集中し、堆積状況が比較的良好なA19及びA20グリッドの西壁を基本とし、E区のＳＤ01西側の西壁、凸区の西壁で層序の確認を行った。各層（第４～６図、写真図版３）は以下のとおりである。

Ⅰ層　現在の表土層である。２層に分層した。なお、D区の西側（Ｂ１～Ｂ５、Ｄ１～Ｄ３グリッド）では、Ⅲ層までが一体化し、分離不可能であったため、Ⅰ～Ⅲ層という表記をしている。

Ⅰａ層　10YR3/1黒褐　腐植土層。φ５～20㎜の礫を多量混入する。層厚は約５～50cmである。

Ⅰｂ層　砕石層　金毘羅神社参道付近とD区南側で見られる。層厚は約５～20cmである。

Ⅱ層　近年の盛土層で褐色～明黄褐色を呈する。３層に細分した。

Ⅱａ層　10YR4/4褐　粘性無、しまり有　Ⅶｄ層粒30％、炭化物粒１％混入。凸区周辺のみに見られる。ⅦＡ層もしくはⅦａ層を起因とする盛土の可能性が高い。層厚は約10～30cmである。

Ⅱｂ層　10YR5/8黄褐　粘性無、しまり有　D区では濃淡の塊状を呈し、凸区より南側では黒褐色土塊が10％混入する。D区周辺では石器が多量に出土している。ⅦＤもしくはⅦｄ層を起因とする盛土の可能性が高い。層厚は約2～30cmである。

Ⅱｃ層　10YR6/8明黄褐　粘性無、しまり有　φ0.5～4cmの砕石を多量に含む堆積層である。凸区周辺のみに見られる。Ⅷａ層を起因とする盛土の可能性が高い。層厚は約2～10cmである。

Ⅲ層　近年の盛土層である。６層に細分した。

Ⅲａ層　10YR2/3黒褐　粘性無、しまり有　Ⅶ層粒10％、炭化物２％、焼土粒１％を混入。乾燥すると黒色（10YR2/1）を呈する。ＳＤ01西側周辺のみに見られない。Ⅱｂ層と上下関係が反転する場所があり、Ⅱ層との時間差がないものと考えられる。石器や土器が多量に出土している。層厚は約２～30cmである。

Ⅲｂ層　10YR7/6明黄褐～10YR8/8黄橙　粘性無、しまり有　φ1～2cmの礫、黒褐色土塊20～30％混入。重機による盛土層である。ＳＤ03周辺より南側で見られる。層厚は約５～140cmである。

Ⅲｃ層　10YR2/2黒褐　粘性無、しまり中～有　炭化物粒１％、橙色粒３％混入。ＳＤ03周辺より南側で見られる。層厚は約10～40cmである。

Ⅲｄ層　10YR2.5/2黒褐　粘性無、しまり中～有　炭化物粒１％、橙色粒３％混入。ＳＤ01西側周辺のみで見られる。層厚は約５～20cmである。

Ⅲｅ層　10YR3/2黒褐　粘性無、しまり中～無　黒色土塊30％、焼土粒１％、炭化物粒１％混入。全体的に酸化鉄が見られる。ＳＤ01西側周辺のみで見られる。層厚は約５～20cmである。

Ⅲｆ層　7.5YR3/2黒褐　粘性無、しまり中～有　黒色土塊20％、暗褐色土塊10％、橙色粒10％混入。ＳＤ01西側周辺のみで見られる。層厚は約５～40cmである。

Ⅳ層　旧耕作土層である。３層に細分したが、Ⅳ層とⅣａ・Ⅳｂ層との前後関係は不明である。

Ⅳ層　10YR2/2.5黒褐　粘性無、しまり中　Ⅶｄ層小塊５％、Ⅵ層粒３％、炭化物粒１％混入。φ１～２cmの礫少量含む。ＳＤ03より北側で見られる。層厚は約５～30cmである。

Ⅳａ層　7.5YR3/2黒褐　粘性無、しまり中　橙色細粒５％、炭化物粒１％、φ0.5～２cmの礫少量混入。ＳＤ01西側周辺のみに見られる。層厚は約２～15cmである。

Ⅳｂ層　10YR2/3黒褐　粘性無、しまり中～有　橙色細粒10％、炭化物粒１％混入。ＳＤ01西側周

辺のみに見られる。層厚は約５～40cmである。

Ⅴ層　主に、縄文時代早期中葉～末葉の遺物を包含する堆積層である。本層上面が平安時代～中世の遺構検出面である。

7.5YR3/2 黒褐　粘性無、しまり中～有　炭化物粒１％混入。層厚は約２～15cmである。

Ⅵ層　主に、縄文時代草創期～早期前葉の遺物を包含する堆積層で、ローム層との漸移層である。本層上面が縄文時代早期中葉の遺構検出面である。層厚は約２～20cmである。

7.5YR3/4 暗褐　粘性中、しまり中～有　炭化物粒１％混入。

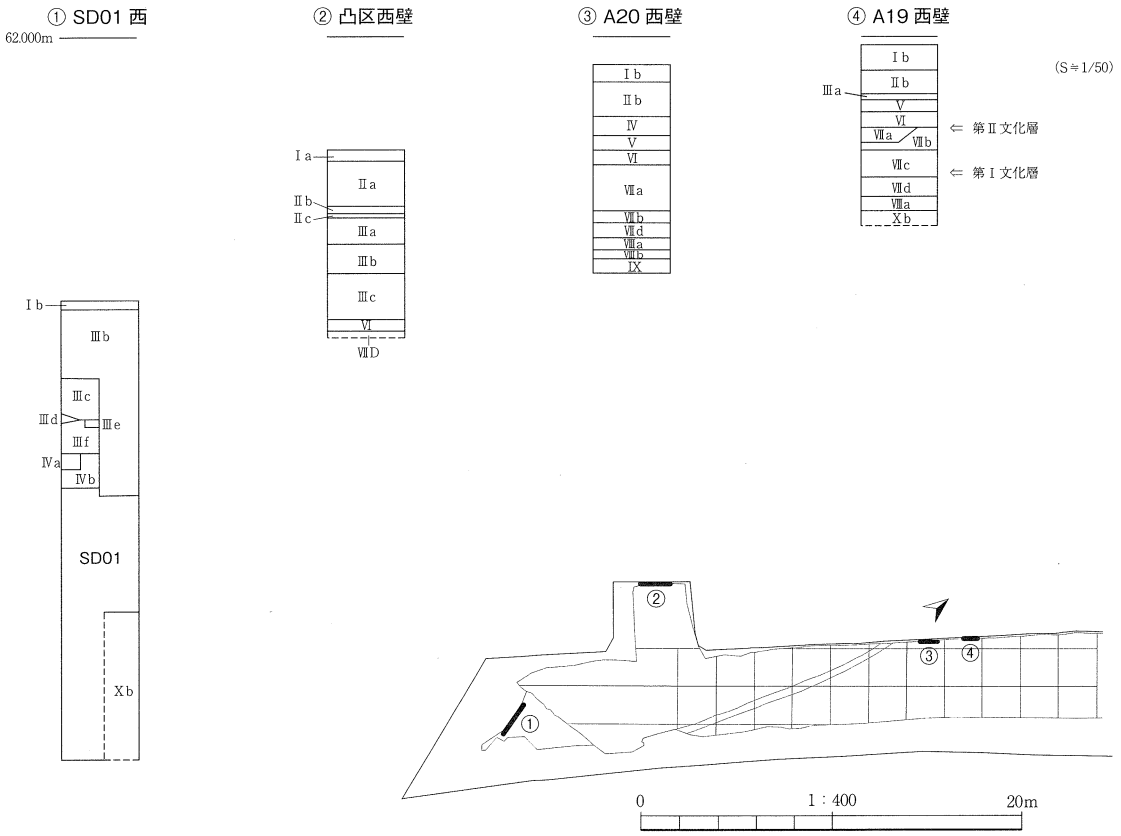
Ⅶ層　フラッドローム層で、後期旧石器時代の遺物を包含する。Ｄ区の西側（Ａグリッド及びＣ16・21グリッド）周辺は沢状に落ち込んでおり、４層に細分したが、それ以外の場所ではⅦａ層とⅦｄ層に対応する細分しかできず、それぞれⅦＡ層・ⅦＤ層と表記した。

Ⅶａ層　10YR4/6褐　粘性中、しまり有～中　凸区北端～ＳＤ03より北側で見られるが、西側ではφ0.5～１cmの礫を５％混入する。Ｓｂ04はⅦＡ層に帰属し、細石刃が出土している。層厚は約10～35cmである。

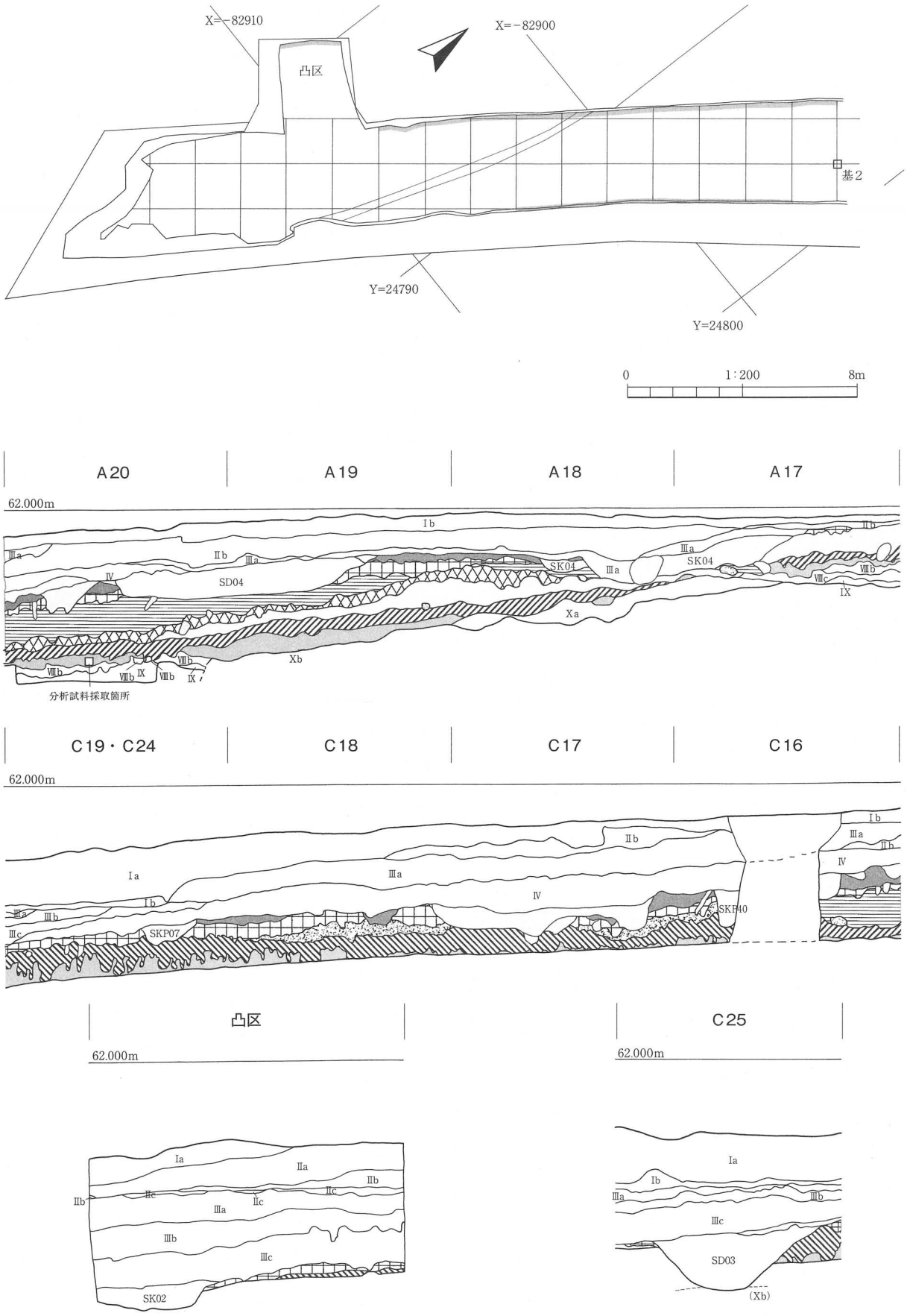
Ⅶｂ層　10YR4/6褐～10YR5/6黄褐　粘性中～無、しまり有　φ0.1～0.2cmの酸化鉄粒が５～７％混入する。層厚は約５～15cmである。

Ⅶｃ層　10YR4/6褐　粘性無、しまり中～有　φ0.1～0.2cmの酸化鉄粒２～３％、φ５～10cmの礫１％混入する。Ｓｂ02は本層に帰属する。層厚は約２～25cmである。

Ⅶｄ層　10YR4/6褐～10YR5/6黄褐　粘性無、しまり有　中央高地より南側では確認できるが、中央高地西側では最下部にφ20～30cmの礫が多量に混入し、それ以外ではφ0.5～１cmの礫が少量混入する。Ｓｂ03及びＤ１グリッド出土の石器は本層に帰属し、Ⅷａ層との層理面に




第４図　基本層序

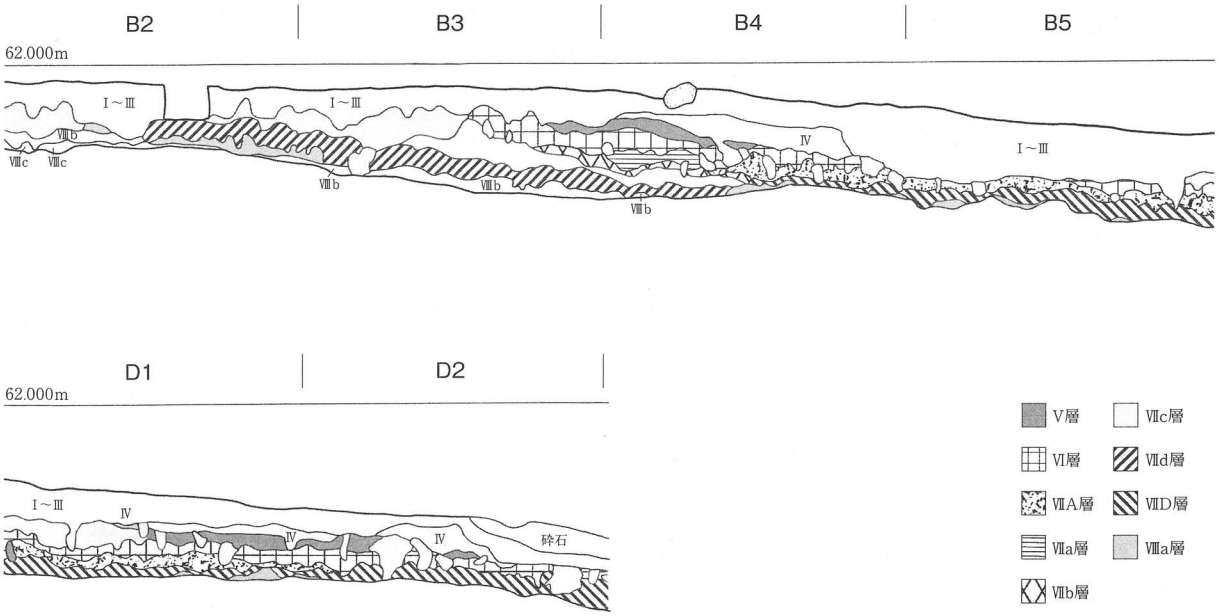



第５図　調査区土層断面図（１）

**第１表　層名対応表**

| 新層名 | E区<br>ＳＤ 02付近 | 凸区 | D区<br>ＣＤグリッド | D区<br>ＡＢグリッド | D区<br>基２以北 | D区<br>落ち込み | C区 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰａ | Ⅰ | Ⅰ | Ⅰ | Ⅰ | Ⅰ | Ⅰ | Ⅰ |
| Ⅰｂ | Ⅰｂ | | Ⅰｂ | | | Ⅰｂ | |
| Ⅱａ | | Ⅰｂ | | | | | |
| Ⅱｂ | | Ⅱ | Ⅱ | Ⅱ | Ⅱ | Ⅱ | |
| Ⅱｃ | | Ⅱｂ | | | | | |
| Ⅲａ | | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | Ⅲ | (Ⅲ) | |
| Ⅲｂ | 盛 | 盛 | | | | | |
| Ⅲｃ | ① | ① | ① | | | | |
| Ⅲｄ | ①′ | | | | | | |
| Ⅲｅ | ② | | | | | | |
| Ⅲｆ | ③ | | | | | | |
| Ⅳａ | ④ | | | | | | |
| Ⅳｂ | ⑤ | | | | | | |
| Ⅳ | | | Ⅳ | Ⅳ | | Ⅳ | |
| Ⅴ | | (Ⅴ) | Ⅴ | Ⅴ | | Ⅴ | |
| Ⅵ | | Ⅵ | Ⅵ | Ⅵ | | Ⅵ | |
| ⅦＡ<br>Ⅶａ | | Ⅶ上 | Ⅶ上 | Ⅶ上 | | Ⅶａ | |
| Ⅶｂ | | | | | | Ⅶｂ | |
| Ⅶｃ | | | | | | Ⅶｃ | |
| ⅦＤ<br>Ⅶｄ | Ⅶ下 | Ⅶ下 | Ⅶ下 | Ⅶ下 | Ⅶ下 | Ⅶｄ | |
| Ⅷａ | Ⅷ | Ⅷ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| Ⅷｂ | | | | | ○ | ○ | |
| Ⅷｃ | | | | | ○ | ○ | |
| Ⅸ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ |
| Ⅹａ | | | | | ○ | ○ | |
| Ⅹｂ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ |

※　○は変更なし




第６図　調査区土層断面図（２）

貼りつくように出土している。ⅦＤ層の部分ではインボリューションが顕著に観察される。Ｓｂ01がⅦＤ層に帰属する。層厚は約２～25cmである。

Ⅷ層　フラッドローム層で、遺物は包含されない。３層に細分した。

Ⅷａ層　10YR6/7 明黄褐　粘性無、かたくしまる　酸化鉄粒が１～２％混入する。最上面ではサン・クラックが顕著に観察される。層厚は約２～ 25cmである。

Ⅷｂ層　10YR5/6 黄褐　粘性無～中、しまり中～有　酸化鉄粒が 15％混入する。層厚は約２～ 10cmである。

Ⅷｃ層　10YR5/6 黄褐　粘性無、しまり中～有　酸化鉄粒が２～３％混入する。層厚は約２～ 10cmである。

Ⅸ層　黄褐色（10YR5/6）～明黄褐色（10YR6/6）を呈する粘土質のローム層である。にぶい黄橙（10YR7/3）と鹿ノ子状になっている。Ａ区やＣ区では、にぶい黄橙が主体となっており、細分が可能であるが一括して扱った。遺物は確認されていない。層厚は不明である。

Ｘ層　段丘を構成する基盤砂礫層である。黄褐色（10YR5/6）～明褐色（7.5YR5/6）を呈する。砂主体のＸａ層と礫主体のＸｂ層に細分した。Ａ20グリッドの北側で本層が急激に落ち込んでいる。層厚は不明である。

## 2　歴史的環境

北上市では東北新幹線、東北縦貫自動車道、東北横断道秋田線、工業団地建設等に伴って、緊急発掘調査が数多く行われている。現在のところ、北上市に所在する遺跡は岩手県教育委員会が作成した『岩手県遺跡情報検索システム（花巻・北上地方振興局管内）』によると504箇所（平成20年３月現在）が登録されている。時代別では旧石器時代が13箇所、縄文時代が277箇所、弥生時代が26箇所、古墳時代が５箇所、奈良・平安時代が254箇所、古代が22箇所、中世が94箇所、近世が21箇所等である（複合遺跡は複数計上）。当地域には、多くの遺跡が登録されているが、すべてにふれることは困難であり、近年刊行された岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第482集『金附遺跡発掘調査報告書』（㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006）、同第539集『境遺跡発掘調査報告書』（同2009）等にも同様の内容が詳しく述べられていることから、本遺跡が所在する稲瀬地区や主な遺跡を中心に概観する。

本遺跡周辺には、旧石器時代より人々の生活の痕跡を認めることができる。北上川対岸の相去町の下成沢Ⅱ遺跡（報告書では下成沢遺跡）や場所は少し離れるが、和賀町の愛宕山遺跡が後期旧石器時代の、稲瀬地区岩脇遺跡（第７図２）が旧石器時代終末期の石器製作跡である。金ヶ崎町永沢には中期旧石器時代より営まれた柏山館跡があり、周辺では最古の遺跡となっている。北上市内には他にも旧石器の出土する遺跡が散見されるが、稲瀬地区と相去町で北上川を挟むこの地域にはやや集中して分布する傾向がみられる。

縄文時代草創期に入ると、周辺町区まで見渡しても遺物の出土はほとんどなくなり、人々の活動が一時的に活発でなくなる様子がうかがえるが、本遺跡以外では、隣接する岩脇遺跡において当時の遺物が認められている。遺跡数が少なく、何とも言えないが、旧石器時代に続いて、当地域に分布する傾向がみられる。

早期は、稲瀬地区の阿弥陀堂遺跡・岩脇遺跡、相去町下成沢Ⅱ遺跡、北上市仙人・水沢区佐倉河・真城・南矢中・黒石町に遺物の散布が認められるものの、明瞭な遺構は北上市煤孫・山口の石曽根遺

跡の後葉の表裏縄文式期のフラスコ状土坑１基のみである。本遺跡では早期中葉の土坑が１基検出され、当該期では最も古い段階の遺構と考えられる。

当遺跡周辺に縄文時代の集落があらわれるのは縄文前期後葉からである。江刺区岩谷堂の宝性寺跡・金ヶ崎町西根の和光６区遺跡などがこれにあたり、どちらも中期中葉まで営まれる。北上市鳩岡崎の鳩岡崎上の台遺跡の集落は末葉に始まりやはり中期中葉まで営まれる。北上市岩崎の梅ノ木台地Ⅱ遺跡では前期の埋設土器が検出されている。これらの前期にはじまる集落遺跡の中で最も特筆されるのが、稲瀬地区に所在し後期初頭まで営まれる国指定史跡樺山遺跡（同10）であろう。竪穴住居跡に加えて検出された中期を中心とする30基余りの配石遺構は埋葬または祭祀を目的とした施設と考えられている。

中期を中心とする集落遺跡には、前述のものに加えて北上市横川目の蛭川館・鬼柳町の滝ノ沢遺跡（同31）、金ヶ崎町西根の中荒巻遺跡などがある。

後期の集落遺跡には、最大級の円形大型住居が検出され国指定史跡となっている北上市更木の八天遺跡、配石遺構や土坑墓をともなう江刺区伊出の久田遺跡などがある。

晩期の稲瀬地区には前葉～中葉の遺物が散布する相田遺跡（同14）がある。周辺の集落遺跡には、晩期中葉に営まれた北上市横川目の大橋遺跡、晩期後半に営まれ大量の生活用具が出土した同市九年橋の九年橋遺跡（同25）がある。

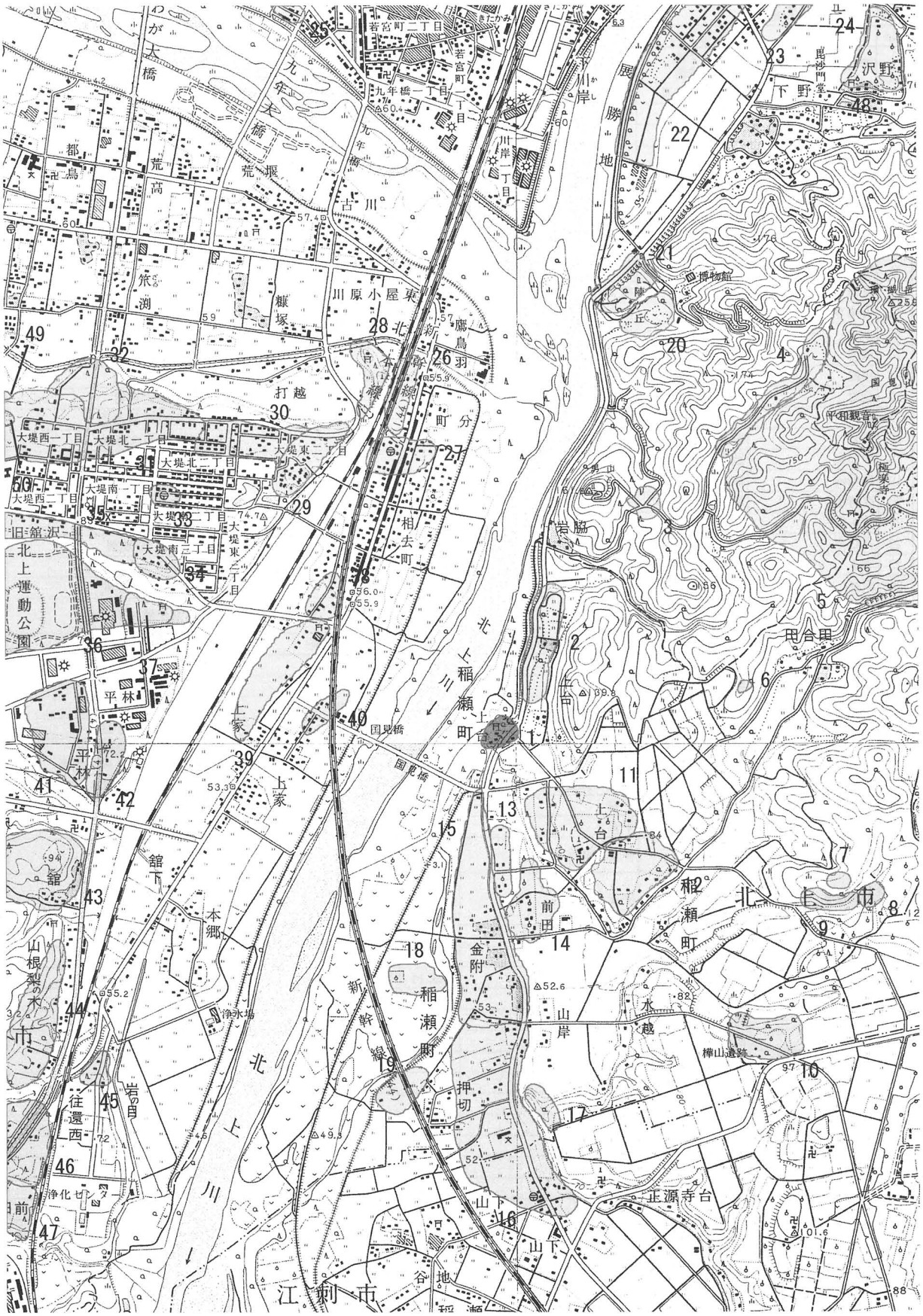
縄文時代晩期末から弥生時代初頭にかけては、稲瀬地区に所在する金附遺跡（同15）が挙げられる。土器・石器が大量に出土しており弥生中期までの石器製作集落であることがわかっている。周辺にも同時期の遺跡は比較的多く分布しているが遺構の検出された遺跡は少なく遺物散布地が主である。金附遺跡と隣接する境遺跡（同16）でも当該期の遺物包含層が確認されている。前述の相田遺跡（同14）にも金附遺跡と同時期の遺物の散布が見られ、「相田遺跡が本来の集落で、金附遺跡は石器製作を主とする作業場であった可能性が高い。」（㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006）と考えられている。集落遺跡としては、北上市更木に所在し、現在は二子城として登録されている馬場野遺跡・物見崎遺跡や北上市里分の牡丹畑遺跡などがある。

弥生時代になると、北上市岩崎の兵庫館（一六花館・二日市城）では墓域が、弥生初頭の谷起島式に次ぐ標式遺跡となっている江刺区愛宕の沼ノ上Ⅰ・Ⅱ遺跡では集落が、江刺区岩谷堂の反町遺跡では前期、水沢区佐倉河の常盤広町遺跡では後期の水田跡が確認されている。稲瀬地区の遺跡では欠くことのできない遺跡として、境遺跡が挙げられる。平成19･20年度の発掘調査で、縄文時代晩期末からの遺物が出土しているが、不明瞭ながら当該期の住居状遺構が３棟確認されている。このうち１棟には地床炉も検出され、前～中期に属すると想定している。住居状遺構の北側には中期を主とする土器を伴う土坑がまとまって検出されており、居住にともなう貯蔵穴と推察している。

古墳時代の遺跡は少ない。稲瀬地区では確認されておらず、分布は和賀川流域に集中する。江釣子の猫谷内古墳群や長沼の長沼古墳群、上江釣子の猫谷地古墳群・五条丸古墳群、北鬼柳の八幡古墳群からなる国指定史跡江釣子古墳群などが代表的な遺跡である。

奈良時代の遺跡としては、８世紀に始まる大集落である上江釣子の塚遺跡、789年の蝦夷と征夷軍との交戦の跡が確認された北上市山口の羽黒山禄Ⅰ遺跡、戦いに関係すると思われる消失住居が見つかった同市藤沢の藤沢遺跡などがある。

奈良時代の様々な抵抗むなしく平安時代の９世紀初頭には中央政権により水沢区佐倉河に胆沢城が築城される。稲瀬地区の瀬谷子窯跡は築城に関わる瓦生産をした窯跡である。北上市上江釣子の下谷地遺跡や水沢区佐倉河の西大畑遺跡は官人に関わると思われる遺跡で、稲瀬地区でも上台遺跡（同




（1：25,000 地形図「口内」・「陸中江刺」・「北上」・「金ヶ崎」に加筆）

第７図　周辺の遺跡

**第２表　周辺の遺跡**

| No | 遺跡名 | 種　別 | 時　代 | 備　考 | 所在地 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 斉羽場館 | キャンプ地・集落・城館 | 旧石器・縄文・平安・中世 | 昭和 46・58 年発掘調査 | 北上市稲瀬町前田 |
| 2 | 岩脇 | 散布地・墳墓 | 旧石器～弥生・平安・近世 | 昭和 58・平成６年発掘調査 | 北上市稲瀬町岩脇 |
| 3 | 男山 | 散布地 | 縄文 | | 北上市稲瀬町岩脇 |
| 4 | 西谷 | 散布地 | 平安 | | 北上市稲瀬町内門岡 |
| 5 | 国見山廃寺 | 寺院 | 平安 | 昭和 38・48・55・58・62・平成１・２・８～16 年発掘調査<br>平成 16 年国指定史跡 | 北上市稲瀬町内門岡・上台・岩脇・田合田 |
| 6 | 経塚山 | 経塚 | 古代末～中世 | | 北上市稲瀬町 |
| 7 | 聖沢山 | 経塚 | 古代末～中世 | | 北上市稲瀬町水越 |
| 8 | 下門岡ひじり塚 | 塚跡 | 中世 | 昭和 44 年県指定史跡 | 北上市稲瀬町水越 |
| 9 | 聖沢道 | 散布地 | 縄文 | | 北上市稲瀬町水越 |
| 10 | 樺山 | 集落 | 縄文 | 昭和 52 年国指定史跡 | 北上市稲瀬町水越 |
| 11 | 安楽寺 | 散布地 | 縄文・弥生・平安 | | 北上市稲瀬町上台 |
| 12 | 上台 | 集落 | 平安 | 昭和 44 年発掘調査 | 北上市稲瀬町上台 |
| 13 | 前田 | 散布地 | 縄文 | | 北上市稲瀬町前田 |
| 14 | 相田 | 散布地 | 縄文 | 昭和 60 年発掘調査 | 北上市稲瀬町前田 |
| 15 | 金附 | 集落 | 縄文・弥生・平安 | 平成 14・15 年発掘調査 | 北上市稲瀬町金附 |
| 16 | 境 | 集落 | 縄文・弥生・平安・中世 | 平成 18～20 年発掘調査 | 北上市稲瀬町地蔵堂 |
| 17 | 俵岩 | 散布地 | 縄文・平安 | | 北上市稲瀬町大谷地 |
| 18 | 中谷起 | 散布地 | 縄文 | | 北上市稲瀬町金附 |
| 19 | 馬場崎 | 散布地 | 平安 | | 北上市稲瀬町馬場崎 |
| 20 | 展勝地 | 散布地 | 平安 | | 北上市立花 14 地割 |
| 21 | 陣ヶ岡 | 城館 | 中世 | | 北上市立花 14 地割 |
| 22 | 立花南 | 集落 | 平安・奈良・縄文 | 平成 13 年発掘調査 | 北上市立花 10 地割 |
| 23 | 館Ⅰ | 散布地 | 縄文 | 平成９・16 年発掘調査 | 北上市立花５・９地割 |
| 24 | 沢野 | 散布地 | 縄文 | | 北上市黒沢尻町立花 |
| 25 | 九年橋 | 集落 | 縄文 | 昭和 50～53・57～61・平成８年発掘調査 | 北上市九年橋３丁目 |
| 26 | 鬼柳西裏 | 集落・経塚 | 平安・縄文・中世・近世 | 昭和 50・51 年発掘調査 | 北上市鬼柳町町分 |
| 27 | 西野 | 散布地 | 平安 | 昭和 50 年発掘調査 | 北上市相去町西野 |
| 28 | 白髭館 | 城館 | 中世 | | 北上市鬼柳町白髭 |
| 29 | 南館 | 墳墓・散布地 | 縄文・平安・近世 | 昭和 48 年発掘調査 | 北上市大堤東二丁目 |
| 30 | 大堤東 | 散布地 | 平安・縄文 | | 北上市大堤東一丁目 |
| 31 | 滝ノ沢 | 集落 | 縄文・平安 | 昭和 47・51・53・61～63・平成１・４・９・13～16 年発掘調査 | 北上市鬼柳町下鬼柳<br>北上市相去町滝ノ沢・大堤 |
| 32 | 丸子館 | 城館 | 縄文～弥生・平安・中世 | 昭和 47・55・平成 12 年発掘調査 | 北上市鬼柳町下鬼柳 |
| 33 | 中筋 | 集落 | 平安 | | 北上市大堤南二丁目 |
| 34 | 蒼前森 | 集落 | 平安 | 昭和 56 年発掘調査 | 北上市相去町蒼前森 |
| 35 | 大堤 | 集落 | 平安・縄文 | 平成 10 年発掘調査<br>大堤運動公園内遺跡 | 北上市相去町旧舘沢 |
| 36 | 高前壇Ⅱ | 集落 | 平安・縄文 | 平成１・４年発掘調査<br>南部工業団地内遺跡<br>大堤運動公園内遺跡 | 北上市相去町高前壇 |
| 37 | 高前壇館 | 城館 | 中世 | | 北上市相去町高前壇 |
| 38 | 松ノ木 | 散布地 | 平安 | 昭和 50 年発掘調査 | 北上市相去町松ノ木 |
| 39 | 小糠沢 | 散布地 | 縄文・平安 | 平成 14 年発掘調査 | 北上市相去町小糠沢 |
| 40 | 八木畑 | 散布地 | 平安 | 昭和 49 年発掘調査 | 北上市相去町十二ノ木 |
| 41 | 平林Ⅰ | 集落 | 平安 | 南部工業団地内遺跡 | 北上市相去町平林 |
| 42 | 平林Ⅱ | 散布地 | 平安 | | 北上市相去町平林 |
| 43 | 相去城（鶴野館） | 城館 | 中世 | | 北上市相去町山根 |
| 44 | 山根梨ノ木 | 集落 | 平安 | | 北上市相去町山根 |
| 45 | 岩ノ目館 | 城館 | 中世 | | 北上市相去町岩ノ目 |
| 46 | 和田尻 | 散布地 | 縄文 | | 北上市相去町和田尻 |
| 47 | 和田前 | 散布地 | 縄文 | 昭和 39 年発掘調査 | 北上市相去町和田前 |
| 48 | 安倍館（泉館？） | 城館 | 中世 | | 北上市立花４地割 |
| 49 | 卯ノ木 | 集落 | 縄文、平安 | 昭和 46 年発掘調査 | 北上市鬼柳町下鬼柳 |
| 50 | 南部領伊達領境塚 | 藩境塚 | 近世 | 平成 13 年国指定史跡 | 北上市 |

12）に９世紀初頭の当時では珍しい板谷造りの建物が検出された。築城に関わり周辺地域には人口の急増が起こり、多くの集落が形成される。北上市二子には西川目遺跡や野田Ⅰ遺跡、立花の横町遺跡、水沢区姉体町の林前南館遺跡などの集落遺跡がある。集落跡と同時に、江刺区愛宕の宮地遺跡では９世紀後半の畑、落合遺跡では物資の集散地と考えられる遺構、力石Ⅱ遺跡では９世紀初頭の鉄生産跡、

北上市更木に所在する山口遺跡では金属器や方形周溝、小川屋敷遺跡では金属器や墨書土器、野沢Ⅱ遺跡では畝間や土師器焼成遺構が確認されている。成田の成田岩田堂館遺跡は当時の墓域であり、岩崎の岩崎城は９世紀末～11世紀の城館跡である。

胆沢城は、この地域の富裕者に寺院建立を奨励し、多くの寺院が建立されるようになる。それらの寺院の遺跡としては、北上市に更木の国指定史跡大竹廃寺、黒岩の白山廃寺、江刺区に岩谷堂の宝性寺跡などがあるが、この北上川左岸の信仰ゾーンの中心となったのが稲瀬地区の国指定史跡国見山廃寺（同５）である。857年には国見山東南にある極楽寺が定楽寺となっている。同じく稲瀬地区にある広岡前遺跡もこの時期の寺院跡である。

11世紀には、この地は安倍氏の支配下となり、前九年合戦（1051～62年）とかかわって周辺には金ヶ崎西根に鳥海柵、北上市川岸には黒沢尻柵などが造営されるようになる。安倍氏も仏教を奨励し、稲瀬地区は引き続き信仰の中心地であった。

平安時代の末に当たる12世紀は、平泉の藤原氏が隆盛を誇った時代である。江刺区岩谷堂の豊田城は藤原経清・清衡父子の居館と伝えられる。同市鳩岡崎の鳩岡崎三館は古代から中世の館跡である。

1189年平泉藤原氏が滅亡し、鎌倉時代以降のこの地は和賀氏が支配するようになる。このころ稲瀬地区の極楽寺は、源氏方の武将でありながら承久の乱に敗れ配流となった河野通信のあずかり先となっており、通信は1223年同寺で死去している。県指定史跡ひじり塚（下門岡ひじり塚）（同８）はその墓所で、死後彼の子である時宗開祖一遍もこの地を訪れている。金ヶ崎町西根の柏山館跡と同遺跡内の松本館は領地を接する葛西氏の重臣柏山氏の居城である。南北朝時代になると、北上市鬼柳町の丸子館を居城とすると伝えられる鬼柳氏が北朝方に、須々孫氏が南朝方にといったように和賀氏内で同族争いがおこるようになり和賀氏は一度南朝方につくが後に北朝方へついている。水沢区黒石町の正法寺は曹洞宗本寺として1348年に開山している。室町時代の15世紀前半には北上市二子町に和賀氏の本城として二子城が築城されるが安土桃山時代になると奥州仕置により和賀氏は領地を没収されてしまう。和賀氏は北上市岩崎の岩崎城で最後の決戦をしかけるが敗れ、中世の長きにわたる和賀氏の支配は終わるのである。本遺跡周辺の中世城館跡は、同地区の曽館（僧館）、煤孫の下煤孫館（観音館・煤孫城・古館）、江刺区には岩谷堂の岩谷堂城などがある。また、境遺跡では、薬研堀や墓壙が検出されている。

江戸時代には、稲瀬地区は伊達領仙台藩となり南部領盛岡藩の立花と接する藩境地区となる。1641年には藩境塚が置かれ、そのうち内野沖大塚は国指定、金ヶ崎城は町指定史跡となっている。黒沢尻河岸は南部藩の主要港となり奥州街道は五街道の１つとして整備される。国指定史跡である北上市成田と二子の一里塚や鬼柳町の鬼柳西浦遺跡にある南部藩御仮屋はその名残である。寿安堰・松岡堰・奥寺堰などと同様、稲瀬地区にも1653年に大堰、それに代わる新堰も1771年に完成し新田開発も盛んに行われるようになっていく。

斉羽場館跡は、過去に２度の発掘調査が行われた。昭和46年度には岩手県教育委員会、岩手大学教授の板橋源先生が中心となって９月10日から９月20日の間、発掘調査が行われた。実質７日という短期間であったが、後期旧石器時代（石器11点）、縄文時代（中期前葉～中葉の大木７ｂ～８ａ式期を中心とし、早期中葉の物見台式併行期、前期前葉の大木１式期）、中世の遺構・遺物が検出され、複合遺跡であることが確認された。中世に関しては、詳細な構造などの検討はなされていないが、堀跡や柱穴などが検出され、16世紀末には及川若狭守吉種の居城があったとする「葛西御家臣衆座列」を裏付ける遺構が確認されたのは重要である。その後、昭和58年度に北上市教育委員会の分布調査が行われ、詳細な位置は不明であるが、堀跡が１条検出され、中世城館であることがさらに確認された。

# Ⅲ 調査の方法

## 1 野外調査

**グリッドの設定** 本調査区は主要地方道一関北上線（以下県道14号線と表記）を挟んで東西に分かれ、県道14号に沿って細長くなっている。また、金毘羅神社の参道、地形によって分かれており、試掘や表土除去の段階での遺物取り上げのために、区域名を付した。東側はＡ区、西側は北端部の斜面部をＢ区、金毘羅神社の参道より南側をＦ区とした。Ｂ区とＦ区の間は、基２周辺の中央部分が高く、その北側と南側が低くなっており、地形によって３つに分けた。基２周辺の平坦な部分から南側の斜面部をＤ区とし、北側のやや低い部分をＣ区、南側のやや低い部分をＥ区とした。Ｅ区には民家の進入路となる突出した場所があり凸区とした（第８図右下）。基準点はこれらの区域で少なくとも２点が確認できるように、世界測地系の基準点を以下のとおりに施設した。

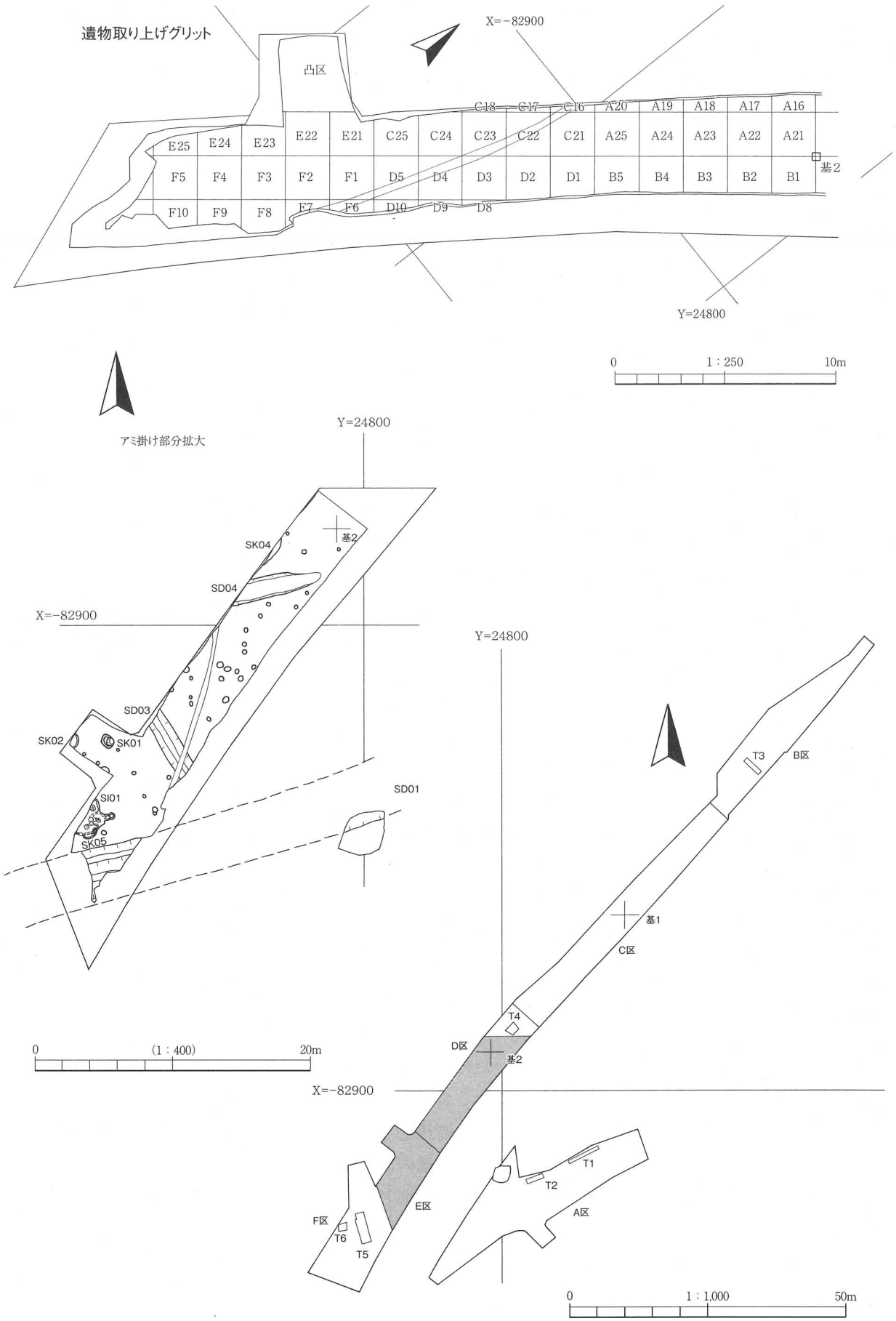
基１：X＝－82,860.000、Y＝24,822.000、H＝60.950
基２：X＝－82,893.000、Y＝24,798.000、H＝62.125　位置：Ｂ１
補１：X＝－82,883.000、Y＝24,806.000、H＝61.211
補２：X＝－82,908.000、Y＝24,790.000、H＝60.850
補３：X＝－82,923.000、Y＝24,773.000、H＝60.053
補４：X＝－82,920.000、Y＝24,807.000、H＝61.063

試掘の結果、遺構・遺物はＤ区・Ｅ区に集中していることが判明し、この区域にのみ、遺物取り上げ用にグリッドを設定した。グリッドは座標系ではなく、調査区に合わせて、基２と補１を結んだ線を基準線とし、これに直交・平行する線で10×10mを１区画としたものを設定した。そのため、グリッドの基準線は座標北より38.65度東に振れることとなる（第８図上）。また、後期旧石器時代の遺物が出土した過去の調査事例を考慮して、このグリッドを25分割した小グリッドを設定した。

**試掘** 調査区全体の表土掘削を行う前に、試掘を行っている。岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による試掘は、Ｄ区～Ｅ区に限定されていたため、Ｂ区・Ｃ区・Ｆ区の層序・遺構密度等を確認するために行った。また、Ａ区は市道部分を調査の対象となっており、道路使用許可の手続き完了を待ったため、半月遅れの試掘となった。試掘の結果、Ａ区の市道部分、Ｂ区・Ｃ区・Ｆ区南端には遺構・遺物の確認される堆積層が残存していないことが確認された。Ｅ区では柱穴や縄文土器や土師器、Ｄ区・凸区では溝跡・柱穴、縄文土器などが出土し、盛土層直下から複数枚の遺物を包含する堆積層が存在することが予想された。

**表土掘削** 表土から平安時代～中世の遺構検出面であるＶ層上面までに、石器を中心とする遺物が多く出土したが、近年の盛土層や旧表土層であるため、作業効率を優先して、重機による表土掘削を行った。道路に面していたこともあり、特に安全に配慮しながら行った。

**遺構検出・精査** 検出作業は人力による作業に頼った。鋤簾を使用して、遺構の確認を行なった後に、移植ゴテを使用して掘削を行った。遺構の中心は土坑や柱穴などの小規模なものであったため、半割法を中心に用いた。ＳＩ01竪穴住居跡は調査区境で検出され、ＳＤ01堀跡西側、ＳＤ03溝跡、ＳＤ04溝跡は調査区を横断するように検出されたため、作業員の移動が困難にならないような場所に土層観察用のベルトを一箇所残して掘削を行った。掘削の際には、適宜サブトレンチを設定し、堆積状況の把握を行っている。




第８図　全体図・グリット配置図・遺構配置図

**遺構の命名**　遺構名称は、竪穴住居跡がＳＩ、堀跡・溝跡がＳＤ、土坑がＳＫ、柱穴がＳＫＰの略号を用い、検出順に01から使用した。ＳＤ02、ＳＫ03は欠番となっている。ＳＤ02の欠番については、第Ｖ章で詳しくふれるが、ＳＤ01と同一遺構と判断したため、もとのＳＤ01をＳＤ01東側、ＳＤ02をＳＤ01西側とし、ＳＤ02は遺物の混乱を招かないように欠番とした。ＳＫ03は精査の結果、現代の掘り込みであったため、欠番とした。

**実測記録**　遺構の実測は簡易遣り方測量とトータル・ステーションを併用した平面図の作成、及び断面図の作成を行った。縮尺は１/20を基本とし、微細図などの記録には1/10を用いた。Ⅵ層以下の遺物の取り上げに関しては、株式会社ＣＵＢＩＣの遺構実測支援システム「遺構くん cubic_ Ｂタイプ Ver.3.02」を使用した。

**写真記録**　野外調査の写真撮影にあたっては、中判カメラ（６×７㎝判）１台（モノクローム）と一眼レフデジタルカメラ（Canon 社製ＥＯＳ５Ｄ）１台を使用した。

## 2　室　内　整　理

**遺構**　遺構実測図は必要に応じて合成等の編集作業を行い、第２原図を作成した。その際に、攪乱層にも番号が付されていたため、整理しなおして番号を変更している。遺物の観察表は変更後の名称を使用しているが、遺物の注記には変更前の名称が使用されているため、対応表を第３表に示した。遺構図の縮尺は図版毎にスケールを付すと同時に縮尺を記載したので参照して頂きたい。遺構図に使用した記号・網掛け等は凡例に示した。

遺構の計測は実測図、第２原図をもとに次の方法で行った。①主軸方向は基本的に長軸または長辺方向である。②長径は長軸方向の最大距離を、短径は長径に直行する軸で最大径を計測した。③深さは上端で最も高い部分と底面の比高差で計算した。④溝跡などの長大な遺構の長さはエリアカーブメータを使用し、遺構の中心線を３回計測した値の平均値を記載した。⑤溝跡の幅は長軸方向に直交する場所で計測した。

**遺物**　出土遺物は水洗、大別仕分け、出土地点の確認を行い、種類毎に次のとおりにした。遺物図版に使用した表現方法及び網掛け等は凡例及び第９・10図に示した。番号は選別時に種別毎に整理番号を付し、掲載遺物決定後に変更している。掲載番号は後期旧石器時代が１～、縄文時代が101～、平安時代が301～、中世が401～、時期不明が411～の番号を付した。掲載番号は本文、観察表、図版、写真図版すべて一致している。なお、表掲載のみの点取り遺物に関しては、フィールド時に使用した番号を使用した。

＜土器類＞　取り上げてきた袋毎に重量計測（ｇ単位：少数第１位を四捨五入）を行い、台帳に記載した。その後、注記を行い、接合作業と資料の選択・登録作業を行った。選択にあたっては全ての資料を登録・分類・図化する時間的余裕がないため、次の選定基準を設定し行った。①全体の形状が把握できるもの、②口径もしくは底径が算出できる資料、③胴部破片で反転実測が可能な資料、④口縁部もしくは底部の一部が残存する資料、⑤胴部の断片的な資料。基本的には①～③の基準で選別を行ったが、全体的に断片的な資料が多いことから、遺構内出土資料や文様のある資料、資料数の少ない器種については④や⑤から採用した。その後、必要に応じて石膏による復元作業を行い、拓影図作成を含む図化作業、トレース作業、写真撮影を行った。

＜土製品＞　土製品は点数が少ないため、注記は行っていない。時期の特定できないものであるため、写真撮影を行い、写真と観察表のみの掲載とした。

**第３表　遺構層名対応表**

| 遺構名 | 報告名 | フィールド名 |
|---|---|---|
| ＳＩ01（新） | １層 | １層 |
| | ２層 | ２層 |
| | ３層 | ３層 |
| | ４層 | ４層 |
| | ５層 | ５層 |
| | ６層 | ６層 |
| | ７層 | ７層 |
| | ８層 | 焼土層 |
| | ９層 | カマド１層 |
| | 10層 | カマド２層 |
| | 11層 | 煙道１層 |
| | 12層 | 煙道２層 |
| | 13層 | 柱穴 |
| | 14層 | カマド４層 |
| | 15層 | カマド３層 |
| | 16層 | カマド５層 |
| | 17層 | 貼床 |

| 遺構名 | 報告名 | フィールド名 |
|---|---|---|
| ＳＩ01（新） | 18層 | 下１層 |
| | 19層 | 下２層 |
| | 20層 | 下３層 |
| | 21層 | 下４層 |
| | 22層 | 下５層 |
| | 23層 | 下６層 |
| ＳＩ01（新）カマド | １層 | カマド１層 |
| | ２層 | ソデ１層 |
| | ３層 | ソデ２層 |
| | ４層 | ソデ３層 |
| | ５層 | ソデ４層 |
| ＳＩ01（旧） | １層 | 煙道３層 |
| | ２層 | 煙道４層 |
| | ３層 | 煙道５層 |
| | ４層 | カマド６層 |
| | ５層 | カマド７層 |

| 遺構名 | 報告名 | フィールド名 |
|---|---|---|
| ＳＫ05 | １層 | １層 |
| | ２層 | ２層 |
| | ３層 | ３層 |
| | ４層 | ５層 |
| ＳＤ01西 | １ａ層 | １層 |
| | １ｂ層 | |
| | ２ａ層 | ２層 |
| | ２ｂ層 | |
| | ３ａ層 | ３層 |
| | ３ｂ層 | |
| | ４層 | ４層 |
| | ５層 | ５層 |
| | ６層 | ６層 |
| | ７層 | ７層 |
| | ８層 | ８層 |

＜石器・石製品＞　野外調査中に、全点の洗浄を済ませ、点取り遺物全点とグリッド一括遺物の主なもの（二次加工や使用痕のあるもの）の選別･登録作業を行った。室内整理開始とともに重量計測（ｇ単位：少数第２位を四捨五入、大形の礫塊石器は少数第１位まで計測）を行い、台帳に記載した。その後、掲載遺物を選別し、図化・トレース作業を行った。後期旧石器時代の剥片石器と縄文時代の主な剥片石器の素図作成は作業の効率化を優先して外部（株式会社ラング）に委託した。その他の剥片石器は小形のシールを用いて、簡便な注記を行い、素図作成終了を待って、頁岩製の剥片石器を中心に接合作業を約１ヶ月間行った。接合作業にあたっては、主に石器石材の色調により仕分けを行ったが、剥片剥離工程が復元できるような資料は得られなかった。

＜金属製品＞　１点のみの出土で、掲載した。まず、簡単に土砂の除去を行った後、Ｘ線写真撮影を行い、もとの形状を確認した。その上で、図化作業を行った。機械を使用した錆落としは行っていない。図化終了後、トレース作業、写真撮影を行った。

**写真**　野外調査時に撮影した遺構などの写真には６×７㎝判モノクローム、デジタルデータがある。モノクローム写真は主に保存用に撮影したもので、アルバムに整理し、台帳を作成した。デジタルデータはＲＡＷデータとＪＰＥＧデータを同時に撮れるモードで撮影を行い、写真図版作成用に使用した。デジタルデータは当センターの規定に則った整理を行い、台帳を作成した。遺物写真は室内整理時にデジタルカメラでＲＡＷデータとＪＰＥＧデータを同時に撮れるモードで撮影を行い、基本的にＲＡＷデータを保存用に、ＪＰＥＧデータを図版作成用にしている。これらの遺構写真と航空写真及び遺物写真で図版を作成した。なお、遺構の断面写真は基本的には図版の断面図と同じ方向から撮影したものである。

# Ⅳ 分 類 基 準

## 1 土 器 類

土器類には、縄文土器、土師器、須恵器、陶器、磁器がある。縄文土器、須恵器、陶器、磁器については、分類できるほどの数量がないため、個別に記載している。なお、縄文土器の一部には点取り遺物があり、表中ではＪＰ（○）と略号を使用した。

土師器は坏、鉢、甕、小甕がある。甕や小甕、鉢は細分できるほどの種類がないため、それぞれ一括した。坏はすべてロクロを使用したもので、黒色処理の有無により内面に黒色処理を施したⅠ類と非黒色処理のⅡ類の２種に大別のみ行った。

## 2 石器・石製品

### （1）器 種 分 類

出土石器の器種分類はこれまでの研究の中で確立し、一般に広く認識されているものを踏襲して下記のとおり分類した（第９・10図）。表中では括弧内の略号を使用した。

**台形石器**（ＴＲ） 素材剥片の鋭利な縁辺部を刃部とし、平面形を台形状に整形した石器。様々な名称で呼ばれることが多いが、北東北を中心とした近年の報告例を踏まえて、台形石器に統一した。

Ⅰ類：素材剥片を倒位に用いる。縦長剥片を素材とし、二側縁全縁に急斜度な二次加工が施されるもの（Ⅰａ）と寸詰りの剥片を素材とし、主に、素材剥片の頭部側背面に二次加工が施されるもの（Ⅰｂ）がある。

Ⅱ類：石刃や縦長剥片を数個に分割した剥片を素材とし、横位に用いる。素材剥片の鋭い縁辺を刃部に設定し、切断した部分に急斜度な二次加工が施される。

**ナイフ形石器**（ＫＮ：★） 素材剥片の鋭利な縁辺部を刃部とし、他の部位に二次加工を施した石器。

**彫器**（ＧＲ） 素材剥片の一部に一条または数条の樋状剥離を施した石器。

**彫器削片**（ＧＲＳ：■） 彫器の彫刀面作出時に剥離されたと考えられる剥片。

**掻器**（ＥＳ：▲） 主に素材剥片の端部半分以上に連続的な二次加工を施して刃部を作出した石器。

Ⅰ類：素材剥片端部の背面側に急斜度な二次加工を施すもの。

Ⅱ類：素材剥片端部の背面側に急斜度な二次加工が施されるとともに、腹面側に平坦剥離が施されるもの。

**掻削器**（ＥＳＳ） 素材剥片の端部及び側縁の半分以上に連続的な二次加工を施して刃部を作出した石器。

Ⅰ類：素材剥片端部の背面側に急斜度な二次加工を施し、側縁部の二次加工が一側縁のみに施されるもの。

Ⅱ類：素材剥片端部の背面側に急斜度な二次加工が施されるとともに、腹面側に平坦剥離が施され、側縁部の二次加工が一側縁のみに施されるもの。

Ⅲ類：素材剥片端部の背面側に急斜度な二次加工を施し、側縁部の二次加工が二側縁に施されるもの。

Ⅳ類：素材剥片端部の背面側（腹面側）に急斜度な二次加工が施されるとともに、腹面側（背面側）

に平坦剥離が施され、側縁部の二次加工が二側縁に施されるもの。

**削器**（ＳＳ：△）　主に素材剥片の側縁半分以上に連続的な二次加工を施して刃部を作出した石器。

Ⅰ類：側縁部の調整が一側縁のみに施されるもの。

Ⅱ類：二側縁に調整が施されるもの。

**錐形石器**（ＳＡＷ：▼）　素材剥片の一部に二次加工を施して錐状の尖頭部を作出した石器。

Ⅰ類：摘み部を有するもの。

Ⅱ類：棒状を呈するもの。

Ⅲ類：素材剥片の一部に刃部のみを作出したもの。

**抉入石器**（ＮＯ：▽）　素材剥片の一部にえぐりの刃部を作出した石器。

**楔形石器**（ＰＡ：◇）　相対する縁辺に両極技法によって生じる線状もしくは点状を呈する特徴的な打面形状と細かい階段状の剥離痕が観察される石器。

**石鏃**（ＳＡＲ：◆）　素材剥片の片面または両面に二次加工を施して、尖頭部を作出した石器。概ね、扁平で左右対称である。器長が５cm以下のものを本類とした。

Ⅰ類：平基無茎鏃で、平面形が二等辺三角形を呈するもの。

Ⅱ類：凹基無茎鏃で、基部の抉りが浅く、平面形が正三角形に近い形状を呈するもの。

Ⅲ類：凹基無茎鏃で、基部の抉りが浅く、平面形が二等辺三角形を呈するもの。器長に対して器幅が1/2以上のもの（Ⅲａ）と1/2未満～1/3以上のもの（Ⅲｂ）がある。

Ⅳ類：凹基無茎鏃で、基部の抉りが浅いものであり、基部がやや丸みを帯びるもの。Ⅲｂ類のように器長に対して器幅が狭いものである。

Ⅴ類：凹基無茎鏃で、基部の抉りが深く、平面形が二等辺三角形を呈するもの。

Ⅵ類：凸基有茎鏃。

Ⅶ類：上記以外のもの。

**尖頭器**（ＰＯ：◆）　素材剥片の両面に二次加工を施して、尖頭部を作出した石器。

**箆形石器**（ＳＳＰ）　平面形が中軸線でほぼ左右対称の撥形もしくは楕円形を呈し、断面形がかまぼこ状、台形状、凸レンズ状で、一端に刃部が作出されている石器。

**石匙**（ＴＳＳ）　両側縁から抉りを入れることで作出されたつまみ部とつまみ部とは異なる側縁に刃部を有する石器。

Ⅰ類：縦形のもの。刃部の調整が片面のみのものと両面のものがある。

Ⅱ類：横形のもの。

**調整痕のある剥片（石刃）**（ＲＦ：□）　素材剥片の一部に二次加工を施した石器で、ナイフ形石器・台形石器・彫器・掻器・掻削器・削器・錐形石器・抉入石器・楔形石器・石鏃・尖頭器・箆形石器・石匙以外のものを一括した。

Ⅰ類：一側縁のみに二次加工が施されるもの。

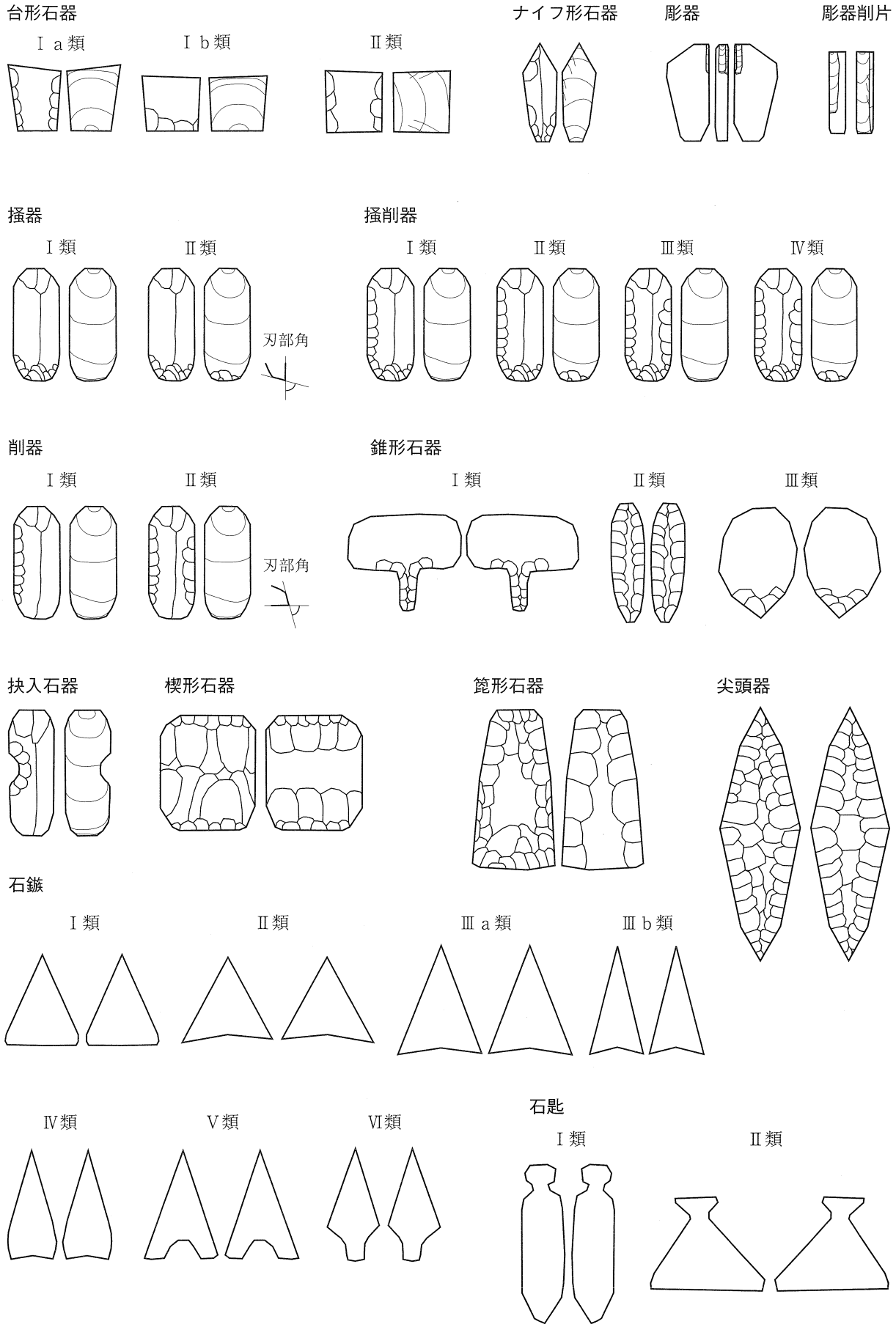
Ⅱ類：二側縁に二次加工が施されるもの。

Ⅲ類：複数の縁辺部に二次加工が施されるもの。

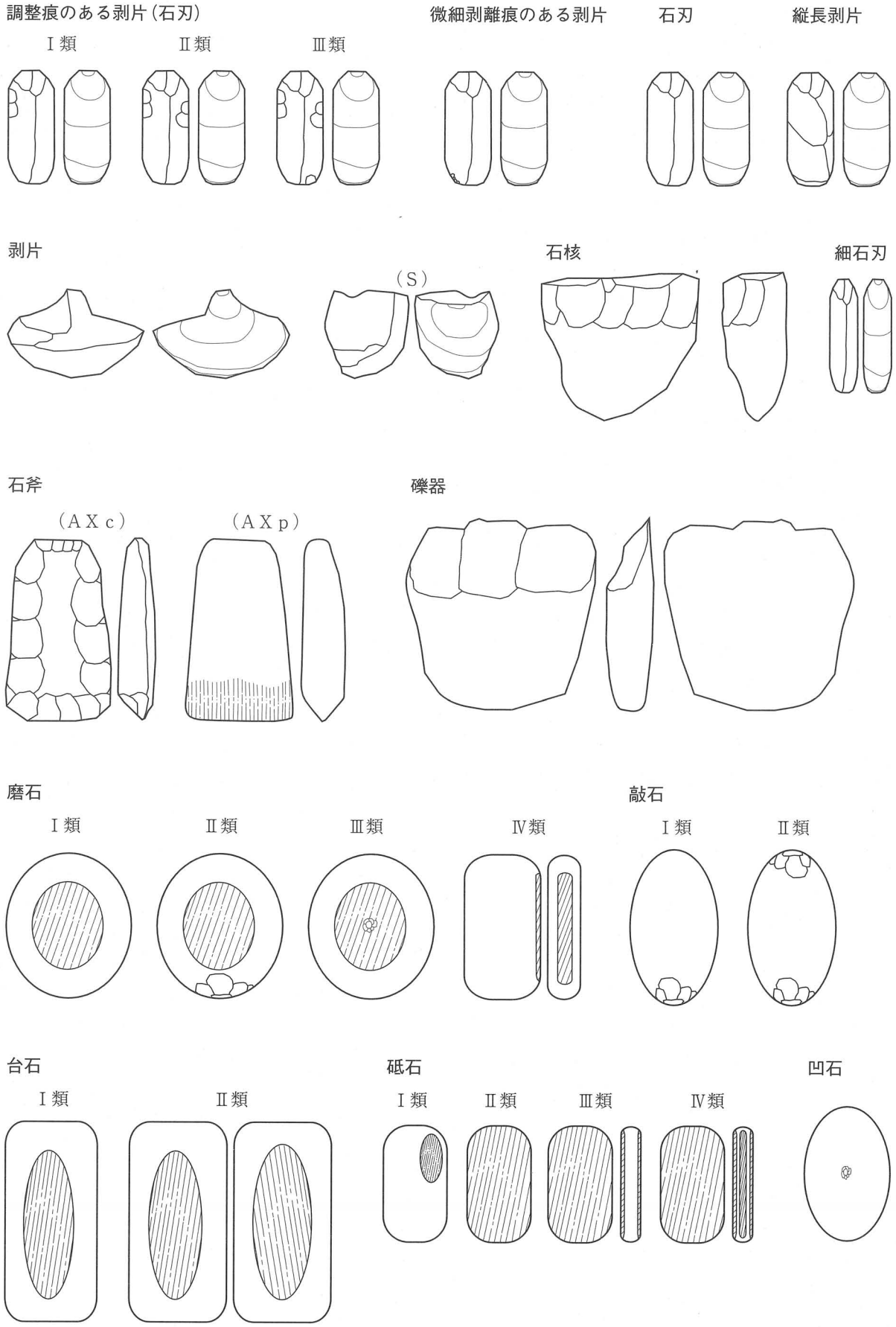
**微細剥離痕のある剥片**（ＵＦ：□）　素材剥片の一部に調整痕ではない、細かな剥離痕が観察される石器。

**石刃**（ＢＬ：●）　器幅に対して器長が２倍以上で、両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜をもつ石器。

**縦長剥片**（ＢＬＦ：●）　器長が器幅の２倍以上であるが、石刃に該当しない剥片。


台形石器
Ⅰａ類
Ⅰｂ類
Ⅱ類
ナイフ形石器
彫器
彫器削片
掻器
Ⅰ類
Ⅱ類
刃部角
掻削器
Ⅰ類
Ⅱ類
Ⅲ類
Ⅳ類
削器
Ⅰ類
Ⅱ類
刃部角
錐形石器
Ⅰ類
Ⅱ類
Ⅲ類
抉入石器
楔形石器
箆形石器
尖頭器
石鏃
Ⅰ類
Ⅱ類
Ⅲａ類
Ⅲｂ類
Ⅳ類
Ⅴ類
Ⅵ類
石匙
Ⅰ類
Ⅱ類

第９図　石器分類図（１）


調整痕のある剥片（石刃）
Ⅰ類
Ⅱ類
Ⅲ類
微細剥離痕のある剥片
石刃
縦長剥片
剥片
（S）
石核
細石刃
石斧
（AXc）
（AXp）
礫器
磨石
Ⅰ類
Ⅱ類
Ⅲ類
Ⅳ類
敲石
Ⅰ類
Ⅱ類
台石
Ⅰ類
Ⅱ類
砥石
Ⅰ類
Ⅱ類
Ⅲ類
Ⅳ類
凹石

第10図　石器分類図（2）

**剥片**（F：●）　石核やトゥール類から剥離されたもので、石刃・縦長剥片・細石刃・彫器削片以外の剥片。貝殻状を呈する剥片は分類の項目に「S」と表記した。最大器長・最大器幅のいずれもが1.5cm未満のものを砕片（C）とした。

**石核**（CO）　剥片を剥離したと考えられる石器。

**石斧**（AX：☆）　両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作出した石器。打製石斧（AXc）や磨製石斧（AXp）を一括している。

**礫器**（PT：◆）　礫の一端に剥離調整を施して刃部を作出した石器。

**磨石**（GS：+）　礫に磨痕が観察される石器。

Ⅰ類：磨面のみ観察されるもの。

Ⅱ類：磨面と敲打痕が観察されるもの。

Ⅲ類：磨面と凹部が観察されるもの。

Ⅳ類：礫の側面部に平坦な磨面をもつ所謂「特殊磨石」であるもの。

**敲石**（HS：×）　礫の端部や側面にあばた状の敲打痕が形成されている石器。

Ⅰ類：一端部に形成されるもの。

Ⅱ類：両端部に形成されるもの。

**台石**（AS：－）　扁平礫に打撃痕や磨痕の観察される石器。

Ⅰ類：片面のみに使用痕跡が観察されるもの。

Ⅱ類：両面に使用痕跡が観察されるもの。

**砥石**（WS：＊）　礫の片面もしくは両面または、一部に磨痕の観察される石器。

Ⅰ類：一面の一部のみに磨痕の観察されるもの。

Ⅱ類：一面全体に磨痕が観察されるもの。

Ⅲ類：平坦な二面に磨痕が観察されるもの。

Ⅳ類：複数の面に磨痕が観察されるもの。

**細石刃**（MB：●）　器長が器幅の２倍以上で、両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜をもつ剥片のなかで、器幅が１cm以下の剥片。

**凹石**（SWI）　礫の平坦な面に敲打による凹み状の痕跡が観察される石器。

**石製品**（SMO）　石刀・石剣類の範疇に収まるものをⅠ類、欠損などにより不明のものをⅡ類とした。

**礫**（PB：○）　剥離痕、敲打痕、擦痕などの人為的な痕跡が観察されない石。

### （2）石器石材分類

同一の原礫に帰属する石器の一群である。資料全体を母岩別に分類するのが理想であると思われるが、接合資料が非常に少なく、原礫まで復元可能な個体が皆無であるため、頁岩については、石器石材別の色調を中心とした分類を行うにとどめ、頁岩A（黒）・頁岩B（白）・頁岩C（灰）・頁岩D（茶）・頁岩E（黄）・頁岩F（赤）の６種類（６系統）、奥羽山脈系はａ、北上山地系はｂとした。その他の石材については、石材毎の点数がないため、分類を行わなかった。この分類は頁岩製石器すべての分類であり、第Ⅰ文化層以前では頁岩A・C・D、第Ⅰ文化層では頁岩A～E、第Ⅱ文化層では頁岩A～F、縄文時代では頁岩A～Fが利用される。

# Ⅴ　検出遺構と出土遺物

## 1　後期旧石器時代

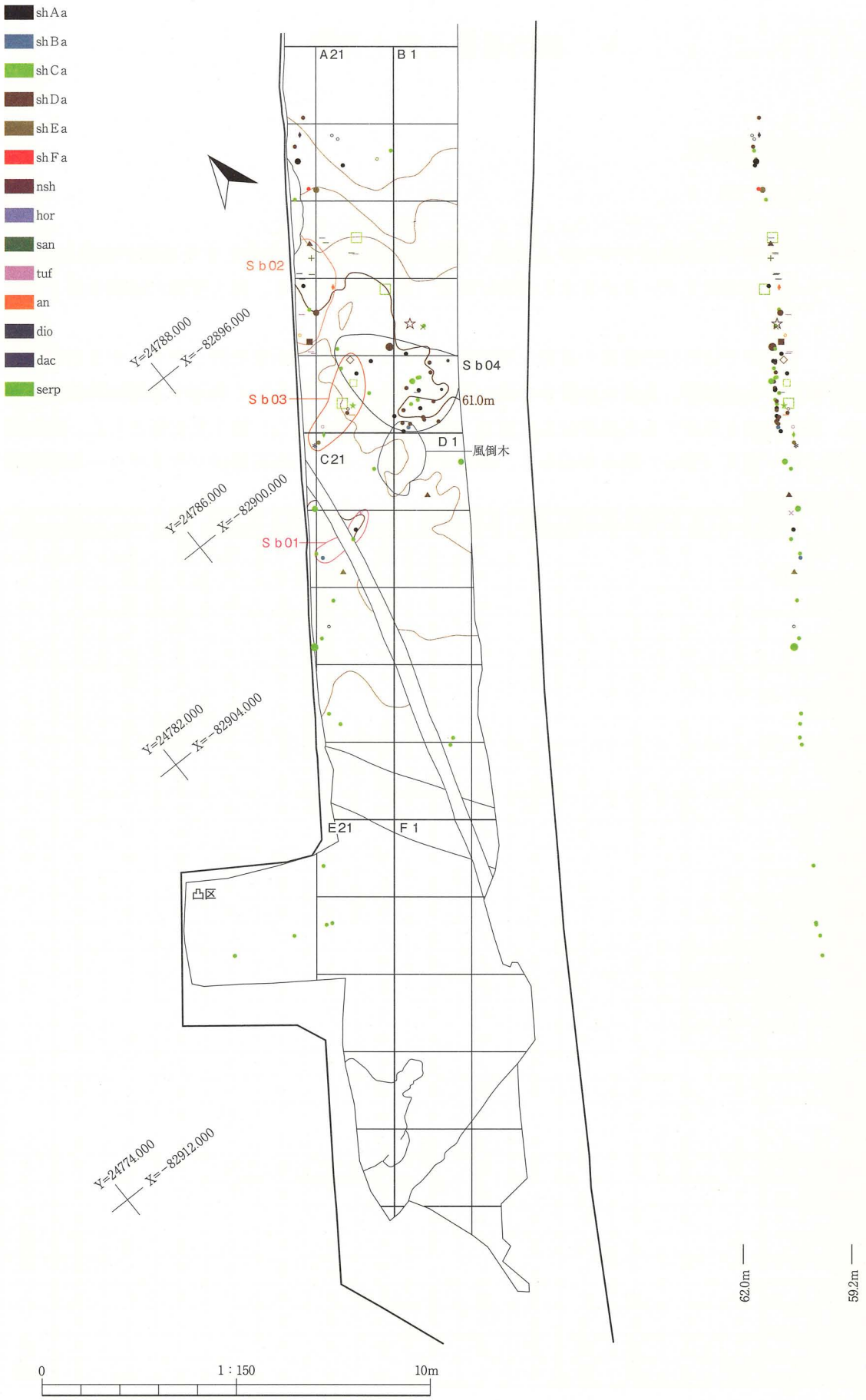
### （1）概　　要

旧石器時代に帰属する遺構はブロック４箇所、遺物は台形石器をはじめとする石器が合計119点である。このうち座標３次元データを有する遺物は99点（第11図）である。出土遺物の組成を第４表に示した。

**＜文化層＞**　本遺跡では奥羽山脈系の頁岩を石器石材として利用し、台形石器を中心とする石器群、石刃技法を多用する石器群、良質な珪質分の高い頁岩を主な石器石材として利用する細石刃石器群が出土した。石刃技法を多用する石器群は主にⅦD（Ⅶd）層を中心とし、第Ⅰ文化層とした。細石刃石器群は主にⅥ～ⅦA（Ⅶa）層を中心とし、第Ⅱ文化層とした。台形石器はプライマリーな堆積層

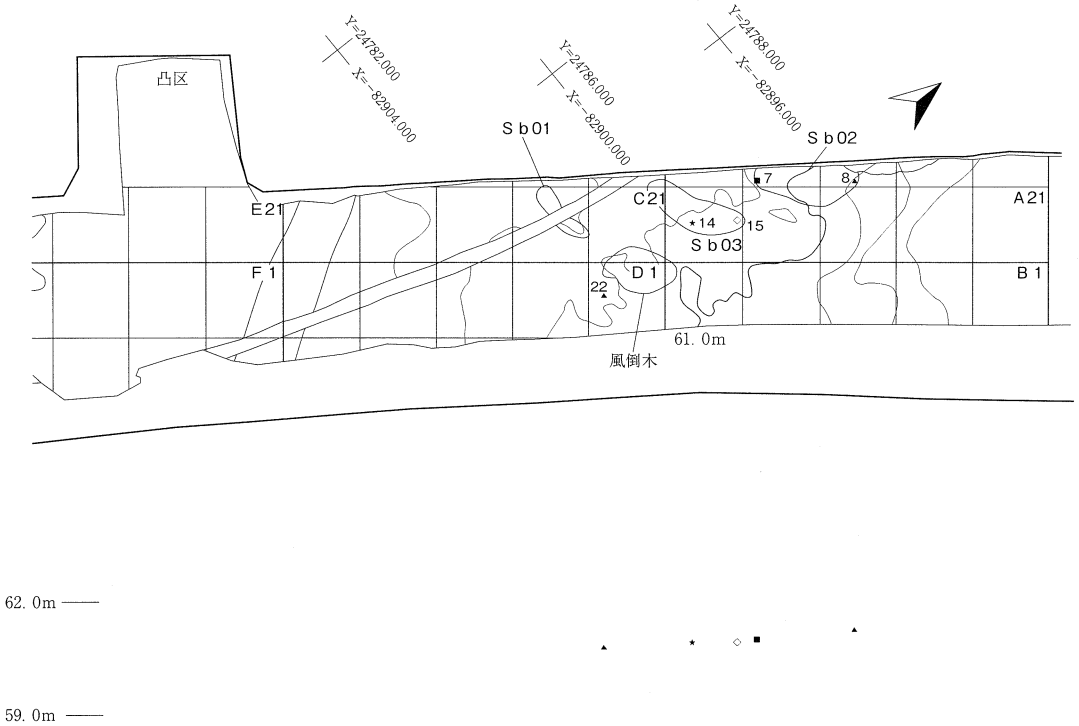
**第４表　旧石器組成表**

| 文化層 | 器種＼石材 | sh A | sh B | sh C | sh D | sh E | sh F | nsh | hor | san | tuf | an | dio | dac | serp | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 前 | 台形石器 | 1 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 第Ⅰ文化層 | ナイフ形石器 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 彫器削片 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 掻器 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 掻削器 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 削器 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 楔形石器 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | ＲＦ | 2 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | ＵＦ | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 石刃 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 縦長剥片 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 剥片 | 2 | 1 | 7 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 |
| | 砕片 | 2 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| | 石斧 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 礫器 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| | 磨石 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 敲石 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 台石 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 4 | 1 | 1 | 1 | 0 | 10 |
| | 砥石 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | 礫 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 6 |
| | 計 | 7 | 1 | 23 | 12 | 3 | 0 | 2 | 0 | 6 | 6 | 3 | 3 | 2 | 1 | 69 |
| 第Ⅱ文化層 | 彫器 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 掻器 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | ＲＦ | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 細石刃 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| | 縦長剥片 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 剥片 | 1 | 0 | 9 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| | 砕片 | 5 | 1 | 4 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 22 |
| | 礫器 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| | 台石 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 礫 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | 計 | 7 | 1 | 16 | 15 | 1 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 45 |
| 総　計 | | 15 | 2 | 41 | 29 | 4 | 1 | 2 | 2 | 6 | 6 | 3 | 4 | 3 | 1 | 119 |

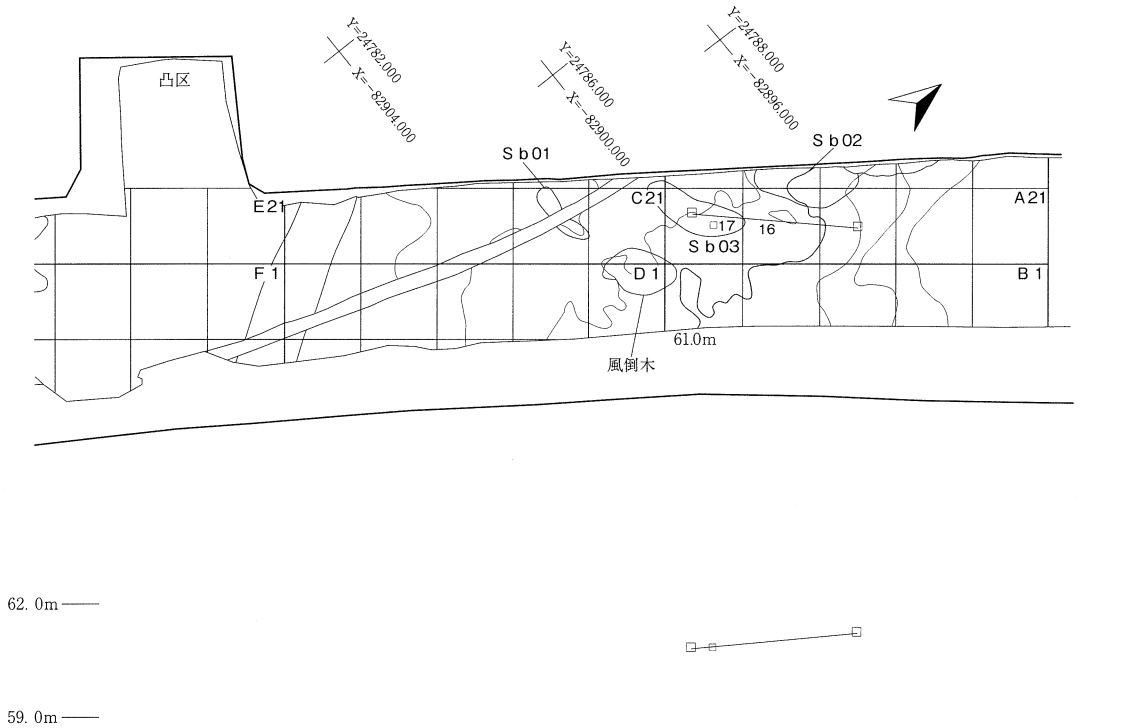

shAa
shBa
shCa
shDa
shEa
shFa
nsh
hor
san
tuf
an
dio
dac
serp
A21
B 1
S b02
S b03
S b04
61.0m
D 1
風倒木
C21
S b01
E21
F 1
凸区
Y=24788.000
X=-82896.000
Y=24786.000
X=-82900.000
Y=24782.000
X=-82904.000
Y=24774.000
X=-82912.000
62.0m
59.2m
0
1：150
10m

第11図　旧石器分布図

ナイフ形石器・彫器削片・掻器・楔形石器

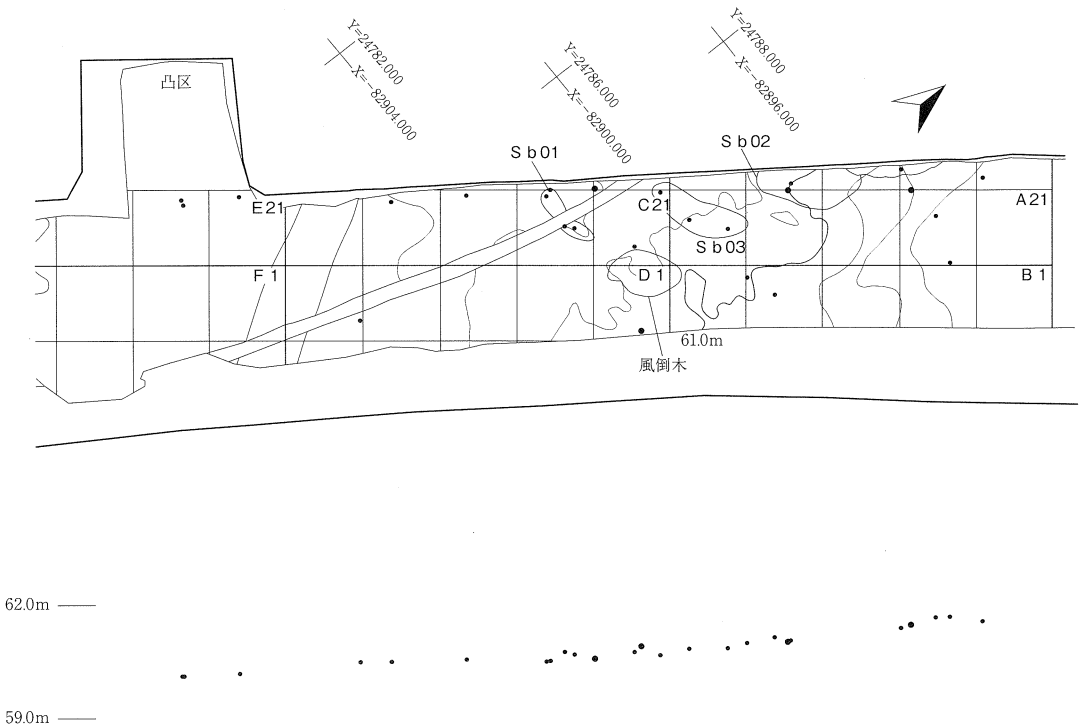



ＲＦ・ＵＦ

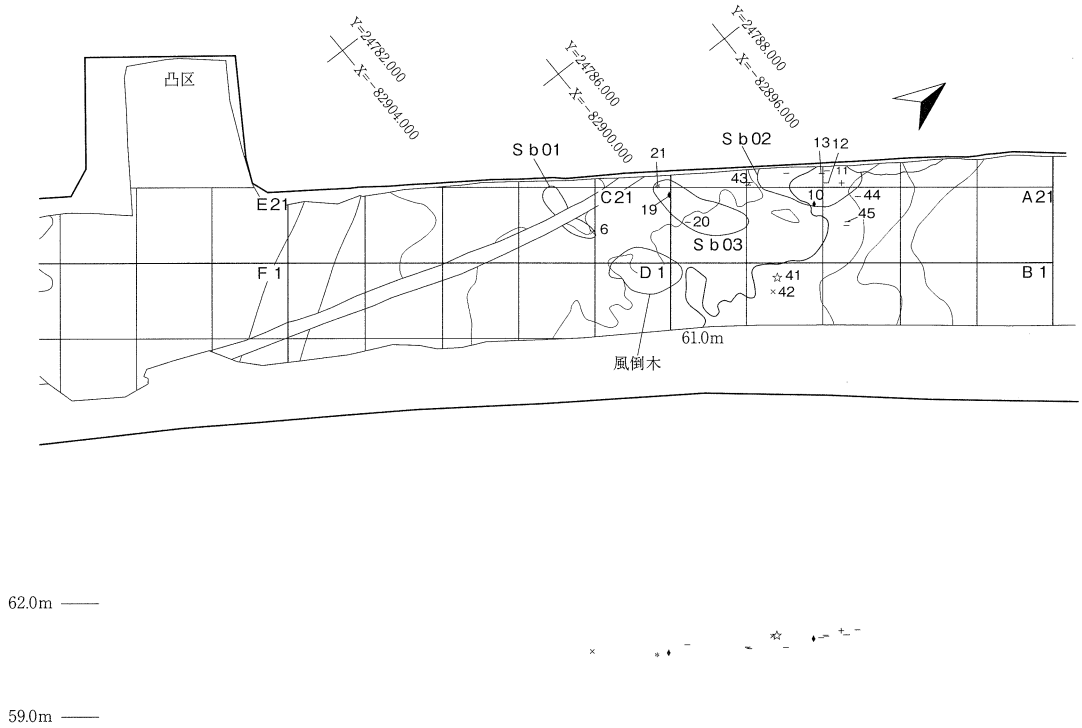



第12図　器種別分布図（第Ⅰ文化層１）

石刃・縦長剥片・剥片・砕片

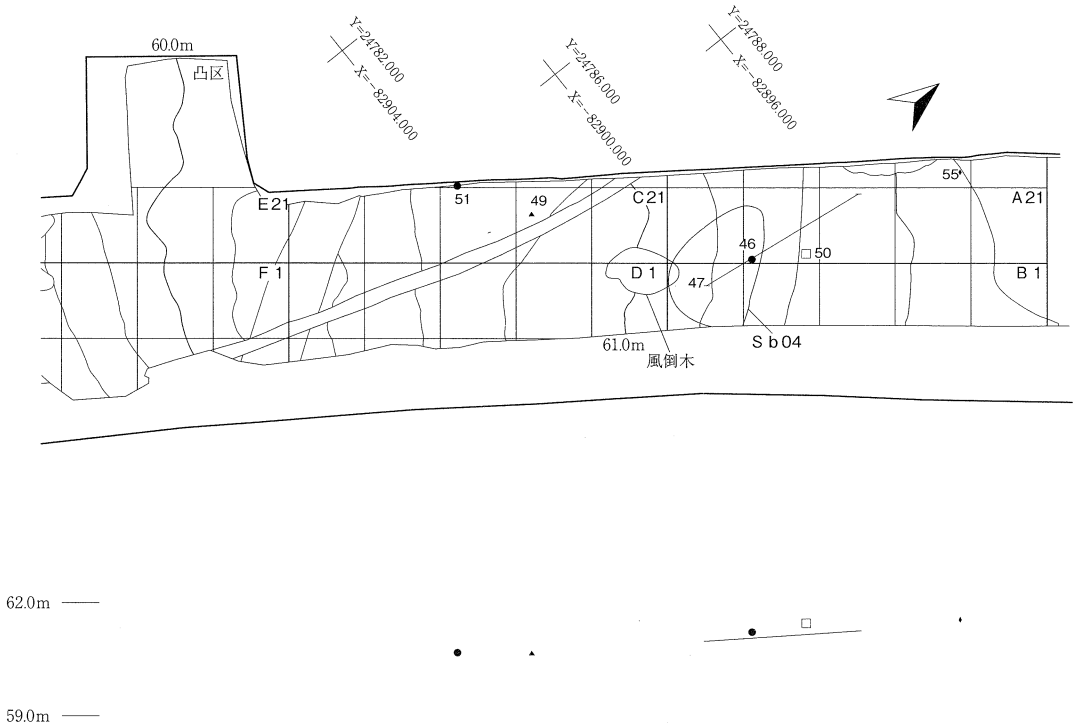



礫器・石斧・磨石・敲石・台石・砥石

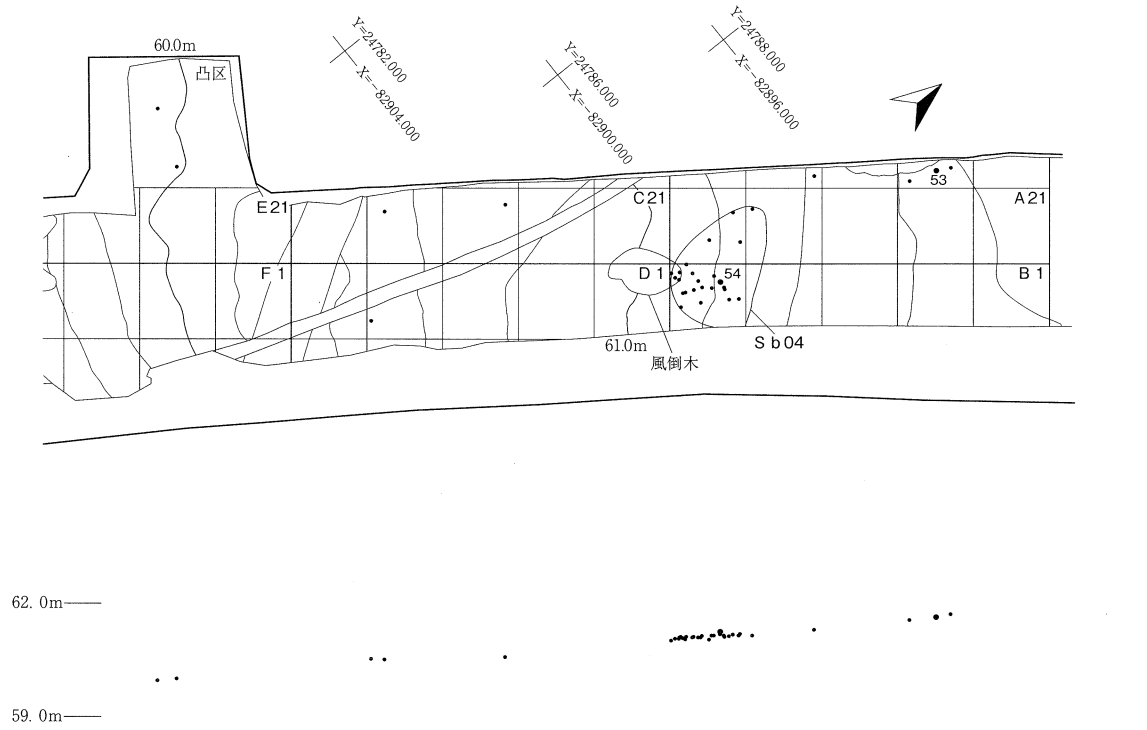



第13図　器種別分布図（第Ⅰ文化層２）

掻器・ＲＦ・細石刃・礫器・台石

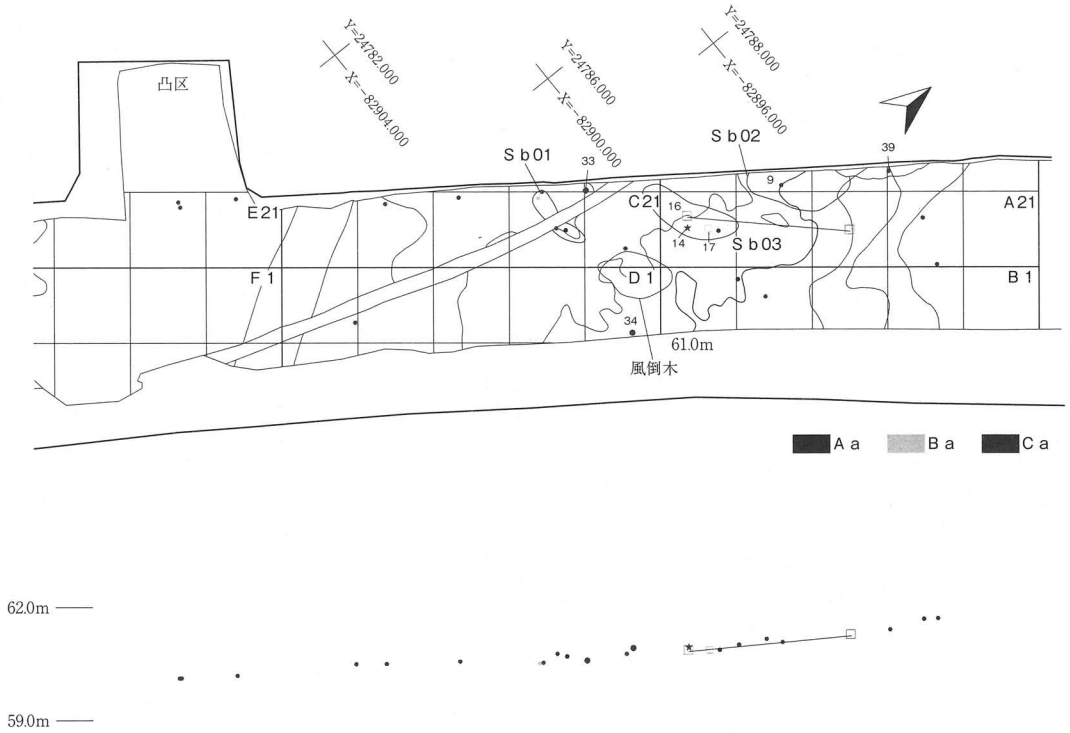



縦長剥片・剥片・砕片

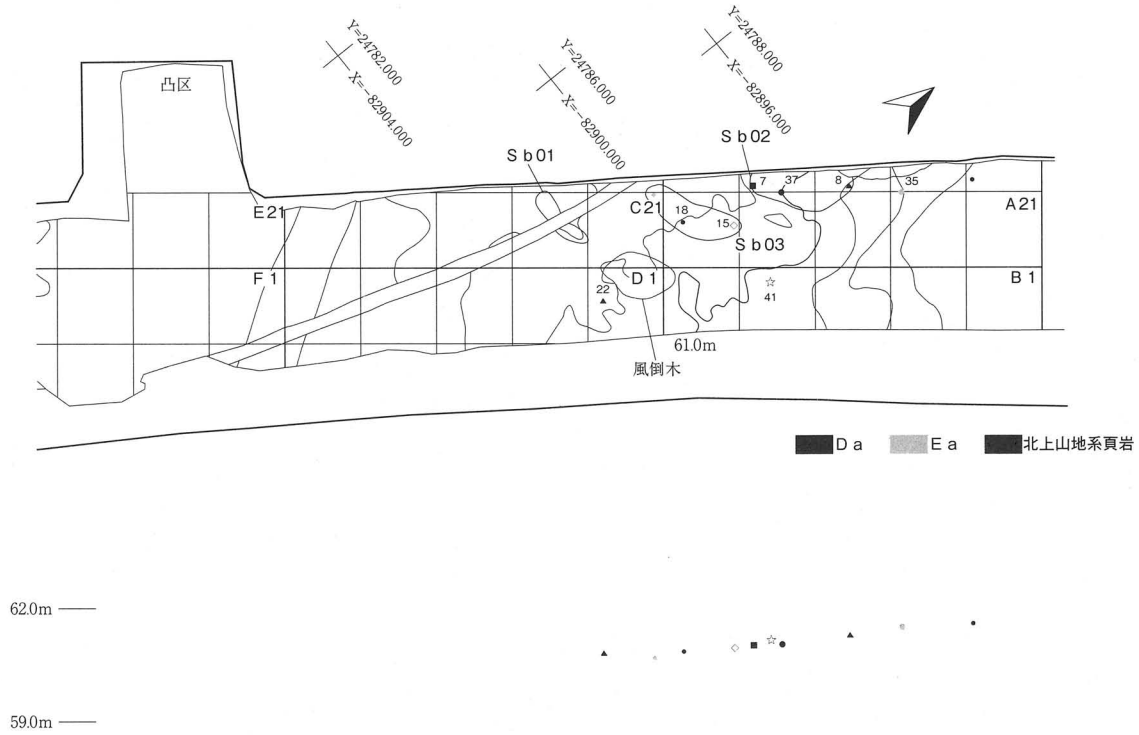



第14図　器種別分布図（第Ⅱ文化層）

頁岩①

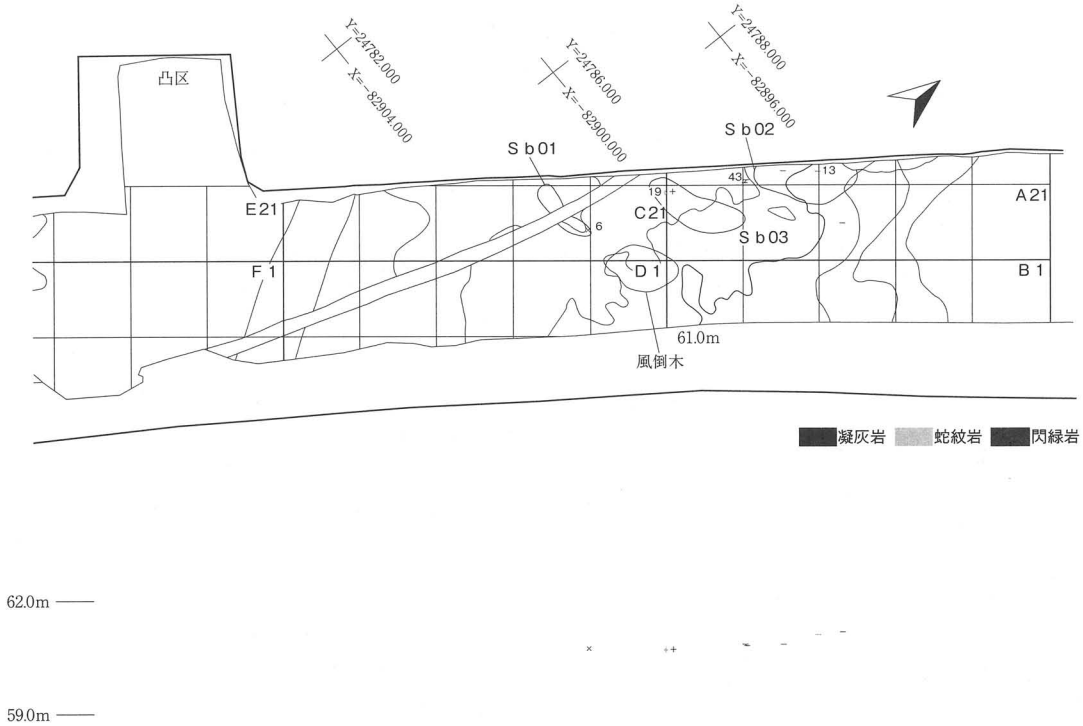



頁岩②

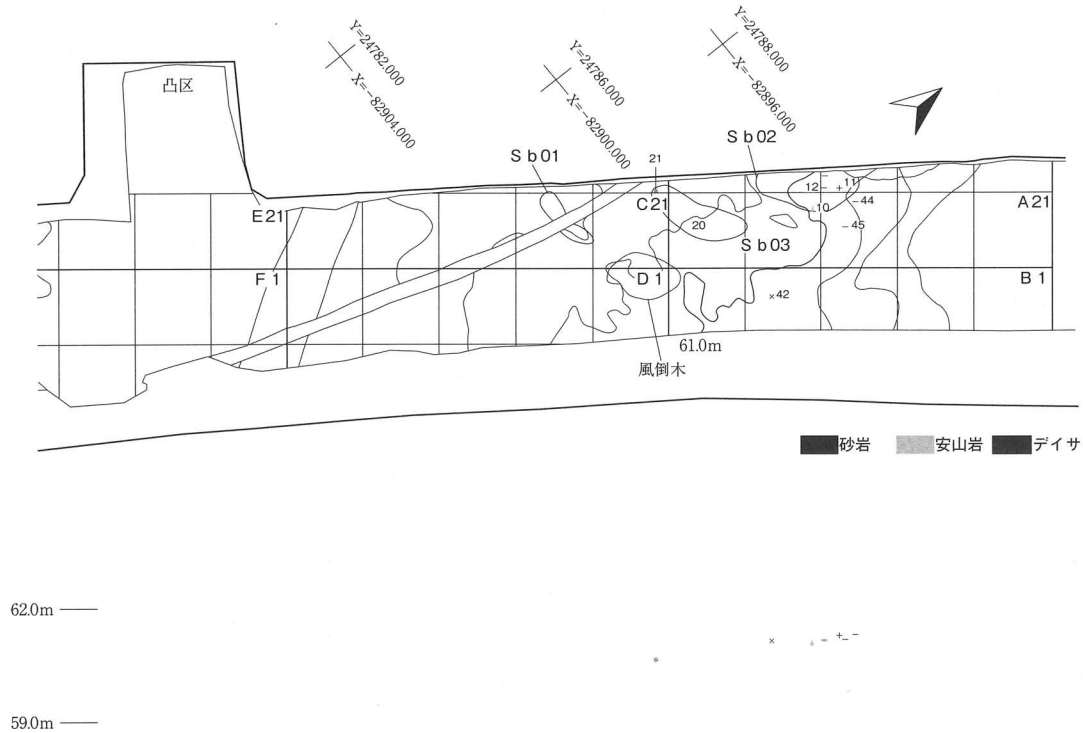



第15図　石器石材別分布図（第Ⅰ文化層１）

凝灰岩・蛇紋岩・閃緑岩

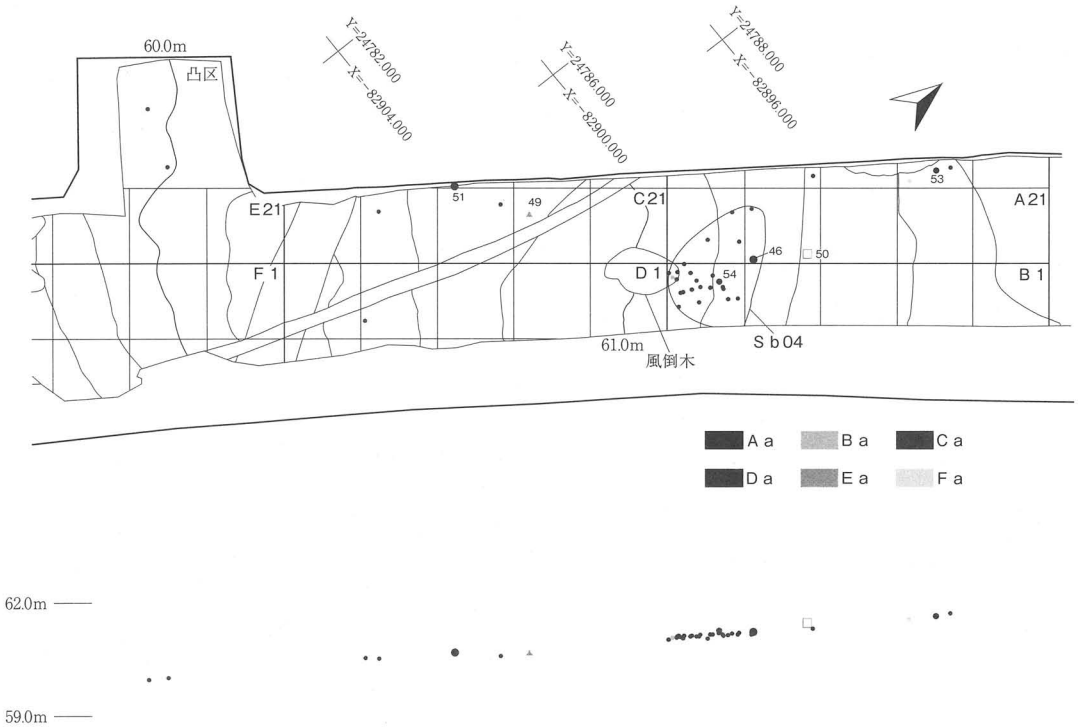



砂岩・安山岩・デイサイト

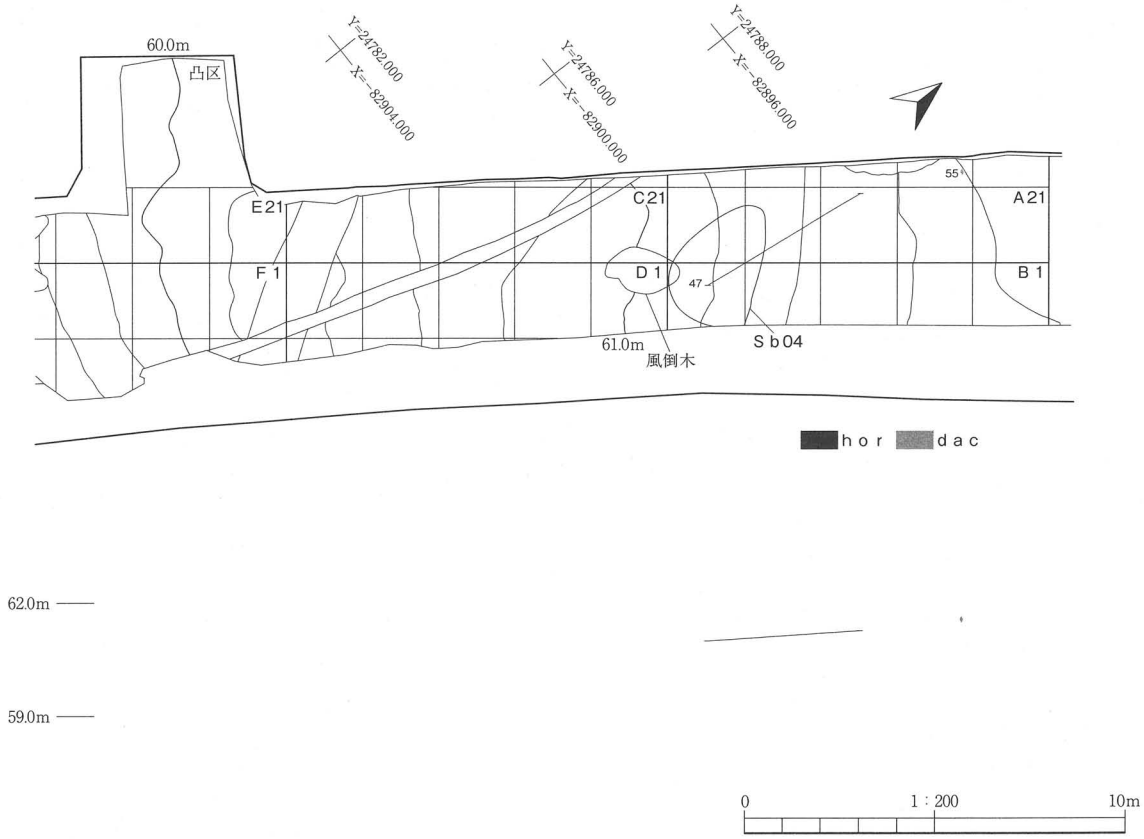



第16図　石器石材別分布図（第Ⅰ文化層２）

頁岩




ホルンフェルス・デイサイト




第17図　石器石材別分布図（第Ⅱ文化層）

から出土したものが皆無であり、帰属する層序が不明瞭であるため、単独の文化層の名称は使用せず、第Ⅰ文化層以前の石器とした。

**＜ブロック＞**　出土遺物は平面的に分布が密になっている部分が確認され、５点以上の石器で構成される部分をブロックとして把握した。このブロックは接合状況や器種組成の観察から導き出された有意の石器分布ではなく、平面分布のまとまりを示している。ブロックを把握する際には、個々の石器の直線距離が100cm以上離れているものを分離していき、区切られた範囲を一つのブロックとした。この方法で行ったブロックの分布図は、本来であれば非常に細かくうねった線で括られることになるが、規模や形状を捉え易くするため、最も範囲の外に位置する石器を結んで分布の範囲を決定した。そのため、分布図上はブロックの範囲の中に含まれる石器が観察表や図版ではブロック外出土となっていることがある。ブロックの範囲は野外調査時のものを基本としているが、室内整理時に再検討を行っている。その結果、Ｓｂ01・03は南に縮小、Ｓｂ02は西に縮小した。図版等では、Ｓｂの略号を使用した。

**＜器種別の分布状況**（第12～14図）＞　本遺跡では多様な器種の石器が出土している。座標３次元データを記録した遺物を中心に器種別の分布を概観する。

**第Ⅰ文化層**：石器の分布はＤ区の北側西にあたるＡグリッド内に集中する傾向がみられる。Ｓｂ02・03を構成する資料は本区域内にあり、定形的な石器にはナイフ形石器、掻器等がある。ブロック外に出土した台石３点も、この範囲内に分布する。この他ではブロック外の掻器がＤグリッド内に、Ｓｂ01を構成する敲石がＣグリッド内に、ブロック外の石斧や敲石がＢグリッド内に分布している。

**第Ⅱ文化層**：本文化層はＳｂ04があるＢ５グリッドに集中している。そのなかには、細石刃や台石が含まれている。それ以外の定形的な石器では、掻器・細石刃がＣグリッド内に、礫器・台石がＡグリッド内に分布している。

**＜石器石材別資料**（第15～17図）＞　石器石材には、頁岩（Ａ～Ｆ）、北上山地系頁岩、凝灰岩、蛇紋岩、安山岩、砂岩、閃緑岩、デイサイト、ホルンフェルスがある。座標３次元データを記録した遺物を中心に分布を概観する。

**第Ⅰ文化層**：本文化層には、頁岩Ａ～Ｅ、北上山地系頁岩、凝灰岩、蛇紋岩、砂岩、閃緑岩、デイサイトがある。頁岩が全体の2/3を占め、その中でも、頁岩Ｃ（灰色）が圧倒的に多い。石器の分布は前述のとおりであるが、頁岩Ｃは南西側のＥグリッドにも散在している。その他の石材はＡグリッド内に集中する傾向がみられる。

**第Ⅱ文化層**：本文化層には、頁岩Ａ～Ｆ、閃緑岩、デイサイト、ホルンフェルスがある。頁岩のみで90％以上を占める。そのなかでも、頁岩Ｃ（灰色）・頁岩Ｄ（茶色）が多い。

### （２）第Ⅰ文化層以前の出土遺物（第18図、写真図版17）

**概要**　本群の石器には台形石器を当てた。この石器は第Ⅰ文化層の石刃石器群よりは明らかに古い石器群であるが、プライマリーな堆積層中からの出土がなく、帰属する層序は不明である。そのため、文化層とはせずに、第Ⅰ文化層以前の出土遺物とした。

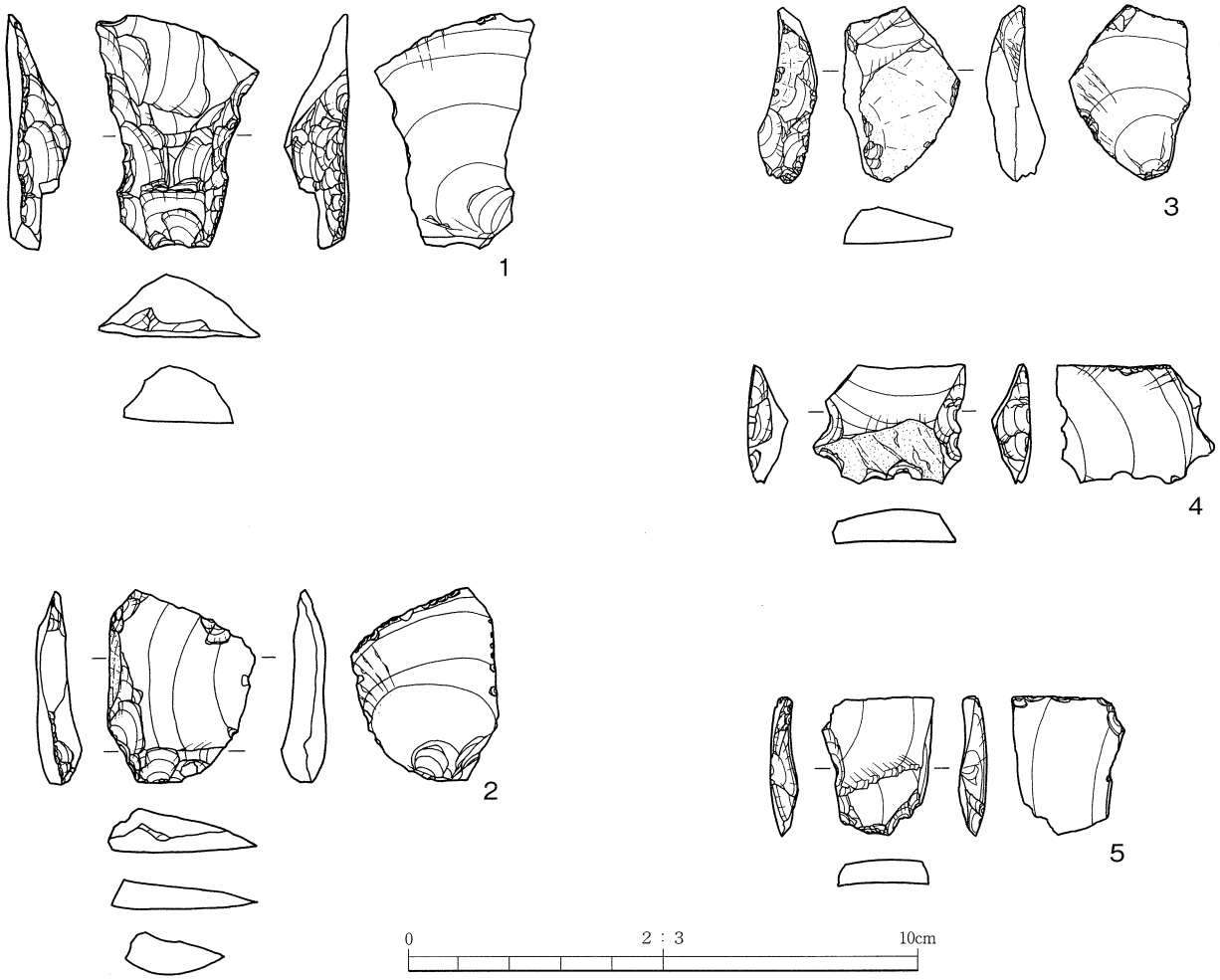
**台形石器**（１～５）　１は縦長剥片を素材としている。素材剥片を倒位に用い、素材剥片端部の鋭い縁辺を刃部に設定し、その他の側縁に二次加工を施している。特に、素材剥片の両側縁の二次加工は急斜度なもので、断面形は三角形状を呈する。２・３は寸詰りの不定形剥片を素材としている。１と同様、素材剥片を倒位に用い、素材剥片端部の鋭い縁辺を刃部に設定している。主に、素材剥片の左側縁の頭部側背面に急斜度な二次加工が施されている。３は端部の一部を腹面側から切断している。

４・５は石刃を素材としている。素材剥片の両端を切断後、切断した二側縁に二次加工を施して、台形に整えている。４は素材剥片の左側縁を刃部に、５は素材剥片の右側縁を刃部に設定している。

**第５表　石器観察表（第Ⅰ文化層以前）**

| 掲載No | 器種 | 位置 | 出土層位 | 石材 | | 分類 | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) | 備考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ＴＲ | Ｄ区 | Ⅲ層 | sh | Ｄａ | Ⅰａ | 4.68 | 3.14 | 1.24 | 109 | | 11.21 | | 18 | 17 |
| 2 | ＴＲ | Ｄ区 | Ⅲ層 | sh | Ａａ | Ⅰｂ | 3.84 | 2.90 | 0.87 | | | 7.89 | | 18 | 17 |
| 3 | ＴＲ | Ｃ区 | Ⅰ層 | sh | Ｄａ | Ⅰｂ | 3.50 | 2.31 | 1.12 | | | 6.25 | | 18 | 17 |
| 4 | ＴＲ | Ｄ区 | Ⅲ層 | sh | Ｃａ | Ⅱ | 2.39 | 3.02 | 0.78 | | | 5.36 | | 18 | 17 |
| 5 | ＴＲ | Ｄ区 | 撹乱層 | sh | Ｃａ | Ⅱ | 2.78 | 2.19 | 0.55 | | | 3.30 | | 18 | 17 |

【石材】sh：頁岩




**第18図　第Ⅰ文化層以前の出土遺物**

### （３）第Ⅰ文化層のブロック

**Ｓｂ01**（第19図、写真図版５）

［規模と形状］Ｄ区中央、Ｃ22グリッドに位置し、ほぼ中央部を水道管によって分断されている。分布範囲は長辺1.8m、短辺0.6mで三日月状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向とほぼ並行しており、東側に約85度傾いている。遺物の標高は60.507～60.755mの範囲である。地形の傾斜方向と並行して分布しているため、分布幅が約25cmと広い。層位はⅦＤ層である。

［石器器種組成］剥片２点、砕片２点、敲石１点の合計５点で構成され、敲石以外のトゥールは含まれない。

［石器石材］頁岩Ａ１点、頁岩Ｂ１点、頁岩Ｃ２点、凝灰岩１点で構成され、頁岩の占める割合が高いのは、本文化層の特徴を示している。石材別総重量は、第６表のとおりで、点数が少ないこともあり、凝灰岩の割合が高くなっている。

［出土遺物］（第21図、写真図版17）

図化したのは敲石１点のみである。小形の棒状のもので、両端に明瞭な敲打痕が観察される。

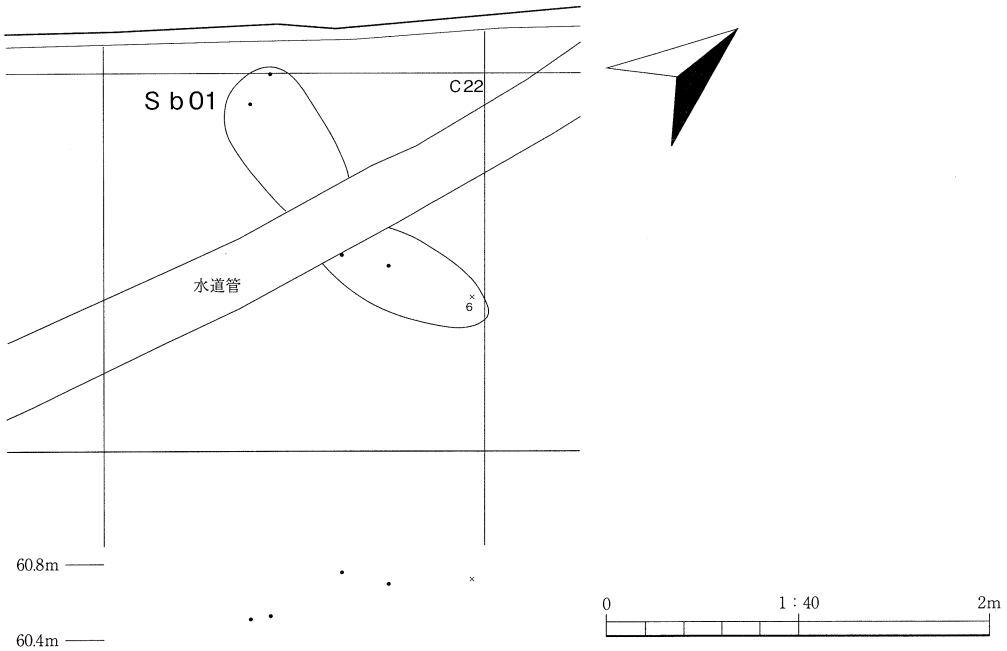
Ｓｂ02（第20図、写真図版５）

［規模と形状］Ｄ区北側、Ａ18・Ａ19・Ａ23・Ａ24グリッドに位置し、北西側は調査区外に広がっている。確認できた分布範囲は長辺2.7mである。長軸方向は地形の傾斜方向とほぼ並行しており、東側に約40度傾いている。遺物の標高は61.005～61.269mの範囲で、地形の変化点にあたり分布幅が約26cmと広い。出土層位はⅦｃ層である。

［石器器種組成］彫器削片１点、掻器１点、剥片１点、礫器１点、磨石１点、台石３点の合計８点で構成される。第Ⅰ文化層のブロックのなかでは、剥片類が少なく、加工具や石器製作に係る道具などの比率が高い特徴が見られる。

**第６表　Ｓｂ01 石器組成表**

| 器種 | 点数（点） | 石　材 | | | | 重量（g） | 石　材 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh A | sh B | sh C | tuf | % | sh A | sh B | sh C | tuf |
| F | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1.7 | 0.0 | 1.3 | 0.4 | 0.0 |
| | 40.0 | 0.0 | 20.0 | 20.0 | 0.0 | 7.1 | 0.0 | 5.3 | 1.8 | 0.0 |
| C | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0.5 | 0.1 | 0.0 | 0.4 | 0.0 |
| | 40.0 | 20.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 2.0 | 0.4 | 0.0 | 1.6 | 0.0 |
| ＨＳ | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 22.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 22.3 |
| | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 20.0 | 90.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 90.9 |
| 合計 | 5 | 1 | 1 | 2 | 1 | 24.5 | 0.1 | 1.3 | 0.8 | 22.3 |
| | 100.0 | 20.0 | 20.0 | 40.0 | 20.0 | 100.0 | 0.4 | 5.3 | 3.3 | 90.9 |

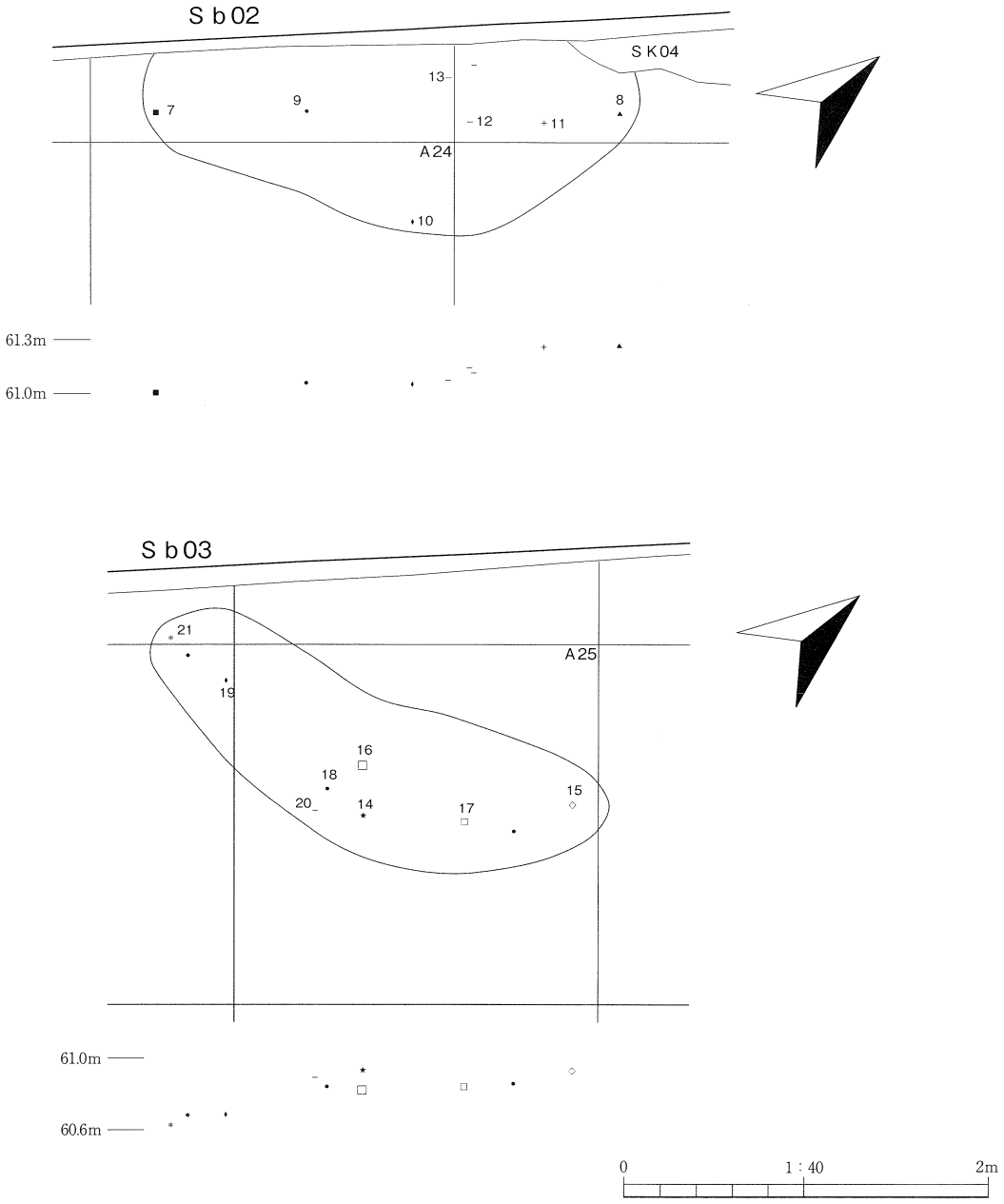



第19図　Ｓｂ01

［石器石材］頁岩Ｃ１点、頁岩Ｄ２点、安山岩１点、砂岩２点、閃緑岩１点、デイサイト１点で構成される。剥片石器の占める割合が他のブロックより低いため、相対的に頁岩以外の石材の占める割合が高い。石材別総重量は、第７表のとおりで、砂岩・閃緑岩・デイサイトの割合が高くなっている。

［出土遺物］（第21図、写真図版17・18）

構成する遺物のうち、彫器削片１点、掻器１点、礫器１点、台石１点を図化し、剥片１点、磨石１点、台石１点を写真掲載とした。７は残存する腹面の観察から、素材剥片を倒位に利用した彫器の右肩から剥離された削片と推察できる。背面には剥離方向と同一方向の彫刀面が残存しており、同一方向から多条の樋状剥離を施していると判断できる。８は縦長剥片を素材としている。刃部は直線的な上面観を呈している。稜上には横方向からの剥離面が見られる。９は貝殻状を呈する剥片である。10は安山岩製の礫器である。扁平な円形の河原石を利用し、片面に粗い二次加工を施して刃部を作出し




第20図　Ｓｂ02・Ｓｂ03

第７表　Ｓｂ 02 石器組成表

| 器種 | 点数（点） | 石　材 | | | | | | 重量（g） | 石　材 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh C | sh D | an | san | dio | dac | % | sh C | sh D | an | san | dio | dac |
| ＧＲＳ | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2.4 | 0.0 | 2.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 12.5 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＥＳ | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9.7 | 0.0 | 9.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 12.5 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| Ｆ | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3.8 | 3.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 12.5 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＰＴ | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 660.3 | 0.0 | 0.0 | 660.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.4 | 0.0 | 0.0 | 6.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＧＳ | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 464.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 464.5 | 0.0 | 0.0 |
| | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 4.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.5 | 0.0 | 0.0 |
| ＡＳ | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 9175.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3060.0 | 3820.0 | 2295.0 |
| | 37.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 12.5 | 12.5 | 12.5 | 88.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 29.7 | 37.0 | 22.2 |
| 合計 | 8 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 1 | 10315.6 | 3.8 | 12.1 | 660.3 | 3524.5 | 3820.0 | 2295.0 |
| | 100.0 | 12.5 | 25.0 | 12.5 | 25.0 | 12.5 | 12.5 | 100.0 | 0.0 | 0.1 | 6.4 | 34.2 | 37.0 | 22.2 |

第８表　Ｓｂ 03 石器組成表

| 器種 | 点数（点） | 石　材 | | | | | | | 重量（g） | 石　材 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh A | sh C | sh D | sh E | an | dac | serp | % | sh A | sh C | sh D | sh E | an | dac | serp |
| ＫＮ | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7.5 | 0.0 | 7.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 10.0 | 0.0 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 0.0 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＰＡ | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2.7 | 0.0 | 0.0 | 2.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＲＦ | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19.7 | 0.0 | 19.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 10.0 | 0.0 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＵＦ | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14.4 | 0.0 | 14.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 10.0 | 0.0 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.5 | 0.0 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| Ｆ | 3 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 24.9 | 1.5 | 0.0 | 1.1 | 22.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 30.0 | 10.0 | 0.0 | 10.0 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＰＴ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 728.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 728.1 |
| | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 10.0 | 25.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 25.8 |
| ＡＳ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1594.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1594.7 | 0.0 | 0.0 |
| | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 56.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 56.4 | 0.0 | 0.0 |
| ＷＳ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 434.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 434.7 | 0.0 |
| | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 10.0 | 0.0 | 15.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 15.4 | 0.0 |
| 合計 | 10 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2826.6 | 1.5 | 41.5 | 3.7 | 22.4 | 1594.7 | 434.7 | 728.1 |
| | 100.0 | 10.0 | 30.0 | 20.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 100.0 | 0.1 | 1.5 | 0.1 | 0.8 | 56.4 | 15.4 | 25.8 |

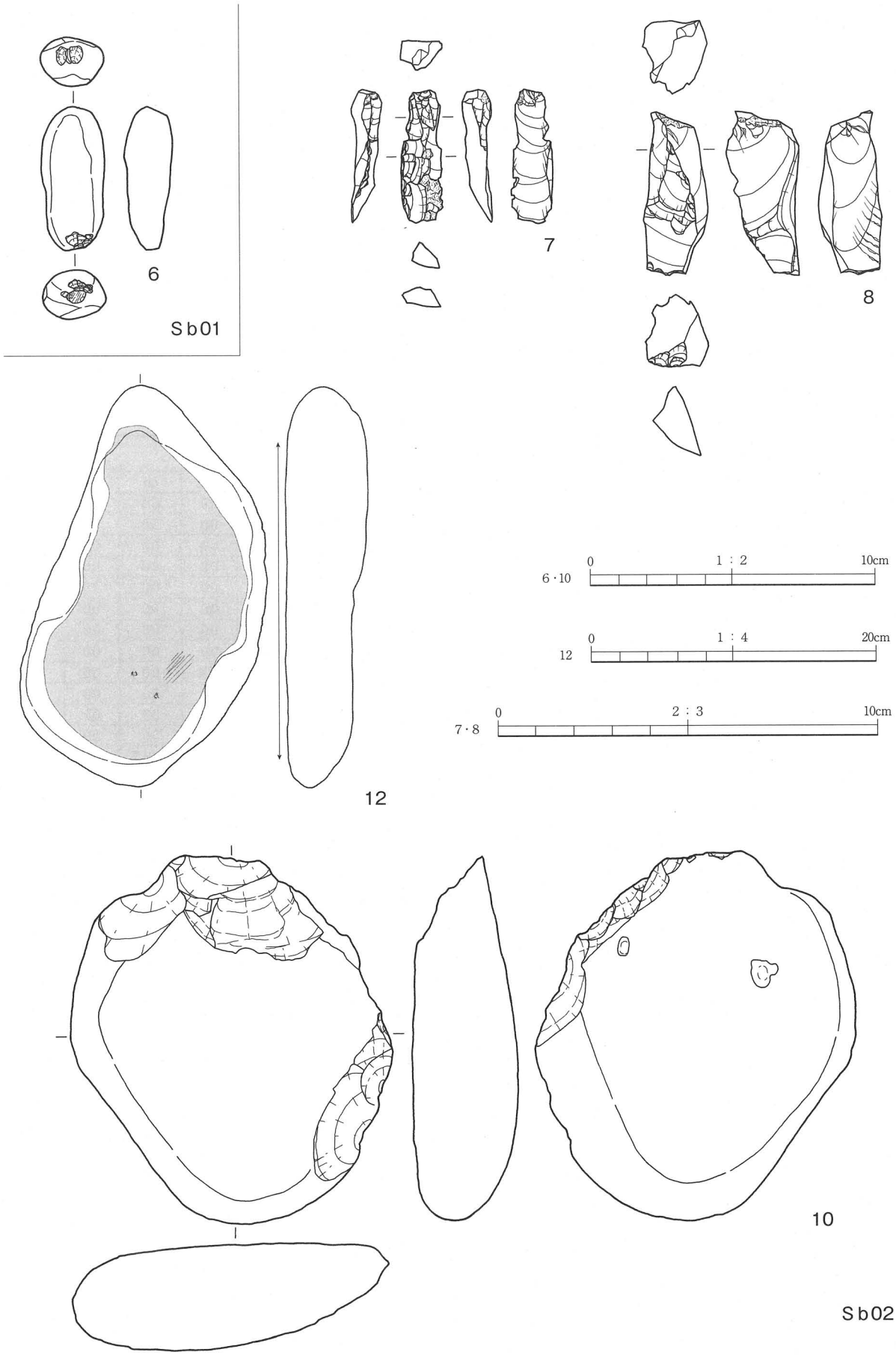
ている。右側縁側は、上半は裏面に、下半は表面に、全体の形状を整える調整を施している。11は掌に収まるサイズの河原石を利用した砂岩製の磨石である。使用面は表裏２面である。12は大形で扁平な河原石を利用した砂岩製の台石である。13は人頭大のブロック状の河原石を利用した閃緑岩製の台石である。12・13の使用面は１面である。

Ｓｂ03（第20図、写真図版５）

［規模と形状］Ｄ区中央、Ａ25グリッド付近に位置する。分布範囲は長辺2.6m、短辺1.0mで三日月状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向とほぼ並行しており、東側に約62度傾いている。遺物の標高は60.626～60.934mの範囲である。地形の傾斜方向と並行して分布しているため、分布幅が約30cmと広い。出土層位はⅦｄ層である。

［石器器種組成］ナイフ形石器１点、楔形石器１点、ＲＦ１点、ＵＦ１点、剥片３点、礫器１点、台石１点、砥石１点の合計10点で構成される。

［石器石材］頁岩Ａ１点、頁岩Ｃ３点、頁岩Ｄ２点、頁岩Ｅ１点、安山岩・デイサイト・蛇紋岩各１点で構成される。多様な石材を利用しているが、本文化層の特徴である頁岩Ｃ・Ｄの占める割合が高

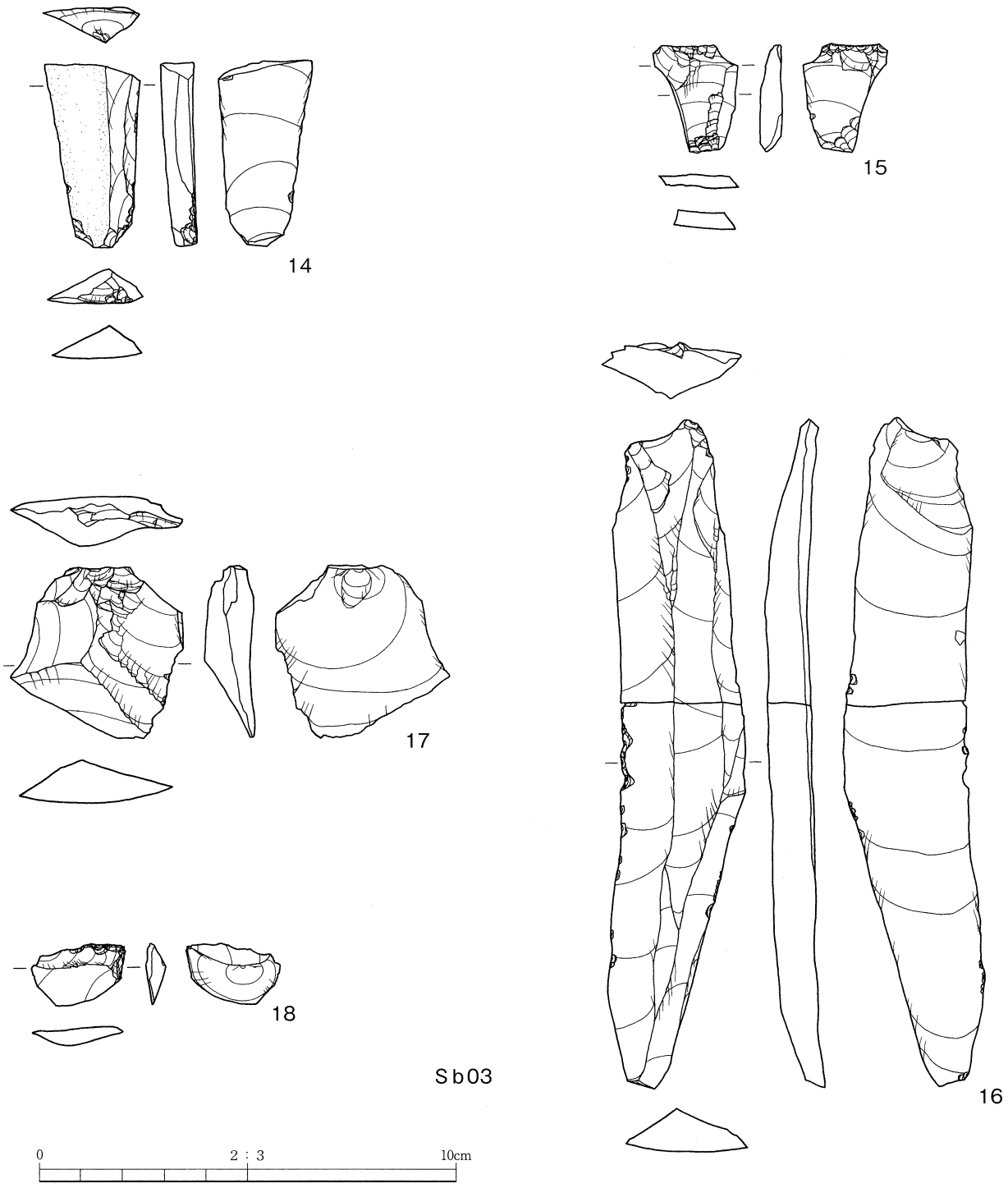



第21図　第Ⅰ文化層の遺物（1）

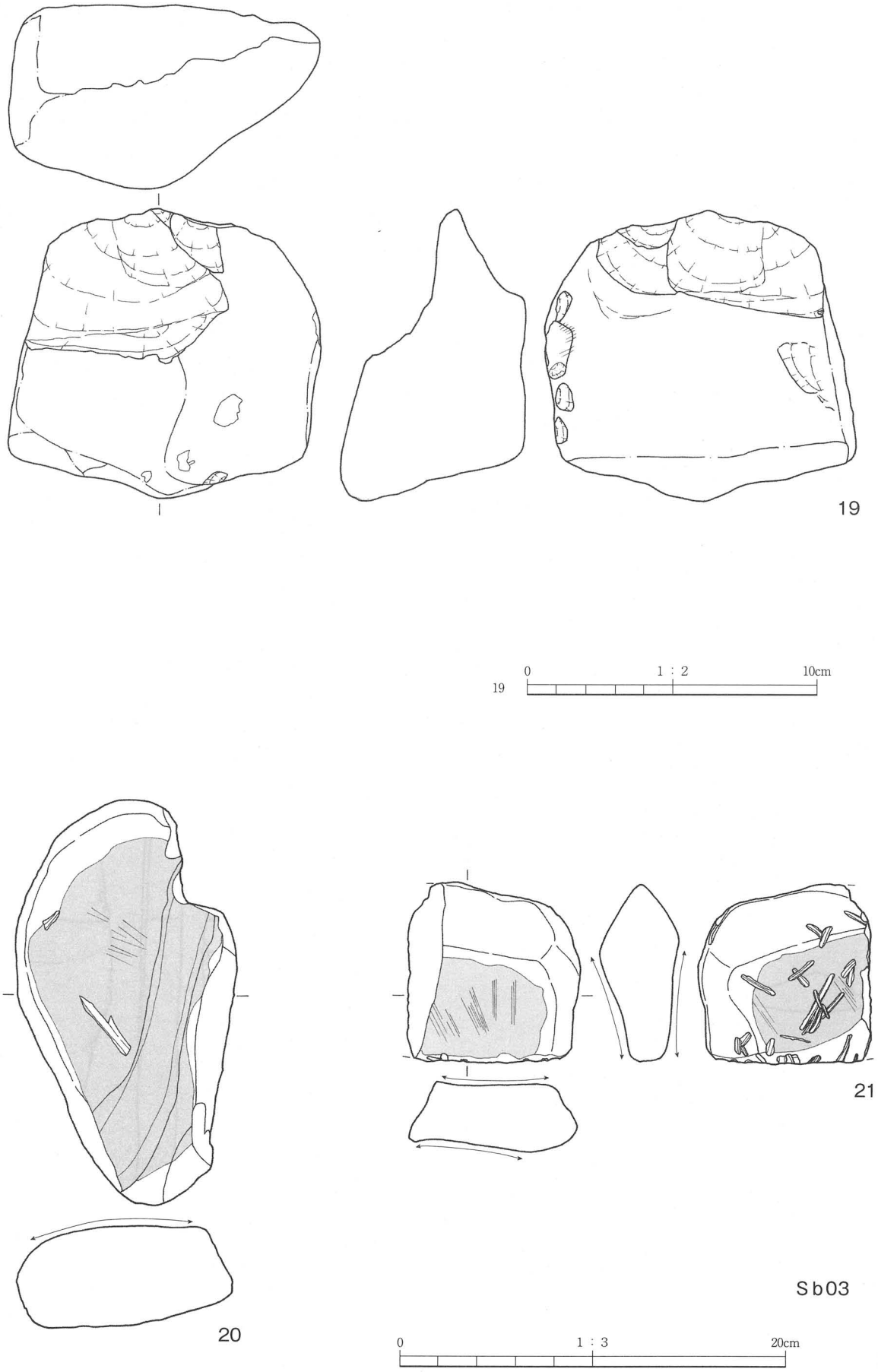
くなっている。石材別総重量は、第８表のとおりで、安山岩の占める割合が高い。

［出土遺物］（第22・23図、写真図版18）

ナイフ形石器１点、楔形石器１点、ＲＦ１点、ＵＦ１点、剥片１点、礫器１点、台石１点、砥石１点を図化した。14は上半部を欠損したナイフ形石器である。バルブを除去するように、素材剥片の頭部側を背面側から切断した後、素材剥片の左側縁背面側に急斜度な二次加工を施している。実測図右側縁には刃こぼれと考えられる微細剥離痕が断続的に観察される。15は頁岩製の楔形石器である。相対する剥離は両端の縁辺部にとどまる。両極技法による衝撃によって、大きく欠損している。16は左




第22図　第Ⅰ文化層の遺物（２）




第23図　第Ⅰ文化層の遺物（3）

側縁の中央部に断続的な調整痕が観察される大形の石刃である。２点が接合したもので、いずれの面も背面側からの欠損である。腹面の両側縁にも断続的な微細剥離痕が観察される。背面の剥離構成を観察すると、両設打面石核から剥離されたものであることがわかる。17は不定形な剥片の右側縁の一部に微細な剥離痕が観察される。18は貝殻状を呈する剥片である。背面の上端の一部に微細な剥離痕が観察され、何らかのトゥールから剥離された剥片の可能性が高い。19は蛇紋岩製の礫器である。方形状の河原石を利用し、両面に粗い二次加工を施して刃部を作出している。裏面の右側縁寄りの一部に線状痕が観察される。20は安山岩製の台石である。細長く、持ち運びが容易な大きさの河原石を利用している。使用面は１面である。21はデイサイト製の砥石である。欠損しているため、全体の形状は不明であるが、長方形の河原石を利用したものと考えられる。使用面は２面で、裏面には溝状の使用痕が観察される。

### （４）第Ⅰ文化層のブロック外出土遺物（第24～27図、写真図版18～20）

**掻器**（22・23）　22は縦長剥片素材で、上半部を欠損している。素材剥片を正位に用い、端部背面の縁辺部及び腹面に二次加工を施して刃部を作出している。両側縁にも微細な剥離痕が観察される。23は石刃素材で、上半部を欠損している。素材剥片を正位に用い、端部背面に二次加工を施して刃部を作出している。腹面に、背面右側縁を打面とした剥離面が連続して観察でき、小形不定形剥片を目的とした石核に転用している可能性が考えられる。

**掻削器**（24～26）　３点とも石刃素材で、24は正位、25・26は倒位に素材剥片を用いている。端部と両側縁背面のほぼ全縁に二次加工が施されている。24は頭部調整と打面調整が行われ、打面との稜は摩耗している。25は上端を除く縁辺部に使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察される。刃部の上面観はカーブのきつい弧状を呈する。26は奥羽山脈系の良質な頁岩を利用したものである。ほぼ全周に微細な剥離痕が観察される。端部の刃部は尖頭状を呈している。

**削器**（27）　大形の縦長剥片を素材としている。両側縁とも微細な剥離痕が観察され、特に、右側縁は顕著である。打面から左側縁上部の一部を欠損しているため、打面の形状は不明である。

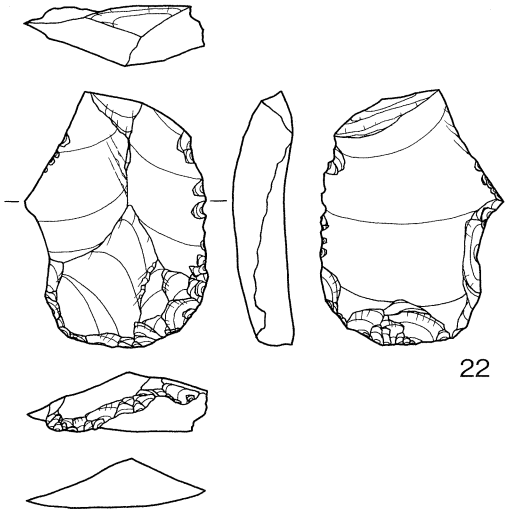
**ＲＦ**（28～31）　28は下半部を大きく欠損している。右側縁背面側に連続的な二次加工が施されている。打面側は折損後、細かな二次加工が施され、左側面側に１回の調整を施している。彫器の調整に類似しており、彫器の可能性が考えられる。29は素材剥片の打面側を折損後、細かな二次加工を施している。両側縁には連続する微細な剥離痕が観察される。30・31は石刃の頭部のみの資料である。30は左側縁背面に二次加工が施されている。調整部位には微細な剥離痕が観察される。31は左側縁と右側縁の一部に二次加工が施されている。右側縁には微細な剥離痕が観察される。

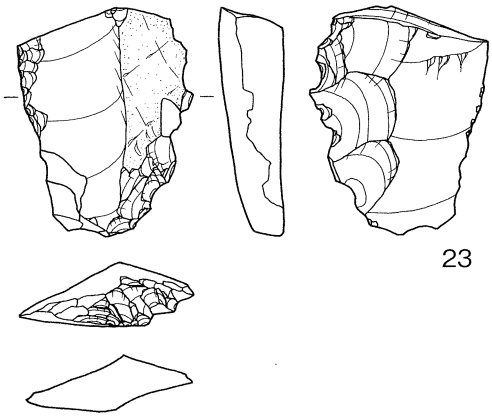
**ＵＦ**（32）　単剥離面打面の石刃で、左側縁端部に微細な剥離痕が観察される。頭部調整は施されるがごく一部にとどまる。背面は剥離方向と同一方向のみの剥離面で構成される。

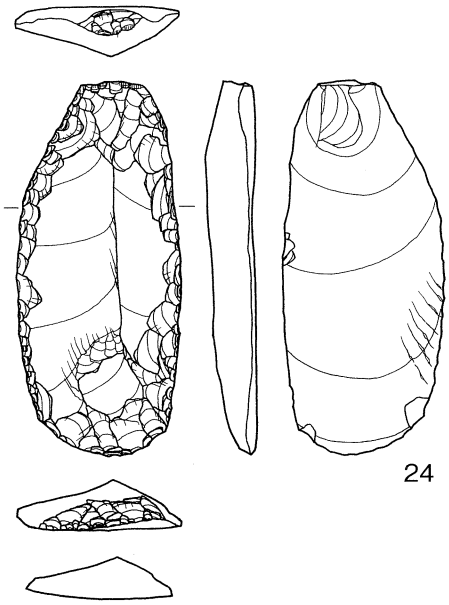
**石刃**（33～36）　いずれの資料も背面は剥離方向と同一方向で構成されている。33は、打面調整が行われるものの、明瞭な頭部調整は行われず、最大幅はほぼ打面幅に相当している。端部を欠損している。34は頭部調整が行われ、頭部の上面観が山状を呈している。35・36はほぼ完形の石刃である。単剥離面打面で、最大幅は打面付近に位置する。

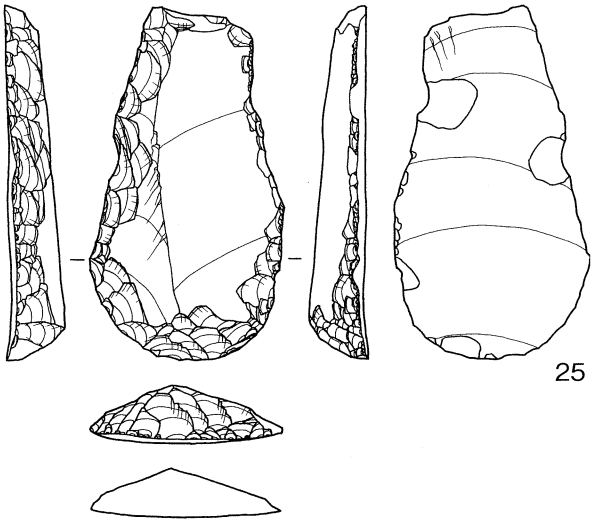
**剥片類**（37～40）　37・38は縦長剥片である。単剥離面打面で、打面幅は最大幅と比較すると、かなり小さい。39・40は不定形の剥片である。39は一部のみで、詳細は不明である。40の左側面の一部には背面を打面とする剥離面が残存しており、打面調整もしくは、打面再生剥片の可能性がある。

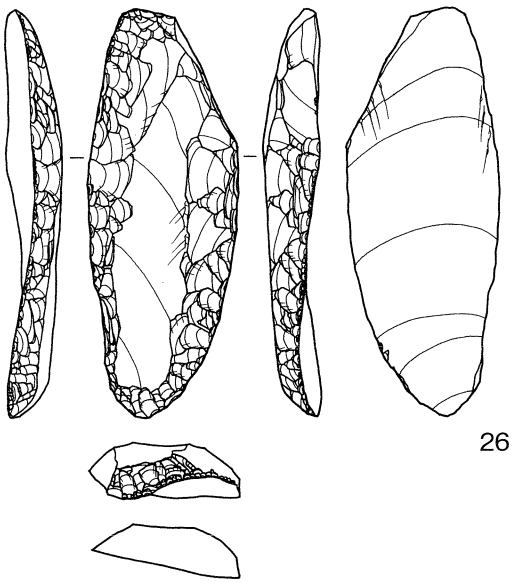
**斧形石器**（41）　北上山地産の頁岩製の斧形を呈する石器である。河原石を数個に分割し、扁平な剥

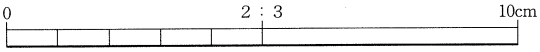


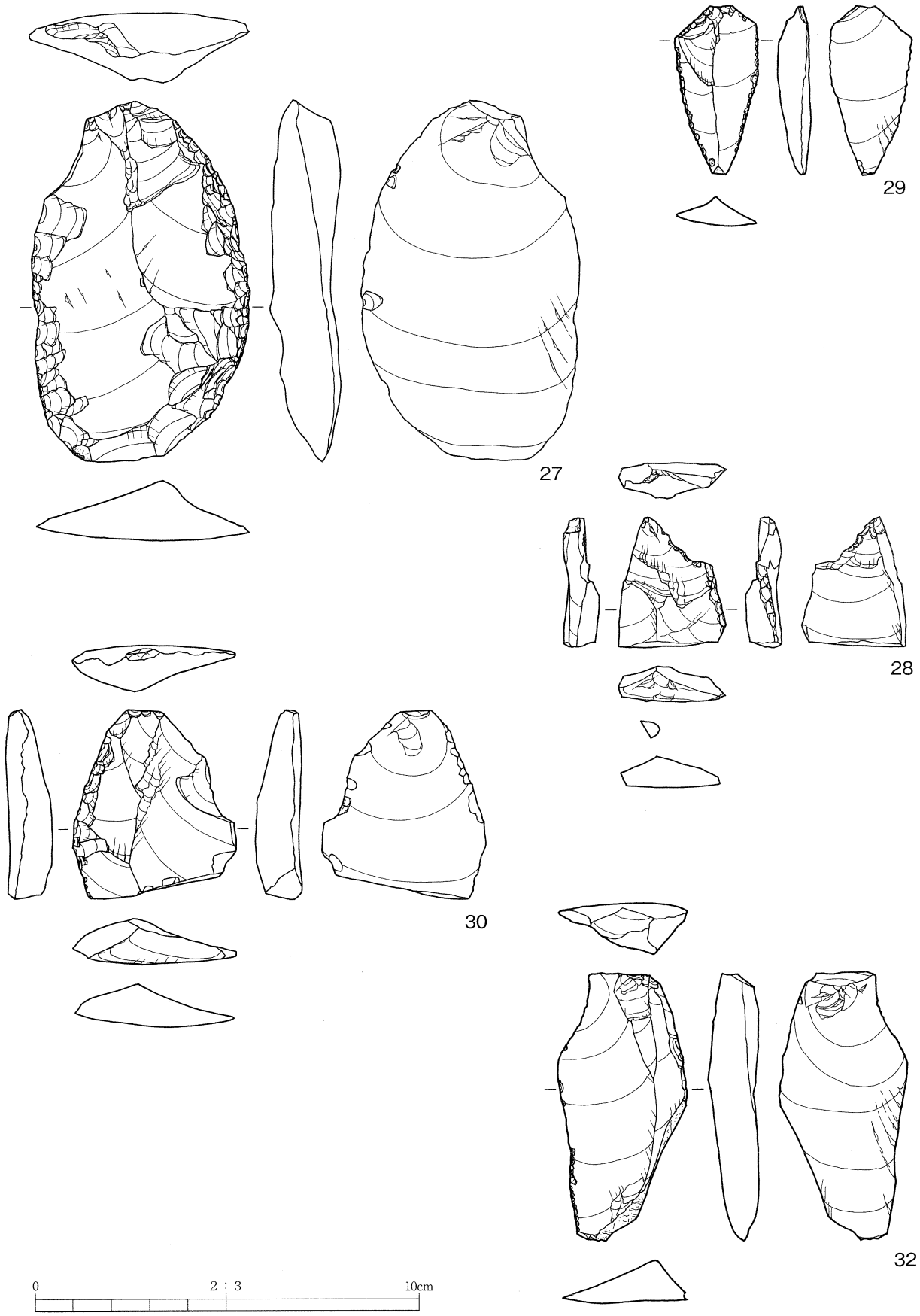



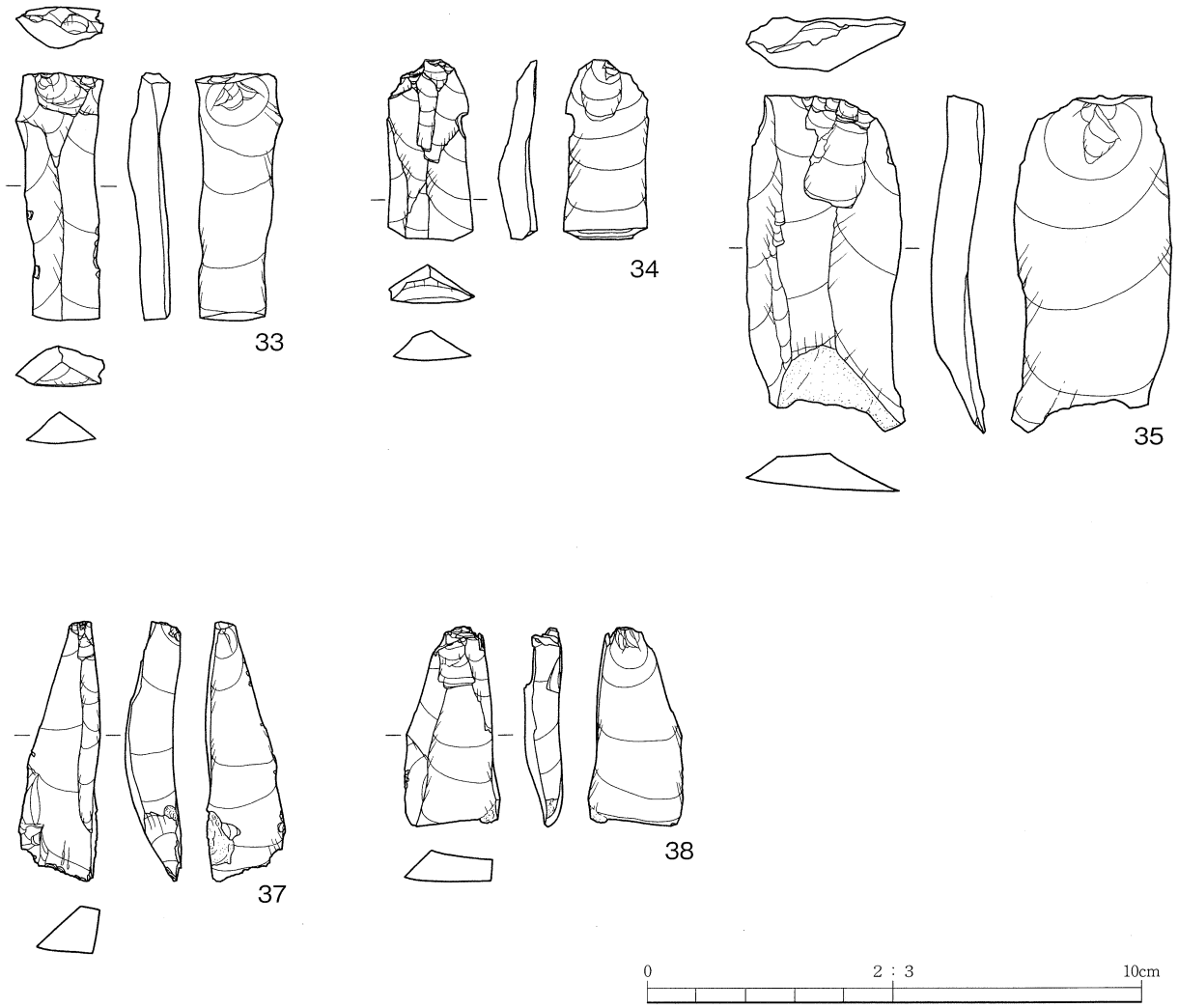




第24図　第Ⅰ文化層の遺物（4）




第25図　第Ⅰ文化層の遺物（5）




第26図　第Ⅰ文化層の遺物（6）

## 第９表　石器計測表（第Ⅰ文化層）

| 掲載No | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 5.06 | 2.18 | 1.72 | | | 22.28 |
| 7 | 3.54 | 1.10 | 0.78 | 99 | | 2.35 |
| 8 | 4.35 | 1.67 | 1.89 | 116 | 76 | 9.70 |
| 9 | 2.36 | 2.70 | 0.71 | 114 | | 3.77 |
| 10 | 12.96 | 11.30 | 3.82 | | 56 | 660.30 |
| 11 | 10.90 | 11.04 | 3.14 | | | 464.50 |
| 12 | 28.35 | 17.40 | 5.85 | | | 3060.00 |
| 13 | 19.45 | 14.73 | 8.62 | | | 3820.00 |
| 14 | (4.44) | (2.29) | (0.82) | | | 7.49 |
| 15 | (2.59) | (2.02) | (0.56) | | | 2.65 |
| 16 | 16.05 | 3.35 | 1.34 | | | 19.66 |
| 17 | 4.12 | (4.17) | 1.19 | 101 | | 14.36 |
| 18 | 1.42 | 2.25 | 0.44 | 127 | | 1.05 |
| 19 | 10.33 | 10.87 | 6.41 | | 64 | 728.10 |
| 20 | 21.05 | 11.45 | 5.30 | | | 1594.70 |
| 21 | (9.38) | (8.99) | (4.28) | | | 434.70 |
| 22 | (5.04) | (3.55) | (1.19) | | 75 | 16.30 |
| 23 | (4.52) | (3.45) | (1.27) | | 83 | 15.40 |
| 24 | 7.39 | 3.21 | 0.96 | 111 | 70・43 | 22.94 |
| 25 | (6.99) | 3.80 | 1.15 | | 70・62 | 27.92 |
| 26 | 8.08 | 2.97 | 1.11 | | 66・55 | 24.14 |
| 27 | 9.51 | (5.70) | 1.82 | 112 | 35 | 86.33 |
| 28 | (3.41) | (2.74) | (0.92) | | | 7.08 |
| 29 | (4.95) | (4.28) | (1.20) | | | 21.60 |
| 30 | (4.45) | (2.16) | (0.81) | | | 6.16 |
| 31 | (2.87) | (2.61) | (1.03) | 101 | | 7.20 |
| 32 | 7.05 | 3.33 | 1.31 | 110 | | 25.05 |
| 33 | (5.09) | 1.78 | (0.84) | 112 | | 5.76 |
| 34 | (3.71) | (1.72) | (0.78) | | | 3.74 |
| 35 | (6.89) | (3.21) | (1.11) | 106 | | 18.81 |
| 36 | 6.85 | 3.60 | 1.15 | | | 17.77 |
| 37 | 5.28 | 1.56 | 1.17 | 107 | | 7.05 |
| 38 | 4.06 | 1.90 | 0.74 | 102 | | 6.06 |
| 39 | (1.72) | (1.66) | (0.74) | | | 2.03 |
| 40 | 2.71 | 3.00 | 0.90 | 107 | | 4.55 |
| 41 | 16.16 | 4.85 | 1.82 | | | 141.57 |
| 42 | 12.16 | 7.50 | 6.38 | | | 726.50 |
| 43 | 11.90 | 11.30 | 6.70 | | | 936.80 |
| 44 | 25.28 | 18.27 | 10.03 | | | 3200.00 |
| 45 | 22.08 | 14.56 | 7.08 | | | 3400.00 |

【刃部角】数字が２つの場合は前が端部・後ろが側縁部の角度

片を利用している。一端の両面側に二次加工を施して、片刃状に仕上げている。研摩痕などは確認できない。

**敲石**（42）　掌に収まるほどの大きさの河原石を利用した砂岩製の敲石である。一端に敲打に伴う剥離痕が観察される。

第27図　第Ⅰ文化層の遺物（7）

**台石**（43～45）　43は掌よりやや大きい大きさの河原石を利用した凝灰岩製の台石である。44・45は大形の河原石を利用した砂岩製の台石である。使用面は１面である。

## （5）接　合　資　料

**接合資料１**（写真図版19）　37と38が接合したもので、第Ⅰ文化層唯一の接合資料である。剥片素材の石核の同一打面上から剥離されている。37の背面にも同一打面上からの剥離と考えられる痕跡が確

**第10表　石器観察表（第Ⅰ文化層）**

| 掲載No | 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 分類 | 備考 | 図版No. | 写図No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 572 | ＨＳ | Ｃ 22 | Ⅶ Ｄ層 | 1 | tuf | | Ⅱ | | 21 | 17 |
| 7 | 537 | ＧＲＳ | Ａ 19 | Ⅶ ｃ 層 | 2 | sh | Ｄａ | | | 21 | 17 |
| 8 | 532 | ＥＳ | Ａ 18 | Ⅶ ｃ 層 | 2 | sh | Ｄａ | Ⅰ | | 21 | 17 |
| 9 | 536 | Ｆ | Ａ 19 | Ⅶ ｃ 層 | 2 | sh | Ｃａ | Ｓ | | － | 17 |
| 10 | 538 | ＰＴ | Ａ 24 | Ⅶ ｃ 層 | 2 | an | | | | 21 | 17 |
| 11 | 533 | ＧＳ | Ａ 18 | Ⅶ ｃ 層 | 2 | san | | Ⅰ | 立位 | － | 17 |
| 12 | 583 | ＡＳ | Ａ 18 | Ⅶ ｃ 層 | 2 | san | | Ⅰ | | 21 | 17 |
| 13 | 535 | ＡＳ | Ａ 19 | Ⅶ ｃ 層 | 2 | dio | | Ⅰ | | － | 18 |
| 14 | 557 | ＫＮ | Ａ 25 | Ⅶ ｄ 層 | 3 | sh | Ｃａ | | | 22 | 18 |
| 15 | 561 | ＰＡ | Ａ 25 | Ⅶ ｄ 層 | 3 | sh | Ｄａ | | | 22 | 18 |
| 16 | 558 | ＲＦ | Ａ 25 | Ⅶ ｄ 層 | 3 | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 22 | 18 |
| | 539 | | Ａ 23 | Ⅶ ｃ 層 | | | | | | | |
| 17 | 559 | ＵＦ | Ａ 25 | Ⅶ ｄ 層 | 3 | sh | Ｃａ | | | 22 | 18 |
| 18 | 555 | Ｆ | Ａ 25 | Ⅶ ｄ 層 | 3 | sh | Ｄａ | Ｓ | | 22 | 18 |
| 19 | 550 | ＰＴ | Ｃ 21 | Ⅶ ｄ 層 | 3 | serp | | Ⅱ | | 23 | 18 |
| 20 | 554 | ＡＳ | Ａ 25 | Ⅶ ｄ 層 | 3 | an | | Ⅰ | | 23 | 18 |
| 21 | 552 | ＷＳ | Ｃ 16 | Ⅶ ｄ 層 | 3 | dac | | Ⅲ | | 23 | 18 |
| 22 | 544 | ＥＳ | Ｄ 1 | Ⅶ Ｄ層 | | sh | Ｄａ | Ⅱ | 立位 | 24 | 18 |
| 23 | | ＥＳ | 凸区 | Ⅲ ｂ 層 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | 石核に転用か | 24 | 18 |
| 24 | | ＥＳＳ | ＳＤ 02 | １層 | | sh | Ｃａ | Ⅲ | | 24 | 18 |
| 25 | | ＥＳＳ | 凸区 | Ⅲ ｃ 層 | | sh | Ａａ | Ⅲ | | 24 | 18 |
| 26 | | ＥＳＳ | ＳＤ 03 | 埋下 | | sh | Ｄａ | Ⅲ | | 24 | 19 |
| 27 | | ＳＳ | ＳＤ 02 | ６層 | | sh | Ｄａ | Ⅱ | | 25 | 19 |
| 28 | | ＲＦ | Ｄ区 | Ⅳ層 | | sh | Ａａ | Ⅲ | | 25 | 19 |
| 29 | | ＲＦ | ＳＤ 02 | ２層 | | sh | Ｄａ | Ⅰ | 両側縁に微細剥離痕 | 25 | 19 |
| 30 | | ＲＦ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 25 | 19 |
| 31 | | ＲＦ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ａａ | Ⅱ | | － | 19 |
| 32 | | ＵＦ | ＣＤ | Ⅴ層上 | | sh | Ｄａ | | | 25 | 19 |
| 33 | 567 | ＢＬ | Ｃ 16 | Ⅶ Ｄ層 | | sh | Ｃａ | | | 26 | 19 |
| 34 | 543 | ＢＬ | Ｄ 1 | Ⅶ Ｄ層 | | sh | Ｃａ | | | 26 | 19 |
| 35 | 531 | ＢＬ | Ａ 17 | Ⅶ ｃ 層 | | sh | Ｅａ | | | 26 | 19 |
| 36 | | ＢＬ | Ｄ区 | Ⅳ層 | | sh | Ｅａ | | | － | 19 |
| 37 | 562 | ＢＬＦ | Ａ 19 | Ⅶ ｄ 層 | | sh | Ｄａ | | 接合資料１ | 26 | 19 |
| 38 | | ＢＬＦ | Ｂ 4 | Ⅵ層 | | sh | Ｄａ | | 接合資料１ | 26 | 19 |
| 39 | 530 | Ｆ | Ａ 17 | Ⅶ ｃ 層 | | sh | Ｃａ | | | － | 19 |
| 40 | | Ｆ | Ｃ 21 | Ⅶ ｄ 層 | | sh | Ｃａ | | | － | 19 |
| 41 | 563 | ＡＸ | Ｂ 4 | Ⅶ Ｄ層 | | sh | | | 北上山地産頁岩 | 27 | 19 |
| 42 | 564 | ＨＳ | Ｂ 4 | Ⅶ Ｄ層 | | san | | Ⅰ | | 27 | 19 |
| 43 | 586 | ＡＳ | Ａ 19 | Ⅶ ｄ 層 | | tuf | | Ⅰ | | 27 | 19 |
| | 587 | | Ａ 19 | Ⅶ ｄ 層 | | | | | | | |
| 44 | 541 | ＡＳ | Ａ 23 | Ⅶ ｃ 層 | | san | | Ⅰ | | － | 20 |
| 45 | 540 | ＡＳ | Ａ 23 | Ⅶ ｃ 層 | | san | | Ⅰ | | － | 20 |

【石材】an：安山岩、dac：デイサイト、dio：閃緑岩、san：砂岩、serp：蛇紋岩、sh：頁岩、tuf：凝灰岩
【出土層位】埋下：埋土下位、Ⅴ層上：Ⅴ層上面

**第11表　表掲載石器観察表（第Ⅰ文化層１）**

| 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 358 | Ｃ | Ｅ 22 | Ⅶ Ｄ層 | | sh | Ｃａ | | | | | | 0.09 | | |
| 359 | Ｃ | Ｅ 22 | Ⅶ Ｄ層 | | sh | Ｃａ | | | | | | 0.06 | | |
| 522 | Ｃ | Ｄ 4 | Ⅶ Ｄ層 | | sh | Ｃａ | | | | | | 0.03 | | |
| 534 | ＡＳ | Ａ 18 | Ⅶ ｃ 層 | 2 | dac | | 20.78 | (11.45) | (8.97) | | | 2295.00 | Ⅰ | |
| 549 | Ｆ | Ｃ 21 | Ⅶ ｄ 層 | | sh | Ｃａ | 4.85 | 5.78 | 2.11 | 72 | | 43.36 | | 節理割れ |

第11表　表掲載石器観察表（第Ⅰ文化層２）

| 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 551 | F | C 21 | Ⅶd層 | 3 | sh | E a | (2.77) | (4.28) | (2.04) | | | 22.41 | | |
| 553 | P B | A 25 | Ⅶd層 | | tuf | | 14.83 | 6.91 | 4.10 | | | 519.80 | | |
| 556 | P B | A 25 | Ⅶd層 | | sh | | 5.95 | 2.85 | 2.03 | | | 34.60 | | 北上山地系頁岩 |
| 560 | F | A 25 | Ⅶd層 | 3 | sh | A a | (1.50) | (1.93) | (0.82) | | | 1.48 | | |
| 565 | F | B 4 | ⅦD層 | | sh | C a | (2.80) | 1.24 | 0.49 | | | 0.95 | | |
| 566 | F | B 4 | ⅦD層 | | sh | A a | (1.75) | (2.91) | (0.39) | | | 1.16 | | はじけ |
| 568 | C | C 17 | ⅦD層 | 1 | sh | C a | 0.95 | 1.40 | 0.33 | 114 | | 0.38 | | |
| 569 | F | C 22 | ⅦD層 | 1 | sh | B a | (2.27) | 1.45 | 0.66 | | | 1.30 | | |
| 570 | F | C 22 | ⅦD層 | 1 | sh | C a | 1.15 | (1.64) | 0.27 | 95 | | 0.43 | | |
| 571 | C | C 22 | ⅦD層 | 1 | sh | A a | | | | | | 0.11 | | |
| 573 | C | C 23 | ⅦD層 | | sh | C a | | | | | | 0.04 | | |
| 574 | F | C 24 | ⅦD層 | | sh | C a | 1.17 | (1.94) | (0.29) | | | 0.51 | | |
| 575 | C | A 22 | ⅦD層 | | sh | A a | (0.74) | (0.76) | (0.09) | | | 0.05 | | |
| 576 | P B | A 22 | ⅦD層 | | san | | 6.77 | 6.15 | 3.22 | | | 172.20 | | |
| 577 | C | A 22 | ⅦD層 | | sh | C a | (0.69) | (1.01) | (0.37) | | | 0.13 | | |
| 578 | P B | A 22 | ⅦD層 | | dio | | 15.02 | 6.88 | 3.80 | | | 376.50 | | 断面三角形 |
| 579 | － | A 22 | ⅦD層 | | dio | | | | | | | 493.80 | | 578と接合 |
| 580 | F | A 16 | ⅦD層 | | sh | D a | 1.69 | 1.64 | 0.32 | 101 | | 0.51 | | |
| 581 | C | E 21 | ⅦD層 | | sh | C a | | | | | | 0.12 | | |
| 584 | A S | A 23 | Ⅶd層 | | tuf | | (3.29) | (11.27) | (5.51) | | | 161.20 | Ⅰ | |
| 585 | A S | A 19 | Ⅶd層 | | tuf | | 14.85 | 12.73 | 7.70 | | | 1743.40 | Ⅰ | |
| 588 | P B | A 19 | Ⅶd層 | | an | | 14.62 | 6.74 | 2.66 | | | 269.50 | | |

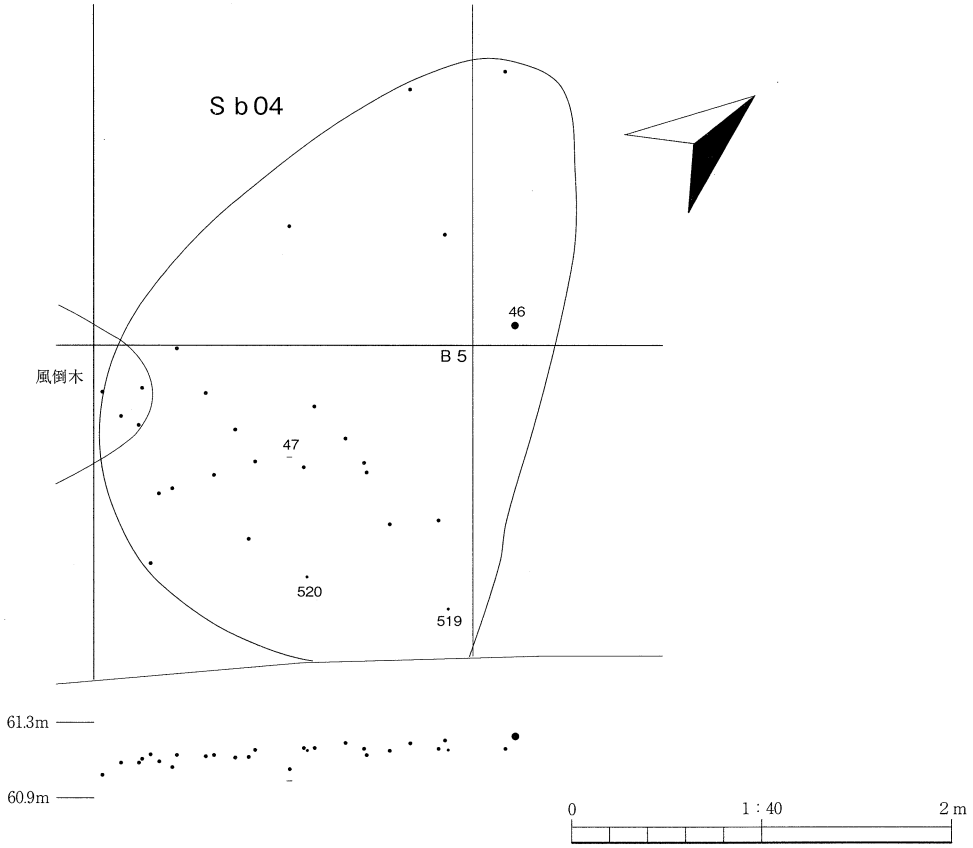
【石材】an：安山岩、dac：デイサイト、dio：閃緑岩、san：砂岩、sh：頁岩、tuf：凝灰岩

認でき、少なくとも、３点の剥片が剥離されている。

### （６）第Ⅱ文化層のブロック

Ｓｂ04（第28図、写真図版６）

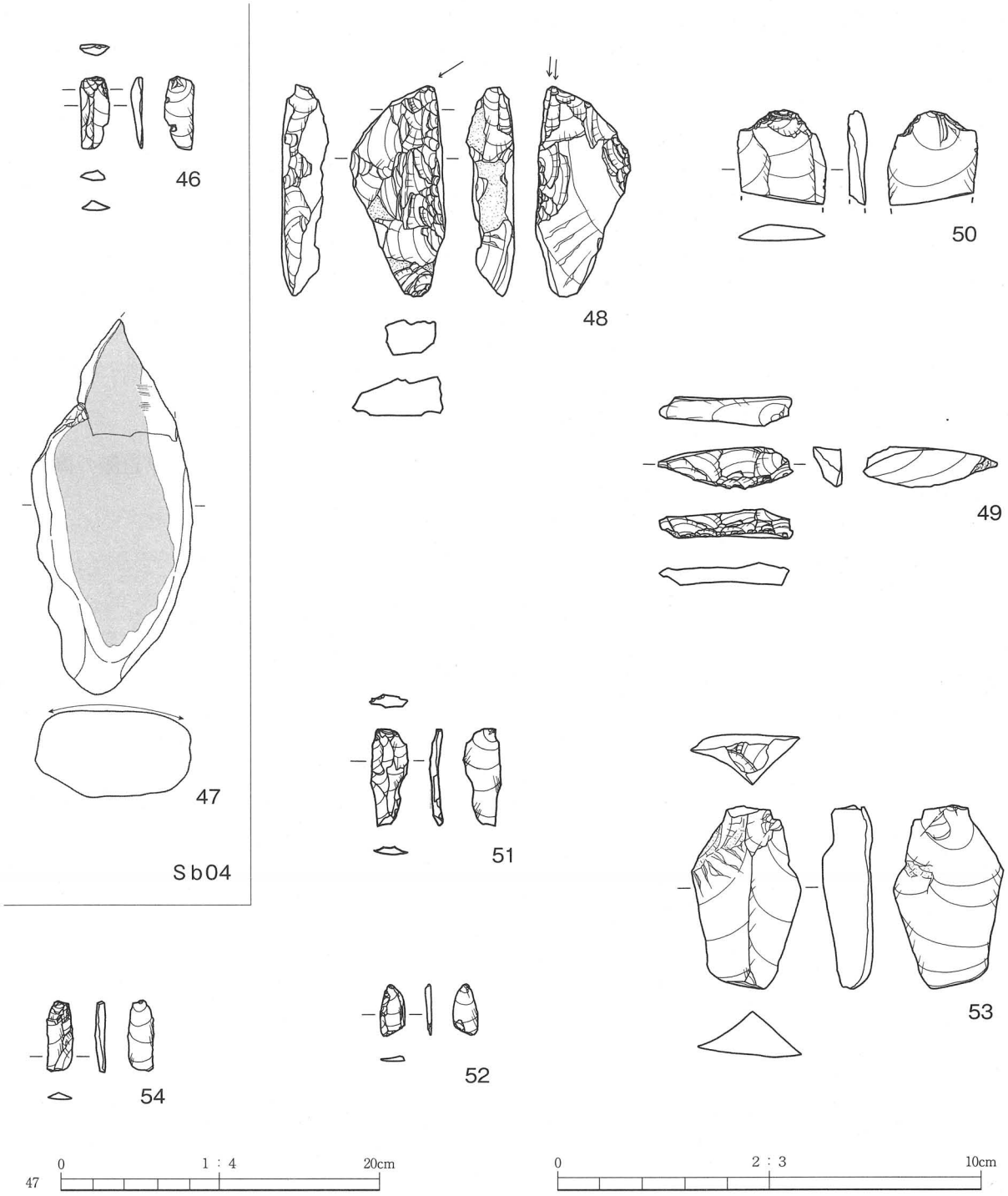
［規模と形状］Ｄ区の中央、A25・Ｃ５グリッド付近に位置する。南東側の一部は、県道際の擁壁構




第28図　Ｓｂ04

**第12表　Ｓｂ04石器組成表**

| 器種 | 点数（点） | 石　材 | | | | | 重量（g） | 石　材 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh A | sh B | sh C | sh D | hor | % | sh A | sh B | sh C | sh D | hor |
| MB | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 0.0 |
| | 3.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| F | 6 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 11.3 | 0.0 | 0.0 | 11.3 | 0.0 | 0.0 |
| | 23.1 | 0.0 | 0.0 | 23.1 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 |
| C | 18 | 5 | 1 | 1 | 11 | 0 | 1.3 | 0.5 | 0.1 | 0.1 | 0.6 | 0.0 |
| | 69.2 | 19.2 | 3.8 | 3.8 | 42.3 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| AS | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1599.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1599.8 |
| | 3.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.8 | 99.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 99.2 |
| 合計 | 26 | 5 | 1 | 7 | 12 | 1 | 1612.6 | 0.5 | 0.1 | 11.4 | 0.8 | 1599.8 |
| | 100.0 | 19.2 | 3.8 | 26.9 | 46.2 | 3.8 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.1 | 99.2 |




第29図　第Ⅱ文化層の遺物（1）

築の際に削平をされており、消失している。確認できた分布範囲は長辺3.4m、短辺（2.6）mで楕円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向と直交しており、西側に約17度傾いている。遺物の標高は60.991～61.227mで、約24cmの範囲に収まっている。出土層位はⅦA層である。

［石器器種組成］細石刃１点、剥片６点、砕片18点、台石１点の合計26点で構成される。トゥールが非常に少なく、砕片が主体となっている。この他に炭化物サンプル２点採取したが、１点は重量不足により測定できなかったため、分析可能な個別No519を年代測定試料とした。

［石器石材］頁岩Ａ５点、頁岩Ｂ１点、頁岩Ｃ７点、頁岩D12点、ホルンフェルス１点で構成される。頁岩類で９割以上を占め、その中でも、頁岩Ｄの割合が高い。石材別総重量は第12表のとおりで、点数比と逆転して、ホルンフェルスが99％を占めている。

［出土遺物］（第29図、写真図版20）

細石刃１点、台石１点を図化した。46は完形の細石刃である。打面は点のような単剥離面打面である。右側縁上部に連続的な二次加工が施されている。47は２点が接合したホルンフェルス製の台石である。使用面は片面で、器長に直交する線状痕が観察される。

### （７）第Ⅱ文化層のブロック外出土遺物（第29･30図、写真図版20）

**彫器**（48）　不定形の剥片を素材としている。素材剥片端部に残置する節理面を打面として、打面側へ１条の樋状剥離を施している。その後、その面を打面として、実測図右側面から裏面側に２条の樋状剥離を施している。樋状剥離と前後する、節理面を打面とした剥離面が観察される。

**掻器**（49）　背面側からの加撃によって折損した刃部のみの断片的な資料である。刃部の調整は背面側のみに行われる。

**ＲＦ**（50）　下半部を背面側からの加撃によって欠損している。右側縁腹面側の一部に二次加工が施されている。両側縁には微細な剥離痕が観察される。

**細石刃**（51・52）　51は良質な頁岩製の細石刃で、端部に観察されるいわゆる「ガジリ」痕以外の欠損部は見られない。打面は線状に細くなっている。52はタテ方向に欠損した細石刃の一部である。

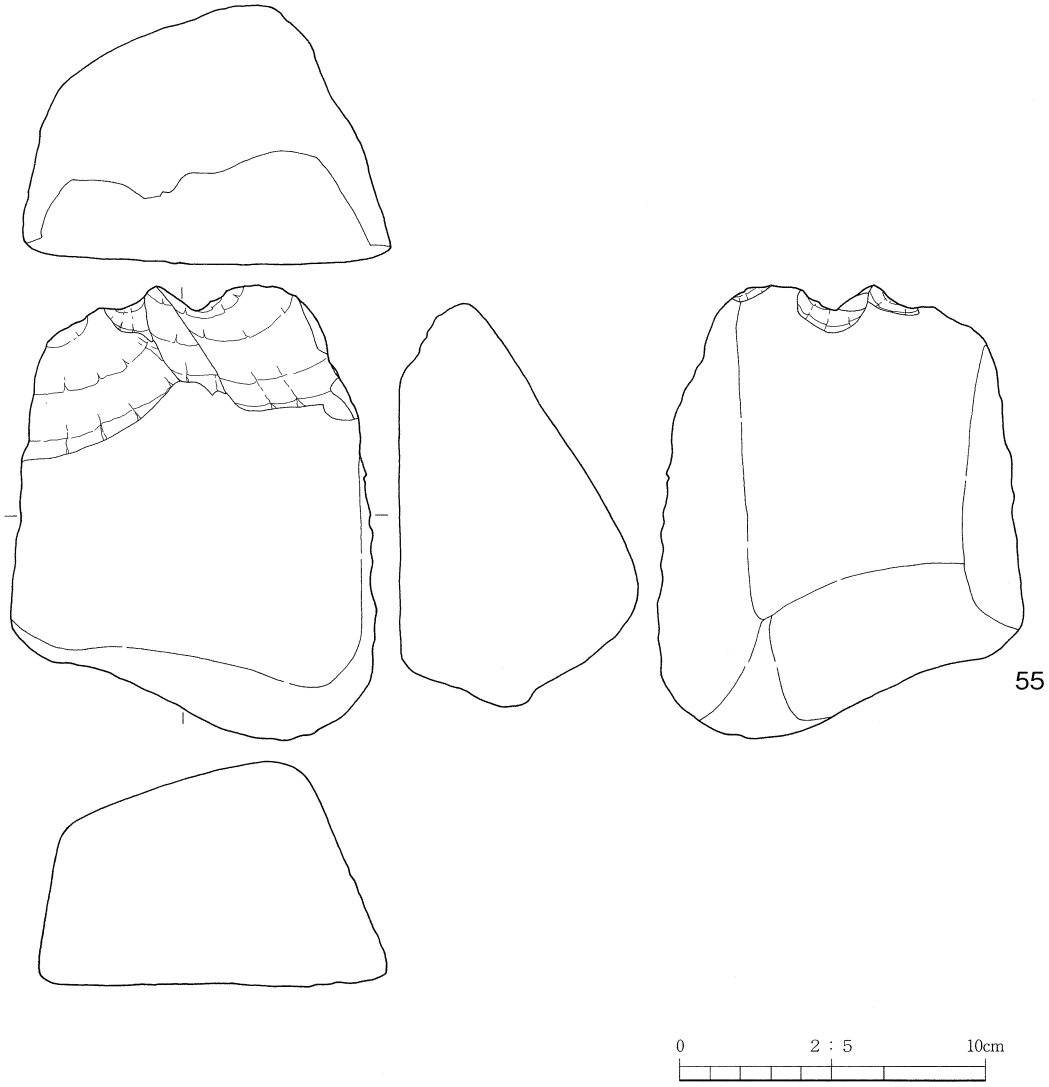
**剥片類**（53・54）　53・54とも二次加工や微細剥離痕の観察されない縦長剥片である。53の背面は剥離方向と同一方向の剥離面で構成され、54の背面は端部に直交もしくは対向する剥離面が観察される。

**礫器**（55）　ブロック状の河原石を利用したデイサイト製の礫器である。一端の片面に粗い二次加工を施して刃部を作出している。刃部裏面には刃こぼれ状の剥離面が観察される。

**第13表　石器観察表（第Ⅱ文化層）**

| 掲載No | 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 分類 | 備考 | 図版No. | 写図No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 46 | 497 | ＭＢ | Ａ 24 | ⅦＡ層 | 4 | sh | Ｄａ | | 調整痕あり | 29 | 20 |
| 47 | 545 | ＡＳ | Ｂ５ | ⅦＡ層 | 4 | hor | | Ⅰ | | 29 | 20 |
| | 542 | | Ａ 23 | Ⅶｃ層 | | | | | | | |
| 48 | | ＧＲ | Ｅ区 | Ⅳ層 | | sh | Ｄａ | | 彫刃面３条 | 29 | 20 |
| 49 | 548 | ＥＳ | Ｃ 22 | ⅦＡ層 | | sh | Ｅａ | Ⅰ | | 29 | 20 |
| 50 | 155 | ＲＦ | Ａ 24 | ⅦＡ層 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 29 | 20 |
| 51 | 334 | ＭＢ | Ｃ 18 | Ⅵ層 | | sh | Ｃａ | | | 29 | 20 |
| 52 | | ＭＢ | 凸区 | Ⅵ層 | | sh | Ｄａ | | | 29 | 20 |
| 53 | 495 | ＢＬＦ | Ａ 17 | ⅦＡ層 | | sh | Ａａ | Ⅰ | 立位 | 29 | 20 |
| 54 | 167 | ＢＬＦ | Ｂ５ | Ⅵ層 | | sh | Ｃａ | Ⅲ | 細石刃状 | 29 | 20 |
| 55 | 493 | ＰＴ | Ａ 17 | ⅦＡ層 | | dac | | Ⅰ | | 30 | 20 |

【石材】dac：デイサイト、hor：ホルンフェルス、sh：頁岩




第30図　第Ⅱ文化層の遺物（2）

**第14表　石器計測表（第Ⅱ文化層）**

| 掲載No | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 46 | 1.71 | 0.70 | 0.25 | 129 | | 0.21 |
| 47 | (23.80) | (10.15) | (5.77) | | | 1599.80 |
| 48 | 4.98 | 2.23 | 1.11 | | 62 | 12.33 |
| 49 | (0.96) | (3.14) | (0.68) | | 77 | 1.64 |
| 50 | (2.18) | (2.07) | (0.46) | 106 | | 2.08 |
| 51 | (2.29) | 0.89 | (0.29) | 99 | | 0.37 |
| 52 | (1.20) | (0.58) | (0.16) | | | 0.10 |
| 53 | 4.35 | 2.56 | 1.18 | 95 | | 9.90 |
| 54 | (1.65) | 0.65 | (0.25) | 99 | | 0.15 |
| 55 | 15.20 | 12.05 | 8.70 | | 83 | 1722.10 |

**第15表　表掲載石器観察表（第Ⅱ文化層1）**

| 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 82 | C | 凸区 | ⅦA層 | | sh | Ca | 0.83 | 0.89 | 0.18 | 124 | | 0.08 | | |
| 97 | C | 凸区 | ⅦA層 | | sh | Ca | | | | | | 0.03 | | |
| 106 | C | F4 | ⅦA層 | | sh | Ca | | | | | | 0.07 | | |
| 347 | F | C24 | ⅦA層 | | sh | Ca | (2.10) | (1.96) | (0.19) | 123 | | 0.54 | | |
| 350 | F | D4 | ⅦA層 | | sh | Ca | (1.51) | (1.67) | (0.26) | 113 | | 0.38 | | |
| 417 | PB | C23 | ⅦA層 | | dio | | 13.30 | (6.87) | (3.11) | | | 282.20 | | |
| 494 | C | A17 | ⅦA層 | | sh | Da | (0.83) | (1.16) | (0.19) | 90 | | 0.12 | | 立位 |
| 496 | F | A17 | ⅦA層 | | sh | Fa | (3.42) | (2.20) | (0.97) | 99 | | 4.85 | | |
| 498 | C | A25 | ⅦA層 | 4 | sh | Aa | (1.09) | (1.14) | (0.18) | | | 0.10 | | はじけ |

第15表　表掲載石器観察表（第Ⅱ文化層２）

| 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量 | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 499 | F | A 25 | ⅦA層 | 4 | sh | C a | (2.87) | (3.09) | (1.44) | | | 7.48 | | |
| 500 | C | A 25 | ⅦA層 | 4 | sh | A a | | | | | | 0.08 | | |
| 501 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | A a | (1.40) | (0.81) | (0.28) | | | 0.21 | | 調整痕あり、はじけ |
| 502 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | | | | | | 0.05 | | |
| 503 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | B a | (0.84) | (0.68) | (0.09) | | | 0.06 | | |
| 504 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | | | | | | 0.04 | | |
| 505 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | | | | | | 0.06 | | |
| 506 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | 0.74 | 0.92 | 0.16 | 76 | | 0.11 | | |
| 507 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | A a | (0.95) | (1.01) | (0.18) | 113 | | 0.07 | | |
| 508 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | | - | | | | 0.01 | | |
| 509 | F | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | C a | (2.24) | (2.55) | (0.38) | 136 | | 0.99 | | 立位 |
| 510 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | C a | (1.38) | (0.97) | (0.19) | 124 | | 0.12 | | |
| 511 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | A a | | | | | | 0.04 | | はじけ |
| 512 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | (0.94) | (0.51) | (0.10) | | | 0.07 | | 細石刃状 |
| 513 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | | | | | | 0.04 | | |
| 514 | F | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | C a | (1.84) | (1.91) | (0.47) | | | 0.72 | | |
| 515 | F | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | C a | (1.50) | (2.38) | (0.49) | 123 | | 0.97 | | |
| 516 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | 0.93 | 0.76 | 0.15 | 104 | | 0.02 | | |
| 517 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | | | | | | 0.02 | | はじけ |
| 518 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | (0.95) | (1.15) | (0.22) | 97 | | 0.17 | | |
| 521 | F | A 19 | ⅦA層 | | sh | A a | (2.96) | (3.72) | (0.73) | | | 4.59 | | 石斧の一部？ |
| 523 | F | A 25 | ⅦA層 | 4 | sh | C a | (1.59) | (0.85) | (0.17) | | | 0.13 | | 細石刃状 |
| 524 | C | B 5 | ⅦA層 | 4 | sh | D a | 0.83 | 0.99 | 0.25 | 115 | | 0.05 | | |
| 529 | F | A 24 | ⅦA層 | 4 | sh | C a | (2.25) | (1.59) | (0.68) | | | 1.03 | | はじけ |
| 547 | F | C 23 | ⅦA層 | | sh | C a | (1.51) | (2.10) | (0.41) | 136 | | 0.98 | | |

【石材】dio：閃緑岩、sh：頁岩、hor：ホルンフェルス

## 2　縄　文　時　代

### （1）概　　要

縄文時代に帰属する遺構は土坑１基、ブロック４箇所、出土遺物は縄文土器（貝殻文系土器群を中心とする早期中葉が中心）が中コンテナ１箱、石鏃、尖頭器、掻器、削器、石匙、箆形石器、石斧、磨石、敲石、台石、砥石等の石器が大コンテナ３箱、石刀・石剣類等の石製品が５点出土している。

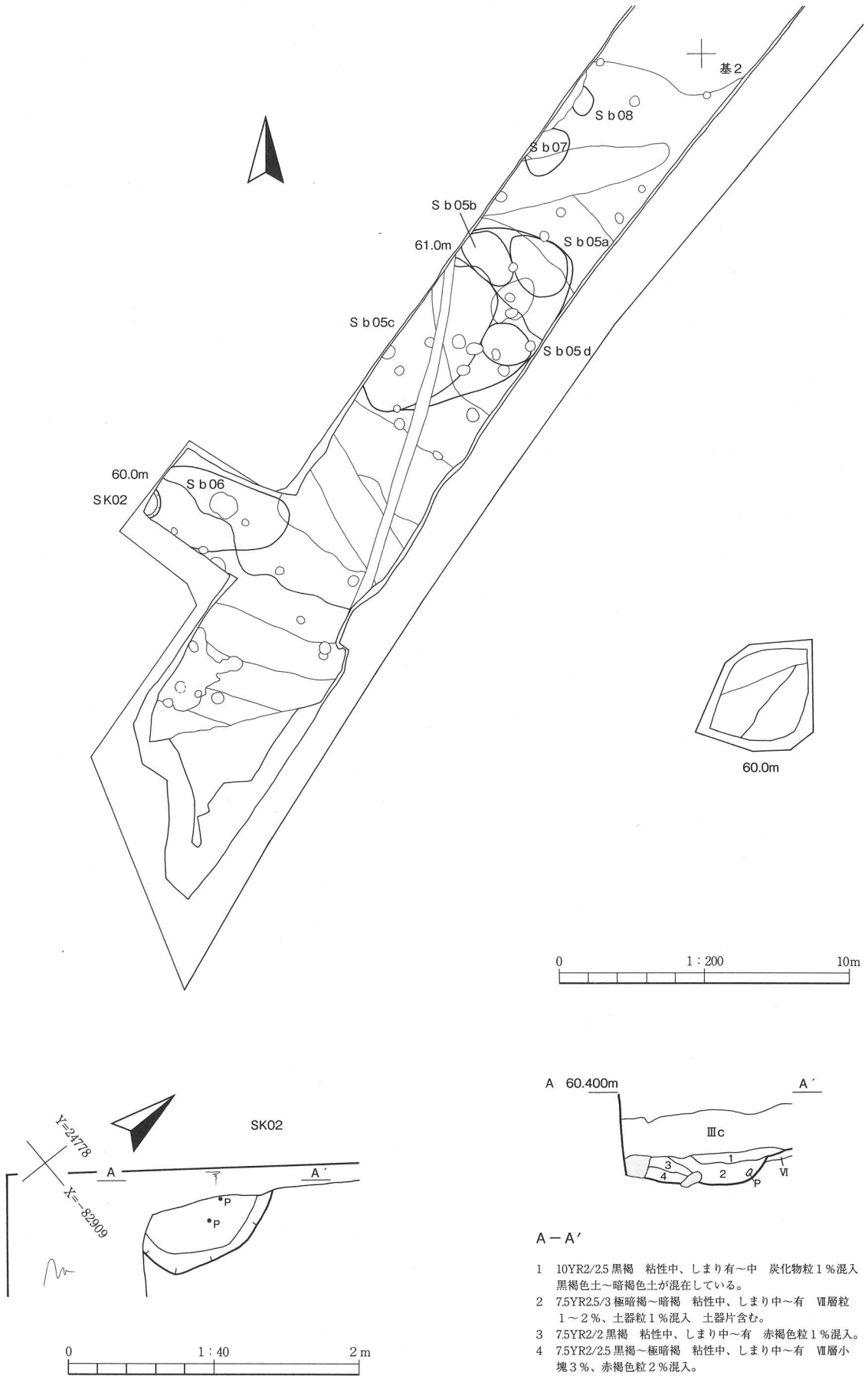
これらの遺物はⅤ層～Ⅵ層で断続的に出土している。主に、Ⅴ層からは貝殻文系土器群を中心とした早期中葉の遺物が出土し、Ⅵ層の最下部からは薄手の縄文土器が出土している。この薄手の縄文土器は後に触れるが、土器の特徴、出土状況、放射性炭素年代測定の結果から草創期に属すると判断した。また、同一ブロック内の遺物についても、同一時期のものと判断している。

Ⅵ層中でも、石器を中心としたブロックが確認されている。ブロックの捉え方は後期旧石器時代と同様である。範囲についても、後期旧石器時代と同様、野外調査時ものを基本としているが、Ⅵ層の遺物分布を再検討した結果、A18・23を中心とする密集部とA17・18を中心とする密集部が確認でき、前者をＳｂ07、後者をＳｂ08とした。そのため、ブロックは４箇所となった。また、Ｓｂ05についても分布の疎密が確認できたため、ａ～ｄに細分した。細分した場所では、遺物間の距離が約50cm以上離れている。この結果、Ｓｂ05全体としては、ひとまわり範囲が縮小した。図版等では、Ｓｂの略号を使用した。

### （2）土　　坑

**ＳＫ02土坑**（第31図、写真図版８）

［位置と形態］凸区にあり、Ｘ＝－82909、Ｙ＝24778付近に位置する。Ⅵ層上面で暗褐色の広がりとして確認した。重複関係にある遺構はないが、西側の大半が調査区外に広がっている。そのため、平面形や規模は不明である。検出面からの深さは最大で23cmである。底面にはやや凹凸が見られ、壁は




A－A′

1　10YR2/2.5 黒褐　粘性中、しまり有～中　炭化物粒１％混入　黒褐色土～暗褐色土が混在している。
2　7.5YR2.5/3 極暗褐～暗褐　粘性中、しまり中～有　Ⅶ層粒１～２％、土器粒１％混入　土器片含む。
3　7.5YR2/2 黒褐　粘性中、しまり中～有　赤褐色粒１％混入。
4　7.5YR2/2.5 黒褐～極暗褐　粘性中、しまり中～有　Ⅶ層小塊３％、赤褐色粒２％混入。

第31図　縄文時代の遺構（1）

第32図　縄文時代の遺構（2）

底面からなだらかに立ち上がる。

堆積土は４層に分層され、Ｖ層に起因すると考えられる黒褐色土主体である。堆積の初期段階は、夾雑物が少なく、三角堆積の状況を呈しているため、自然堆積と考えられるが、１層や２層には炭化物や土器の混入が見られ、人為堆積の可能性が高い。

［出土遺物］（第36図、写真図版21）

底面に貼りつくように土器片が出土しているが、非常に脆く、小片であるため、掲載に耐えられなかった。掲載した資料は堆積土の上部（１・２層）から出土したものである。

101は南東北地方を中心に分布する大寺式・常世式に類似する資料の体部片である。沈線文を主体とし、貝殻腹縁文・刺突文が施されている。102は両端とも欠損した尖頭器である。両面とも縁辺部の細部調整がほとんど見られず、未製品の可能性がある。

［時期］出土遺物や検出状況から判断すると、早期中葉と考えられる。

### （３）ブ　ロ　ッ　ク

#### Ｓｂ05ａ（第33図）

［規模と形状］Ｄ区中央、Ａ25・Ｂ５グリッドを中心に分布する。分布範囲は長辺2.5m、短辺1.8mで、楕円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向に直交しており、西側に約45度傾いている。遺物の標高は61.136～61.272mで、約14cmの範囲に収まり、安定している。出土層位はⅥ層である。

［器種組成］剥片８点、砕片16点、石斧１点、磨石１点、砥石１点、土器片１点の計28点で構成される。トゥール類も若干構成するが、剥片や砕片が主体となっている。この他に炭化物サンプルを１点採取しており、年代測定試料とした。

［石器石材］点数及び重量は第16表のとおりである。点数に関しては、圧倒的に頁岩の占める割合が高いが、重量に関しては、凝灰岩の占める割合が高い。

［出土遺物］（第36図、写真図版21）

103は蛇紋岩製の石斧で、下半部を欠損している。器面の風化が激しいため、不明瞭であるが、部分的に平滑な面が確認でき、研磨による調整が行われている可能性が高い。断面形はかまぼこ状を呈する。104は棒状の河原石を利用した閃緑岩製の磨石である。使用面は三面で、断面形は三角形もしくは逆台形状を呈する。105はブロック状の礫を利用した凝灰岩製の砥石である。

［時期］時期の特定できる資料が出土していないが、放射性炭素年代測定の結果から判断すると、草創期の可能性が高い。

#### Ｓｂ05ｂ（第33図）

［規模と形状］Ｄ区中央、Ａ25・Ｃ21グリッドを中心に分布する。分布範囲は長辺（2.0）ｍ、短辺1.7mで、楕円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向に直交しており、西側に約50度傾いている。遺物の標高は60.991～61.082mで、約９cmの範囲に収まり、安定している。出土層位はⅥ層である。

［器種組成］石鏃１点、ＲＦ２点、剥片５点、砕片３点、土器片１点の計12点で構成され、磨石や台石などの礫塊石器が全く組成せず、剥片や砕片が主体となっている。この他に炭化物サンプルを１点採取しており、年代測定試料とした。また、土器片に付着した炭化物も年代測定試料としており、詳細は附編放射性炭素年代測定に記載している。

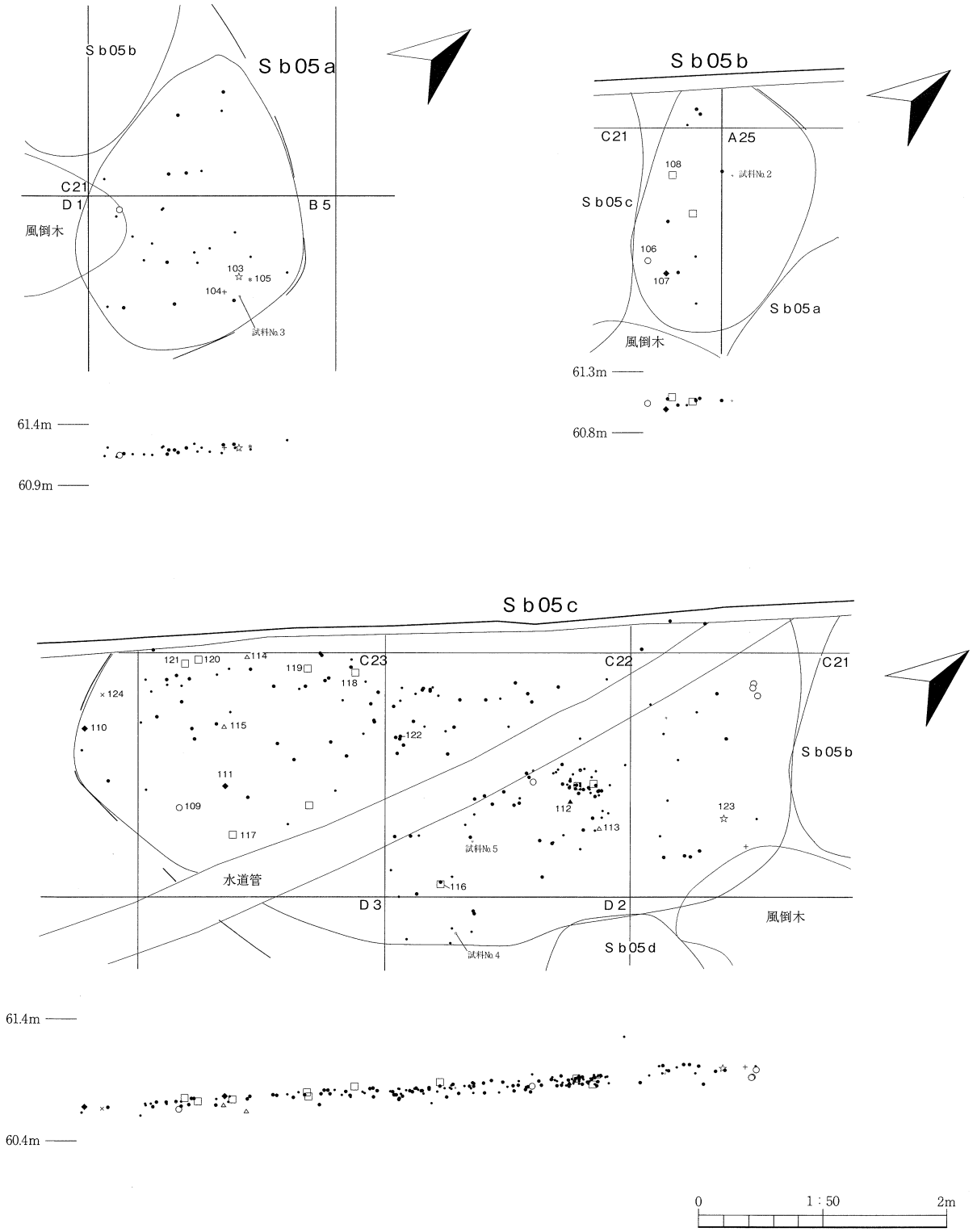
［石器石材］点数及び重量は第17表のとおりである。頁岩のみで構成され、点数に関しては、頁岩Ｃ

の占める割合が高く、重量に関しては、頁岩Ｅの占める割合が高くなっている。

［出土遺物］（第37図、写真図版21）

106は非常に薄手の縄文土器で、無節縄文が横位に施文されている。接合できなかった同一個体に付着していた炭化物の年代測定を行ったところ10020±60yrBP との結果が得られた。詳細は附編を参照して頂きたい。

107はＩ類の石鏃である。両面、特に裏面には素材剥片の剥離面が広範囲に残置している。108は大




第33図　縄文時代の遺構（３）

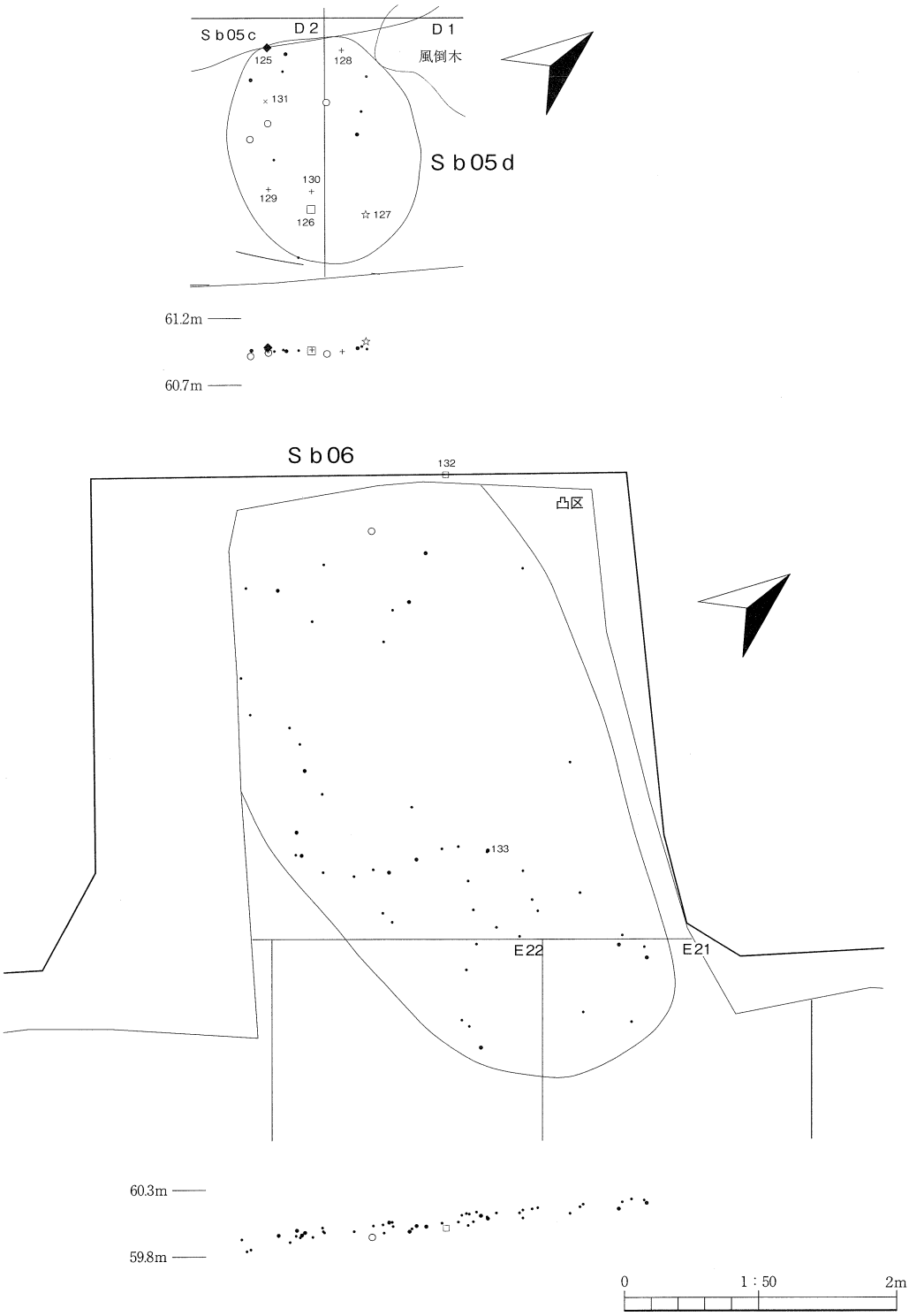
形の剥片を利用した頁岩製のＲＦである。剥片端部腹面側に二次加工が施されている。稜は摩滅している。左側縁中央部には使用によると考えられる微細な剥離痕が連続的に観察される。
［時期］出土遺物や放射性炭素年代測定結果から判断すると、草創期後半の室谷下層式期に属する。

Ｓｂ05ｃ（第33図、写真図版７）
［規模と形状］Ｄ区中央、Ｃ21～Ｃ24グリッドを中心に分布し、北西側は調査区外に広がっている。確認できた分布範囲は長辺5.9m、短辺（2.6）mである。長軸方向は地形の傾斜方向と並行しており、東側に37度傾いている。遺物の標高は60.606～61.255mで、分布範囲が地形の傾斜方向に沿っているため、約65cmと広くなっている。出土層位はⅥ層である。
本ブロックはＣ22グリッド内の一部で遺物分布の狭窄部があり、北東側と南西側に分かれる可能性がある。前者部分から採取した炭化物の年代測定結果は草創期に相当し、後者内の時期の判別可能な遺物は早期中葉に相当する。Ｃ24ブロック周辺のⅥ層（やや上部）から早期中葉～後葉の遺物が出土していることからも、後世の遺物の混入よりは、同一層内の異なる時期の遺物を混同して扱ってしまった可能性が高い。しかし、現段階では客観的な分離（出土層位やブロック設定方法による分離）が不可能であるため、一括して報告する。
［器種組成］石鏃２点、掻器１点、削器３点、ＲＦ９点、剥片90点、砕片73点、石斧１点、磨石１点、敲石１点、土器片５点の計186点で構成される。トゥール類も構成するが、剥片や砕片が主体となっている。この他に炭化物サンプルを３点採取しており、２点を年代測定試料とした。
［石器石材］点数及び重量は第18表のとおりである。点数では、頁岩が97％以上を占め、その中でも、頁岩Ｃ・Ｄの占める割合が高いのは、本調査区の特徴を示している。重量では、花崗閃緑岩、頁岩Ａの割合が高いが、他のブロックと異なり、全体的に頁岩の占める割合が高い。
［出土遺物］（第37・38図、写真図版21・22）
109は本ブロック内から出土した個別№332とＥ区の撹乱層から出土した土器片が接合した資料で、早期中葉に関東地方を中心に分布する田土下層式に類似する資料の体部片である。斜位に３～４条を単位とする沈線文が施文されている。
110はⅢ類の石鏃である。両面とも入念な二次加工が施されており、精巧なつくりをしている。111は円基の石鏃である。両面とも素材剥片の剥離面が広範囲に残置しており、110と比較すると、粗雑な印象を受ける。112は不定形剥片を素材とする。細かな二次加工を施して刃部を作出している。両面ともはじけの痕跡があり、二次的な被熱を受けたものと考えられる。113～115は縦長剥片を素材とするⅡ類の削器である。113はやや泥質な頁岩製で、左側縁には両面から二次加工が施されている。また、素材剥片の打面及びバルブを除去する調整が施されている。114は２点が欠損部で接合したものである。両側縁とも背面側に二次加工が施されている。115の調整も背面側のみである。116～121はＲＦである。116は不定形な剥片を素材とし、端部の背面側全縁に細かな二次加工が施されている。調整は粗いが、正面観は横形の石匙に似る。二次加工の部位は、117・120・121は背面のみ、118は端部と右側縁が腹面、左側縁が背面、119は端部が腹面、両側縁が背面である。122は不定形の剥片である。229・230と接合して、数少ない剥離工程を窺える資料となっている。123は緑色凝灰岩製の磨製石斧である。刃部側を欠損している。両側縁には研磨痕より新しい剥離痕が観察され、再加工が行われたものと考えられる。124は棒状の礫を利用した花崗閃緑岩製の敲石である。上半部は欠損している。端部には、剥離痕も観察される。
［時期］前述のとおりであるため、草創期～早期中葉とせざるを得ない。

Ｓｂ05ｄ（第34図）

［規模と形状］Ｄ区中央、Ｄ１・Ｄ２グリッドを中心に分布する。分布範囲は長辺1.7m、短辺1.5mで、楕円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向と直交しており、西側に52度傾いている。遺物の標高は60.917～61.018mで、約10cmの範囲に収まり、安定している。出土層位はⅥ層である。

［器種組成］尖頭器１点、ＲＦ１点、剥片３点、砕片５点、磨製石斧１点、磨石３点、敲石１点、土器片３点の計18点で構成される。他のブロックよりやや多くトゥール類も構成するが、剥片や砕片が




第34図　縄文時代の遺構（４）

占める割合が高い。

［石器石材］点数及び重量は第19表のとおりである。点数に関しては、頁岩、特に、頁岩Ｃの割合が高い。重量に関しては、安山岩が最も高く、次いでデイサイトである。この２種類で96％以上を占めている。

［出土遺物］（第39図、写真図版22）

125は幅広の尖頭器で、基部側を欠損している。縁辺部の二次加工が粗く、粗雑な印象を受ける。126は頭部側のみ残存するＲＦである。腹面側に二次加工が施されている。127は緑色凝灰岩製の石斧である。研摩痕より新しい剥離痕がほぼ両側縁の両面に観察でき、再加工が行われた可能性が高い。128は小形の扁平な礫を利用した磨石である。使用面は表面のみである。129は卵形の河原石を利用したもので、一部を大きく欠損している。端部には敲打痕が観察され、敲石としての機能も有していたことがわかる。130は棒状の礫を利用した磨石である。使用面は表面のみである。131は棒状の礫を利用した敲石である。使用頻度が低いためか、敲打痕は部分的である。

［時期］時期の特定できる資料が出土していないため断定はできないが、Ｓｂ05ａ～ｃの時期を考慮すると、草創期の可能性が考えられる。

Ｓｂ06（第34図、写真図版７）

［規模と形状］凸区に位置し、西側は調査区外に広がっている。確認できた分布範囲は長辺（5.1）ｍ、短辺（2.9）ｍである。長軸方向は地形の傾斜方向と斜交しており、西側に約85度傾いている。遺物の標高は59.840～60.230ｍで、約40cmの幅を持っている。出土層位はⅥ層である。

［器種組成］ＵＦ１点、剥片13点、砕片38点、土器片１点の合計53点で構成される。トゥール類は皆無で、砕片が主体となっている。

［石器石材］点数及び重量は第20表のとおりである。点数に関しては、頁岩Ｃ・Ｄの割合が高く、本調査区の特徴を示している。重量に関しては、頁岩Ａの割合が高くなっている。

［出土遺物］（第39図、写真図版22）

ＵＦ１点を図化し、剥片を写真掲載とした。132は頁岩製のＵＦである。端部背面側に断続的な微細な剥離痕が観察される。133は節理面を打面とする頁岩製の剥片である。

［時期］時期の特定できる資料が出土していないが、遺物の出土層位から判断すると、早期中葉以前と考えられる。

**第16表　Ｓｂ05ａ石器組成表**

| 器種 | 点数（点） | 石材 | | | | | | | 重量（g） | 石材 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh A | sh C | sh D | tuf | serp | dio | aga | % | sh A | sh C | sh D | tuf | serp | dio | aga |
| F | 8 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6.8 | 0.0 | 6.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 29.6 | 0.0 | 29.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 0.0 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| C | 16 | 1 | 7 | 7 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1.6 | 0.1 | 0.7 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 |
| | 59.3 | 3.7 | 25.9 | 25.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.7 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| AX | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 596.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 596.1 | 0.0 | 0.0 |
| | 3.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.7 | 0.0 | 0.0 | 28.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 28.8 | 0.0 | 0.0 |
| GS | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 463.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 463.5 | 0.0 |
| | 3.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.7 | 0.0 | 22.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 22.4 | 0.0 |
| WS | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1002.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1002.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 3.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 48.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 48.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 合計 | 27 | 1 | 15 | 7 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2070.5 | 0.1 | 7.5 | 0.7 | 1002.5 | 596.1 | 463.5 | 0.1 |
| | 100.0 | 3.7 | 55.6 | 25.9 | 3.7 | 3.7 | 3.7 | 3.7 | 100.0 | 0.0 | 0.4 | 0.0 | 48.4 | 28.8 | 22.4 | 0.0 |

第17表　Ｓｂ05ｂ石器組成表

| 器種 | 点数（点） | 石　材 | | | | 重量（g） | 石　材 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh A | sh C | sh D | sh E | % | sh A | sh C | sh D | sh E |
| ＳＡＲ | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 0.0 |
| | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | 0.0 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 1.2 | 0.0 |
| ＲＦ | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 129.9 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 129.3 |
| | 18.2 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | 90.6 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 90.2 |
| Ｆ | 5 | 0 | 5 | 0 | 0 | 11.6 | 0.0 | 11.6 | 0.0 | 0.0 |
| | 45.5 | 0.0 | 45.5 | 0.0 | 0.0 | 8.1 | 0.0 | 8.1 | 0.0 | 0.0 |
| Ｃ | 3 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0.2 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | 0.0 |
| | 27.3 | 0.0 | 9.1 | 18.2 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.05 | 0.05 | 0.0 |
| 合計 | 11 | 1 | 6 | 3 | 1 | 143.4 | 0.6 | 11.6 | 1.9 | 129.3 |
| | 100.0 | 9.1 | 54.5 | 27.3 | 9.1 | 100.0 | 0.4 | 8.15 | 1.25 | 90.2 |

第18表　Ｓｂ05ｃ石器組成表

| 器種 | 点数（点） | 石　材 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | s h A a | sh A b | sh B | sh C a | sh C b | sh D | sh E | sh F | tuf | aga | qua | gradio |
| ＳＡＲ | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 1.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＥＳ | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＳＳ | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 1.7 | 0.6 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＲＦ | 9 | 1 | 0 | 0 | 7 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 5.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 3.9 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| Ｆ | 90 | 22 | 0 | 1 | 53 | 1 | 8 | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | 49.7 | 12.2 | 0.0 | 0.6 | 29.3 | 0.6 | 4.4 | 2.2 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 |
| Ｃ | 73 | 21 | 0 | 1 | 9 | 0 | 37 | 3 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | 40.3 | 11.6 | 0.0 | 0.6 | 5.0 | 0.0 | 20.4 | 1.7 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 |
| ＡＸ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＧＳ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＨＳ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 |
| 合計 | 181 | 45 | 1 | 2 | 71 | 1 | 48 | 7 | 1 | 2 | 1 | 1 | 1 |
| | 100.0 | 24.9 | 0.6 | 1.1 | 39.2 | 0.6 | 26.5 | 3.9 | 0.6 | 1.1 | 0.6 | 0.6 | 0.6 |

| 器種 | 重量（g） | 石　材 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh A a | sh A b | sh B | sh C a | sh C b | sh D | sh E | sh F | tuf | aga | qua | gradio |
| ＳＡＲ | 6.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.5 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 0.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＥＳ | 5.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＳＳ | 45.0 | 4.2 | 14.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 26.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 6.9 | 0.6 | 2.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＲＦ | 32.2 | 3.9 | 0.0 | 0.0 | 25.7 | 0.0 | 2.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 4.9 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 3.9 | 0.0 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| Ｆ | 250.4 | 173.9 | 0.0 | 1.0 | 63.4 | 1.0 | 5.6 | 5.1 | 0.0 | 0.0 | 0.4 | 0.0 | 0.0 |
| | 38.4 | 26.7 | 0.0 | 0.2 | 9.7 | 0.2 | 0.9 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.0 |
| Ｃ | 10.5 | 2.9 | 0.0 | 0.1 | 0.9 | 0.0 | 6.0 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 |
| | 1.6 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.9 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＡＸ | 26.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 26.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 4.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＧＳ | 57.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 57.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 8.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 8.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＨＳ | 218.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 218.1 |
| | 33.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 33.5 |
| 合計 | 651.9 | 184.9 | 14.4 | 1.1 | 100.4 | 1.0 | 41.3 | 5.5 | 0.0 | 84.7 | 0.4 | 0.1 | 218.1 |
| | 100.0 | 28.4 | 2.2 | 0.2 | 15.4 | 0.2 | 6.3 | 0.8 | 0.0 | 13.0 | 0.1 | 0.0 | 33.5 |

第19表　Ｓｂ05ｄ石器組成表

| 器種 | 点数（点） | 石　材 | | | | | | 重量（g） | 石　材 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh A | sh C | sh D | tuf | an | dac | % | sh A | sh C | sh D | tuf | an | dac |
| ＰＯ | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 27.3 | 0.0 | 27.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 6.7 | 0.0 | 6.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＲＦ | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.5 | 0.0 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 6.7 | 0.0 | 6.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| Ｆ | 3 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1.6 | 0.0 | 1.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 20.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| Ｃ | 5 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0.3 | 0.1 | 0.2 | 0.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 33.3 | 6.7 | 13.3 | 13.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ＡＸ | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 17.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 17.4 | 0.0 | 0.0 |
| | 6.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.7 | 0.0 | 0.0 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.2 | 0.0 | 0.0 |
| ＧＳ | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1094.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 947.9 | 146.2 |
| | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.7 | 13.3 | 73.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 63.9 | 9.9 |
| ＨＳ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 341.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 341.3 |
| | 6.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.7 | 23.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 23.0 |
| 合計 | 15 | 1 | 7 | 2 | 1 | 1 | 3 | 1482.5 | 0.1 | 29.6 | 0.1 | 17.4 | 947.9 | 487.5 |
| | 100.0 | 6.7 | 46.7 | 13.3 | 6.7 | 6.7 | 20.0 | 100.0 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 1.2 | 63.9 | 32.9 |

第20表　Ｓｂ06石器組成表

| 器種 | 点数（点） | 石　材 | | | | | | 重量（g） | 石　材 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh A | sh B | sh C | sh D | sh E | tuf | % | sh A | sh B | sh C | sh D | sh E | tuf |
| ＵＦ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 7.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 7.4 | 0.0 |
| | 1.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.9 | 0.0 | 21.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 21.3 | 0.0 |
| Ｆ | 13 | 1 | 1 | 8 | 3 | 0 | 0 | 22.6 | 15.6 | 0.6 | 5.2 | 1.3 | 0.0 | 0.0 |
| | 25.0 | 1.9 | 1.9 | 15.4 | 5.8 | 0.0 | 0.0 | 65.3 | 44.9 | 1.6 | 15.0 | 3.8 | 0.0 | 0.0 |
| Ｃ | 38 | 6 | 4 | 16 | 11 | 0 | 1 | 4.7 | 0.8 | 0.3 | 2.2 | 1.0 | 0.0 | 0.4 |
| | 73.1 | 11.5 | 7.7 | 30.8 | 21.2 | 0.0 | 1.9 | 13.4 | 2.3 | 0.8 | 6.3 | 2.9 | 0.0 | 1.2 |
| 合計 | 52 | 7 | 5 | 24 | 14 | 1 | 1 | 34.7 | 16.4 | 0.8 | 7.4 | 2.3 | 7.4 | 0.4 |
| | 100.0 | 13.5 | 9.6 | 46.2 | 26.9 | 1.9 | 1.9 | 100.0 | 47.2 | 2.4 | 21.3 | 6.7 | 21.3 | 1.2 |

### Ｓｂ07（第35図）

［規模と形状］Ｄ区北側に位置し、西側は調査区外に広がっている。また、北側はＳＫ04の構築時に包含層が削平されており、遺物の分布は確認できない。確認できた分布範囲は長辺1.9m、短辺1.0mで楕円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向と斜交しており、東側に約38度傾いている。遺物の標高は61.461～61.599mの範囲で、約14cmに収まり、安定している。出土層位はⅥ層である。

［器種組成］ＵＦ１点、剥片３点、砕片２点、土器片１点の合計７点で構成される。トゥール類は皆無で、砕片が主体となっている。

［石器石材］点数及び重量は第21表のとおりである。点数に関しては、頁岩Ｃ・Ｄの割合が高く、本調査区の特徴を示している。重量に関しては、頁岩Ａの割合が高くなっている。

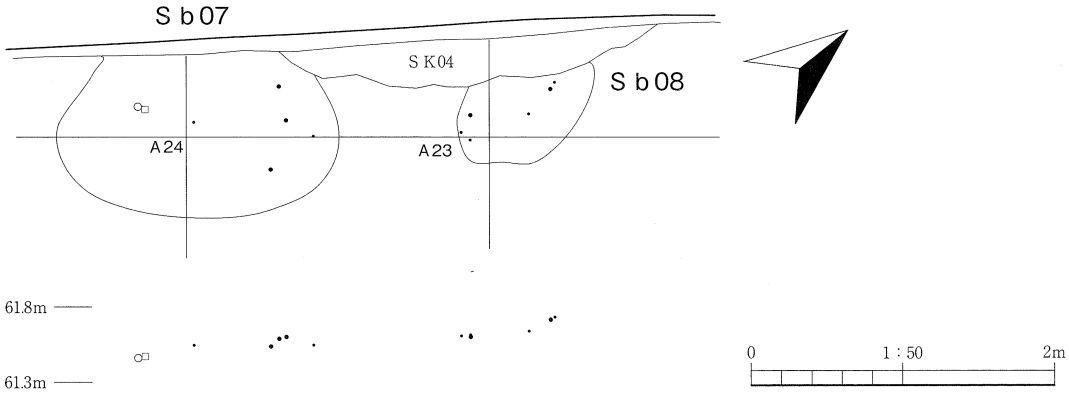
［出土遺物］（第40図、写真図版22）

134は縄文土器の体部片資料である。撚糸文をやや斜位気味に施文している。

［時期］組成する遺物が少ないため、断定はできないが、早期中葉前後の可能性が高い。

### Ｓｂ08（第35図）

［規模と形状］Ｄ区北側に位置する。北西側はＳＫ04の構築時に包含層が削平されており、遺物の分布は確認できない。確認できた分布範囲は長辺1.0m、短辺0.8mで楕円形状に広がっている。長軸方向は地形の傾斜方向とほぼ直交しており、ほぼ南北方向を向いている。遺物の標高は61.602～61.731mの範囲で、約13cmに収まり、安定している。出土層位はⅥ層である。




第35図　縄文時代の遺構（５）

第21表　Ｓｂ07石器組成表

| 器種 | 点数（点） | 石　材 | | | 重量（g） | 石　材 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh A | sh C | sh D | % | sh A | sh C | sh D |
| ＵＦ | 1 | 0 | 1 | 0 | 1.7 | 0.0 | 1.7 | 0.0 |
| | 16.7 | 0.0 | 16.7 | 0.0 | 18.6 | 0.0 | 18.6 | 0.0 |
| Ｆ | 3 | 1 | 1 | 1 | 7.2 | 6.4 | 0.4 | 0.3 |
| | 50.0 | 16.7 | 16.7 | 16.7 | 78.5 | 70.3 | 4.7 | 3.5 |
| Ｃ | 2 | 0 | 1 | 1 | 0.3 | 0.0 | 0.1 | 0.2 |
| | 33.3 | 0.0 | 16.7 | 16.7 | 3.0 | 0.0 | 0.5 | 2.4 |
| 合計 | 6 | 1 | 3 | 2 | 9.2 | 6.4 | 2.2 | 0.5 |
| | 100.0 | 16.7 | 50.0 | 33.3 | 100.0 | 70.3 | 23.8 | 5.9 |

第22表　Ｓｂ08石器組成表

| 器種 | 点数（点） | 石　材 | | | 重量（g） | 石　材 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | % | sh A | sh C | sh D | % | sh A | sh C | sh D |
| Ｆ | 2 | 0 | 2 | 0 | 4.6 | 0.0 | 4.6 | 0.0 |
| | 33.3 | 0.0 | 33.3 | 0.0 | 88.7 | 0.0 | 88.7 | 0.0 |
| Ｃ | 4 | 1 | 1 | 2 | 0.6 | 0.2 | 0.2 | 0.2 |
| | 66.7 | 16.7 | 16.7 | 33.3 | 11.3 | 4.0 | 4.4 | 2.9 |
| 合計 | 6 | 1 | 3 | 2 | 5.2 | 0.2 | 4.9 | 0.2 |
| | 100.0 | 16.7 | 50.0 | 33.3 | 100.0 | 4.0 | 93.1 | 2.9 |

［器種組成］剥片２点、砕片４点の合計６点で構成され、トゥール類は皆無である。

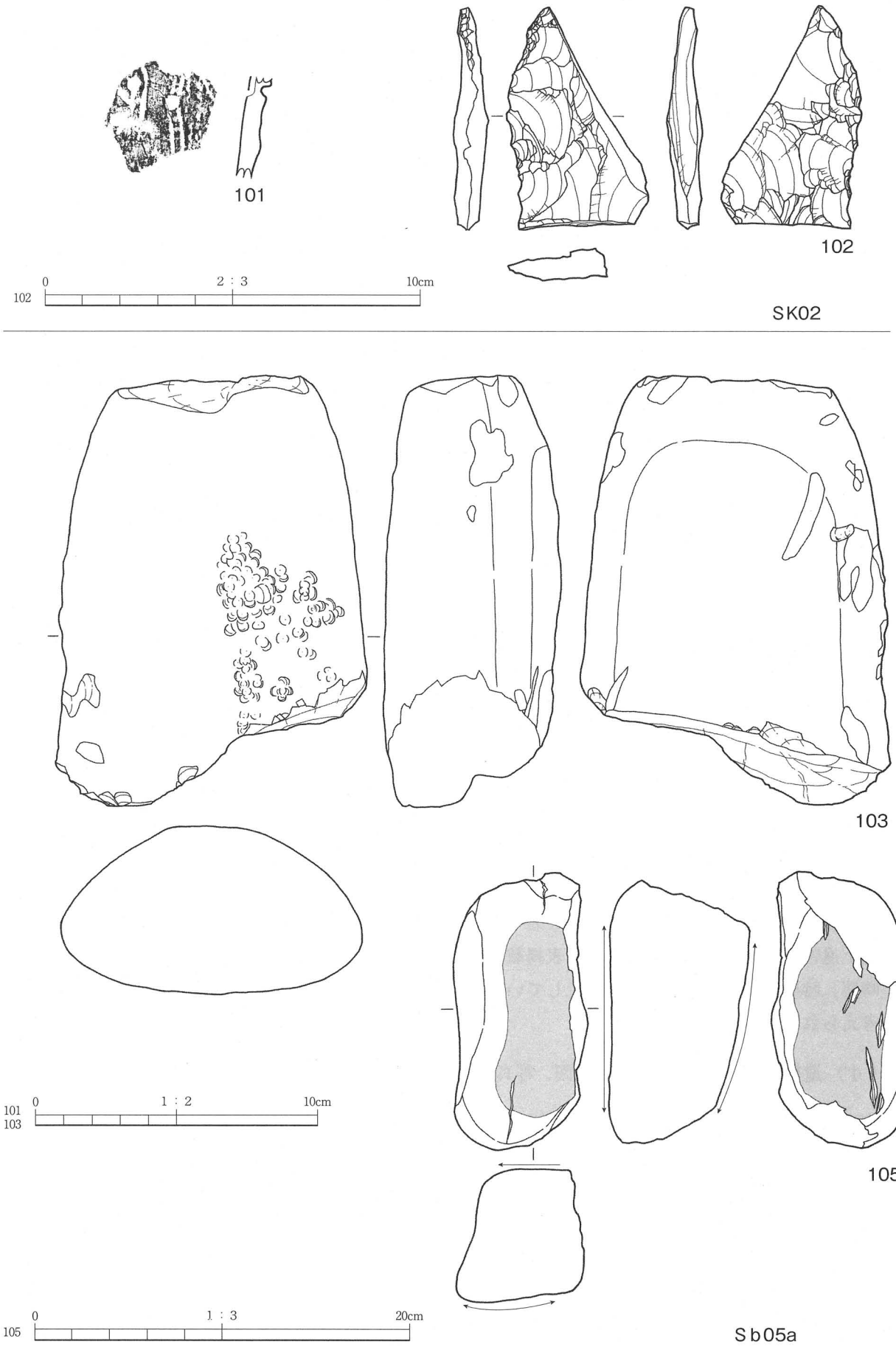
［石器石材］点数及び重量は第22表のとおりである。点数・重量ともに頁岩Ｃ・Ｄの割合が高い。

［出土遺物］剥片類のみであるため、表掲載にとどめた。

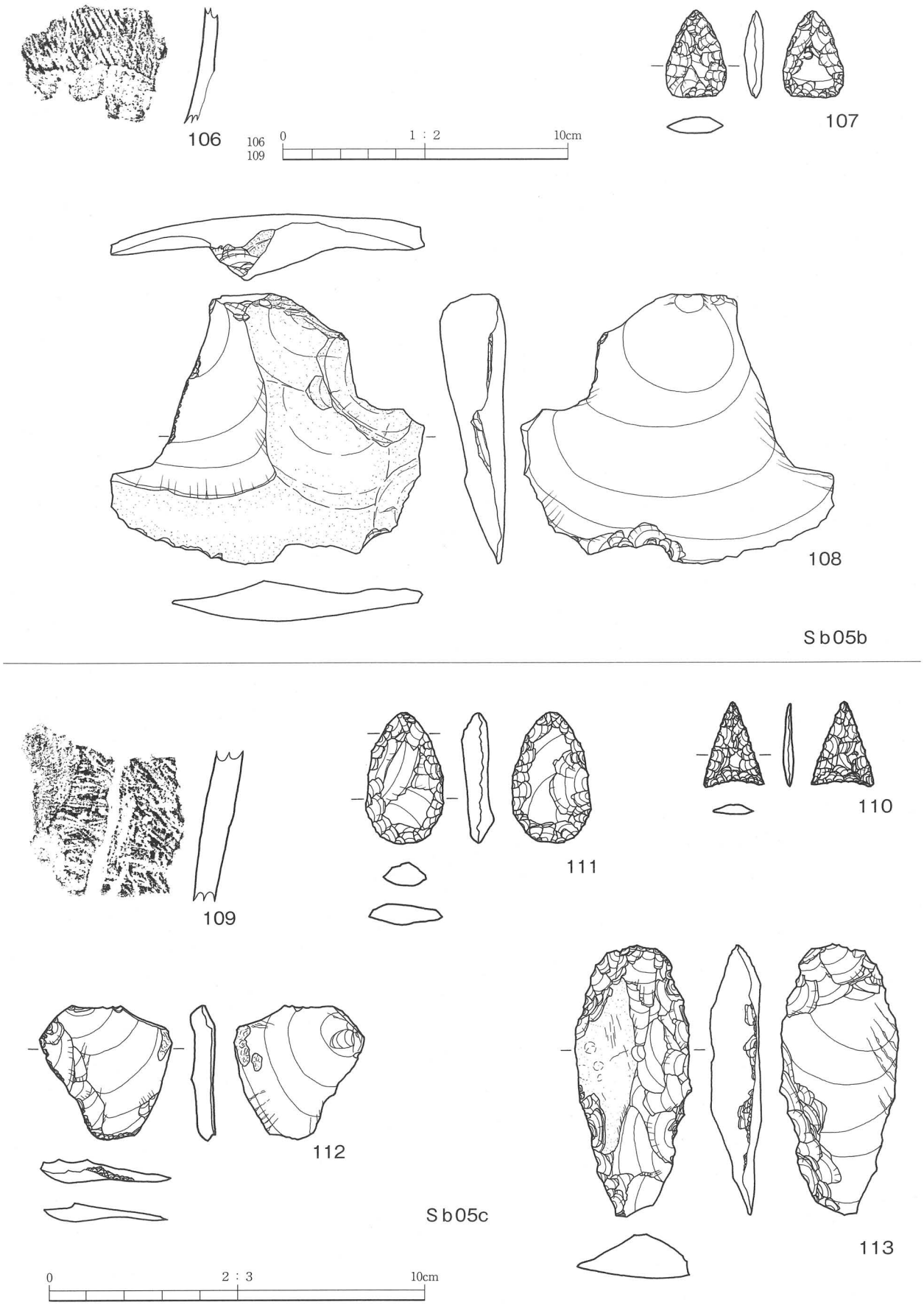
［時期］時期の特定できる資料が出土していないが、遺物の出土層位から判断すると、早期中葉以前と考えられる。

### （４）遺構外出土遺物（第40～48図、写真図版22～27）

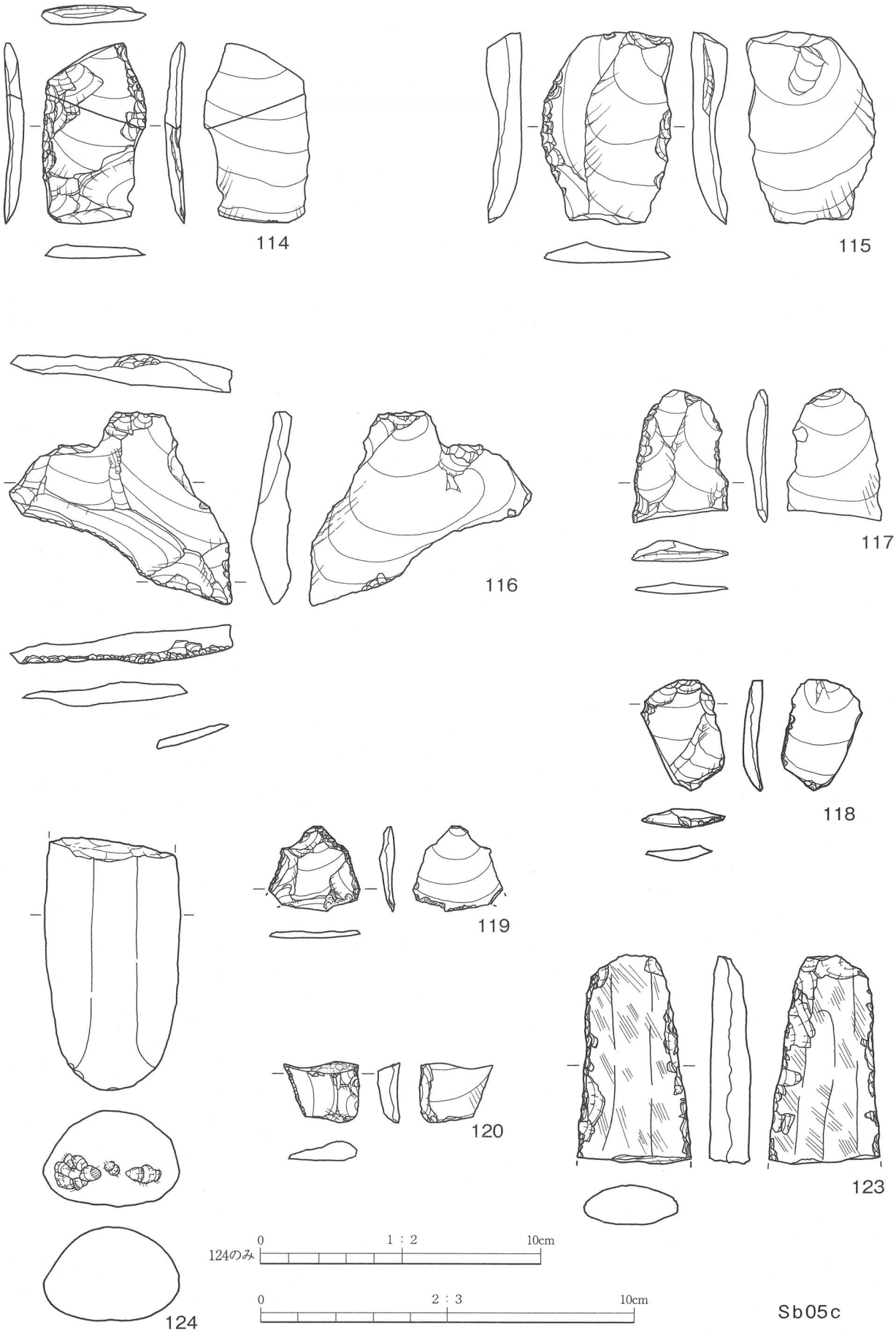
**縄文土器**（135～153）　135・149はⅥ層出土遺物で、135は貝殻沈施文系土器群の体部の断片的な資料である。136～138・142・143・150はⅤ層、その他はⅠ～Ⅳ層や縄文時代以外の遺構から出土した資料である。136～145は主に南東北地方を中心に分布する大寺式・常世式に類似する資料である。断片的な資料であるため、全体の文様は不明であるが、貝殻腹縁文、沈線文、刺突文を併用している。145は数少ない底部資料である。146・147は物見台式に類似する資料である。断片的な資料であるため、全体は不明である。２点とも沈線文を主体とし、146には、物見台式に特徴的な、口縁部内面の貝殻腹縁圧痕が観察される。148は詳細な型式は不明であるが、早期中葉の貝殻沈線文土器群の資料



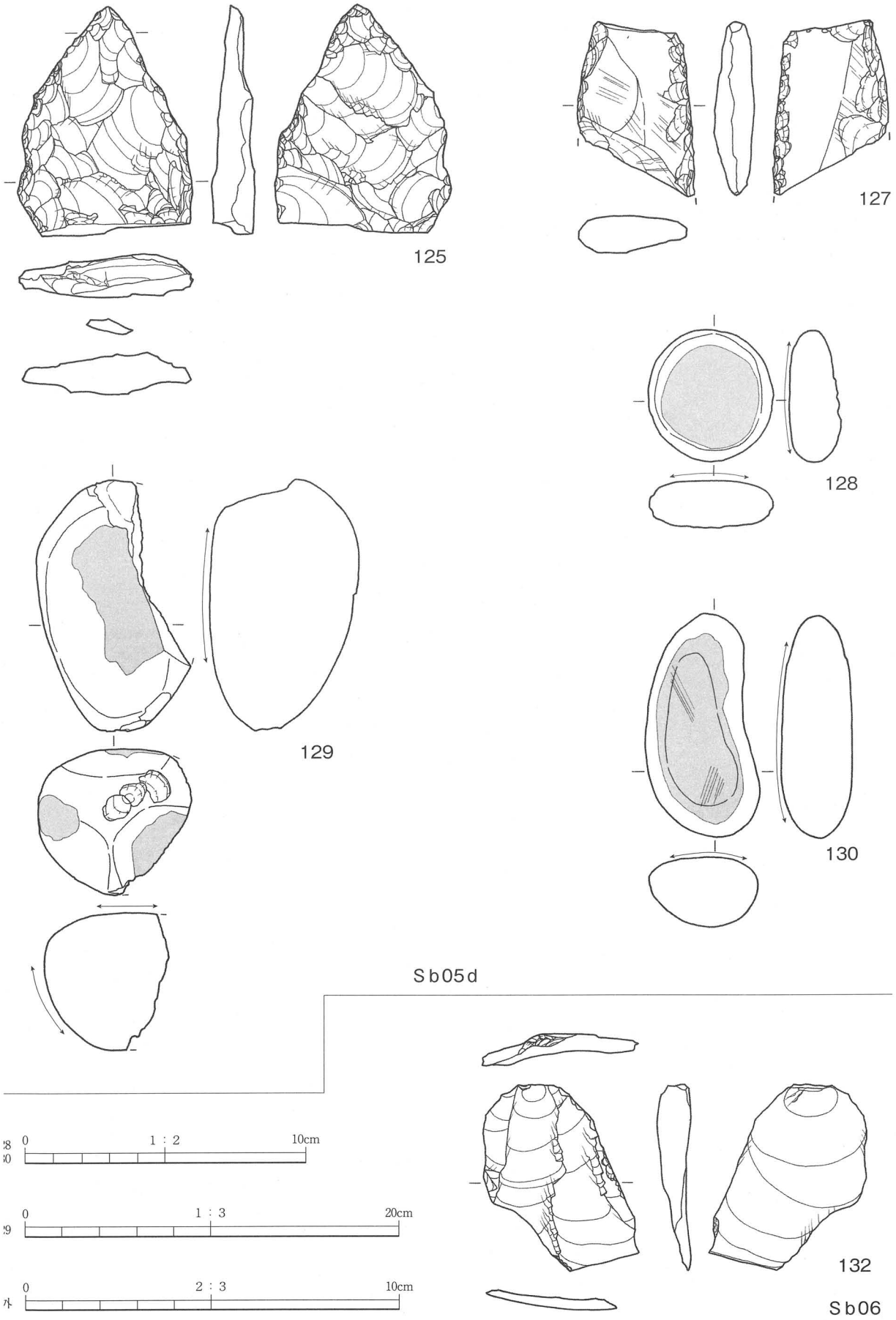

第36図　縄文時代の遺物（1）



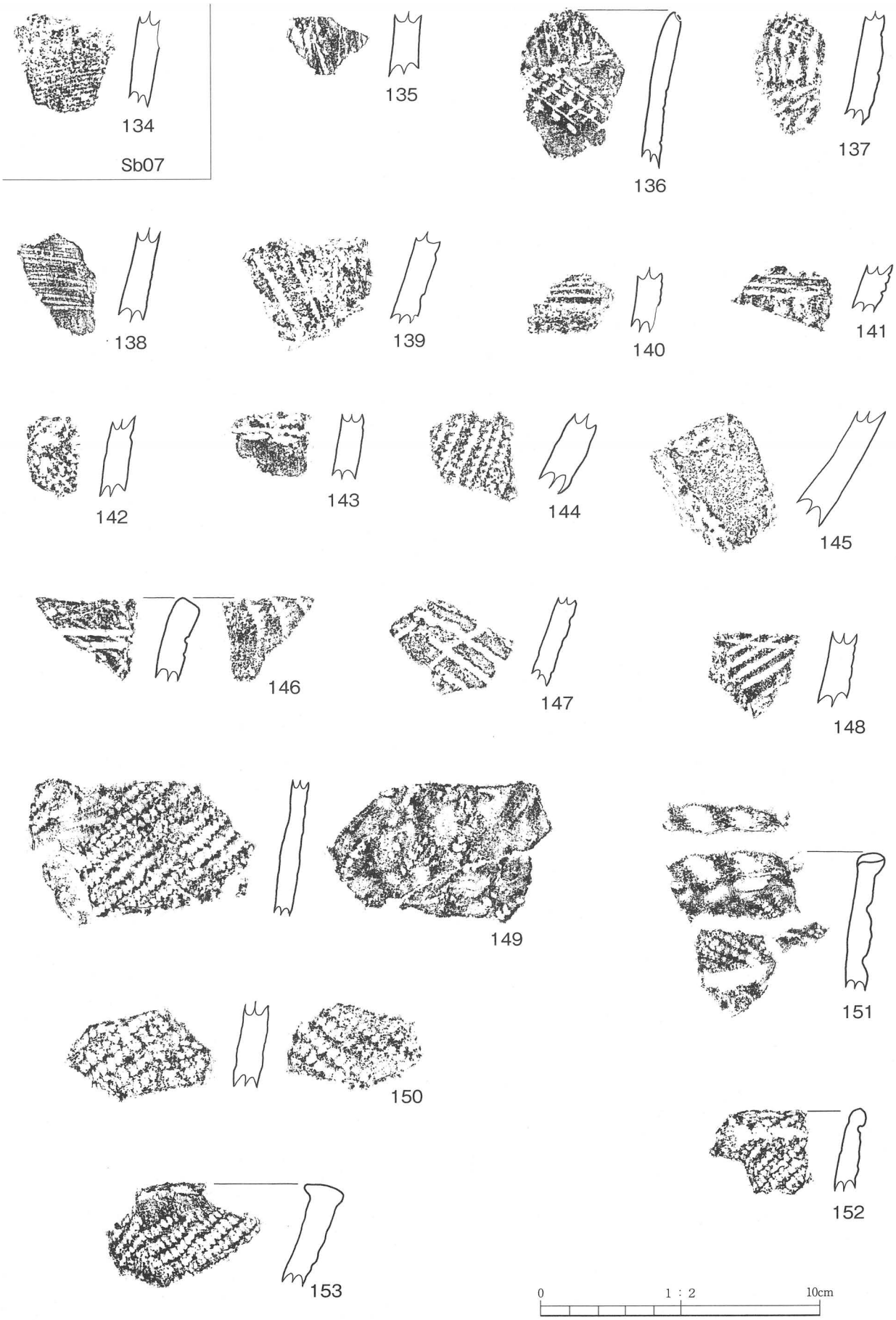

第37図　縄文時代の遺物（2）




第38図　縄文時代の遺物（3）




第39図　縄文時代の遺物（4）




第40図　縄文時代の遺物（5）

である。149・150は早期後葉～末葉の表裏縄文土器群の資料である。151・152は口縁部の断片的な資料である。152には繊維が多く混入されており、前期前半期の土器と考えられる。153は地文のみの土器の口縁部の断片的な資料である。

**石鏃**（154～162）　154～156はⅠ類、157はⅡ類、158・159はⅢ類、160はⅣ類、161はⅤ類、162はⅥ類の石鏃である。154～156・162は、二次加工が縁辺部のみに行われ、両面とも素材剥片の剥離面を広範囲に残置している。157～159・161は両面とも入念な二次加工が施されている。160は、先端部の二次加工は両面とも入念に行われているが、基部の二次加工がやや粗雑である。脚部が片側に歪んでおり、欠損後に再調整が行われた可能性が示唆される。

**尖頭器**（163～167）　163・164は木葉形を呈する細身の尖頭器である。163は押圧剥離により、３～５㎜幅の細長く整然とした二次加工が施されている。基部が片面側に寄っており、側面観もやや歪みがみられる。164は両面とも入念な二次加工が施されている。165は細身の尖頭器で、上半部を欠損し、端部を調査時に欠いている。両面とも入念な二次加工が、表面の右側縁・裏面の右側縁→表面の左側縁・裏面の左側縁の順で施されている。166は菱形を呈する尖頭器と考えられるが、基部側の縁辺部の大半を調査時に欠いており、二次加工の有無が不明瞭である。先端部の調整は両面とも施されているが、基部側の調整は素材剥片の剥離面が広範囲に残置している。全体的に粗製で、未製品の可能性もある。167は基部を欠損した幅広の尖頭器と考えられる。全体的に粗製で、未製品である可能性がある。

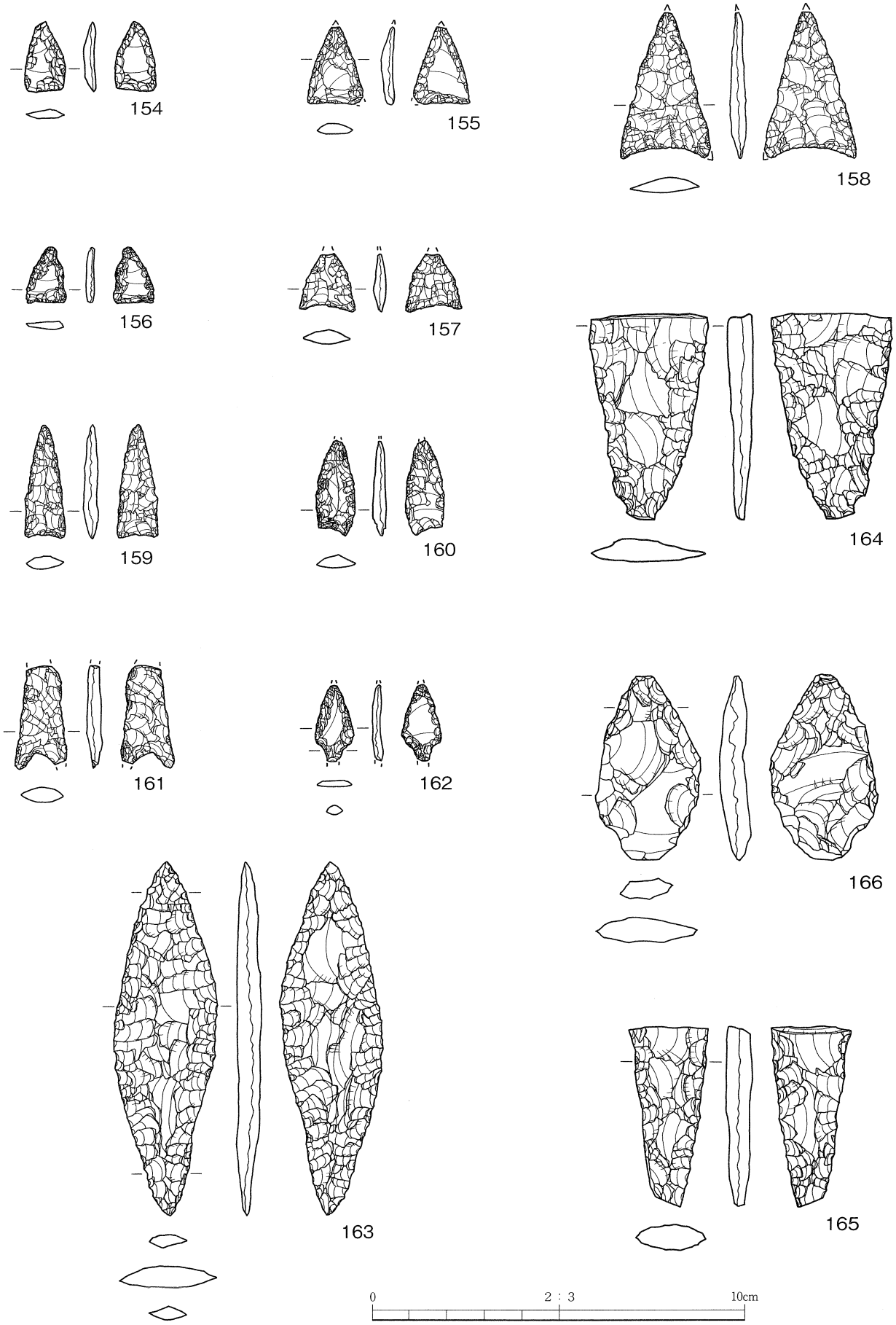
**掻器**（168～176）　168～172・174～176はⅠ類、173はⅡ類の掻器である。168・169・171は刃部の上面観が弧状を呈し、刃部の厚みがあるものである。171は上辺以外の縁辺部に二次加工が施されており、ラウンド状を呈する。170は刃部の上面観が直線状を呈し、168などよりは刃部は薄い。刃部の稜は摩滅している。172は正面観がティアドロップ状を呈するもので、素材剥片のほぼ全周に二次加工が施されている。全体的に二次加工は縁辺部にとどまる。173は両面ポジ面の剥片を素材としている。172と同様、二次加工は縁辺部にとどまり、刃部の上面観は直線状で、刃部の厚みはない。174は端部の他に、上辺の背面側にも二次加工が施されている。

**掻削器**（177～180）　177はⅠ類、178・179はⅢ類、180はⅣ類の掻削器である。177は縦長剥片を素材とする。端部の二次加工は背面側に、側縁の二次加工は腹面側に施されている。178は礫面を打面とする縦長剥片を素材とし、両側縁の二次加工は背面側に施されている。179は縦長剥片を素材とする。端部及び右側縁の二次加工は背面側に、左側縁の二次加工は腹面側に施されている。左側縁下半部を調査時に欠損しているため、右側縁のように端部まで二次加工が施されているか不明である。180は小形のものである。刃部作出の調整は腹面の縁辺部を中心に行われる。

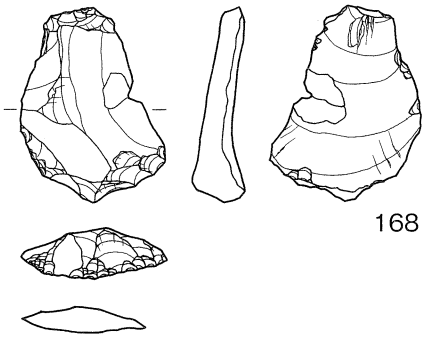
**削器**（181～187）　すべてⅡ類の削器である。181は硬質な頁岩製のもので、両側縁とも二次加工は両面に施されている。182は不定形剥片を素材とする。二次加工は両側縁とも両面に施されているが、粗雑である。183は凝灰質な頁岩製のもので、下半部を欠損している。両側縁の二次加工は両面に施されるが、背面側中心である。184は厚手の剥片を素材とする。二次加工は腹面側に施されている。185は不定形の剥片を素材とする。右側縁は腹面側に、左側縁は背面側に細かな二次加工を施している。186は上半部を欠損している。両側縁とも縁辺部には微細な剥離痕が観察される。187は端部を欠損している。両側縁とも背面側に二次加工を施している。左側縁の稜は摩耗している。

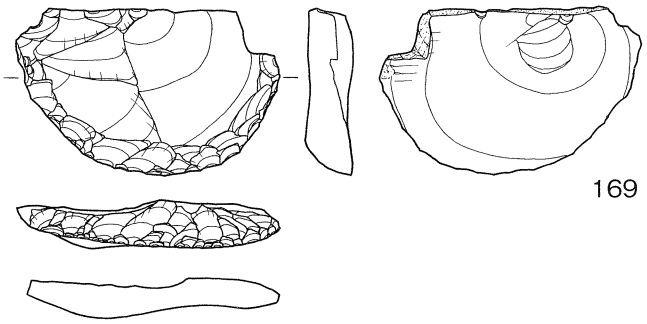
**抉入石器**（188）　左側縁の中央部背面側に数回の粗い二次加工で凹状の刃部が作出されている。

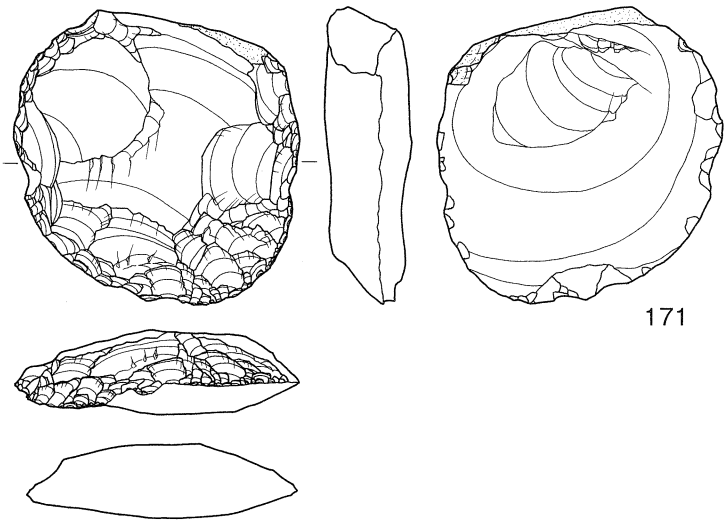
**箆形石器**（189・190）　189は基部がやや尖る短冊状の正面観を呈する。裏面の基部・裏面の刃部・表面の刃部の順で二次加工が施されている。190は撥形を呈する箆形石器である。二次加工は表面を

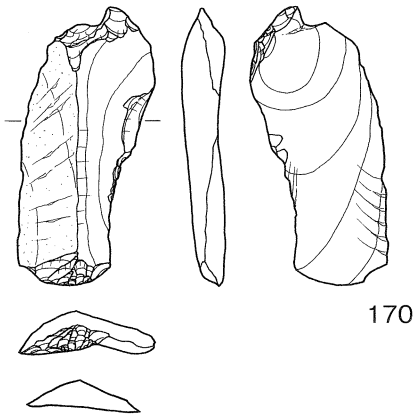


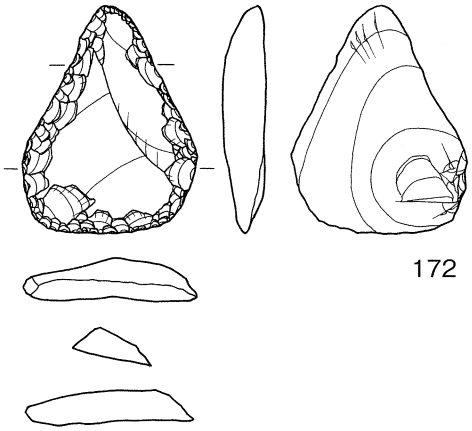

第41図　縄文時代の遺物（6）

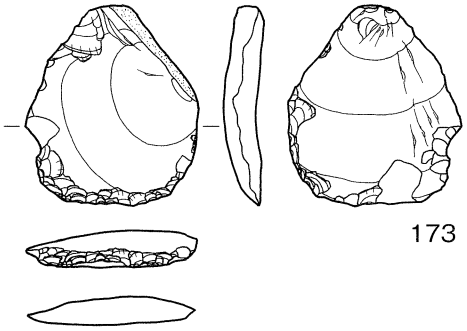


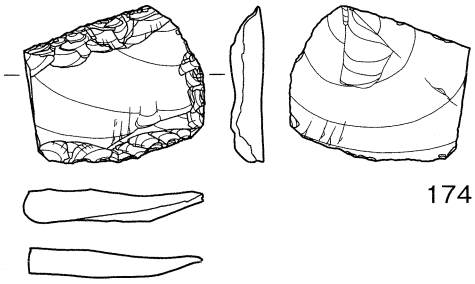



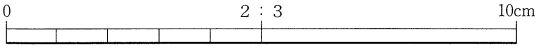



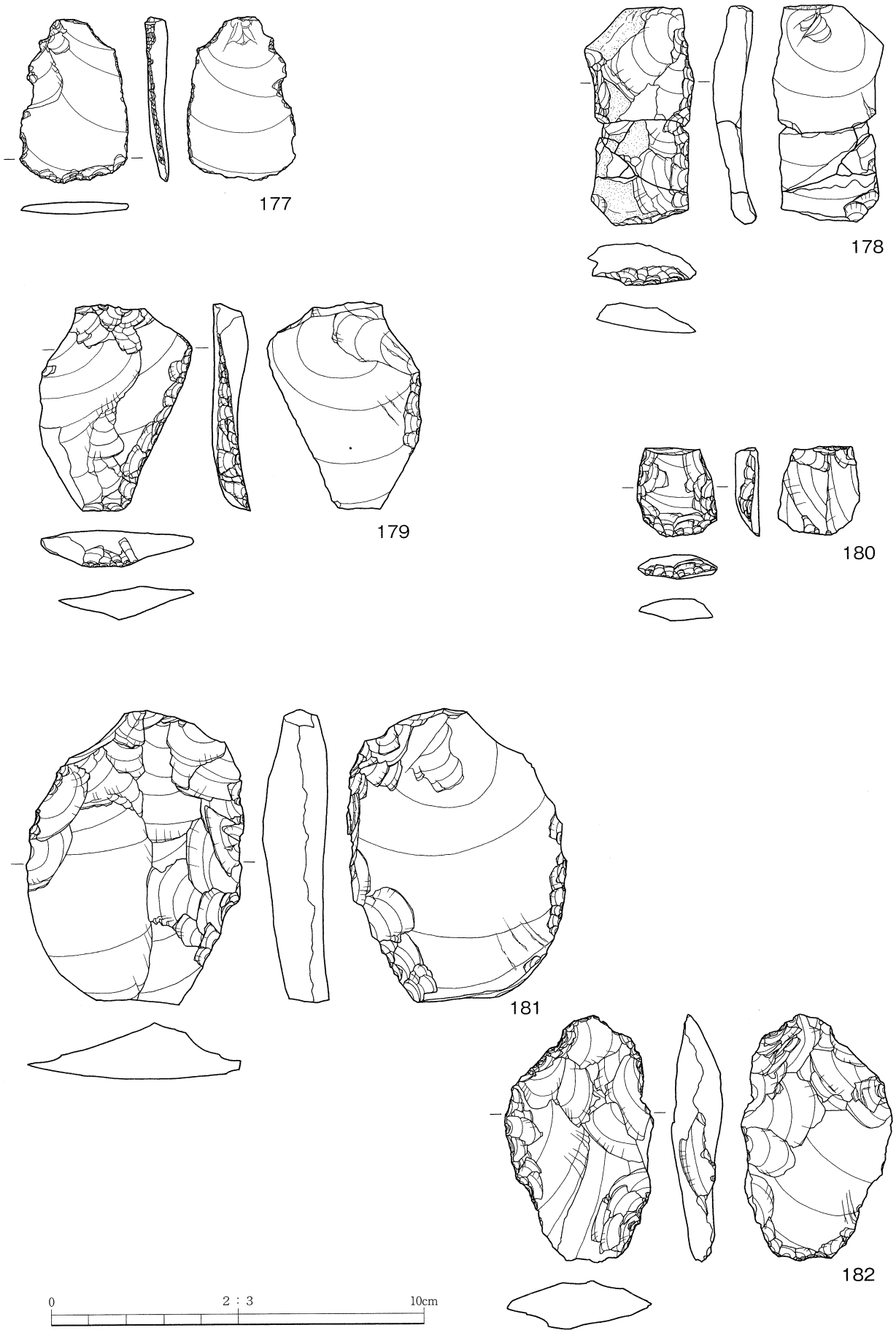



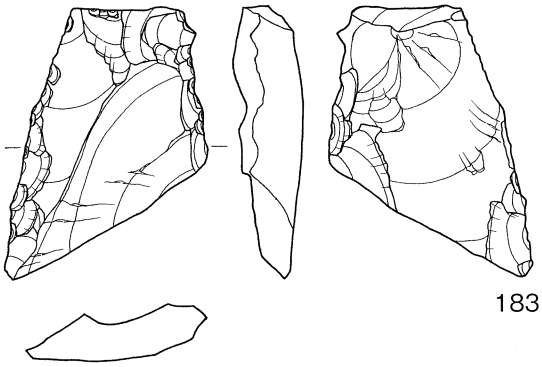



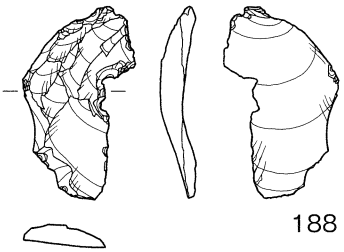



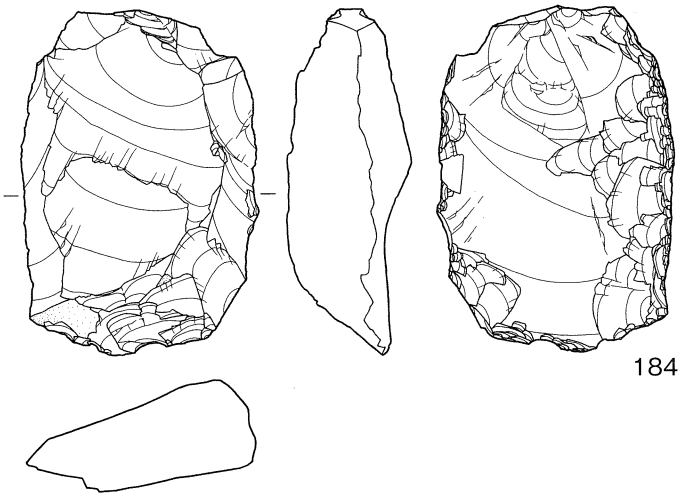

第42図　縄文時代の遺物（7）

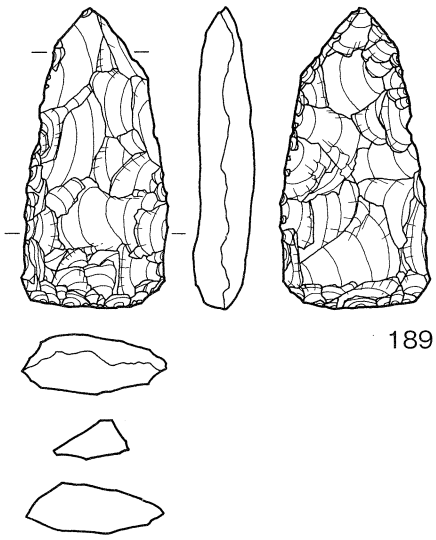


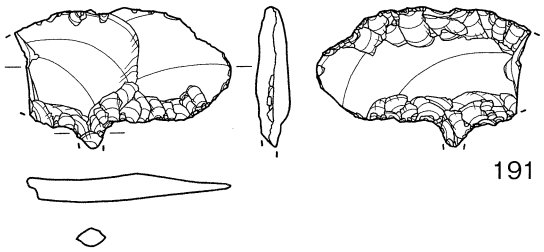

第43図　縄文時代の遺物（8）

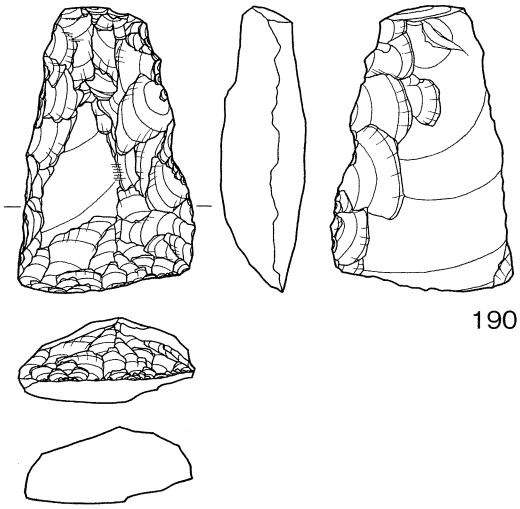


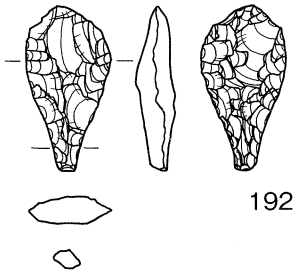



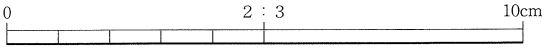



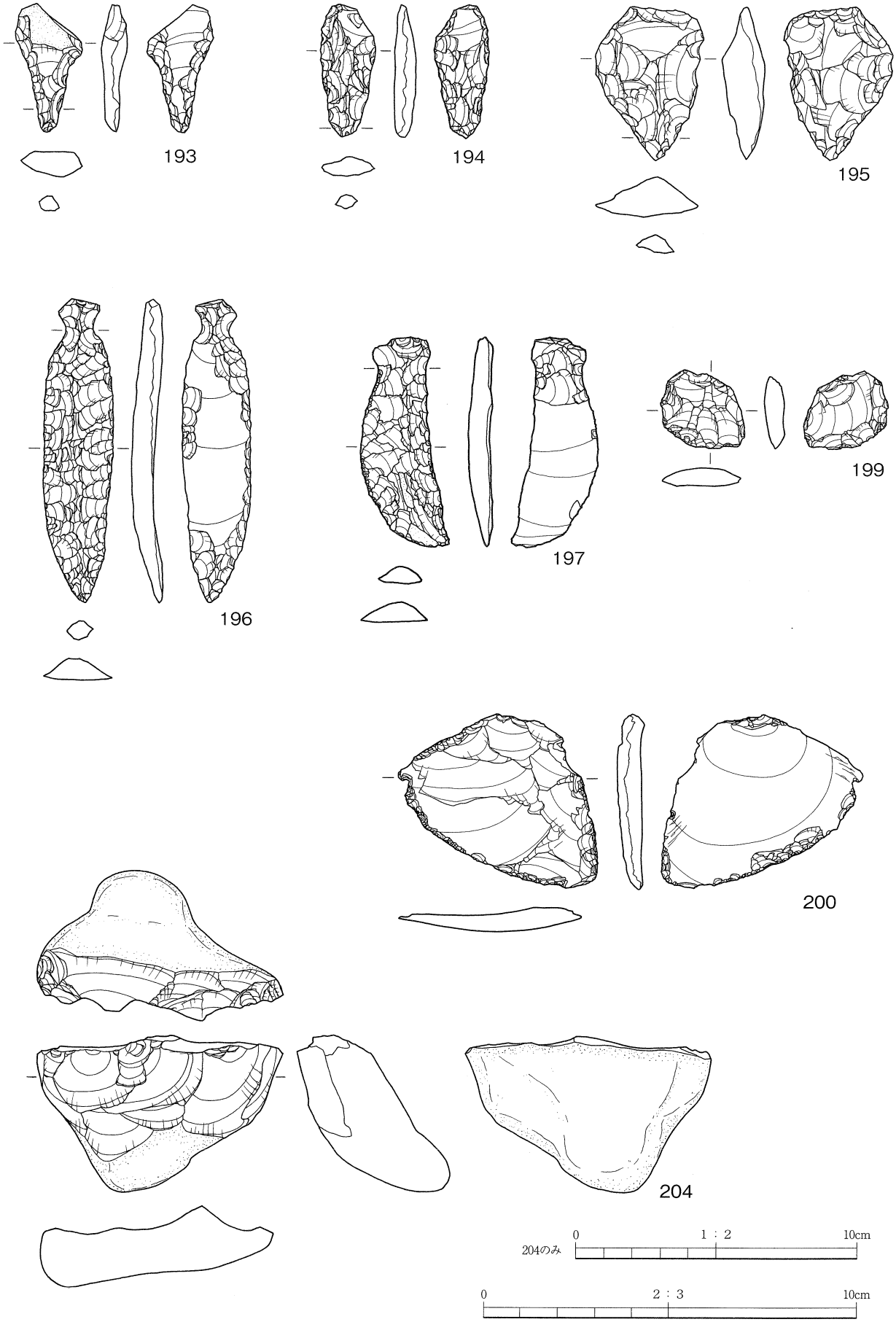



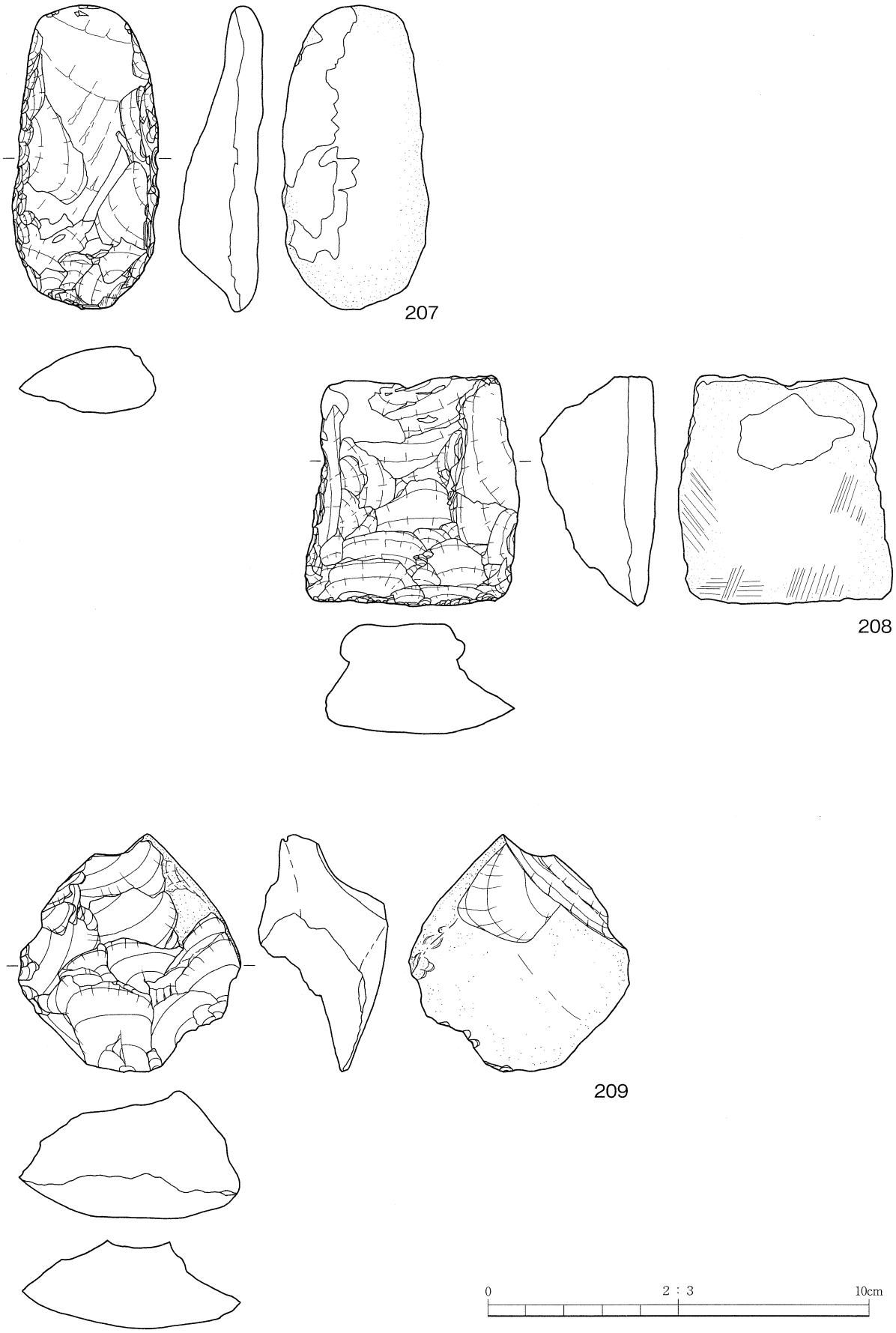



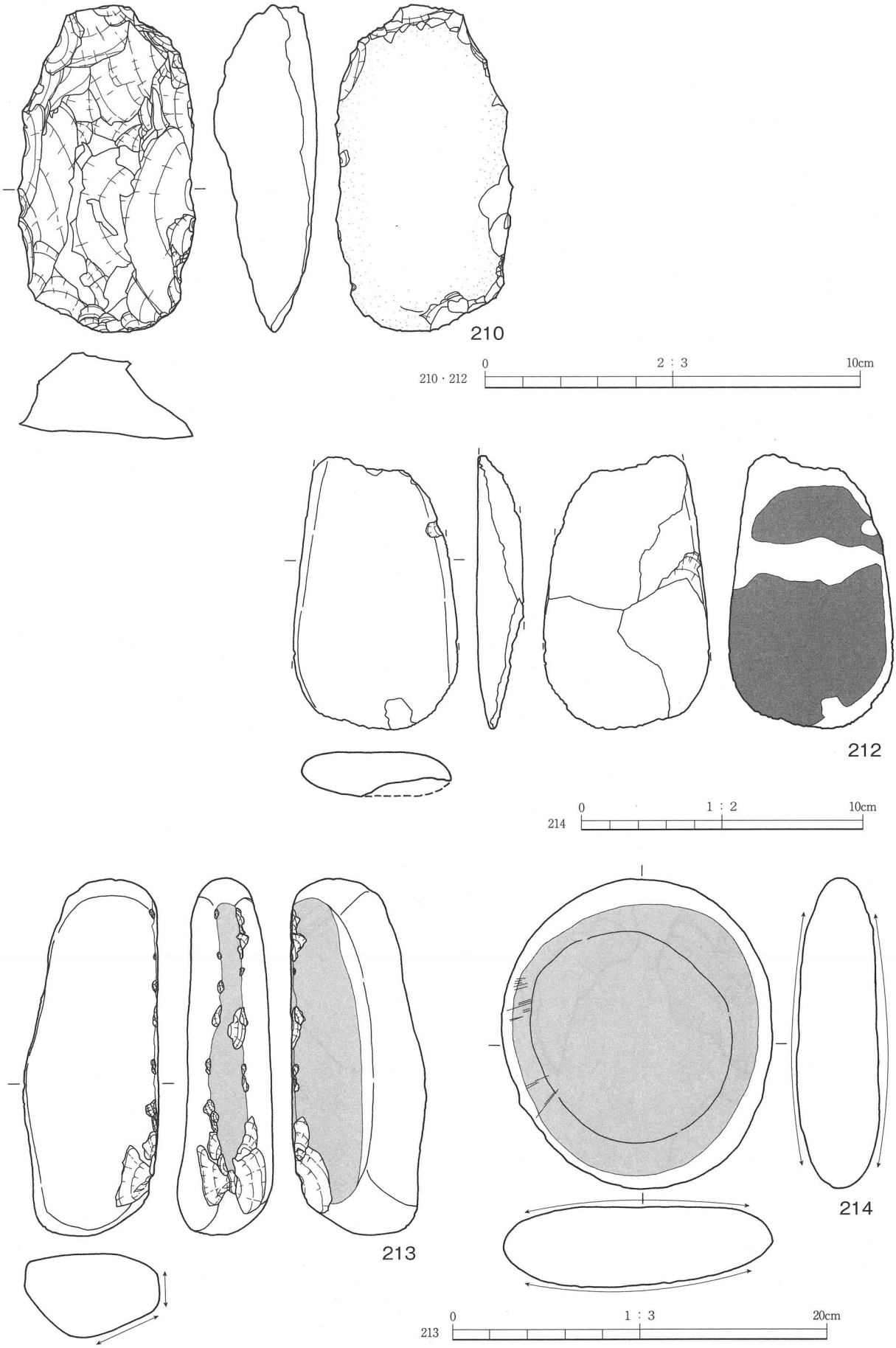

第44図　縄文時代の遺物（9）



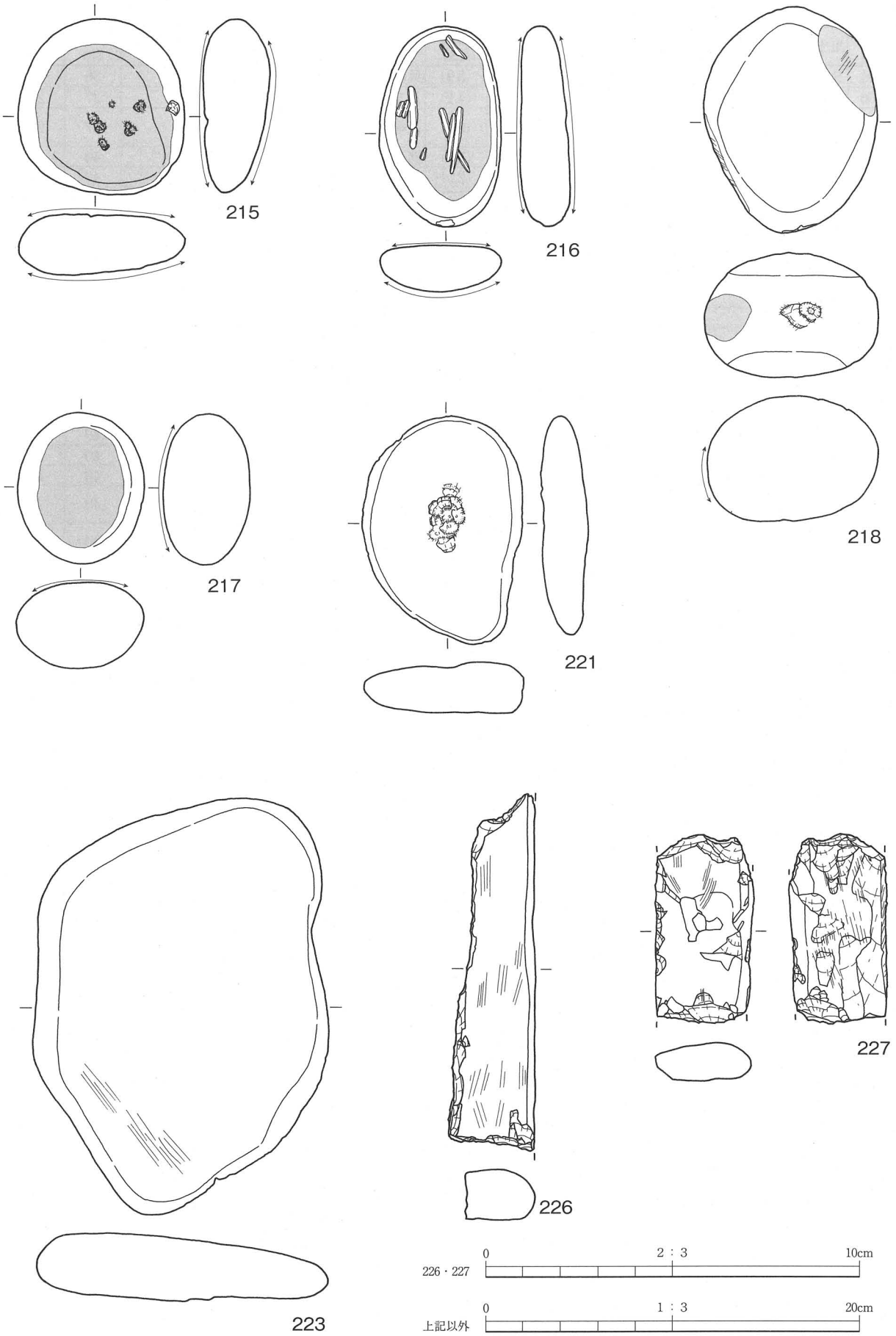

第45図　縄文時代の遺物（10）




第46図　縄文時代の遺物（11）




第47図　縄文時代の遺物（12）




第48図　縄文時代の遺物（13）

第23表　土器観察表（縄文時代）

| 掲載No | 出土地点・層位 | 器種 | 部位 | 器高(cm) | 文様等 | 備　考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 101 | ＳＫ02　埋上 | 深鉢 | 体 | (3.9) | 貝殻腹縁文、沈線文、刺突 | | 36 | 21 |
| 106 | Ｓｂ05ｂ（Ｃ21）　Ⅵ層（200） | 深鉢 | 体 | (4.1) | Ｒヨコ | | 37 | 21 |
| 109 | Ｓｂ05ｃ（Ｃ23）　Ⅵ層（332）<br>Ｅ区　撹乱層 | 深鉢 | 体 | (6.3) | 沈線文 | | 37 | 21 |
| 134 | Ｓｂ07（Ａ19）　Ⅵ層（154） | 深鉢 | 体 | (3.7) | 撚糸文 | | 40 | 22 |
| 135 | Ａ24　Ⅵ層（468） | 深鉢 | 体 | (2.5) | 貝殻文、沈線文 | | 40 | 22 |
| 136 | Ｄ　Ⅴ層 | 深鉢 | 体 | (5.7) | 貝殻腹縁文、沈線文、刺突 | | 40 | 22 |
| 137 | Ｄ　Ⅴ層 | 深鉢 | 体 | (4.2) | 貝殻腹縁文、沈線文、刺突 | | 40 | 23 |
| 138 | Ｄ　Ⅴ層 | 深鉢 | 体 | (3.8) | 沈線文 | | 40 | 23 |
| 139 | Ｄ区　Ⅳ層 | 深鉢 | 体 | (3.5) | 沈線文 | | 40 | 23 |
| 140 | Ｄ区　Ⅲ層 | 深鉢 | 体 | (2.4) | 沈線文 | | 40 | 23 |
| 141 | Ａ区　風倒木 | 深鉢 | 体 | (2.2) | 沈線文、刺突 | | 40 | 23 |
| 142 | Ｄ区　Ⅴ層 | 深鉢 | 体 | (3.0) | 貝殻腹縁文、刺突 | | 40 | 23 |
| 143 | Ｃ　Ⅴ層 | 深鉢 | 体 | (2.4) | 貝殻腹縁文、刺突 | | 40 | 23 |
| 144 | Ｄ区　Ⅳ層 | 深鉢 | 体 | (3.5) | 貝殻腹縁文 | | 40 | 23 |
| 145 | Ｄ区　Ⅲ層 | 深鉢 | 底 | (4.2) | | | 40 | 23 |
| 146 | Ｄ区　風倒木 | 深鉢 | 口 | (3.1) | 外：沈線文<br>内：貝殻腹縁文 | | 40 | 23 |
| 147 | Ｅ区　Ⅲ層 | 深鉢 | 体 | (3.4) | 沈線文 | | 40 | 23 |
| 148 | Ａ区　風倒木 | 深鉢 | 体 | (2.9) | 沈線文 | | 40 | 23 |
| 149 | Ｃ18　Ⅵ層（336） | 深鉢 | 体 | (5.2) | 外・内：ＬＲヨコ | | 40 | 23 |
| 150 | Ｄ　Ⅴ層 | 深鉢 | 体 | (3.5) | 外：ＬＲヨコ・タテ<br>内：ＬＲタテ | | 40 | 23 |
| 151 | ＳＫ04　南埋 | 深鉢 | 口 | (5.1) | 外：ＲＬ＋結節<br>唇：圧痕 | | 40 | 23 |
| 152 | ＳＫＰ09　埋土 | 深鉢 | 口 | (3.0) | ＬＲ＋結節 | 繊維含む | 40 | 23 |
| 153 | ＳＤ03　西３層 | 深鉢 | 口 | (3.8) | ＬＲヨコ | | 40 | 23 |

【出土地点・層位】埋上：埋土上位、南埋：南側埋土、Ｃ：Ｃグリッド、Ｄ：Ｄグリッド
【部位】口：口縁部、体：体部、底：底部　【器高】（　）：残存値
【文様等】外：外面、内：内面、唇：口唇部

中心に施され、右側縁の裏面側は粗い調整のみである。表面のほぼ中央の稜は摩滅しており、着柄痕の可能性が高い。

**錐形石器**（191～195）　191はⅠ類、192～195はⅢ類の錐形石器である。191は横長剥片を素材とする。錐部は両面に、相対する縁辺部は腹面側に二次加工を施している。刃部とつまみ部の一部を欠損している。192は正面観が逆ティアドロップ状を呈するものである。両面とも入念な二次加工が施されている。193は縦長剥片を素材とする。両側縁の両面縁辺部に二次加工を施して錐部を作出している。194は縦長剥片を素材とする。やや粗い二次加工を両面に施して錐部を作出している。195は全体的に調整が粗く、未製品の可能性がある。

**石匙**（196～198）　196・197はⅠ類、198はⅡ類の石匙である。196は背面全面と腹面のつまみ部及び端部に入念な二次加工が施されている。197は、つまみ部以外は背面のみに二次加工が施される。198はつまみ部が欠損したものである。全体的に薄手で、両面に二次加工が施されている。

**楔形石器**（199）　寸詰りの剥片を素材としている。直交する方向にも相対する剥離面が観察され、打撃方向を転移しながら利用している。

**ＲＦ**（200～203）　200はⅢ類のＲＦである。背面のほぼ全縁と腹面の端部に細かな二次加工を施している。201は側縁部の一部しか残存していないため、ＲＦとしたものである。断面形がレンズ状になるような二次加工が意識されており、石鏃や尖頭器等の可能性が想定される。202・203はⅠ類のＲＦである。202は黒曜石製のもので、端部に細かな二次加工が施されている。203は端部の断片的な資料である。左側縁の背面に二次加工が施されている。

**石核**（204～206）　204は掌大の河原石を素材とし、粗い剥離によって打面作出後、作業面を一面に

限定して、同一打面上から小形の不定形剥片を作出している。205は厚手の剥片剥離工程初期段階の剥片を素材とする石核である。素材剥片背面を打面、素材剥片腹面を作業面に限定して、小形の不定形剥片を作出している。素材剥片端部から打面側に向かって剥片剥離を行っている。206は掌に収まる大きさの礫を素材とした石核で、素材の厚みを減じるように剥片剥離を行っている。素材礫の大きさがあまり減じていないため、目的剥片の剥離はほとんど行われていないことが窺える。目的剥片は204や205と同じく、小形の不定形剥片である。

**石斧**（207～212）　207は凝灰岩製、208・210はホルンフェルス製、209は頁岩製の片面に素材礫の礫面をそのまま残置する「礫石斧」と呼称されるものである。207は短冊状を呈し、刃部には器長にほぼ平行する使用痕と考えられる線条痕が観察される。208はほぼ方形を呈し、裏面に線条痕が観察される。211は凝灰岩製の大形の石斧で、基部を欠損している。器面の損傷が激しく、部分的にしか研摩痕が観察されない。212はデイサイト製の石斧で、片面の中間部しか残存していない。片面の広範囲にスス状の付着物が観察できるが、中央部のみ帯状に付着物が見られない部分があり、柄が装着されたまま、被熱した可能性が想定される。

**磨石**（213～220）　213・219はデイサイト製で、特殊磨石といわれる、側面に平坦な磨面をもつ石器である。213には一部に剥離痕が残置している。214は扁平な円形の河原石を利用したデイサイト製の磨石である。使用面は表裏２面で、表側の縁辺部に線状痕が観察される。215～217は掌に収まるサイズの河原石を利用したもので、215は閃緑岩製、216・217は安山岩製である。215・216の使用面は表裏２面、217は表面のみである。218は楕円形の河原石を利用した安山岩製の磨石で、相対する側縁の一部に使用面、一端には敲打痕が観察される。220は楕円形の河原石を利用したデイサイト製の磨石である。使用面は一面である。

**凹石**（221）　掌に収まるサイズの河原石を利用したもので、一面の中央部に凹部が形成されている。

**敲石**（222）　棒状の礫を利用したデイサイト製の敲石である。一端部には敲打痕とともに剥離痕も観察される。

**台石**（223・224）　223は扁平な礫を利用したデイサイト製の台石で、使用面は一面である。224はブロック状の礫を利用したデイサイト製の台石で使用面は一面である。

**砥石**（225）　ホルンフェルス製の砥石で、両面とも非常に平滑になっている。

**石製品**（226～228）　３点とも欠損している。226・227は両面とも入念な研磨調整が行われ、明瞭な線状痕が観察される。228は研磨痕が観察されるものの、非常に粗雑で、未製品の可能性が高い。

### （5）接　合　資　料

**接合資料11**（写真図版27）　122・229・230の３点が接合したものである。円礫を素材とする。礫面をそのまま打面として、229→230→122の順で剥片剥離を行っている。

第24表　石器観察表（縄文時代１）

| 掲載No | 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 分類 | 備　考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 102 | | ＰＯ | ＳＫ02 | 埋上 | | sh | Ｄａ | | 未製品か | 36 | 21 |
| 103 | 373 | ＡＸ | Ｂ５ | Ⅵ層 | 5a | serp | | | 一面に敲打痕 | 36 | 21 |
| 104 | 173 | ＧＳ | Ｂ５ | Ⅵ層 | 5a | dio | | Ⅰ | | － | 21 |
| 105 | 174 | ＷＳ | Ｂ５ | Ⅵ層 | 5a | tuf | | Ⅲ | | 36 | 21 |
| 107 | 480 | ＳＡＲ | Ｃ16 | Ⅵ層 | 5b | sh | Ｄａ | Ⅰ | | 37 | 21 |
| 108 | 182 | ＲＦ | Ｃ21 | Ⅵ層 | 5b | sh | Ｅａ | Ⅰ | 直接打撃か | 37 | 21 |
| 110 | 338 | ＳＡＲ | Ｃ24 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｄａ | Ⅲ | | 37 | 21 |
| 111 | 306 | ＳＡＲ | Ｃ23 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｃａ | Ⅶ | | 37 | 21 |
| 112 | 256 | ＥＳ | Ｃ22 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｃａ | Ⅰ | 一部はじけ | 37 | 21 |
| 113 | 258 | ＳＳ | Ｃ22 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｄａ | Ⅱ | | 37 | 21 |
| 114 | 328 | ＳＳ | Ｃ23 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｃａ | Ⅱ | 縦長剥片素材、立位（328） | 38 | 21 |
| | 527 | ＳＳ | Ｃ23 | ⅦＡ層 | | | | | | | |
| 115 | 416 | ＳＳ | Ｃ23 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ａｂ | Ⅱ | 立位 | 38 | 21 |
| 116 | 265 | ＲＦ | Ｃ22 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 38 | 21 |
| 117 | 418 | ＲＦ | Ｃ23 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｃａ | Ⅱ | 立位 | 38 | 21 |
| 118 | 293 | ＲＦ | Ｃ23 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｄａ | Ⅲ | 立位 | 38 | 22 |
| 119 | 298 | ＲＦ | Ｃ23 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｃａ | Ⅲ | はじけ | 38 | 22 |
| 120 | 315 | ＲＦ | Ｃ23 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 38 | 22 |
| 121 | 316 | ＲＦ | Ｃ23 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ｃａ | Ⅰ | | － | 22 |
| 122 | 486 | Ｆ | Ｃ22 | Ⅵ層 | 5c | sh | Ａａ | | 接合資料11 | － | 22 |
| 123 | 191 | ＡＸｐ | Ｃ21 | Ⅵ層 | 5c | tuf | | | | 38 | 22 |
| 124 | 337 | ＨＳ | Ｃ24 | Ⅵ層 | 5c | gradio | | （Ⅰ） | | 38 | 22 |
| 125 | 277 | ＰＯ | Ｄ２ | Ⅵ層 | 5d | sh | Ｃａ | | | 39 | 22 |
| 126 | 457 | ＲＦ | Ｄ２ | Ⅵ層 | 5d | sh | Ｃａ | Ⅰ | | － | 22 |
| 127 | 205 | ＡＸｐ | Ｄ１ | Ⅵ層 | 5d | tuf | | | | 39 | 22 |
| 128 | 423 | ＧＳ | Ｄ１ | Ⅵ層 | 5d | dac | | Ⅰ | | 39 | 22 |
| 129 | 281 | ＧＳ | Ｄ２ | Ⅵ層 | 5d | an | | Ⅱ | 使用面三面 | 39 | 22 |
| 130 | 425 | ＧＳ | Ｄ２ | Ⅵ層 | 5d | dac | | Ⅰ | | 39 | 22 |
| 131 | 280 | ＨＳ | Ｄ２ | Ⅵ層 | 5d | dac | | Ⅰ | | － | 22 |
| 132 | 62 | ＵＦ | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｅａ | Ⅰ | | 39 | 22 |
| 133 | 92 | Ｆ | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ａａ | | | － | 22 |
| 154 | 488 | ＳＡＲ | Ｄ２ | Ⅵ層 | | sh | Ｄａ | Ⅰ | | 41 | 23 |
| 155 | | ＳＡＲ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 41 | 23 |
| 156 | | ＳＡＲ | Ｄ区 | Ⅳ層 | | ob | | Ⅰ | | 41 | 23 |
| 157 | | ＳＡＲ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｃａ | Ⅱ | | 41 | 23 |
| 158 | | ＳＡＲ | Ｄ区 | Ⅱ層 | | sh | Ｄａ | Ⅲａ | | 41 | 23 |
| 159 | | ＳＡＲ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｆａ | Ⅲｂ | | 41 | 23 |
| 160 | | ＳＡＲ | ＳＤ02 | １ｂ層 | | sh | Ｃａ | Ⅳ | | 41 | 23 |
| 161 | | ＳＡＲ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｃａ | Ⅴ | | 41 | 23 |
| 162 | | ＳＡＲ | Ｄ区 | 風倒木 | | sh | Ａａ | Ⅵ | | 41 | 23 |
| 163 | 70 | ＰＯ | Ｃ24 | Ⅵ層 | | sh | Ｄａ | | | 41 | 23 |
| 164 | | ＰＯ | Ｄ区 | 撹乱層 | | sh | Ｃａ | | | 41 | 23 |
| 165 | | ＰＯ | ＳＤ02 | ６層 | | sh | Ｃａ | | | 41 | 23 |
| 166 | | ＰＯ | Ｄ区 | Ⅳ層 | | sh | Ｄａ | | | 41 | 23 |
| 167 | | ＰＯ | Ｅ区 | Ⅳ層 | | sh | Ｃａ | | | － | 23 |
| 168 | | ＥＳ | Ｅ区 | Ⅳａ層 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 42 | 24 |
| 169 | | ＥＳ | ＳＤ02 | ６層 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 42 | 24 |
| 170 | | ＥＳ | Ｄ区 | Ⅱ層 | | sh | Ａａ | Ⅰ | | 42 | 24 |
| 171 | | ＥＳ | Ｔ４ | 撹乱層 | | sh | Ｂａ | Ⅰ | | 42 | 24 |
| 172 | | ＥＳ | ＳＫ04 | 南埋土 | | sh | Ｄａ | Ⅰ | | 42 | 24 |
| 173 | | ＥＳ | Ｅ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｃａ | Ⅱ | | 42 | 24 |
| 174 | | ＥＳ | Ｄ区 | 撹乱層 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 42 | 24 |
| 175 | | ＥＳ | Ｃ | Ⅴ層 | | sh | Ｄａ | Ⅰ | | － | 24 |
| 176 | | ＥＳ | Ｄ区 | Ⅳ層 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | | － | 24 |
| 177 | | ＥＳＳ | ＳＤ03 | 東埋下 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 43 | 24 |
| 178 | | ＥＳＳ | Ｄ区 | Ⅱ層 | | sh | Ｃａ | Ⅲ | | 43 | 24 |
| 179 | | ＥＳＳ | Ｄ区 | Ⅱ層 | | sh | Ｃａ | Ⅲ | | 43 | 24 |
| 180 | | ＥＳＳ | Ｃ | Ⅴ層 | | sh | Ｄａ | Ⅳ | | 43 | 24 |
| 181 | | ＳＳ | Ｄ区 | Ⅱ層 | | hor | | Ⅱ | | 43 | 24 |
| 182 | | ＳＳ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｄａ | Ⅱ | | 43 | 24 |
| 183 | | ＳＳ | Ｄ区 | Ⅱ層 | | sh | Ｅａ | Ⅱ | | 44 | 24 |
| 184 | | ＳＳ | ＳＤ02 | ６層 | | sh | Ｄａ | Ⅱ | | 44 | 24 |
| 185 | | ＳＳ | Ｄ区 | Ⅱ層 | | sh | Ｅａ | Ⅱ | | － | 24 |

第24表　石器観察表（縄文時代２）

| 掲載No | 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 分類 | 備　考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 186 | | ＳＳ | ＳＤ02 | 東１層 | | sh | Ｃａ | Ⅱ | | － | 24 |
| 187 | | ＳＳ | ＳＤ02 | ２層 | | sh | Ｃａ | Ⅱ | | － | 24 |
| 188 | | ＮＯ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ａａ | | | 44 | 24 |
| 189 | | ＳＳＰ | ＳＤ02 | ３層 | | sh | Ｄａ | | | 44 | 25 |
| 190 | | ＳＳＰ | Ｄ区 | Ⅱ層 | | sh | Ｅａ | | | 44 | 25 |
| 191 | | ＳＡＷ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | 横長剥片素材 | 44 | 25 |
| 192 | | ＳＡＷ | Ｄ区 | Ⅳ層 | | sh | Ｃａ | Ⅲ | | 44 | 25 |
| 193 | | ＳＡＷ | ＳＤ03 | 西埋下 | | sh | Ｅａ | Ⅲ | | 45 | 25 |
| 194 | | ＳＡＷ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｂａ | Ⅲ | | 45 | 25 |
| 195 | | ＳＡＷ | Ｄ | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | Ⅲ | 未製品か | 45 | 25 |
| 196 | | ＴＳＳ | Ｃ22 | 撹乱層 | | sh | Ｄａ | Ⅰ | | 45 | 25 |
| 197 | | ＴＳＳ | ＳＤ03 | 西埋上 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | | 45 | 25 |
| 198 | | ＴＳＳ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｄａ | Ⅱ | | － | 25 |
| 199 | | ＰＡ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｃａ | | | 45 | 25 |
| 200 | | ＲＦ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | sh | Ｄａ | Ⅲ | | 45 | 25 |
| 201 | | ＲＦ | Ｃ | Ⅴ層 | | ob | | － | | － | 25 |
| 202 | | ＲＦ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | ob | | Ⅰ | | － | 25 |
| 203 | 272 | ＲＦ | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | Ⅰ | | － | 25 |
| 204 | | ＣＯ | ＳＩ01 | ２層 | | sh | Ｅａ | | | 45 | 25 |
| 205 | | ＣＯ | ＳＤ03 | 東２層 | | sh | Ｅａ | | 剥片素材 | － | 25 |
| 206 | | ＣＯ | ＳＤ03 | 埋土 | | sh | Ａａ | | | － | 25 |
| 207 | | ＡＸｃ | Ｃ22 | Ⅴ層 | | tuf | | | 風化が著しい | 46 | 26 |
| 208 | | ＡＸｃ | Ｄ | Ⅴ層 | | hor | | | | 46 | 26 |
| 209 | | ＡＸｃ | Ａ | Ⅴ層 | | sh | Ａａ | | | 46 | 26 |
| 210 | | ＡＸｃ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | hor | | | | 47 | 26 |
| 211 | | ＡＸｐ | ＳＤ03 | 西１層 | | tuf | | | | － | 26 |
| 212 | | ＡＸ | ＳＤ03 | 西３層 | | dac | | | | 47 | 26 |
| 213 | | ＧＳ | Ｃ22 | 撹乱層 | | dac | | Ⅳ | | 47 | 26 |
| 214 | | ＧＳ | ＳＤ03 | 底直 | | dac | | Ⅰ | 円形 | 47 | 26 |
| 215 | | ＧＳ | Ｃ区 | Ⅸ層 | | dio | | Ⅲ | | 48 | 26 |
| 216 | | ＧＳ | ＳＤ02 | 西５層 | | an | | Ⅰ | 楕円形 | 48 | 26 |
| 217 | | ＧＳ | ＳＤ03 | 西埋上 | | an | | Ⅰ | 楕円形 | 48 | 26 |
| 218 | | ＧＳ | Ａ | Ⅴ層 | | an | | Ⅱ | | 48 | 26 |
| 219 | | ＧＳ | Ｃ | Ⅴ層 | | dac | | Ⅳ | | － | 26 |
| 220 | | ＧＳ | ＳＤ02 | ６層 | | dac | | Ⅰ | 楕円形 | － | 26 |
| 221 | | ＳＷＩ | ＳＤ03 | 西埋下 | | an | | | 楕円形 | 48 | 27 |
| 222 | | ＨＳ | Ｅ区 | Ⅲ層 | | dac | | Ⅰ | | － | 27 |
| 223 | | ＡＳ | Ｃ | Ⅴ層 | | dac | | Ⅰ | | 48 | 27 |
| 224 | | ＡＳ | ＳＤ03 | 東３層 | | dac | | Ⅰ | | － | 27 |
| 225 | | ＷＳ | Ｄ | Ⅴ層 | | hor | | Ⅲ | | － | 27 |
| 226 | | ＳＭＯ | Ｄ区 | 撹乱層 | | sh | | Ⅰ | | 48 | 27 |
| 227 | | ＳＭＯ | Ｄ区 | Ⅲ層 | | tuf | | Ⅰ | 未製品 | 48 | 27 |
| 228 | | ＳＭＯ | Ｄ区 | Ⅱ層 | | sh | | Ⅱ | 未製品か | － | 27 |
| 229 | 405 | Ｆ | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ａａ | | 接合資料11 | － | 27 |
| 230 | | ＲＦ | Ｃ22 | 撹乱層 | | sh | Ａａ | Ⅱ | 接合資料11 | － | 27 |

【位置】Ａ：Ａグリッド、Ｂ：Ｂグリッド、Ｃ：Ｃグリッド、Ｄ：Ｄグリッド
【出土層位】東埋下：東側埋土下位、西埋下：西側埋土下位、西埋上：西側埋土上位
底直：底面直上
【石材】an：安山岩、dac：デイサイト、dio：閃緑岩、gradio：花崗閃緑岩
hor：ホルンフェルス、ob：黒曜石、serp：蛇紋岩、sh：頁岩
tuf：凝灰岩

## 第25表　石器計測表（縄文時代）

| 掲載No | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 102 | (5.97) | (3.78) | (0.92) | | | 15.21 |
| 103 | (11.52) | (8.24) | (4.61) | | | 596.10 |
| 104 | 17.18 | 5.61 | 5.15 | | | 463.51 |
| 105 | (14.80) | (7.15) | (7.60) | | | 1002.50 |
| 107 | 2.34 | 1.61 | 0.51 | | | 1.76 |
| 108 | 9.70 | (11.09) | 2.35 | 100 | | 129.30 |
| 110 | 2.23 | 1.59 | 0.27 | | | 0.65 |
| 111 | 3.53 | 2.05 | 0.82 | | | 5.47 |
| 112 | (3.61) | 3.47 | (0.62) | 100 | 70 | 4.97 |
| 113 | 7.28 | 3.06 | 1.37 | | 59 | 26.41 |
| 114 | (4.88) | (2.75) | (0.52) | | 40 | 6.54 |
| 115 | 5.21 | (3.48) | 0.95 | 111 | 42 | 14.37 |
| 116 | 5.25 | (5.96) | (1.04) | | | 12.76 |
| 117 | (3.58) | (2.56) | (0.55) | | | 3.81 |
| 118 | 2.98 | (2.21) | (0.50) | | | 2.67 |
| 119 | 2.28 | (2.39) | 0.39 | 123 | | 1.30 |
| 120 | (1.61) | (1.96) | (0.59) | | | 1.59 |
| 121 | (3.05) | (2.67) | (0.55) | | | 4.87 |
| 122 | (4.09) | (3.59) | (1.18) | 102 | | 10.38 |
| 123 | (5.53) | (2.95) | (1.14) | | | 26.90 |
| 124 | (9.10) | (4.81) | (3.40) | | | 218.10 |
| 125 | (6.20) | 4.68 | (1.16) | | | 27.34 |
| 126 | (1.20) | (1.46) | (0.38) | 134 | | 0.45 |
| 127 | (4.66) | (3.13) | (1.04) | | | 17.36 |
| 128 | 4.72 | 4.37 | 1.82 | | | 46.40 |
| 129 | 13.60 | (8.25) | (7.85) | | | 947.90 |
| 130 | 7.96 | 3.99 | 2.57 | | | 99.80 |
| 131 | 11.27 | 6.12 | 4.52 | | | 341.31 |
| 132 | 5.05 | 4.16 | 0.85 | 123 | | 7.38 |
| 133 | 4.61 | 3.50 | 1.02 | 110 | | 15.55 |
| 154 | 1.90 | 1.08 | 0.32 | | | 0.60 |
| 155 | (2.10) | (1.46) | (0.36) | | | 1.00 |
| 156 | 1.55 | 1.05 | 0.23 | | | 0.33 |
| 157 | (1.56) | 1.48 | 0.36 | | | 0.69 |
| 158 | (3.97) | (2.40) | 0.47 | | | 3.01 |
| 159 | 3.06 | 1.07 | 0.42 | | | 1.27 |
| 160 | (2.57) | 1.04 | 0.37 | | | 0.81 |
| 161 | (2.76) | 1.38 | 0.44 | | | 1.40 |
| 162 | (2.04) | 1.05 | (0.27) | | | 0.49 |
| 163 | 9.56 | 2.78 | 0.65 | | | 15.23 |
| 164 | (5.59) | (3.17) | (0.69) | | | 10.41 |
| 165 | (4.91) | (2.12) | (0.71) | | | 7.07 |
| 166 | (4.99) | (2.86) | (0.85) | | | 10.40 |
| 167 | (4.88) | (4.42) | (0.82) | | | 12.50 |
| 168 | 3.86 | 2.89 | 0.99 | 96 | 66 | 6.93 |
| 169 | 3.32 | 5.09 | 0.94 | 103 | 66 | 15.26 |
| 170 | (5.50) | 2.69 | (0.85) | | 62 | 8.00 |
| 171 | 5.85 | 5.58 | 1.66 | 107 | 59 | 57.90 |
| 172 | 4.50 | 3.40 | 0.82 | 115 | 56 | 10.20 |
| 173 | 3.93 | (3.37) | 0.73 | 97 | 54 | 9.34 |
| 174 | 3.08 | (3.49) | (0.68) | | 63 | 7.24 |
| 175 | (1.79) | (2.33) | (1.46) | | 78 | 3.98 |
| 176 | 3.73 | 3.67 | 0.81 | 103 | 73 | 5.74 |
| 177 | 4.47 | 2.86 | 0.63 | 99 | 61・87 | 6.80 |
| 178 | 5.89 | 2.94 | 1.11 | 98 | 79・45 | 13.63 |
| 179 | 5.57 | (4.10) | (0.99) | 104 | 63・60 | 18.22 |
| 180 | (2.39) | (2.12) | (0.64) | | 56・57 | 3.73 |
| 181 | (7.92) | 5.85 | 1.76 | 113 | 45 | 73.72 |
| 182 | 6.64 | (3.99) | 1.45 | | 48 | 28.71 |
| 183 | (5.36) | (3.97) | (1.32) | 117 | 55 | 18.23 |
| 184 | 6.85 | 4.65 | 2.45 | 98 | 75 | 69.10 |
| 185 | 3.27 | 3.16 | 0.93 | 102 | 82 | 7.10 |
| 186 | (4.59) | (2.75) | (1.02) | | 58 | 13.33 |
| 187 | (4.56) | (3.01) | (0.81) | 119 | 56 | 7.85 |
| 188 | 3.76 | 2.18 | 0.71 | | 61 | 2.85 |
| 189 | 5.96 | 2.81 | 1.20 | | 67 | 17.93 |
| 190 | 5.62 | 3.48 | 1.68 | 106 | 57 | 31.63 |
| 191 | (2.81) | (4.21) | (0.68) | | | 6.14 |
| 192 | (3.24) | 1.66 | 0.73 | | | 2.99 |
| 193 | (3.46) | (1.75) | (0.72) | | | 2.98 |
| 194 | (3.60) | 1.43 | 0.57 | | | 2.82 |
| 195 | 4.13 | 2.94 | 1.11 | | | 10.18 |
| 196 | 8.22 | 1.86 | 0.84 | | | 9.85 |
| 197 | 5.67 | 2.32 | 0.66 | | | 6.76 |
| 198 | (4.02) | (5.91) | (0.89) | | | 15.90 |
| 199 | 2.11 | 2.31 | 0.58 | | | 2.61 |
| 200 | (4.71) | (5.31) | 0.68 | 136 | | 14.50 |
| 201 | (3.59) | (1.03) | (0.47) | | | 1.44 |
| 202 | (1.47) | (2.09) | (0.38) | | | 0.80 |
| 203 | (3.95) | (4.17) | (1.59) | | | 21.18 |
| 204 | 5.62 | 8.81 | 5.45 | | | 160.90 |
| 205 | (2.64) | (8.53) | (4.84) | | | 83.25 |
| 206 | 2.97 | 8.96 | 5.39 | | | 158.21 |
| 207 | 8.01 | 3.83 | 2.11 | | 36 | 61.24 |
| 208 | 6.08 | 5.57 | 3.02 | | 49 | 107.82 |
| 209 | (6.25) | (5.80) | (3.36) | | 37 | 78.17 |
| 210 | 8.83 | 4.73 | 2.72 | | 49 | 117.62 |
| 211 | (16.03) | 10.20 | (3.85) | | 63 | 742.90 |
| 212 | (9.78) | (5.85) | (1.69) | | | 67.00 |
| 213 | 19.10 | 7.20 | 5.10 | | | 900.80 |
| 214 | 11.06 | 9.57 | 2.94 | | | 424.90 |
| 215 | 9.47 | 8.88 | 3.56 | | | 406.92 |
| 216 | 10.82 | 6.53 | 2.71 | | | 253.10 |
| 217 | 8.09 | 6.78 | 4.64 | | | 364.90 |
| 218 | 12.18 | 9.26 | 6.67 | | | 992.64 |
| 219 | 15.16 | 5.53 | 4.81 | | | 462.73 |
| 220 | 11.51 | 8.40 | 5.34 | | | 678.60 |
| 221 | 12.26 | 8.60 | 2.72 | | | 398.62 |
| 222 | 14.64 | 4.79 | 3.05 | | | 264.80 |
| 223 | 22.35 | 15.95 | 4.30 | | | 1965.90 |
| 224 | 18.47 | 10.55 | 6.50 | | | 1976.63 |
| 225 | (20.26) | (5.16) | (3.40) | | | 567.21 |
| 226 | (9.57) | (2.33) | (1.41) | | | 49.45 |
| 227 | (5.06) | (2.53) | (1.07) | | | 22.60 |
| 228 | (12.32) | (2.87) | (1.38) | | | 72.81 |
| 229 | 7.60 | 6.95 | 2.77 | 107 | | 107.59 |
| 230 | (3.31) | (3.45) | (1.01) | | | 8.14 |

【刃部角】数字が２つの場合は前が端部・後ろが側縁部の角度

第26表　表掲載石器観察表（縄文時代１）

| 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) | 分類 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45 | F | 凸区 | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | 3.99 | 4.45 | 0.83 | 104 | | 7.90 | | |
| 46 | F | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | 1.57 | 1.46 | 0.36 | 133 | | 0.57 | | |
| 47 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (1.16) | 0.86 | 0.27 | 124 | | 0.17 | | |
| 48 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (1.38) | (1.17) | (0.24) | | | 0.19 | | はじけ |
| 49 | C | 凸区 | Ⅵ層 | | sh | Ｄａ | (0.70) | (1.07) | (0.08) | | | 0.06 | | |
| 50 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | (0.93) | (0.96) | (0.14) | | | 0.15 | | |
| 51 | F | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | (1.90) | (1.01) | (0.19) | | | 0.24 | | |
| 52 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ａａ | (0.70) | (1.07) | (0.09) | | | 0.07 | | |
| 53 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | (0.52) | (0.66) | (0.09) | | | 0.01 | | |
| 54 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | (1.22) | (0.96) | (0.23) | | | 0.13 | | |
| 55 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (1.37) | (1.41) | (0.39) | | | 0.31 | | はじけ |
| 56 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ａａ | (0.67) | (0.92) | (0.14) | | | 0.06 | | はじけ |
| 57 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | (0.71) | (1.20) | (0.11) | | | 0.09 | | |
| 58 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (0.87) | (1.21) | (0.13) | | | 0.08 | | |
| 59 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | (1.33) | (1.40) | (0.25) | | | 0.19 | | |
| 60 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (0.73) | (1.30) | (0.15) | | | 0.13 | | |
| 61 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | (1.31) | (0.55) | (0.17) | | | 0.10 | | |
| 63 | F | 凸区 | 根撹乱（Ⅵ層面） | | sh | Ｃａ | (3.36) | (2.22) | (0.57) | | | 1.78 | | |
| 64 | C | 凸区 | 根撹乱（Ⅵ層面） | | sh | Ａａ | | | | | | 0.21 | | |
| 65 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (1.43) | 1.07 | 0.47 | 124 | | 0.43 | | |
| 66 | F | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | 1.83 | 1.61 | 0.41 | 123 | | 1.01 | | |
| 67 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | gtuf | | | | | | | 0.41 | | |
| 68 | F | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｂａ | (1.44) | (1.79) | (0.41) | | | 0.57 | | |
| 69 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ａａ | | | | | | 0.37 | | |
| 73 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ａａ | | | | | | 0.03 | | |
| 75 | F | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (1.27) | (1.75) | (0.47) | 121 | | 0.97 | | |
| 76 | F | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | (1.52) | (1.10) | (0.26) | | | 0.50 | | |
| 79 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (1.07) | (1.09) | (0.21) | | | 0.20 | | |
| 80 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｂａ | | | | | | 0.08 | | |
| 81 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | (1.46) | 0.93 | (0.34) | | | 0.24 | | |
| 83 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | | | | | | 0.03 | | |
| 84 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ａａ | | | | | | 0.13 | | |
| 85 | F | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (1.38) | 1.60 | (0.24) | | | 0.42 | | |
| 86 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | (0.59) | (0.35) | (0.06) | | | 0.01 | | |
| 87 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | | | | | | 0.11 | | |
| 88 | F | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | 1.81 | 1.84 | 0.25 | 116 | | 0.51 | | |
| 89 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | | | | | | 0.04 | | |
| 90 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｂａ | | | | | | 0.05 | | |
| 91 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | 0.83 | 1.13 | 0.29 | | | 0.11 | | |
| 93 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｄａ | | | | | | 0.02 | | |
| 94 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | | | | | | 0.10 | | |
| 95 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ａａ | | | | | | 0.15 | | |
| 96 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | | | | | | 0.04 | | |
| 98 | F | Ｅ21 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (1.90) | (1.04) | (0.37) | | | 0.50 | | |
| 99 | C | Ｅ21 | 撹乱 | | sh | Ａａ | | | | | | 0.27 | | |
| 101 | C | Ｅ21 | Ⅳ層 | | sh | Ｃａ | | | | | | 0.06 | | |
| 102 | C | Ｅ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｄａ | | | | | | 0.09 | | |
| 103 | F | Ｅ22 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (1.66) | (1.39) | (0.22) | | | 0.34 | | |
| 105 | C | Ｆ1 | Ⅳ層 | | sh | Ｃａ | | | | | | 0.06 | | |
| 107 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | (1.00) | 1.12 | (0.26) | | | 0.13 | | |
| 108 | C | 凸区 | Ⅵ層 | 6 | sh | Ｃａ | | | | | | 0.07 | | |
| 110 | C | Ｅ22 | Ⅵ層 | | sh | Ｃａ | | | | | | 0.10 | | |
| 111 | C | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ａａ | | | | | | 0.15 | | |
| 112 | C | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ａａ | | | | | | 0.46 | | |
| 113 | F | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ａａ | (2.04) | 1.34 | 0.22 | 118 | | 0.39 | | はじけ、立位 |
| 114 | C | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｄａ | | | | | | 0.03 | | |
| 115 | C | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | | | | | | 0.04 | | |
| 116 | F | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | (2.17) | (2.23) | (0.38) | 111 | | 1.20 | | |
| 117 | F | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | (1.73) | (1.93) | (0.18) | | | 0.50 | | |
| 118 | C | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｄａ | 0.75 | (0.99) | 0.27 | | | 0.13 | | |
| 120 | F | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | 1.55 | (2.38) | 0.35 | | | 0.75 | | 立位 |
| 123 | C | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｄａ | | | | | | 0.05 | | |
| 124 | F | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | (1.37) | (1.91) | (0.21) | | | 0.31 | | |
| 125 | F | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｄａ | (1.83) | (0.65) | (0.28) | | | 0.26 | | |
| 126 | F | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | (1.32) | (1.62) | (0.28) | | | 0.34 | | |
| 127 | C | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | | | | | | 0.14 | | |
| 128 | F | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｄａ | 2.14 | 1.63 | 0.38 | 83 | | 1.00 | | |
| 129 | ＧＳ | Ｃ22 | Ⅴ層 | | an | | (7.85) | (6.76) | (1.85) | | | 135.80 | Ⅰ | 小判形 |
| 130 | C | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ａａ | | | | | | 0.20 | | |
| 131 | F | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ａａ | (6.47) | (4.56) | (2.15) | | | 63.46 | | 節理割れ |
| 132 | F | Ｃ22 | Ⅴ層 | | sh | Ｃａ | 0.81 | 1.91 | 0.28 | 117 | | 0.14 | | |

## 第26表　表掲載石器観察表（縄文時代２）

| 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) | 分類 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 137 | F | A 20 | V層 | | sh | A a | 4.24 | 6.42 | 1.67 | 107 | | 21.91 | | 立位 |
| 139 | G S | C 21 | V層 | | san | | (1.41) | (3.67) | (1.23) | | | 6.91 | I | |
| 141 | C | C 22 | V層 | | sh | B a | | | | | | 0.03 | | |
| 142 | C | C 22 | V層 | | sh | D a | | | | | | 0.04 | | |
| 143 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.11 | | |
| 144 | F | C 22 | V層 | | sh | C a | (5.40) | (4.81) | (1.93) | | | 37.90 | | |
| 145 | C | C 22 | V層 | | sh | A a | | | | | | 0.04 | | |
| 146 | C | C 22 | V層 | | sh | D a | | | | | | 0.08 | | |
| 147 | C | C 22 | V層 | | sh | D a | | | | | | 0.12 | | |
| 148 | C | C 22 | V層 | | sh | C a | | | | | | 0.07 | | |
| 150 | F | A 18 | VI層 | 7 | sh | C a | (1.63) | (2.25) | (0.26) | | | 0.43 | | |
| 151 | F | A 18 | VI層 | 7 | sh | A a | (2.62) | (4.05) | (0.99) | | | 6.43 | | |
| 152 | C | A 18 | VI層 | 7 | sh | C a | | | | | | 0.05 | | |
| 153 | U F | A 19 | VI層 | 7 | sh | C a | (2.25) | (1.96) | (0.65) | | | 1.70 | | |
| 156 | F | A 24 | VI層 | | sh | C a | (1.65) | (2.27) | (0.22) | | | 0.50 | | |
| 157 | F | A 25 | VI層 | | sh | C a | (1.26) | (1.86) | (0.30) | 124 | | 0.47 | | |
| 158 | F | A 25 | VI層 | 5a | sh | C a | (1.74) | (1.65) | (0.10) | | | 0.21 | | |
| 159 | F | A 25 | VI層 | 5a | sh | C a | (2.46) | (1.66) | (0.32) | 121 | | 0.93 | | |
| 160 | F | A 25 | VI層 | 5a | sh | C a | (1.76) | (2.20) | (0.47) | 121 | | 1.00 | | |
| 161 | C | A 25 | VI層 | 5a | sh | C a | | | | | | 0.10 | | |
| 163 | F | A 25 | 撹乱 | | sh | C a | (2.49) | (1.67) | (0.80) | 111 | | 2.10 | | |
| 164 | F | B 4 | VI層 | | sh | C a | (1.92) | (2.20) | (0.60) | 99 | | 1.58 | | |
| 165 | F | B 4 | VI層 | | sh | C a | 4.21 | 4.83 | 1.39 | 105 | | 20.70 | | 立位 |
| 166 | C | B 4 | VI層 | | sh | C a | | | | | | 0.21 | | |
| 168 | C | B 5 | VI層 | 5a | sh | D a | | | | | | 0.20 | | |
| 169 | C | B 5 | VI層 | 5a | sh | C a | | | | | | 0.06 | | |
| 170 | C | B 5 | VI層 | 5a | sh | C a | | | | | | 0.10 | | |
| 171 | F | B 5 | VI層 | 5a | sh | C a | (2.63) | (2.84) | (0.54) | 122 | | 2.78 | | |
| 172 | C | B 5 | VI層 | 5a | sh | D a | | | | | | 0.24 | | |
| 177 | F | C 16 | VI層 | 5b | sh | C a | (1.68) | (2.05) | (2.00) | | | 4.80 | | |
| 178 | F | C 16 | VI層 | 5b | sh | C a | 2.72 | 2.62 | 0.82 | 110 | | 2.61 | | |
| 179 | F | C 16 | VI層 | 5c | sh | D a | (2.18) | 1.46 | (0.37) | 128 | | 0.75 | | |
| 180 | F | C 16 | VI層 | 5c | sh | D a | 2.91 | 2.45 | 0.65 | 96 | | 2.58 | | |
| 181 | F | C 16 | VI層 | 5c | sh | C a | (3.31) | (3.00) | (0.41) | | | 3.14 | | |
| 183 | F | C 21 | VI層 | 5b | sh | C a | 2.34 | 2.08 | 0.57 | 109 | | 1.96 | | 貝殻状剥片、立位 |
| 184 | C | C 21 | VI層 | 5c | sh | C a | | | | | | 0.02 | | |
| 185 | F | C 21 | VI層 | 5c | sh | C a | 1.12 | 1.79 | 0.40 | 111 | | 0.26 | | |
| 186 | F | C 21 | VI層 | 5c | sh | C a | 1.25 | 1.63 | 0.25 | 114 | | 0.24 | | |
| 187 | C | C 21 | VI層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.04 | | |
| 188 | C | C 21 | VI層 | 5c | sh | F a | | | | | | 0.01 | | |
| 189 | C | C 21 | VI層 | 5c | qua | | | | | | | 0.07 | | |
| 190 | C | C 21 | VI層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.04 | | |
| 192 | G S | C 21 | VI層 | 5c | tuf | | | | | | | 57.80 | I | 一面のみ、砥石？ |
| 193 | F | C 21 | VI層 | 5c | sh | C b | (1.41) | (2.10) | (0.44) | 111 | | 0.99 | | |
| 194 | F | C 21 | VI層 | 5c | sh | C a | (1.09) | (1.23) | (0.31) | 111 | | 0.21 | | |
| 195 | F | C 21 | VI層 | 5c | sh | C a | 2.49 | 1.00 | 0.84 | | | 0.52 | | 削片状 |
| 196 | F | C 21 | VI層 | 5c | sh | C a | 1.65 | (1.39) | 0.30 | 125 | | 0.50 | | |
| 197 | C | C 21 | VI層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.06 | | |
| 198 | C | C 21 | VI層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.01 | | |
| 203 | F | D 1 | VI層 | | sh | C a | (1.60) | 2.00 | (0.49) | | | 0.95 | | |
| 204 | R F | D 1 | VI層 | | ch | | (0.84) | (1.57) | (0.24) | | | 0.35 | − | |
| 206 | C | D 1 | VI層 | 5d | sh | D a | | | | | | 0.01 | | |
| 207 | F | D 1 | VI層 | | sh | C a | (1.30) | (1.69) | (0.19) | | | 0.26 | | はじけ |
| 209 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | C a | | | | | | 0.12 | | |
| 210 | F | C 22 | VI層 | 5c | sh | C a | (2.98) | (3.18) | (0.66) | | | 3.40 | | タテ割れ |
| 211 | F | C 22 | VI層 | 5c | sh | C a | (2.34) | (2.60) | (0.44) | 121 | | 1.25 | | |
| 212 | F | C 22 | VI層 | 5c | sh | C a | (1.63) | (2.03) | (0.62) | | | 1.15 | | |
| 213 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.07 | | |
| 214 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.12 | | |
| 215 | F | C 22 | VI層 | 5c | sh | C a | (1.19) | (1.51) | (0.03) | | | 0.31 | | |
| 216 | F | C 22 | VI層 | 5c | sh | C a | 1.16 | 1.62 | 0.37 | 121 | | 0.27 | | |
| 217 | F | C 22 | VI層 | 5c | sh | D a | 1.54 | 1.24 | 0.26 | 122 | | 0.32 | | |
| 218 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | C a | | | | | | 0.09 | | |
| 219 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.19 | | |
| 220 | F | C 22 | VI層 | 5c | sh | D a | (1.53) | (1.07) | (0.24) | | | 0.20 | | |
| 221 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.12 | | |
| 222 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.01 | | |
| 223 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.07 | | |
| 224 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.01 | | |
| 225 | F | C 22 | VI層 | 5c | sh | A a | (3.84) | (4.34) | (0.81) | | | 11.10 | | |
| 226 | F | C 22 | VI層 | 5c | sh | A a | 4.73 | 4.75 | 1.51 | 106 | | 24.35 | | 立位 |
| 227 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.05 | | |
| 228 | C | C 22 | VI層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.04 | | |

## 第26表　表掲載石器観察表（縄文時代３）

| 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) | 分類 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 229 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | 1.05 | 1.58 | 0.26 | 107 | | 0.24 | | |
| 230 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.09 | | |
| 232 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.03 | | |
| 233 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | 1.46 | 1.59 | 0.24 | 112 | | 0.28 | | |
| 234 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.37) | (2.34) | (0.76) | | | 1.39 | | |
| 235 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.77) | (1.94) | (0.31) | 106 | | 0.69 | | |
| 236 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.05 | | |
| 237 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | (1.11) | (2.40) | (0.20) | | | 0.29 | | 立位 |
| 238 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.12 | | |
| 239 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.03 | | |
| 240 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | E a | | | | | | 0.28 | | |
| 241 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.16 | | |
| 242 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (1.39) | (1.47) | (0.24) | | | 0.35 | | |
| 243 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | 1.39 | 1.02 | 0.24 | 122 | | 0.17 | | |
| 244 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.92) | (2.07) | (0.27) | | | 0.91 | | |
| 245 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.10 | | |
| 246 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.15 | | |
| 247 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.75) | (1.43) | (0.38) | | | 0.54 | | |
| 248 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | E a | 1.49 | 0.75 | 0.25 | 105 | | 0.11 | | |
| 249 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.08 | | |
| 250 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.38 | | |
| 251 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 1.88 | | |
| 252 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | 1.59 | 1.43 | 0.53 | 103 | | 0.50 | | |
| 253 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.10 | | |
| 254 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | 1.92 | 1.49 | 0.44 | 109 | | 0.55 | | |
| 257 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.11 | | |
| 259 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.48) | (1.52) | (0.30) | | | 0.52 | | |
| 260 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | 1.46 | 1.50 | 0.38 | 110 | | 0.23 | | |
| 261 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (2.60) | 2.06 | (0.58) | | | 1.58 | | |
| 262 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (1.42) | (1.58) | (0.41) | | | 0.64 | | |
| 263 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | 4.97 | 5.39 | 1.36 | 110 | | 35.06 | | 節理割れ |
| 264 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | | | | | | 0.09 | | |
| 266 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.01 | | |
| 267 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | (1.31) | (1.45) | (0.29) | 105 | | 0.35 | | |
| 269 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.40) | (1.65) | (0.24) | 117 | | 0.50 | | |
| 270 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | E a | (2.88) | (2.39) | (0.53) | | | 2.71 | | |
| 271 | F | C 22 | 攪乱 | | sh | A a | (1.53) | (1.62) | (0.45) | 130 | | 0.62 | | |
| 276 | F | D 2 | Ⅵ層 | 5d | sh | C a | 2.12 | 1.67 | 0.52 | 121 | | 0.71 | | |
| 278 | C | D 2 | Ⅵ層 | 5d | sh | C a | | | | | | 0.07 | | |
| 279 | F | D 2 | Ⅵ層 | 5d | sh | C a | (1.47) | (1.45) | (0.31) | | | 0.41 | | |
| 282 | F | D 2 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.41) | (1.72) | (0.32) | | | 0.95 | | |
| 285 | C | D 3 | Ⅵ層 | | sh | F a | | | | | | 0.33 | | |
| 286 | F | D 3 | Ⅵ層 | | sh | A a | (2.97) | (4.05) | (1.40) | 103 | | 16.73 | | 立位 |
| 287 | C | D 3 | Ⅵ層 | | sh | D a | | | | | | 0.14 | | はじけ |
| 289 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (3.28) | (2.32) | (1.00) | | | 7.38 | | |
| 290 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.71) | (1.77) | (0.22) | | | 0.41 | | はじけ |
| 291 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.02) | 1.31 | (0.35) | 126 | | 0.55 | | |
| 292 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | | | | | | 0.02 | | |
| 294 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (2.13) | (1.71) | (0.70) | 103 | | 1.24 | | |
| 295 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | (1.55) | (0.92) | (0.28) | | | 0.15 | | タテ割れ |
| 297 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (3.01) | (3.47) | (0.72) | | | 4.73 | | |
| 299 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | B a | (2.71) | (2.24) | (0.53) | 105 | | 1.04 | | 打面調整剥片か |
| 301 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.21 | | |
| 302 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.27) | (1.48) | (0.19) | | | 0.20 | | |
| 303 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.01 | | はじけ |
| 304 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.09 | | |
| 305 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | 1.68 | 2.25 | 0.46 | 119 | | 0.67 | | |
| 307 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (3.27) | (2.85) | (0.28) | | | 1.92 | | |
| 308 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.68) | (2.56) | (0.45) | | | 2.26 | | |
| 309 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.41) | (3.19) | (0.78) | | | 3.93 | | |
| 310 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.03 | | |
| 311 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.78) | (1.46) | (0.45) | | | 0.66 | | |
| 312 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (0.93) | (2.49) | (0.43) | | | 0.92 | | |
| 313 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.01 | | |
| 314 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.01 | | |
| 317 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | 2.22 | 2.03 | 0.59 | 114 | | 0.89 | | |
| 318 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.77) | (2.40) | (0.38) | | | 2.24 | | |
| 319 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.72) | 6.60 | (0.94) | | | 7.43 | | |
| 320 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.11 | | |
| 321 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.12 | | |
| 322 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.61 | | |
| 323 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.11 | | |
| 324 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | E a | | | | | | 0.17 | | |

## 第26表　表掲載石器観察表（縄文時代４）

| 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | 色 | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) | 分類 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 325 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | 3.23 | 3.14 | 1.44 | 123 | | 10.66 | | |
| 326 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.88) | (2.34) | (0.58) | 107 | | 1.76 | | タテ割れ |
| 327 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.26) | (1.94) | 0.69 | | | 1.61 | | |
| 330 | C | C 23 | Ⅴ層 | | sh | D a | | | | | | 0.05 | | |
| 333 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.26) | 1.28 | (0.35) | (133) | | 0.27 | | |
| 335 | F | C 18 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.20) | (2.39) | (0.28) | | | 1.01 | | 立位 |
| 339 | C | C 24 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | | | | | | 0.10 | | |
| 340 | F | C 24 | Ⅵ層 | 5c | sh | E a | (1.47) | (1.85) | (0.55) | 117 | | 0.98 | | |
| 341 | C | C 24 | Ⅵ層 | | sh | D a | | | | | | 0.10 | | |
| 342 | C | C 24 | Ⅵ層 | | sh | D a | | | | | | 0.05 | | |
| 343 | F | C 24 | Ⅵ層 | | hor | | (1.28) | (1.73) | (0.42) | | | 0.62 | | |
| 344 | F | C 24 | Ⅵ層 | | sh | C a | (1.49) | (1.65) | (0.22) | | | 0.24 | | |
| 345 | C | C 24 | Ⅵ層 | | sh | D a | | | | | | 0.22 | | |
| 346 | C | C 24 | Ⅵ層 | | sh | C a | (0.87) | (1.12) | (0.31) | | | 0.24 | | 調整痕有り |
| 348 | C | D 4 | Ⅵ層 | | sh | C a | | | | | | 0.03 | | |
| 349 | F | D 4 | Ⅵ層 | | sh | C a | (1.96) | (2.17) | (0.39) | (121) | | 1.40 | | |
| 351 | C | E 21 | Ⅵ層 | 6 | sh | B a | | | | | | 0.07 | | |
| 352 | C | E 21 | Ⅵ層 | 6 | sh | C a | | | | | | 0.05 | | |
| 353 | C | E 22 | 撹乱 | | sh | C a | | | | | | 0.35 | | |
| 354 | F | E 22 | Ⅵ層 | 6 | sh | C a | (2.15) | (1.14) | (0.56) | | | 0.81 | | |
| 355 | C | E 22 | Ⅵ層 | 6 | sh | B a | | | | | | 0.06 | | |
| 356 | C | E 22 | Ⅵ層 | 6 | sh | C a | | | | | | 0.02 | | |
| 357 | C | E 22 | Ⅵ層 | 6 | sh | D a | | | | | | 0.03 | | |
| 361 | C | A 17 | Ⅵ層 | 8 | sh | C a | (0.81) | (1.51) | (0.25) | | | 0.23 | | |
| 362 | F | A 17 | Ⅵ層 | 8 | sh | C a | (2.09) | (2.48) | (0.28) | | | 1.29 | | |
| 363 | C | A 17 | Ⅵ層 | 8 | sh | A a | | | | | | 0.21 | | |
| 364 | F | A 18 | Ⅵ層 | 8 | sh | C a | (3.02) | (2.50) | (0.74) | 109 | | 3.35 | | タテ割れ |
| 365 | C | A 18 | Ⅵ層 | 8 | sh | D a | (1.07) | (0.97) | (0.16) | | | 0.10 | | |
| 366 | C | A 18 | Ⅵ層 | 8 | sh | D a | | | | | | 0.05 | | |
| 367 | C | A 18 | 撹乱 | | sh | C a | (1.04) | (1.45) | (0.38) | 52 | | 0.31 | | |
| 368 | F | A 23 | Ⅵ層 | 7 | sh | D a | (1.76) | (1.25) | (0.23) | | | 0.32 | | タテ割れ |
| 369 | C | B 4 | Ⅴ層 | | sh | D a | | | | | | 0.10 | | はじけ |
| 370 | C | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | C a | | | | | | 0.04 | | |
| 371 | C | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | C a | | | | | | 0.12 | | |
| 372 | F | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | C a | (1.67) | (2.13) | (0.32) | | | 0.43 | | はじけ |
| 374 | F | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | C a | (1.32) | (2.10) | (0.46) | 128 | | 0.89 | | 立位 |
| 375 | C | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | C a | (1.18) | (1.19) | (0.14) | | | 0.15 | | |
| 376 | C | B 5 | Ⅵ層 | 5a | aga | | | | | | | 0.08 | | |
| 377 | C | A 25 | Ⅵ層 | 5a | sh | C a | (1.11) | 1.00 | (0.25) | | | 0.13 | | |
| 378 | F | A 25 | Ⅵ層 | 5a | sh | C a | 0.75 | 1.37 | 0.26 | 132 | | 0.13 | | |
| 379 | C | C 21 | Ⅵ層 | 5b | sh | D a | | | | | | 0.10 | | |
| 380 | R F | C 21 | Ⅵ層 | 5b | sh | A a | (1.42) | (1.86) | (0.31) | | | 0.59 | － | |
| 383 | F | C 21 | Ⅵ層 | 5b | sh | C a | (2.62) | (2.69) | (0.31) | | | 1.86 | | |
| 384 | F | C 21 | 撹乱 | | sh | C a | (2.82) | (3.09) | (0.48) | 121 | | 2.19 | | 稜摩滅 |
| 386 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.15) | (1.56) | (0.37) | | | 0.77 | | |
| 387 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.11 | | |
| 388 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | 1.94 | 1.43 | 0.34 | 106 | | 0.42 | | |
| 389 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.11 | | |
| 390 | R F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.66) | (1.84) | (0.51) | | | 0.93 | | 立位 |
| 391 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (1.85) | 1.82 | (0.57) | 123 | | 0.98 | | |
| 392 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.41) | (4.02) | (0.85) | | | 5.64 | | |
| 393 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.41 | | |
| 394 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | 1.47 | 1.40 | 0.50 | 126 | | 0.51 | | |
| 395 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.01 | | |
| 396 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | 2.85 | 2.67 | 0.39 | 104 | | 1.60 | | |
| 397 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.51) | 2.19 | (0.32) | 105 | | 1.12 | | |
| 398 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.74) | (1.64) | (0.40) | | | 1.11 | | 縦長剥片 |
| 399 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.12) | 1.19 | (0.43) | | | 0.81 | | |
| 400 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | 2.14 | 1.80 | 0.43 | 120 | | 0.82 | | |
| 401 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | 1.10 | 1.56 | 0.32 | 122 | | 0.40 | | |
| 402 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | 1.44 | 1.22 | 0.22 | 105 | | 0.28 | | |
| 403 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | (1.69) | (1.52) | (0.50) | | | 0.87 | | |
| 404 | F | C 22 | Ⅴ層 | | sh | A a | (3.89) | (2.54) | (1.05) | | | 5.33 | | タテ割れ |
| 406 | C | C 22 | Ⅴ層 | | sh | A a | | | | | | 0.07 | | はじけ |
| 407 | C | C 22 | Ⅴ層 | | sh | C a | (1.45) | (1.24) | (0.33) | | | 0.37 | | |
| 408 | F | C 22 | Ⅴ層 | | sh | C a | (1.26) | (2.08) | (0.45) | 103 | | 0.98 | | |
| 411 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | B a | | | | | | 0.08 | | |
| 412 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | 2.24 | 1.67 | 0.43 | 105 | | 0.63 | | 立位 |
| 413 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | 1.78 | (1.50) | (0.29) | 100 | | 0.54 | | |
| 414 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.42) | (1.62) | (0.32) | | | 0.49 | | |
| 415 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (1.50) | (1.76) | (0.37) | | | 0.63 | | はじけ |
| 419 | C | D 1 | 撹乱 | | sh | D a | | | | | | 0.06 | | |
| 420 | C | D 1 | 撹乱 | | sh | A a | | | | | | 0.27 | | |

第26表　表掲載石器観察表（縄文時代５）

| 個別No | 器種 | 位置 | 出土層位 | Sb | 石材 | 色 | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 打角(°) | 刃部角(°) | 重量(g) | 分類 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 421 | F | D 1 | Ⅵ層 | | sh | F a | | | | | | 0.20 | | |
| 422 | C | D 1 | Ⅵ層 | 5d | sh | A a | | | | | | 0.05 | | |
| 424 | F | D 1 | Ⅵ層 | 5d | sh | C a | (1.96) | (1.64) | (0.27) | | | 0.51 | | |
| 426 | C | D 2 | Ⅵ層 | 5d | sh | D a | | | | | | 0.07 | | |
| 427 | F | D 2 | Ⅵ層 | | sh | C a | (1.53) | (1.85) | (0.21) | | | 0.34 | | 立位 |
| 428 | F | D 2 | Ⅵ層 | 5c | sh | E a | (2.62) | (1.95) | (0.36) | 121 | | 1.26 | | 稜摩滅 |
| 431 | C | D 3 | Ⅵ層 | | sh | D a | | | | | | 0.04 | | |
| 433 | C | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | D a | | | | | | 0.12 | | 稜摩滅 |
| 435 | C | C 21 | Ⅵ層 | 5b | sh | C a | | | | | | 0.05 | | |
| 438 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (1.41) | (1.96) | (0.48) | | | 1.29 | | 立位 |
| 439 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | E a | | | | | | 0.03 | | 立位 |
| 440 | R F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (1.78) | (2.76) | (1.01) | | | 3.86 | | 立位 |
| 441 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.76) | (1.42) | (0.29) | | | 0.28 | | 立位 |
| 442 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.12 | | |
| 443 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.02 | | |
| 444 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.17) | (1.44) | (0.32) | 121 | | 0.34 | | 稜摩滅 |
| 446 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.10 | | |
| 447 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.83) | 1.51 | (0.33) | | | 0.35 | | |
| 448 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.46) | (0.90) | (0.18) | | | 0.13 | | 立位 |
| 449 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.05 | | 立位 |
| 450 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.33) | (1.86) | (0.27) | | | 0.26 | | |
| 451 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | aga | | (0.90) | (1.85) | (0.28) | | | 0.37 | | |
| 452 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | 1.16 | 1.68 | 0.42 | 114 | | 0.29 | | 立位 |
| 453 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | 3.55 | 2.56 | 0.59 | 105 | | 2.77 | | |
| 454 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | 4.45 | 7.67 | 2.39 | 116 | | 48.12 | | |
| 455 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | 1.30 | 1.58 | 0.25 | 100 | | 0.25 | | |
| 456 | F | C 23 | 撹乱 | | sh | C a | (2.33) | (2.63) | (0.71) | | | 1.56 | | |
| 458 | C | D 2 | Ⅵ層 | 5d | sh | C a | | | | | | 0.13 | | |
| 459 | C | D 2 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | | | | | | 0.08 | | はじけ |
| 460 | C | D 2 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.21 | | |
| 461 | C | D 2 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.22 | | |
| 463 | F | D 2 | 撹乱 | | sh | C a | (1.18) | (1.89) | (0.24) | | | 0.54 | | |
| 465 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.06 | | |
| 466 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.11 | | |
| 467 | C | A 18 | Ⅵ層 | 7 | sh | D a | | | | | | 0.22 | | |
| 469 | C | A 25 | Ⅵ層 | | sh | D a | | | | | | 0.02 | | |
| 470 | F | A 25 | Ⅵ層 | 5b | sh | C a | (1.49) | (1.42) | (0.21) | 115 | | 0.34 | | |
| 471 | C | A 25 | Ⅵ層 | 5a | sh | A a | | | | | | 0.06 | | はじけ |
| 474 | C | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | D a | | | | | | 0.03 | | |
| 475 | C | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | D a | | | | | | 0.06 | | |
| 476 | C | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | D a | | | | | | 0.03 | | |
| 477 | F | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | C a | (1.10) | (1.71) | (0.30) | | | 0.42 | | |
| 478 | C | B 5 | Ⅵ層 | 5a | sh | D a | | | | | | 0.05 | | |
| 479 | C | C 16 | Ⅵ層 | 5b | sh | D a | | | | | | 0.04 | | |
| 482 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.03 | | はじけ |
| 483 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (1.42) | (1.20) | (0.26) | | | 0.28 | | |
| 484 | F | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (1.88) | 2.22 | (0.34) | | | 0.68 | | |
| 485 | C | C 22 | Ⅵ層 | 5c | sh | D a | | | | | | 0.08 | | |
| 487 | C | D 2 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (1.34)) | (1.35) | (0.41) | | | 0.73 | | 二次加工あり |
| 489 | R F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.44) | (1.40) | (0.25) | | | 0.42 | | |
| 491 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | (4.56) | (2.90) | (1.96) | 102 | | 12.62 | | |
| 492 | F | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | C a | (2.46) | (2.32) | (0.40) | | | 1.41 | | 立位 |
| 525 | C | E 23 | Ⅵ層 | | sh | C a | | | | | | 0.11 | | |
| 526 | C | E 23 | Ⅵ層 | | sh | D a | | | | | | 0.18 | | |
| 528 | C | C 23 | Ⅵ層 | | sh | C a | | | | | | 0.29 | | |
| 546 | C | C 23 | Ⅵ層 | 5c | sh | A a | | | | | | 0.05 | | はじけ |
| 582 | F | E 21 | Ⅵ層 | 6 | sh | C a | (1.66) | (1.82) | (0.25) | | | 0.63 | | |
| | F | D区 | Ⅳ層 | | ob | | (2.37) | (2.28) | (0.82) | 81 | | 4.30 | | 分析試料４ |
| | F | D区 | Ⅲ層 | | ob | | (3.10) | (1.84) | (1.07) | | | 4.80 | | 分析試料５ |
| | F | E区 | Ⅳ層 | | ob | | (1.52) | (1.34) | (0.92) | | | 1.90 | | 分析試料６ |

【石材】aga：瑪瑙、an：安山岩、ch：チャート、gtuf：緑色凝灰岩、hor：ホルンフェルス、ob：黒曜石
qua：石英、san：砂岩、sh：頁岩、tuf：凝灰岩

## 3　平　安　時　代

### （1）概　　要（第49図）

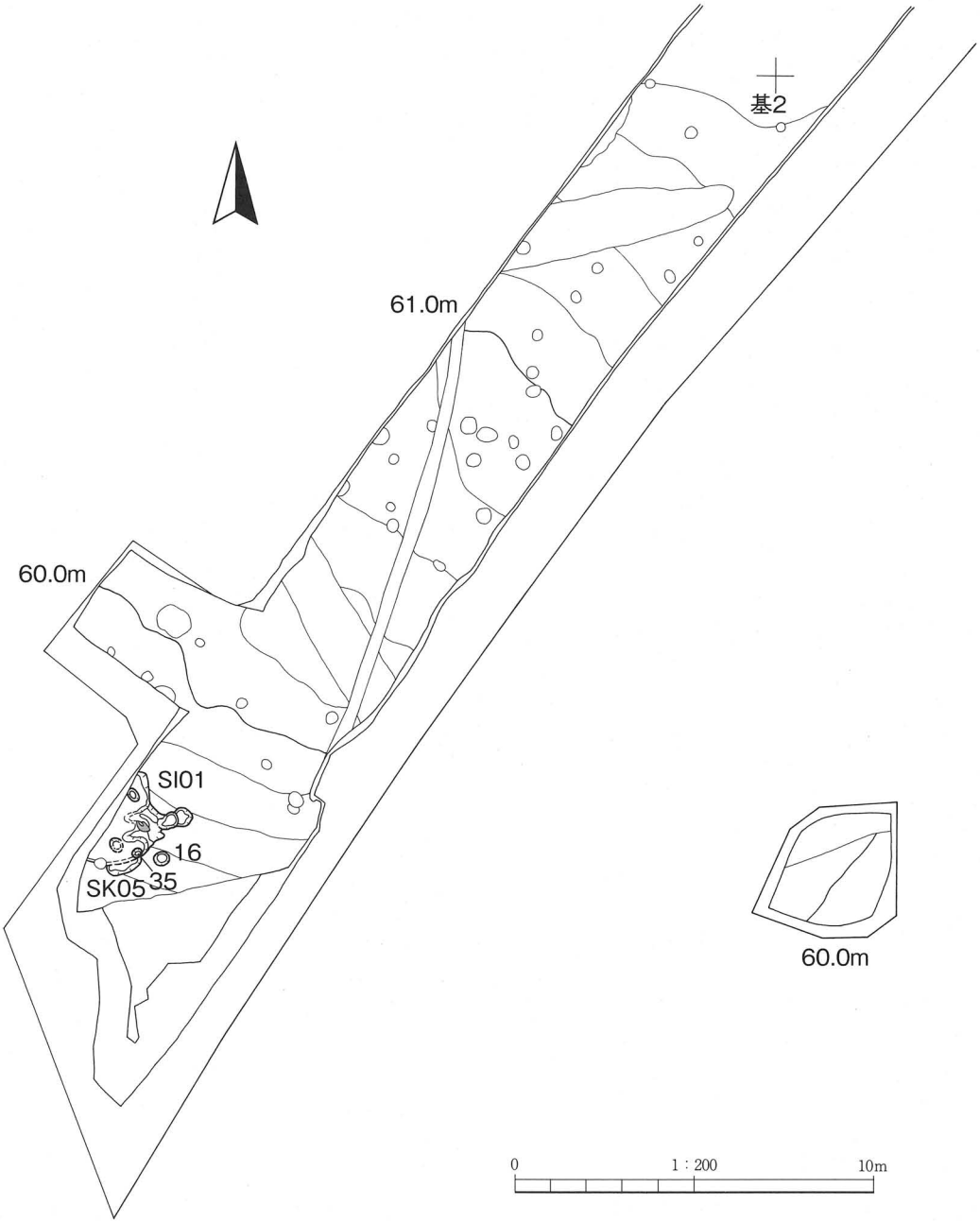
平安時代に帰属する遺構は竪穴住居跡１棟、土坑１基、柱穴２個である。出土遺物は土師器・須恵

器が中コンテナ１箱、砥石や台石など大形の礫塊石器を中心とする石器が中コンテナ0.5箱、金属製品（刀子）が１点である。遺構・遺物ともにＳＩ01竪穴住居跡の周辺で局所的に確認されている。以下、遺構・遺物について記述する。

## （2）竪穴住居跡

**ＳＩ01竪穴住居跡**（第50～52図、写真図版８～11）

［位置と形態］Ｅ区内、Ｘ＝－82915、Ｙ＝24781付近に位置する。旧表土層にあたるⅣｂ層除去後のⅦＡ層中で、炭化物粒や焼土塊・焼土粒を含む黒褐色土の広がりと、煙道と判断した黒褐色土の広がりとして確認した。この時点で灰褐色の火山灰塊を確認しており、同定用の試料として採取している。ＳＫ05土坑、ＳＫＰ34・35と重複しており、ＳＫＰ34が本遺構の南側の一部を壊して構築しているため、本遺構が古い。また、本遺構がＳＫ05土坑の一部を壊して、貼床を構築しているため、本遺構が




第49図　平安時代の遺構（１）

新しい。ＳＫＰ35は床面で検出されたため、本遺構に伴う柱穴と判断していたが、壁の外側に広がっているため、別遺構とした。本遺構より古い遺構である。本遺構の北西側は調査区外に広がっている。このため、正確な規模は不明であるが、確認できた東壁から判断すると、一辺2.5m前後の小形の竪穴住居跡と考えられる。確認できた検出面からの深さは東壁で最大24cm、南壁で最大８cm、北壁で最大35cmである。ⅦＤ層まで掘り込み、Ⅷ層に起因すると考えられる黄褐色土を掘り方埋土として、平坦な床面を構築している。

堆積土は10層に分層した。壁際には黒褐色土を主体とする堆積土が三角形状に堆積し、１・２層はレンズ状の堆積状況を呈していることから、自然堆積の可能性が高い。ただし、８層など部分的に上部から貫入する堆積層もあり、植栽などによる撹乱の影響も見受けられる。

本遺構はカマドの作り替えが行われており、少なくとも新旧の２時期があるものと判断した。新旧ともカマドは東壁の南半部に設置される。カマド（新）の袖はカマド（旧）の袖に、Ⅶ層に起因する褐色土を貼り付けて構築している。そのため、角礫などの芯材は確認されなかった。燃焼部は不整形で、中央部の北側がＵ字状に消失している。範囲は長辺51cm、短辺26cmで、焼土層の厚さは最大で４cmである。煙出しピットは壁際に設置され、煙道部がほとんど確認できない。煙出しピットの規模は長辺60cm、短辺45cmである。煙道部・煙出しピットの堆積土は２層に分層でき、西側の一部に暗褐色土の堆積が確認できる以外は極暗褐色土で埋没している。上部は後世（中世以降）の削平により消失しているが、作り替えられたものであるため、掘り込み式の可能性が非常に高い。カマド（新）の主軸方向はＮ79°Ｅで、旧段階よりやや北側に振れている。カマド（旧）の袖は左袖の一部のみ検出した。Ⅶ層に起因すると考えられる褐色土主体で構築されており、角礫等の芯材は確認されなかった。燃焼部は不整円形で、長辺42cm、短辺40cm、焼土層の厚さは最大で10cmである。煙出しピットが新段階のものより東側にあるため、新段階のものより、煙道部が長いのは確かであるが、煙道部のほとんどが新段階の煙出しピットによって破壊されているため、煙道部の構造は不明である。煙出しピットの規模は推定長辺約60cm、短辺53cmである。煙道部・煙出しピットの堆積土は３層に分層した。底面付近には壁の崩落土と考えられる黄褐色土が確認された。カマド（旧）の主軸方向はＮ82°Ｅである。

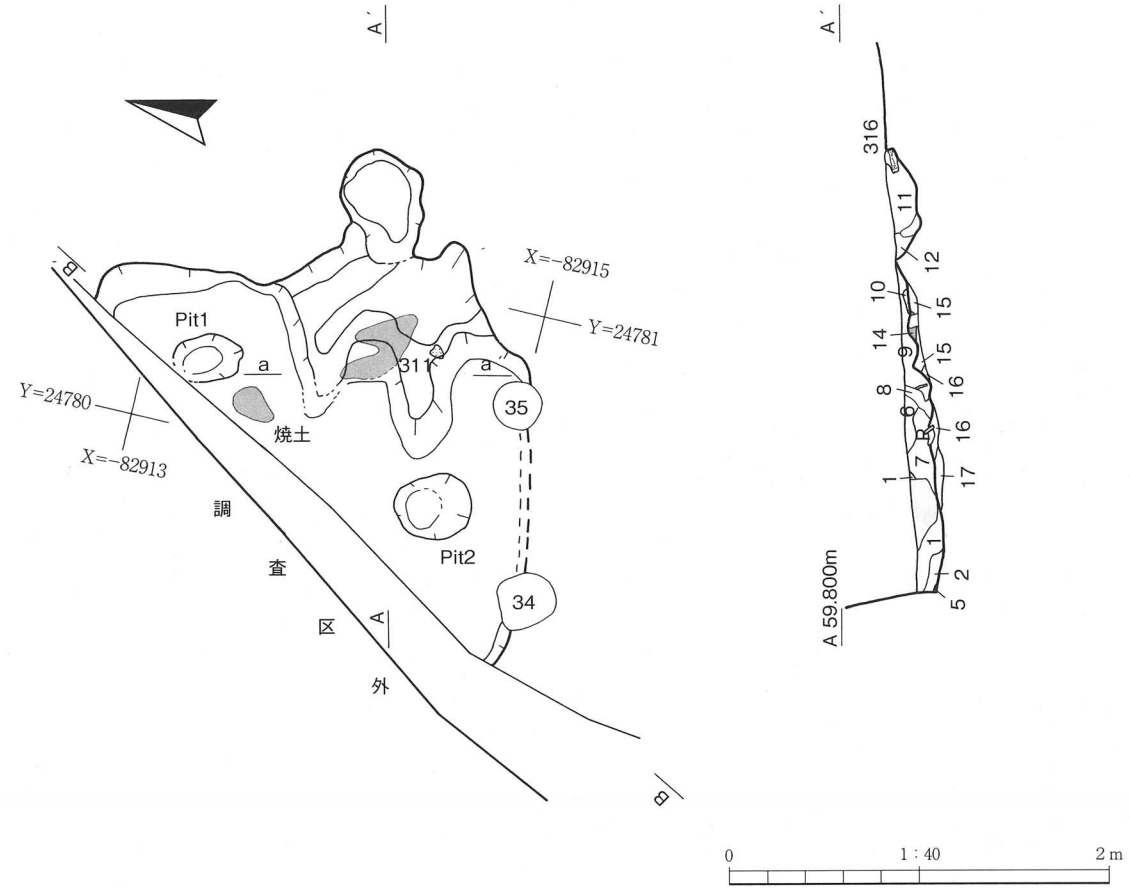
カマド以外に本遺構に伴う施設として土坑がある。３基検出され、Pit１とPit２が新段階に、Pit３が旧段階に伴うものと判断した。Pit１は北東隅に設置され、推定長辺38cm、短辺24cm、深さ13cmの楕円形の土坑である。埋土は黒褐色土主体で、焼土粒や炭化物粒が混入している。Pit２はカマド右袖の西側に設置され、長辺40cm、短辺35cm、深さ８cmの楕円形の土坑である。２基とも浅く、遺物もほとんど伴わないため、用途は不明である。Pit３は燃焼部の西側に隣接している。南側をPit２に破壊され、西側が調査区外に広がっているため、詳細な規模や平面形は不明である。確認できた深さは最大で14cmである。埋土は３層に分層される。焼土粒や炭化物粒の混入が確認でき、異なった堆積土がほぼ水平に堆積していることから判断すると、人為的な堆積の可能性が高い。

この他に、カマド（旧）袖の構築土を除去すると、最大で４cmの厚さのある、50×32cmの不整形の焼土層が検出された。機能等の詳細は不明である。

［出土遺物］（第53・54図、写真図版28・29）

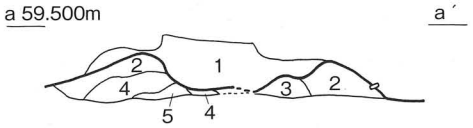
＜ＳＩ01竪穴住居跡（新）＞

301は土師器坏、302～304は土師器甕、305～307は土師器小甕、308は土師器鉢、309は須恵器坏、310は須恵器甕、311は刀子で、ＳＩ01（新）に伴うものである。312は土師器甕、313は焼成粘土塊、314は台石で、ＳＩ01（旧）に伴うものである。




A－A′・B－B′

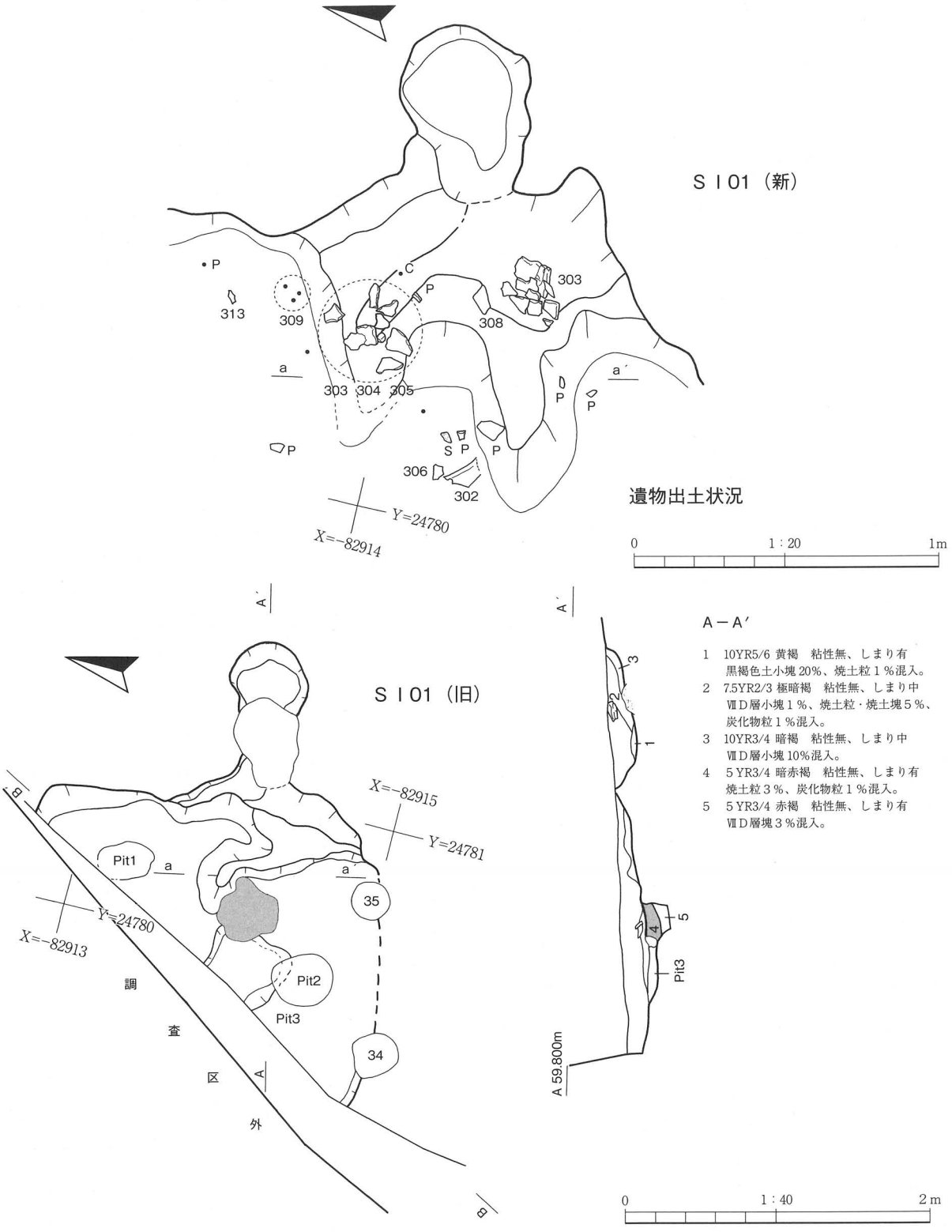
1　10YR2/2 黒褐　粘性無、しまり中　暗褐色土混入する。上面には火山灰が塊状で散在する。
2　10YR2.5/3 黒褐～暗褐　粘性無、しまり中　明黄褐色土小塊３％、炭化物粒１％混入。
3　10YR2/3 黒褐　粘性・しまり中　明黄褐色土塊５％、焼土粒１％混入。
4　10YR2/3 黒褐　粘性無、しまり中　明黄褐色土塊３％、焼土粒１％混入。
5　10YR3/3 暗褐　粘性中、しまり中～有　明黄褐色土粒７％、焼土粒10％混入。
6　10YR2/3 黒褐　粘性無、しまり中　暗褐色土粒１％、焼土粒３％混入。
7　10YR3.5/3 にぶい黄褐～暗褐　粘性中、しまり有　明黄褐色粒１％、炭化物粒１％混入。
8　5YR3/6 暗赤褐　粘性中～有、しまり中　Ⅶ D 層粒２％、黒褐色土粒１％混入。
9　10YR2/3 黒褐　粘性中～無、しまり中　火山灰塊１％、焼土塊10％、焼土粒３％、炭化物粒１％混入。
10　5YR3/3 暗赤褐　粘性無、しまり中　黒褐色土小塊２％混入。
11　7.5YR2/3 極暗褐　粘性無、しまり中　焼土粒３％、炭化物１％混入　最下部に炭化物が層状を呈する。
12　10YR3/4 暗褐　粘性無、しまり中　弱被熱層。部分的に極暗赤褐色を呈する。
13　10YR3/2 黒褐　粘性・しまり無　Ⅶ D 層小粒５％、焼土粒・炭化物粒１％混入。
14　5YR5/8 明赤褐　粘性無、しまり有　周囲は赤褐色を呈する。
15　5YR4/4 にぶい赤褐　粘性無、しまり中　Ⅶ D 層粒１％、黒褐色土小塊３％、焼土粒１％混入。
16　7.5YR4/6 褐　粘性無、しまり中　焼土粒10％、炭化物１％、Ⅶ D 層塊５％混入。
17　7.5YR4/4 褐　粘性無、しまり有　Ⅶ D 層塊10％、焼土粒５％、炭化物粒３％混入。
18　7.5YR4/3 褐　粘性・しまり無　焼土小塊２％、炭化物粒１％、Ⅶ D 層塊１％混入。
19　7.5YR3/3 暗褐　粘性中～無、しまり無　焼土粒・炭化物粒１％混入。
20　5YR4/8 赤褐　粘性無、しまり有　Ⅶ D 層塊５％、炭化物粒・焼土粒１％混入。
21　10YR5/6 黄褐　粘性無、しまり有　黒褐色土塊20％混入。
22　7.5YR3/3 暗褐　粘性中、しまり中～無　Ⅶ A 層塊３％混入。
23　10YR2/2 黒褐と 10YR5/6 黄褐の混合土層　粘性無、しまり中。



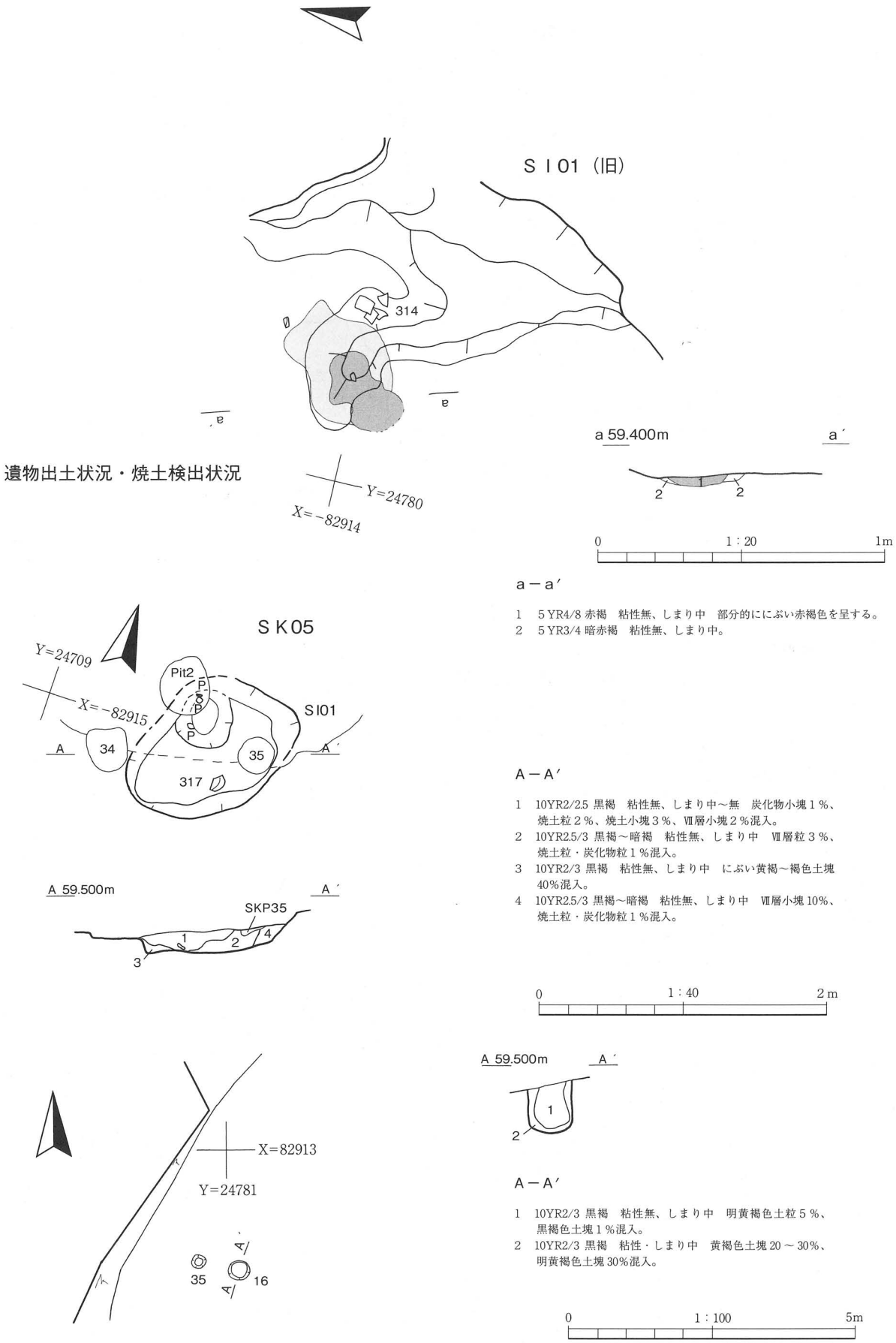

カマド　a－a′

1　10YR2/3 黒褐　粘性中～無、しまり中　火山灰塊１％、焼土塊10％、焼土粒３％、炭化物粒１％混入。
2　10YR4/4 褐　粘性無、しまり有　Ⅶ D 層小塊２％、黒褐色土塊２％混入。
3　10YR4/4 褐　粘性中、しまり中～有　Ⅶ D 層小塊15％、黒褐色土小塊10％、炭化物粒１％混入。
4　7.5YR4/6 褐　粘性無、しまり有　黒褐色土塊５％、焼土粒３％、炭化物粒１％混入。
5　7.5YR4/6 褐　粘性無、しまり有。

第50図　平安時代の遺構（２）




第51図　平安時代の遺構（3）




第52図　平安時代の遺構（4）

301はPit１脇の焼土から出土したⅡ類の土師器坏で、口縁部を欠損している。二次的な被熱をしており、全体的に赤変している。302・303は土師器甕の同一個体の口縁部と体部の資料である。口縁部は受け口状をしている。302は床面から出土している。303は両袖の芯材の一部として利用されたようで、カマド構築土の最下部から出土している。304は土師器甕の底部の断片的な資料である。303と同様に、カマド構築土の最下部から出土している。305・306は土師器小甕の同一個体の上半部と下半部の資料である。接点は確認できなかった。器面全体に綺麗なロクロ目が観察される。305は303・304と同様にカマド構築土の最下部から出土した資料とカマド２層から出土した資料、ＳＫ05土坑の埋土から出土した資料が接合したもので、一部は芯材に利用されたものと考えられる。306は主に比較的初期段階の堆積土である７層から出土している。307は土師器小甕の口縁部の断片的な資料である。堆積土中からの出土である。308は土師器鉢の口縁部の断片的な資料である。残存する部分から判断すると、大形で浅いものと考えられる。カマド構築土の上面に貼りつくように出土している。

309は床面と単独焼土から出土した資料が接合した須恵器坏である。約半分ほど残存している。310は須恵器甕の底部の断片的な資料である。堆積土中からの出土である。

311はカマドの袖石に転用されたデイサイト製の台石である。転用時に破砕したため、一部しか残存していない。312は凝灰岩製の砥石で荒砥と考えられる。一部しか残存していない。

313は刀子である。茎部と刀身部を大きく欠損しており、詳細な器形は不明であるが、刀身部は長三角形を呈するものと考えられる。関部は両関である。

＜ＳＩ01竪穴住居跡（旧）＞

314は土師器甕の底部資料である。ロクロを使用した痕跡は確認できない。ＳＩ01竪穴住居跡（旧）の床面から出土している。

315は焼成粘土塊である。ＳＩ01竪穴住居跡（旧）の煙道部の堆積土である２層中から出土した。

316はＳＩ01竪穴住居跡（旧）の煙道部の堆積土である２層中から出土したもので、扁平な礫を利用した安山岩製の台石である。316の一面には被熱によるスス状の付着物が広範囲に観察される。最終的にはＳＩ01竪穴住居跡の煙出しピットの土留め材として利用されている。

［時期］カマドの構築土中にTo－aと考えられるテフラが混入していることや出土遺物から、平安時代前半（10世紀前半）と考えられる。

## （３）土　　坑

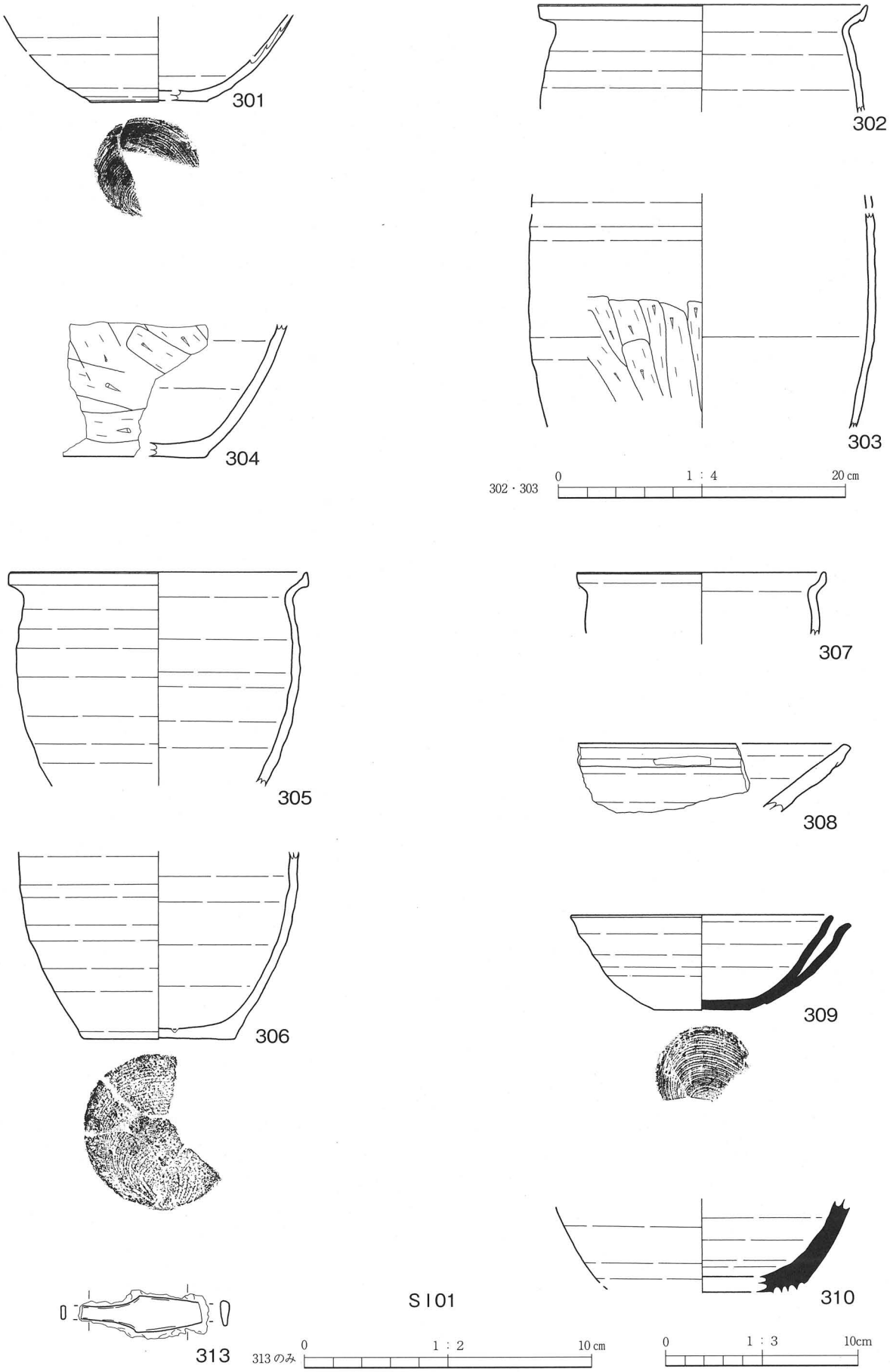
**ＳＫ05土坑**（第52図、写真図版11）

［位置と形態］Ｅ区にあり、Ｘ＝－82915、Ｙ＝24779付近に位置する。ＳＩ01竪穴住居跡と重複して検出されたが、わずかに色調が明るい部分があり、別遺構と判断した。ＳＩ01竪穴住居跡が本遺構の一部を壊して貼床を構築していることから、本遺構が古い。また、ＳＫＰ35とも重複しているが、本遺構の堆積土中に底面があるため、本遺構が古い。平面形は不整楕円形を呈する。

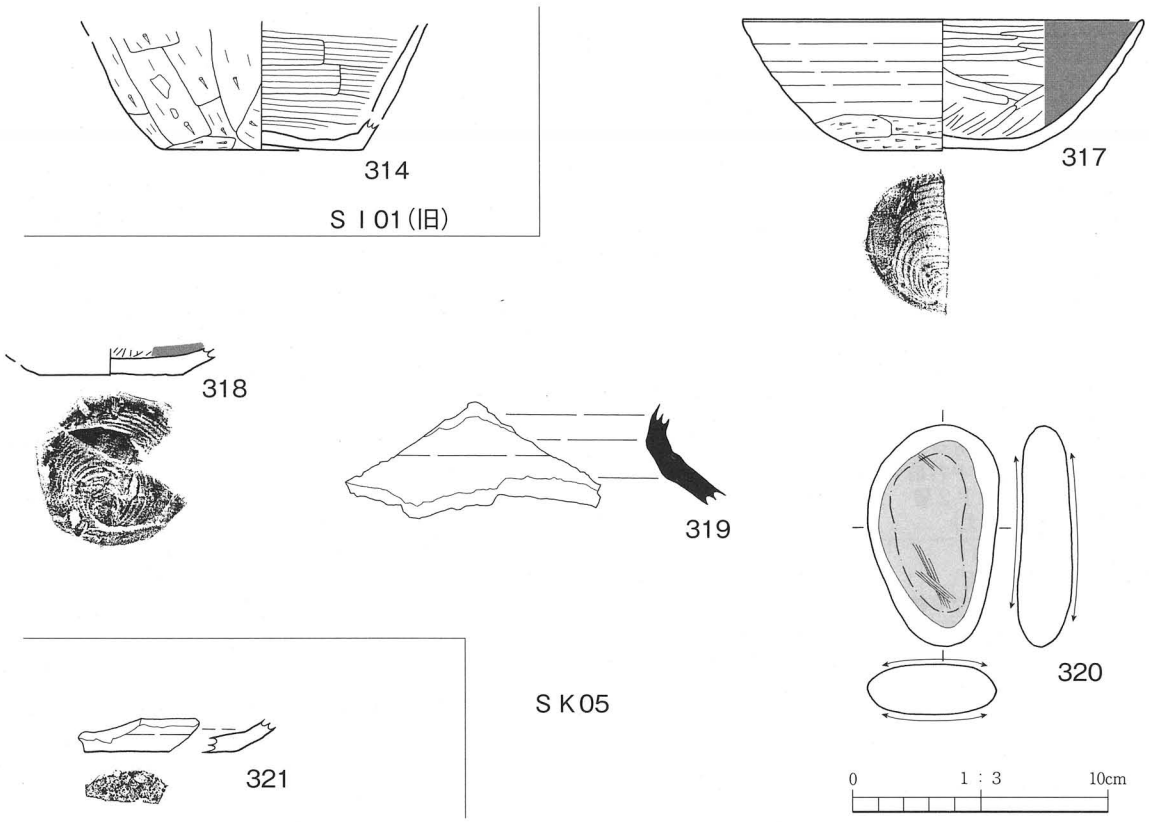
平面規模は開口部で1.26×0.96ｍで、主軸方向はＮ43°Ｅである。検出面からの深さは最大で29cmで、底面からなだらかに立ち上がる。底面は細かな凹凸が見られる。北西隅の底面で、41×40cmの小ピットを確認した。土坑底面からの深さは６cmで、炭化物粒・焼土粒を多量に含む暗褐色土で埋没していた。

堆積土は４層に分層され、上部は黒褐色土、下部は暗褐色土気味の黒褐色土を主体とする。全体的に焼土粒・焼土小塊・炭化物粒を含み、人為堆積と考えられる。

［出土遺物］（第54図、写真図版29）




第53図　平安時代の遺物（1）




第54図　平安時代の遺物（２）

317・318はＩ類の土師器坏である。317は堆積土の最上部から出土し、半分程残存している。体部の最下部には二段の回転ヘラケズリが施されている。318は堆積土中から出土した資料とＳＩ01竪穴住居跡の貼床である21層から出土した資料が接合したものである。底部のみの資料である。319は須恵器の袋物であるが、頸部の断片的な資料であるため、詳細な器種の特定には至らなかった。堆積土中からの出土である。

320は小形の砥石で、平面形は卵形を呈する。使用面は表裏２面である。

［時期］出土遺物から、平安時代前半（９世紀後半～10世紀前半）と考えられる。

### （４）柱　　穴(第52図)

当該期の柱穴は、ＳＫＰ16とＳＫＰ35の２個である。当初、ＳＩ01竪穴住居跡に伴うものと考えていたが、明瞭な共伴関係が想定できず、別遺構としたものである。ＳＫＰ16の検出面はＳＩ01竪穴住居跡と同じⅦＡ層中で、ＳＫＰ35の検出面はＳＩ01竪穴住居跡の床面である。２個とも堆積土は黒褐色土を主体とするが、古代の生活面が特定できないため、起因する層の対比はできない。規模や形状については第34表を参照して頂きたい。２個とも遺物は出土しなかった。

### （５）遺構外出土遺物(第54図、写真図版29)

**土師器**（321）　中世の遺構であるＳＤ01西の埋土から出土したＩ類の土師器坏の底部片である。

## 第27表　土器観察表（平安時代）

| 掲載No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 法量(cm) | 調　整 | 備　考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 301 | ＳＩ01　焼土 | 土師 | 坏 | 体底 | —<br>[5.2]<br>(4.5) | 外・内：ＫＮ | 二次的な被熱 | 53 | 28 |
| 302 | ＳＩ01　床面 | 土師 | 甕 | 口 | [23.0]<br>—<br>(7.6) | 外・内：ＫＮ | | 53 | 28 |
| 303 | ＳＩ01　新期カマド袖内<br>(ＳＩ01　カマド１層<br>ＳＩ01　１層) | 土師 | 甕 | 体 | —<br>—<br>(16.7) | 外：ＫＮ・Ｎ→ＨＫ<br>内：ＫＮ・Ｎ | 302と同一個体 | 53 | 28 |
| 304 | ＳＩ01　カマド左袖内 | 土師 | 甕 | 体底 | —<br>—<br>(7.0) | 外：ＨＫ<br>内：Ｎ<br>底：ＳＺ | | 53 | 28 |
| 305 | ＳＩ01　新期カマド左袖内<br>ＳＩ01　カマド右袖<br>カマド２層<br>(ＳＫ05　埋土) | 土師 | 小甕 | 口体 | [15.4]<br>—<br>(11.2) | 外・内：ＫＮ | | 53 | 28 |
| 306 | ＳＩ01　７層<br>(ＳＩ01　床面<br>ＳＩ01　カマド袖内) | 土師 | 小甕 | 体底 | —<br>8.0<br>(9.9) | 外・内：ＫＮ<br>底：ＫＩ | 305と同一個体 | 53 | 28 |
| 307 | ＳＩ01　Ｈ２　２層<br>(ＳＩ01　５層) | 土師 | 小甕 | 口 | [13.0]<br>—<br>(3.2) | 外・内：Ｎ | | 53 | 28 |
| 308 | ＳＩ01　カマド上 | 土師 | 鉢 | 口 | —<br>—<br>(3.6) | 外・内：ＫＮ | | 53 | 28 |
| 309 | ＳＩ01　床面<br>(ＳＩ01　焼土) | 須恵 | 坏 | 口底 | [13.7]<br>[5.0]<br>5.0 | 外・内：ＫＮ | | 53 | 28 |
| 310 | ＳＩ01　１層<br>(ＳＤ01　１ｂ層) | 須恵 | 甕 | 底 | —<br>—<br>(4.9) | 外・内：ＫＮ | | 53 | 28 |
| 314 | ＳＩ01（旧）床面<br>(ＳＩ01　カマド１層<br>ＳＩ01　７層) | 土師 | 甕 | 体底 | —<br>8.0<br>(5.2) | 外：ＨＫ<br>内：Ｈ<br>底：ＳＺ | | 54 | 29 |
| 317 | ＳＫ05　１層 | 土師 | 坏 | 口底 | [15.8]<br>[6.2]<br>5.2 | 外：ＫＮ→ＨＫ<br>内：Ｍ→ＫＳ<br>底：ＫＩ | | 54 | 29 |
| 318 | ＳＫ05　埋土<br>(ＳＩ01　21層) | 土師 | 坏 | 底 | —<br>[5.7]<br>(1.1) | 外：ＫＮ<br>内：Ｍ→ＫＳ<br>底：ＫＩ | | 54 | 29 |
| 319 | ＳＫ05　２層 | 須恵 | 袋物 | 頸 | —<br>—<br>(4.6) | 外・内：ＫＮ | | 54 | 29 |
| 321 | ＳＤ01　西側　２ａ層 | 土師 | 坏 | 底 | —<br>—<br>(1.3) | 外・内：ＫＮ<br>底：Ｎ | | 54 | 29 |

【種別】土師：土師器、須恵：須恵器　【部位】口：口縁部、体：体部、底：底部、口底：口縁部～底部、
口体：口縁部～体部、体底：体部～底部、頸：頸部
【法量】上段：口径、中段：底径、下段：器高、(　)：残存値、[　]：推定値
【調整】外：外面、内：内面、底：底部外面、ＫＮ：回転ナデ、Ｎ：ナデ、ＨＫ：ヘラケズリ、
Ｈ：ハケメ、Ｍ：ミガキ、ＫＳ：黒色処理、ＫＩ：回転糸切り、ＳＺ：砂底

## 第28表　土製品観察表（平安時代）

| 掲載No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 法量（cm）<br>器長・器幅・器高 | 備　考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 315 | ＳＩ01（旧）２層 | 土製 | 焼成粘土塊 | — | — | | — | 29 |

【法量】(　)：残存値

第29表　石器観察表（平安時代）

| 掲載No | 器種 | 位置 | 出土層位 | 石材 | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 重量(g) | 分類 | 備　考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 311 | 台石 | ＳＩ01 | ソデ上 | dac | (10.34) | (12.22) | (6.10) | 560.20 | Ⅰ | | － | 29 |
| 312 | 砥石 | ＳＩ01 | カマド１層 | tuf | (3.80) | (4.59) | (1.93) | 28.82 | Ⅳ | | － | 29 |
| 316 | 台石 | ＳＩ01（旧） | ２層 | an | 21.50 | 13.65 | 4.51 | 1799.25 | Ⅰ | 被熱 | － | 29 |
| 320 | 砥石 | ＳＫ05 | 埋土 | dac | 8.68 | 5.17 | 2.15 | 114.54 | Ⅲ | 中砥 | 54 | 29 |

【石材】an：安山岩、dac：デイサイト、tuf：凝灰岩

第30表　金属製品観察表（平安時代）

| 掲載No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 法量（cm）器長・器幅・器高 | 備　考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 313 | ＳＩ01　Ｈ２　カマド構築上 | 鉄 | 刀子 | 茎 | (4.2)・(1.3)・(0.2) | | 53 | 29 |

【法量】（　）：残存値　※錆膨れ部分を見込まない数値

## 4　中　　世

### （1）概　　要（第55図）

中世に帰属する遺構は堀跡１条、溝跡２条、柱穴18個である。出土遺物は中国産青磁２点、かわらけ１点、砥石22点である。遺構はＤ区・Ｅ区全体で確認されている。堀跡は調査区内の一番低い部分に構築され、その内側の緩斜面上に柱穴が確認されている。以下、遺構・遺物について記述する。

### （2）堀 跡 ・ 溝 跡

**ＳＤ01堀跡**（第56図、写真図版12）

［位置と形態］Ａ区及び、Ｅ区南端に位置する。国家座標で、Ｘ＝－82914～－82920、Ｙ＝24780～24800付近に相当する。検出の段階では、同一遺構の可能性が高いものの、確認できる部分が局所的で、距離が離れているため、Ａ区の遺構をＳＤ01、Ｅ区の遺構をＳＤ02として登録し、精査へ進んだ。

その後、平面図を作成した段階で、お互いの上端が並行し、断面形状や堆積土が類似していることから、同一遺構と判断した。その段階で、Ａ区側をＳＤ01東側、Ｅ区側をＳＤ01西側と名称を変更した。　本遺構は重複する遺構はないが、Ａ区の北東側の調査区外に延びている。また、Ｅ区の南西側にも延びており、隣接する金比羅神社の参道を含むＦ区でも確認の必要が生じた。そこで、参道を寸断しないように、隣接部分にトレンチを設定したところ、水道管が確認され、その部分の精査は断念した。また、その南側でもトレンチを設定して、掘削を行ったが、1.8mほど掘り下げても礫塊やコンクリート塊が出土するだけで、遺構は確認できなかった。安全面を考慮して、これ以上の確認を断念した。検出面はＡ区で盛土層直下のⅧ層上面、Ｅ区で盛土以前の表土層であるⅣｂ層直下のⅦＡ層中である。

確認できた長さは22.5m（掘削範囲は8.3m）で、上幅は最大で4.0mである。検出面からの深さは最大で1.83mで、断面形はＶ字状を呈している。やや底面の角度は緩いが薬研堀と考えられる。

堆積土は細分も含め11層に分層した。最下層にはⅥ層に起因する暗褐色土が堆積し、下部には炭化物や小礫を含む黒～黒褐色土、中間部には炭化物や小礫、ⅦＡ層粒を含むⅥ層に起因する暗褐色土、上部は炭化物や礫を含む黒褐色土が堆積している。全体的に三角形状もしくはレンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積と考えられる。

［出土遺物］（第60図、写真図版30）

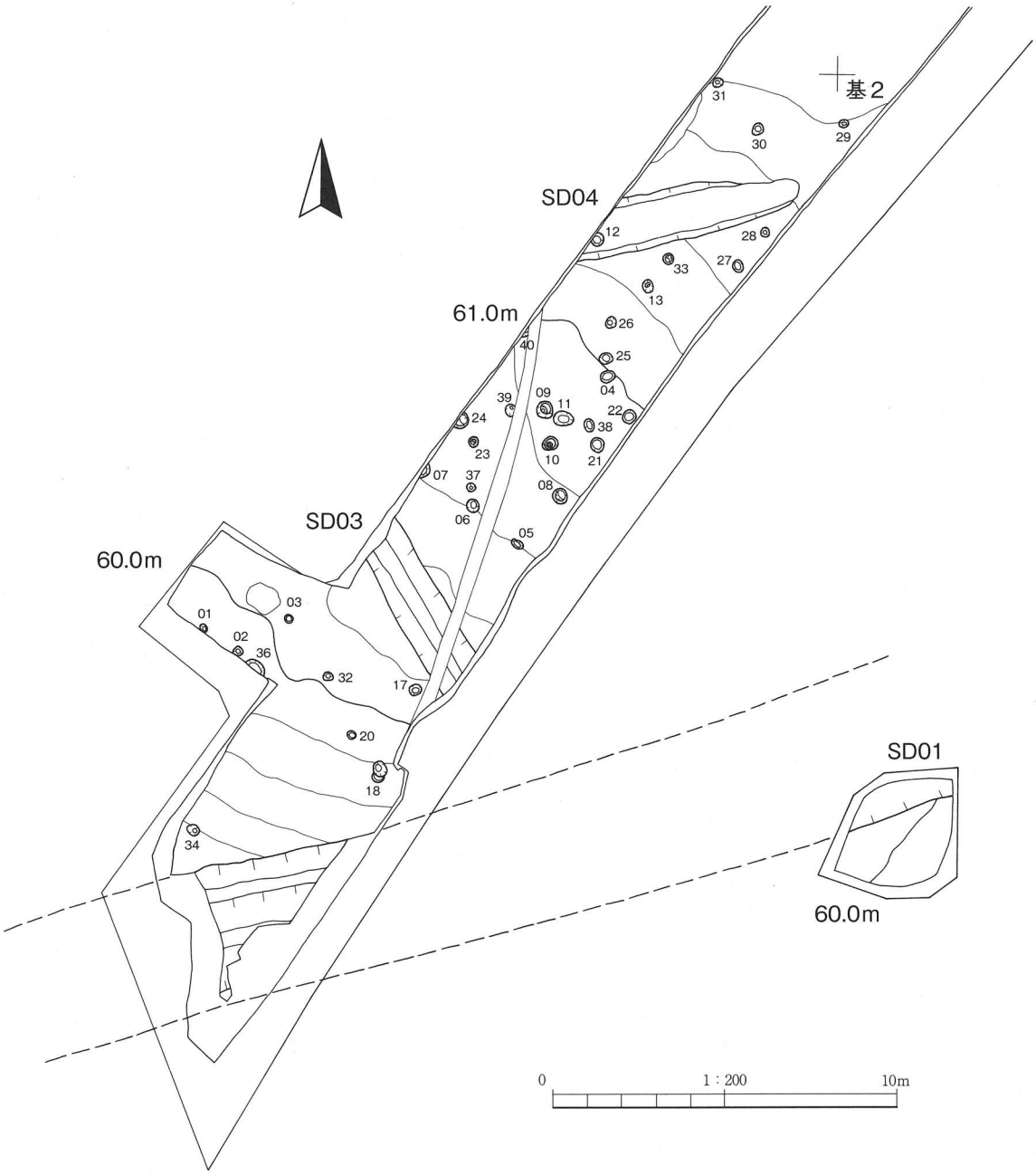
401は中国産の青磁皿の口縁部の断片的な資料である。稜花皿と考えられ、15世紀代のものと考えられる。堆積土のほぼ中間にあたる４層から出土している。

402は凝灰岩製の砥石である。強い湾曲を持つ使用面の一部しか残存していないが、四角く面取りされた中砥の一部と考えられる。403は拳大の礫を利用した凝灰岩製の砥石で、両面にＶ字状やＵ字状の溝状の使用痕跡が観察される。荒砥と考えられる。

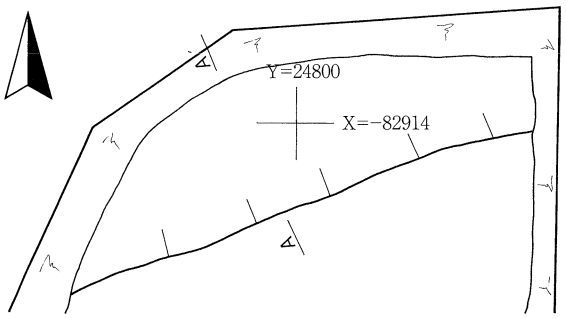
［時期］明確に本遺構に伴う遺物はないが、堆積土中から出土した青磁の年代観から判断すると、15世紀末には堀としての機能を消失していた可能性が高い。

**ＳＤ03溝跡**（第57図、写真図版13）

［位置と形態］Ｄ区南端にあり、Ｘ＝－82909、Ｙ＝24786付近に位置する。北西側と南東側は調査区

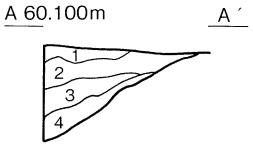



第55図　中世の遺構（１）




ＳＤ01堀跡東側

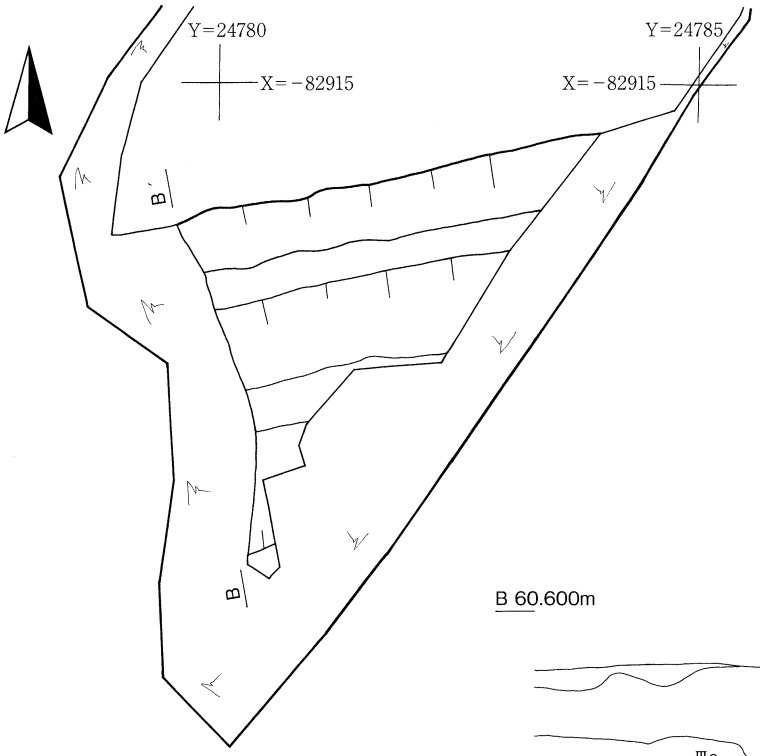
0　1：50　2m




A－A′

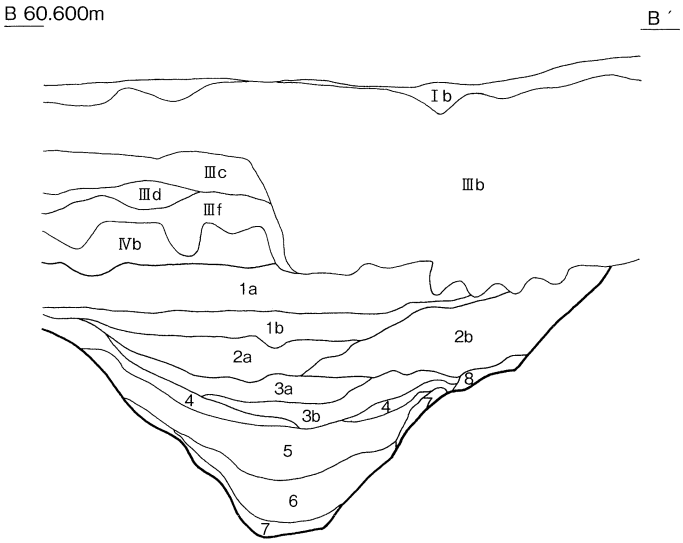
1　10YR2/2 黒褐　粘性無、しまり中　黄褐色粒２％混入。
2　10YR2/2.5 黒褐　粘性・しまり中　黄褐色粒 10％混入。
3　10YR3/3 暗褐　粘性・しまり中　黄褐色粒 15％、Ⅸ層塊５％混入。
4　10YR4/4 褐　粘性中、しまり中　ⅦＤ層塊 30％、Ⅸ層塊 15％混入。

ＳＤ01堀跡西側




B－B′

1a　10YR2/2 黒褐　粘性・しまり無　橙色粒・小礫（φ２～５㎜）・炭化物粒１％混入。
1b　10YR2/1 黒　粘性・しまり無　橙色粒１％、礫（φ５～10㎜）少量混入。
2a　10YR2/2 黒褐　粘性無、しまり中～無　橙色粒７％、炭化物粒１％混入。
2b　7.5YR2/2 黒褐　粘性無、しまり中　橙色粒・焼土粒・炭化物粒１％、礫（φ10～20㎜）多量混入。
3a　7.5YR3/3 暗褐　粘性中～有　しまり無　ⅦＡ層粒 10％、炭化物粒１％、礫（φ２～10㎜）少量混入。黒色土と互層になっている。
3b　7.5YR3/3 暗褐　粘性中～有、しまり無～中　ⅦＡ層粒 10％、炭化物粒１％、礫（φ２～10㎜）少量混入。
4　10YR2/1 黒　粘性・しまり中～無　炭化物粒１％、橙色小礫（φ２～５㎜）３％混入。
5　7.5YR2/2 黒褐　粘性中～有、しまり無～中　ⅦＡ層小塊２％、炭化物粒１％、小礫（φ５～10㎜）７～10％混入。
6　7.5YR2/1 黒　粘性中、しまり無～中　Ⅷ層小塊１％、礫（φ10～20㎜）少量混入。
7　7.5YR3/3 暗褐　粘性・しまり無　Ⅸ層塊 10％混入。
8　10YR2/3 黒褐　粘性無、しまり中　Ⅸ層塊 20％混入。




0　1：80　4m

第56図　中世の遺構（２）

外に延びている。検出面はⅢｃ層直下のⅥ層上面で、黒褐色のプランとして確認した。

調査区内で確認できた長さは5.25m、上幅は最大で1.5mである。検出面からの深さは最大で52cmで、断面形は逆台形を呈している。底面に明瞭な凹凸は見られない。

堆積土は黒褐色土を主体とし、混入物により７層に分層した。全体的に三角形状もしくはレンズ状の堆積状況を呈しており、自然堆積と考えられる。

本遺構はＳＤ01堀跡に向かって延びており、ＳＤ01堀跡と共存していた可能性も想定される。

［出土遺物］（第60図、写真図版30）

404はデイサイト製の砥石で、大きさから置き砥石と考えられる。使用面は平坦な広い表面の他、左右側面にも帯状に観察される。荒砥と考えられる。

［時期］明確に本遺構に伴う遺物はなく、断定はできないが、斉羽場館に関係する遺構と判断しており、ＳＤ01堀跡と大きな時期差はないものと判断した。

**ＳＤ04溝跡**（第57図、写真図版13・14）

［位置と形態］Ｄ区の北側にあり、Ｘ＝－82897、Ｙ＝24793付近に位置する。西側は調査区外に延びている。また、北東端は後世の削平により破壊されている。検出面はⅤ層上面で、黒褐色のプランとして確認した。本遺構はＳＫＰ12と重複しており、ＳＫＰ12が本遺構埋没後に構築されていることから、本遺構が古い。

調査区内で確認できた長さは6.75m、上幅は最大で1.63mである。検出面からの深さは最大で26cmで、断面形は皿状を呈している。底面に工具痕のような凸凹はみられず、斜面下方である西へ傾斜している。

堆積土は黒褐色土を主体とし、混入物により２層に分層した。全体的に層厚がなく、人為堆積か自然堆積か判断できなかった。

本遺構は検出された遺構のなかでは、最も高い場所に構築されているが、機能の推定までに至らなかった。

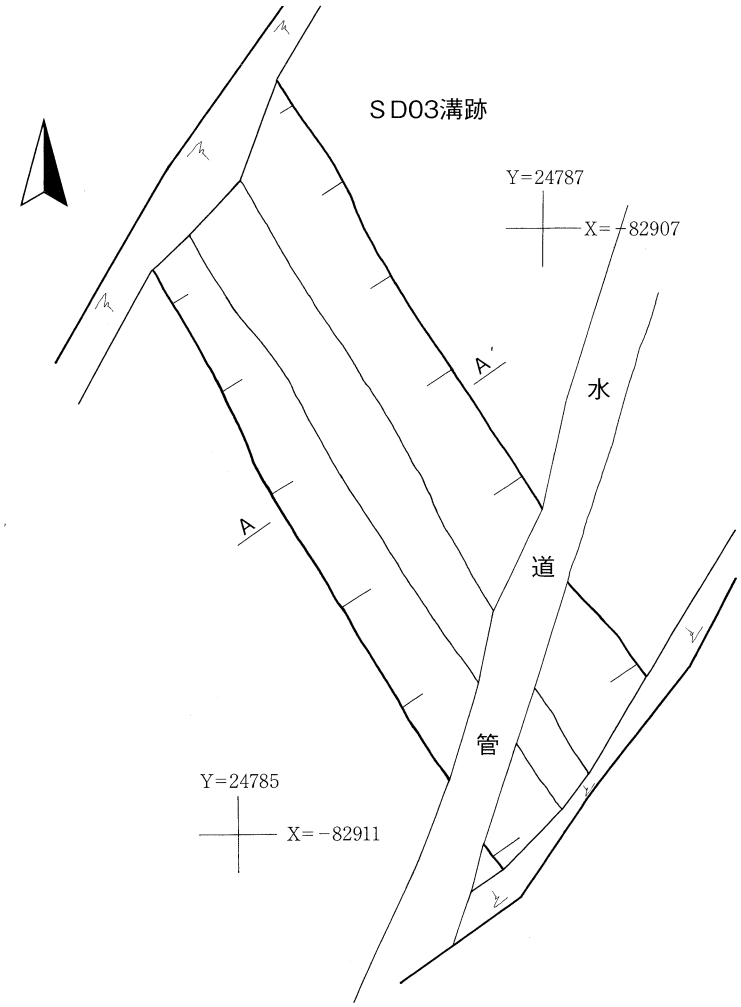
［出土遺物］堆積土中から砥石と考えられる礫片が出土したが、小片であるため図化は行っていない。

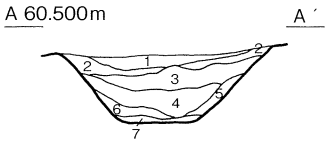
［時期］ＳＫＰ12より古いことは確かであるが、遺物が伴わず、詳細な時期は不明である。

### （３）柱　　穴（第58・59図、写真図版14）

掘立柱建物跡や柱穴列等の遺構にならなかった（組めなかった）柱穴である。36個検出したが、中には、掘り方が非常に浅く、不明瞭なものも含まれるが、本遺跡が中世の館跡であること、柱穴が検出された区域では、近世の遺物がほとんど出土しなかったこと等から、当該期の遺構として一括して扱う。

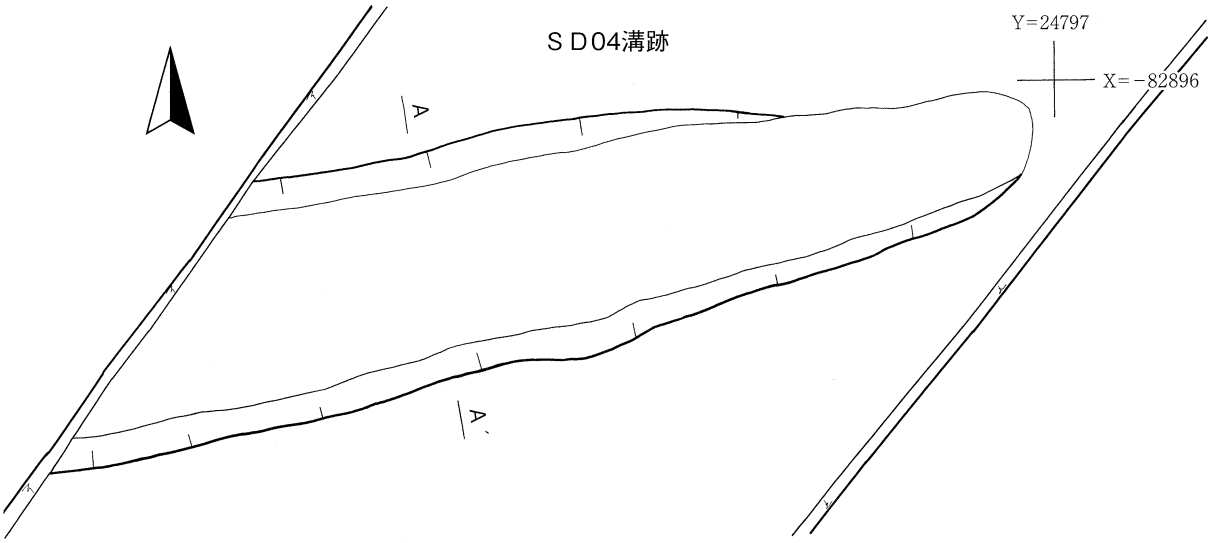
柱穴はＤ区・Ｅ区全体で検出されたが、Ｄ区中央から北側のやや高い部分に集中している。検出面は、Ｄ区のⅤ層が残存する区域ではⅤ層上面、その他は主にⅥ層上面、Ｅ区は主にⅦＡ層上面で、黒褐色の円形・楕円形のプランとして確認したものが多い。ＳＫＰ18とＳＫＰ19以外は柱穴どうしで重複する遺構はない。掘り方を伴うものもみられるが、Ｄ区中央部に集中している。全体的に、埋土にⅦ層小塊やⅦ層粒が混入するものが多い。範囲が狭いため、掘立柱建物等の遺構にはしなかったが、ＳＫＰ６・８・９・12・24・26・40は柱間隔が約242cm（８尺）と規則的で、建物になる可能性がある。仮に建物になるとすると、建物の長軸方向はＳＤ01堀跡とは直交することとなる。各柱穴の規模等については第34表を参照して頂きたい。



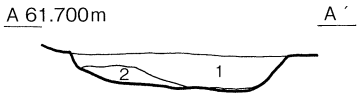




A－A′

1　10YR2/2 黒褐　粘性無、しまり中　Ⅶ層塊15%、炭化物粒１%、小礫少量混入。
2　10YR2/2.5 黒褐　粘性無、しまり中～有　Ⅶ層粒５%混入、水酸化鉄が層状に見られる。
3　10YR2/3 黒褐　粘性無～中、しまり中　Ⅶ層塊・粒20%、黒色土粒５%、小礫少量混入。
4　10YR2/3 黒褐　粘性中、しまり無　Ⅶ層粒・小塊５%、黒色土小塊１%、小礫少量混入。
5　10YR2.5/3 黒褐～暗褐　粘性中、しまり中～有　Ⅶ層塊20%、Ⅶ層粒５%、黒色土小塊３%混入。
6　10YR3/3 暗褐　粘性中～有、しまり中　褐色土との混合土層、黒褐色土塊10%混入。
7　10YR2/3 黒褐　粘性・しまり中～有　Ⅶ層粒５%混入。



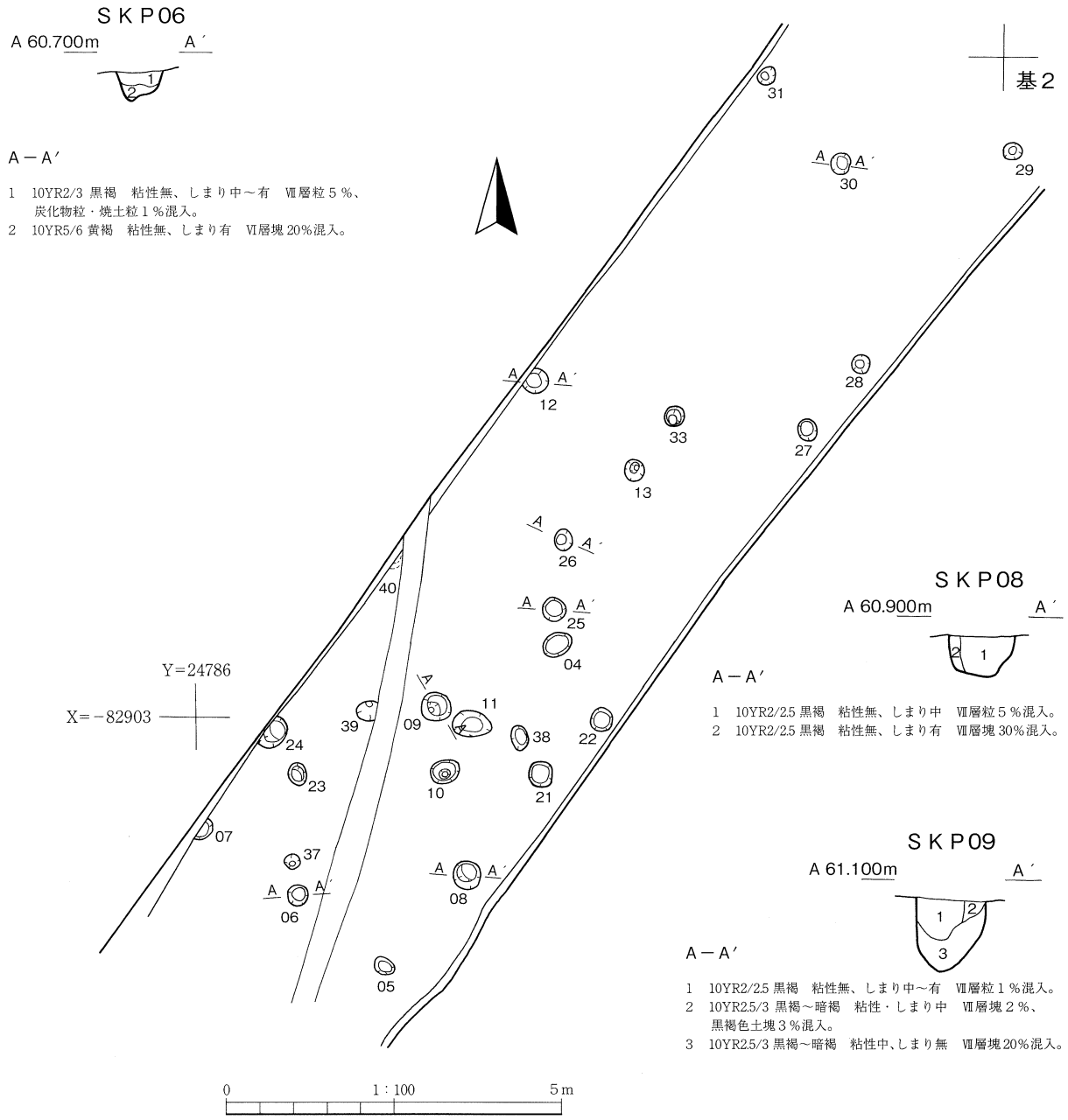

0　1：50　2m

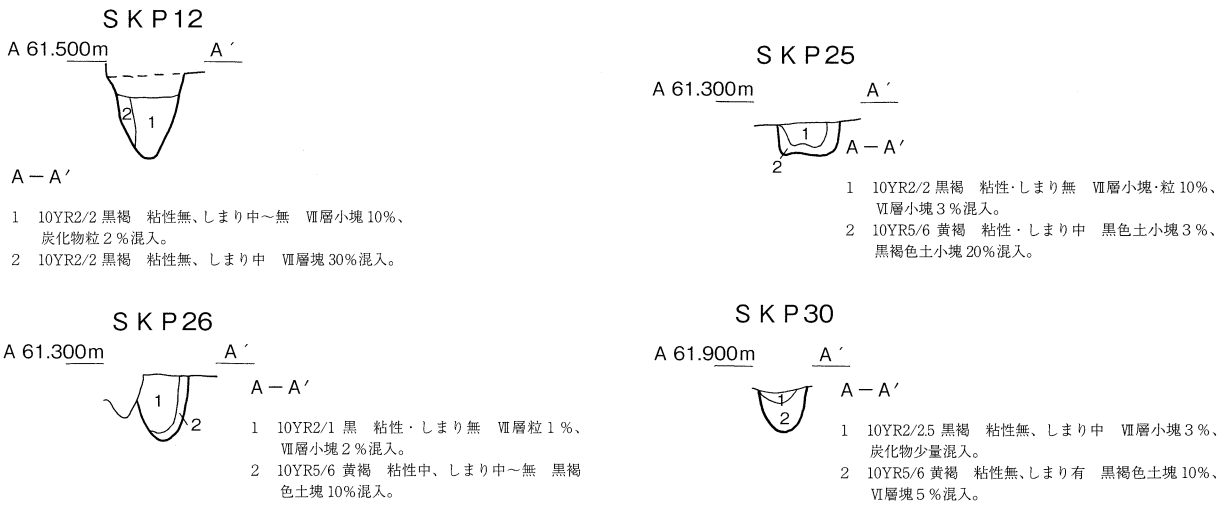



A－A′

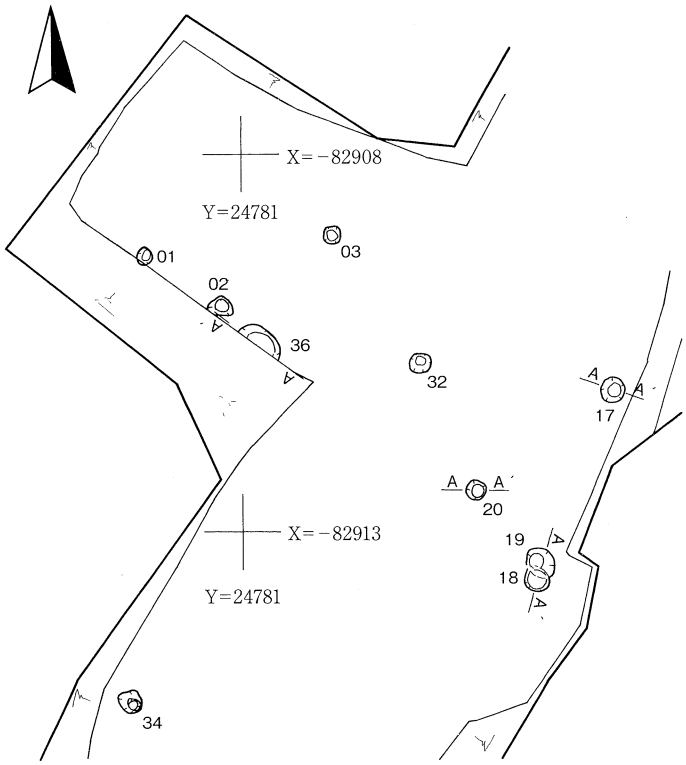
1　10YR2/2.5 黒褐　粘性無、しまり中　Ⅶ層粒５%、焼土粒・炭化物粒１%混入。
2　10YR2/2.5 黒褐　粘性無、しまり中　Ⅶ層塊30%混入。

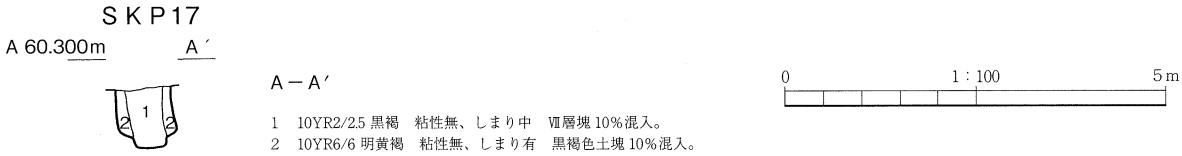
第57図　中世の遺構（３）


SKP06
A 60.700m
A′
A－A′
1　10YR2/3 黒褐　粘性無、しまり中～有　Ⅶ層粒５％、炭化物粒・焼土粒１％混入。
2　10YR5/6 黄褐　粘性無、しまり有　Ⅵ層塊 20％混入。
基2
Y=24786
X=－82903
SKP08
A 60.900m
A′
A－A′
1　10YR2/2.5 黒褐　粘性無、しまり中　Ⅶ層粒５％混入。
2　10YR2/2.5 黒褐　粘性無、しまり有　Ⅶ層塊 30％混入。
SKP09
A 61.100m
A′
A－A′
1　10YR2/2.5 黒褐　粘性無、しまり中～有　Ⅶ層粒１％混入。
2　10YR2.5/3 黒褐～暗褐　粘性・しまり中　Ⅶ層塊２％、黒褐色土塊３％混入。
3　10YR2.5/3 黒褐～暗褐　粘性中、しまり無　Ⅶ層塊 20％混入。
0　1：100　5m


SKP12
A 61.500m
A′
A－A′
1　10YR2/2 黒褐　粘性無、しまり中～無　Ⅶ層小塊 10％、炭化物粒２％混入。
2　10YR2/2 黒褐　粘性無、しまり中　Ⅶ層塊 30％混入。
SKP25
A 61.300m
A′
A－A′
1　10YR2/2 黒褐　粘性・しまり無　Ⅶ層小塊・粒 10％、Ⅵ層小塊３％混入。
2　10YR5/6 黄褐　粘性・しまり中　黒色土小塊３％、黒褐色土小塊 20％混入。
SKP26
A 61.300m
A′
A－A′
1　10YR2/1 黒　粘性・しまり無　Ⅶ層粒１％、Ⅶ層小塊２％混入。
2　10YR5/6 黄褐　粘性中、しまり中～無　黒褐色土塊 10％混入。
SKP30
A 61.900m
A′
A－A′
1　10YR2/2.5 黒褐　粘性無、しまり中　Ⅶ層小塊３％、炭化物少量混入。
2　10YR5/6 黄褐　粘性無、しまり有　黒褐色土塊 10％、Ⅵ層塊５％混入。

第58図　中世の遺構（4）


X=－82908
Y=24781
01
02
03
36
32
17
20
19
18
X=－82913
Y=24781
34

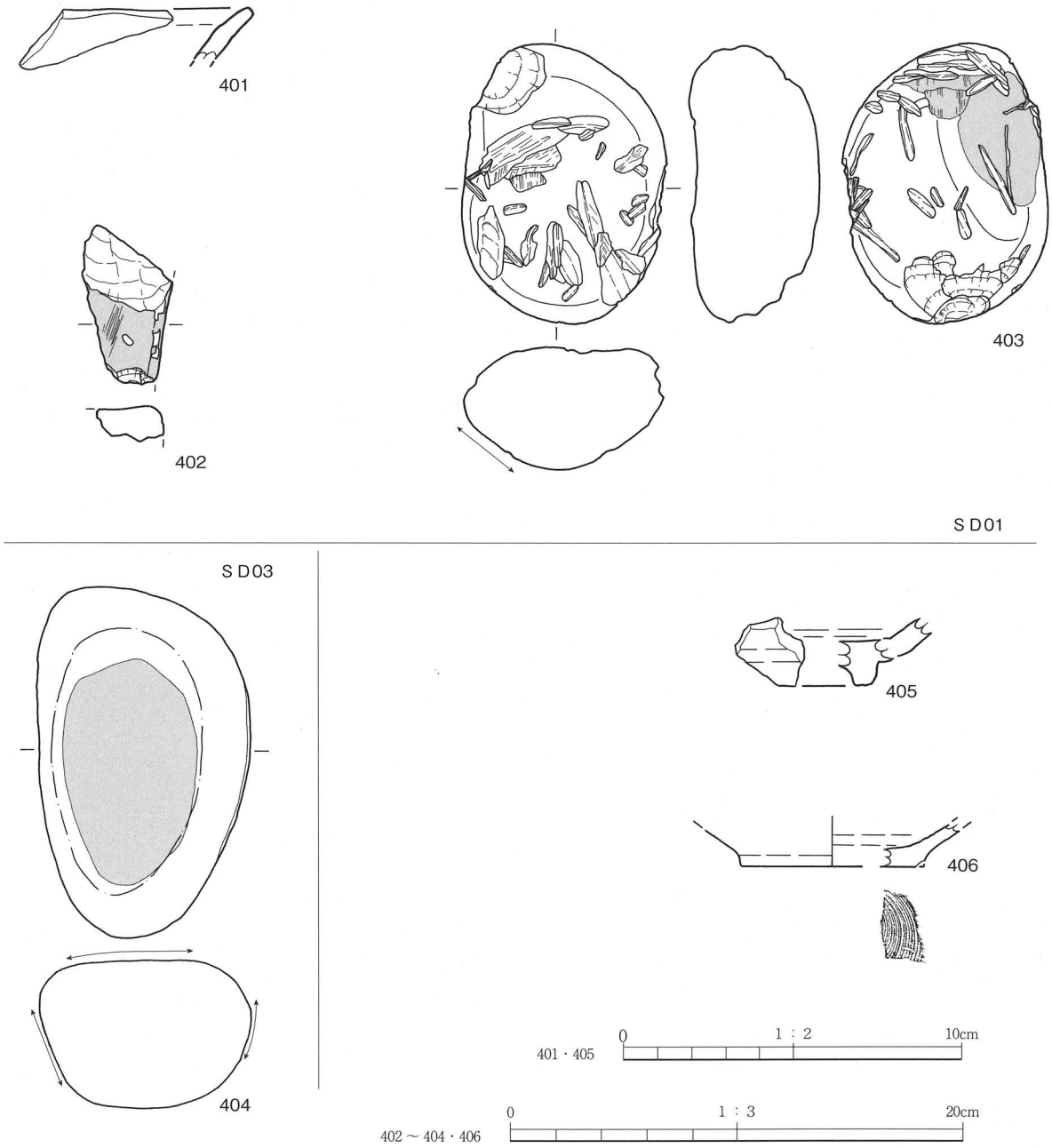

SKP17
A 60.300m
A′
1
2
2
A－A′
1　10YR2/2.5 黒褐　粘性無、しまり中　Ⅶ層塊 10%混入。
2　10YR6/6 明黄褐　粘性無、しまり有　黒褐色土塊 10%混入。
0
1：100
5m
SKP18·19
A 59.900m
A′
1
2
3
5
4
A－A′
1　10YR2/3 黒褐　粘性・しまり無　Ⅶ層粒２%混入。
2　10YR2.5/2.5 黒褐　粘性・しまり中　Ⅶ層塊 20%混入。
3　10YR2/2.5 黒褐　粘性無、しまり中　Ⅶ層粒２%、焼土粒１%混入
4　10YR4/6 褐　粘性無、しまり有　黒褐色土塊 20%、暗褐色土塊 10%混入。
5　10YR3/3 暗褐　粘性中、しまり無　Ⅶ層塊 230%混入。
SKP20
A 60.000m
A′
2
1
3
3
A－A′
1　10YR2/2.5 黒褐　粘性・しまり中　Ⅶ層粒３%、炭化物粒１%混入。
2　10YR2/3 黒褐　粘性・しまり中　Ⅶ層小塊 30%混入。
3　10YR4/6 褐　粘性無、しまり有　暗褐色土塊５%混入。
SKP36
A 61.000m
A′
Ⅰ
Ⅲb
Ⅲc
1
2
3
A－A′
1　10YR2/2 黒褐　粘性無、しまり有　ⅦD層塊 20%混入。
2　10YR5/6 黄褐　粘性無、しまり有　黒褐色土小塊 20%混入。
3　10YR6/6 明黄褐　粘性無、しまり有　褐色土で汚れている。

第59図　中世の遺構（５）

**第31表　土器観察表（中世）**

| 掲載No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 法量(cm) | 備　考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 401 | ＳＤ01　西側　４層 | 青磁 | 皿 | 口 | ―<br>―<br>(1.8) | 中国産<br>1045と同一個体 | 60 | 30 |
| 405 | Ｃ区　Ⅰ層 | 青磁 | 皿 | 底 | ―<br>―<br>(2.0) | 中国産<br>1044と同一個体 | 60 | 30 |
| 406 | Ｆ区　Ｔ６　Ⅰ層 | かわらけ | 皿 | 底 | ―<br>[8.0]<br>(2.2) | 内外面ロクロ調整 | 60 | 30 |

【部位】口：口縁部、底：底部
【法量】上段：口径、中段：底径、下段：器高、(　)：残存値、[　]：推定値




第60図　中世の遺物

### （4）遺構外出土遺物（第60図、写真図版30）

**青磁**（405）　401と同一個体の底部の断片的な資料である。C区のⅠ層から出土している。

**かわらけ**（406）　T6のⅠ層から出土したかわらけの底部片である。底部がやや高台状に厚みを持つ大形の皿である。奥州市水沢区の仙人西遺跡出土例などに類似した資料があり、15世紀代の資料の可能性が高い。

**第32表　石器観察表（中世）**

| 掲載No | 器種 | 位置 | 出土層位 | 石材 | 器長(cm) | 器幅(cm) | 器厚(cm) | 重量(g) | 分類 | 備　考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 402 | 砥石 | SD01西 | 3ab層 | tuf | (7.00) | (3.92) | (2.11) | 40.51 | － | 中砥 | 60 | 30 |
| 403 | 砥石 | SD01西 | 6層 | tuf | (12.35) | 9.00 | (5.70) | 554.21 | | 荒砥？ | 60 | 30 |
| 404 | 砥石 | SD03 | 東3層 | dac | 15.45 | 9.40 | 6.55 | 1565.34 | Ⅳ | 置砥石（荒砥？） | 60 | 30 |

【石材】dac：デイサイト、tuf：凝灰岩

## 5　時　期　不　明

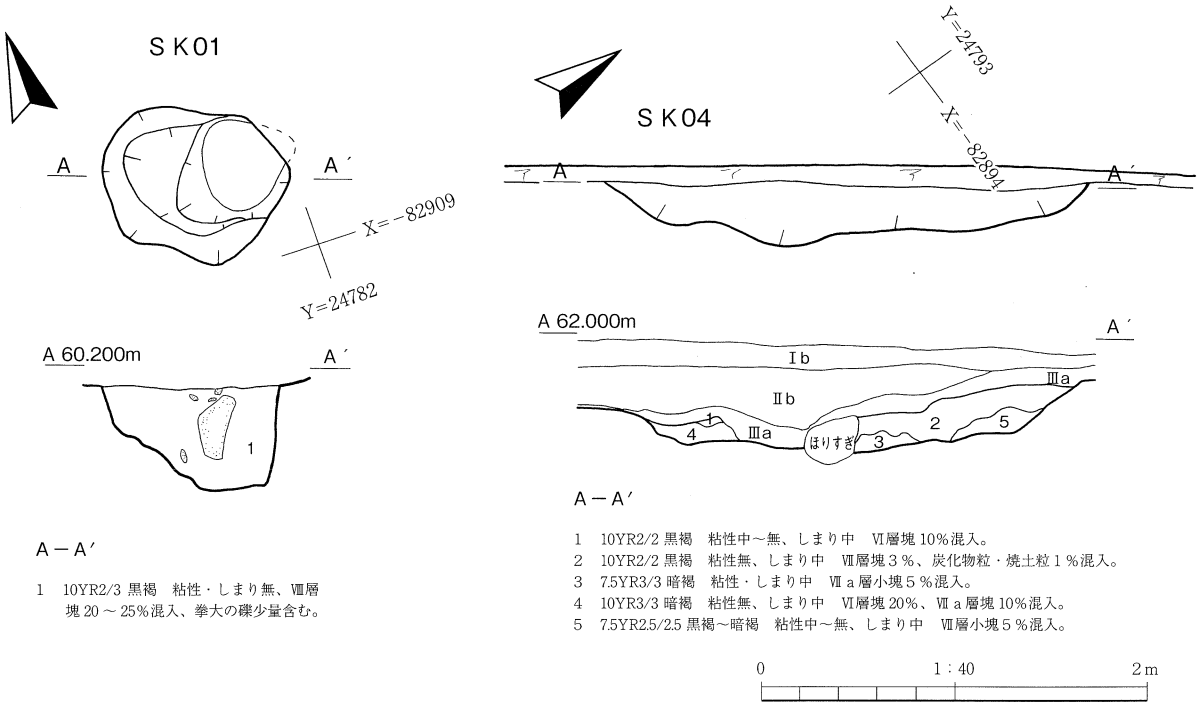
### （1）概　　要

遺物が伴わず、明確な掘り込み面を確認できなかった遺構を一括した。また、遺物についても同様であるが、近世の遺物については、出土量が少ないこと、明確な近世の遺構がないことから、本節に含めて報告する。

### （2）土　　坑

**SK01土坑**（第61図、写真図版15）

［位置と形態］凸区にあり、X＝－82909、Y＝24782付近に位置する。検出面はⅢc層直下のⅥ層上面で、黒褐色の楕円形プランとして確認した。重複する遺構はない。平面形はやや歪んだ楕円形を呈する。




第61図　時期不明の遺構

平面規模は開口部で1.00×0.80mで、主軸方向はN62°Wである。検出面からの深さは最大で57cmで、斜面上方の東壁は底面から直立気味に立ち上がり、西壁は段を持ちながら立ち上がる。底面は概ね平坦である。

堆積土は黒褐色土の単層である。拳大の礫を含み、地山塊が多量に混入する堆積土で、短時間に埋没しており、人為堆積と考えられる。

［出土遺物］堆積土中から磨石が出土しているが、後世に縄文時代の堆積土層から流入した可能性が高い。

**ＳＫ04土坑**（第61図、写真図版15）

［位置と形態］Ｄ区北側にあり、Ｘ＝－82894、Ｙ＝24793付近に位置する。検出面はⅢａ層直下のⅥ層上面で、黒褐色のプランとして確認した。重複する遺構はないが、北西側の大半が調査区外に広がっている。そのため、平面形や規模は不明である。検出面から確認できた深さは最大で37cmである。壁面はなだらかに立ち上がる。

堆積土は黒褐色土を主体とし、５層に分層した。下部にはⅥ層に起因すると考えられる暗褐色土がみられる。確認できた範囲が狭く、中央部は後世の削平の影響を受けており、人為堆積か自然堆積かの判断は困難であった。

［出土遺物］縄文時代の土器片や石器が出土している。

### （３）遺構外出土遺物（写真図版30）

**陶器**（411・412）　２点とも碗で411は体部、412は底部の断片的な資料である。

**土製品**（413）　球形をしており、土玉の一種と考えられる。

**銭貨**（414）　寛永通寶と考えられる銭貨である。緑青により文字は判読できなかった。

**第33表　遺物観察表（時期不明）**

| 掲載No | 出土地点・層位 | 種別 | 器種 | 部位 | 法量(cm) | 文様等 | 備　考 | 図版No | 写図No |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 411 | Ｅ区　Ⅲ層 | 陶器 | 碗 | 体 | —<br>—<br>(2.8) | | 大堀相馬？ | － | 30 |
| 412 | Ｄ区　Ⅱ層 | 陶器 | 碗 | 底上 | —<br>—<br>(1.5) | | 産地不明 | － | 30 |
| 413 | Ｄ区　Ⅰ層 | 土製品 | 玉？ | 完形 | ▲1.9 | － | | － | 30 |
| 414 | Ｄ区　Ⅲ層 | 銭貨 | 寛永通寶？ | | ▲[2.4] | | | － | 30 |

【部位】体：体部、底上：底部直上
【法量】上段：口径、中段：底径、下段：器高、▲：径、（　）：残存値、［　］：推定値

第34表　柱穴一覧

| 遺構名 | 位置 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 底面標高(m) | 埋　土 | 時代 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＫＰ01 | 凸区 | 21 | 21 | 21.0 | 59.696 | 黒色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ02 | 凸区 | 35 | 26 | 20.0 | 59.757 | 黒褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ03 | 凸区 | 24 | 23 | 12.0 | 59.991 | 黒褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ04 | Ｄ１ | 47 | 34 | 20.0 | 60.964 | 黒褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ05 | Ｄ４ | 33 | 26 | 8.0 | 60.539 | 褐色土主体、黒褐色土塊10%混入 | 中世か | |
| ＳＫＰ06 | Ｃ24 | 34 | 32 | 22.0 | 60.402 | 第58図参照 | 中世か | |
| ＳＫＰ07 | Ｃ19<br>Ｃ24 | (37) | (17) | 11.0 | 60.553 | 黒褐色土主体、焼土粒１%混入 | 中世か | 調査区外に広がる |
| ＳＫＰ08 | Ｄ３ | 44 | 43 | 30.0 | 60.506 | 第58図参照 | 中世か | |
| ＳＫＰ09 | Ｃ22 | 47 | 46 | 52.0 | 60.482 | 第58図参照 | 中世か | |
| ＳＫＰ10 | Ｄ２ | 45 | 35 | 28.0 | 60.647 | 上：黒褐色土主体<br>下：暗褐色土～褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ11 | Ｃ22<br>Ｄ２ | 60 | 40 | 35.0 | 60.694 | 黒褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ12 | Ａ20 | (33) | 39 | 45.0 | 61.028 | 第58図参照 | 中世か | 調査区外に広がる |
| ＳＫＰ13 | Ａ25 | 34 | 31 | 35.0 | 61.046 | 黒褐色土主体、炭化物粒１%混入 | 中世か | |
| ＳＫＰ16 | Ｆ４ | 38 | 34 | 36.0 | 59.029 | 第52図参照 | 平安時代 | |
| ＳＫＰ17 | Ｆ１ | 34 | 31 | 33.0 | 59.828 | 第59図参照 | 中世か | |
| ＳＫＰ18 | Ｆ８ | 33 | 33 | 32.0 | 59.432 | 第59図参照 | 中世か | ＳＫＰ19より古い |
| ＳＫＰ19 | Ｆ８ | 43 | 37 | 29.0 | 59.517 | 第59図参照 | 中世か | ＳＫＰ18より新しい |
| ＳＫＰ20 | Ｆ２ | 26 | 26 | 22.5 | 59.657 | 第59図参照 | 中世か | |
| ＳＫＰ21 | Ｄ２ | 39 | 35 | 19.0 | 60.824 | 黒褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ22 | Ｄ１ | 35 | 33 | 20.0 | 60.927 | 黒褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ23 | Ｃ23 | 36 | 27 | 27.0 | 60.526 | 黒褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ24 | Ｃ18<br>Ｃ23 | 51 | (31) | 23.0 | 60.616 | 柱当：黒褐色土主体<br>掘り方：暗褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ25 | Ｃ21<br>Ｄ１ | 35 | 35 | 22.0 | 60.977 | 第58図参照 | 中世か | |
| ＳＫＰ26 | Ａ25 | 33 | 27 | 35.0 | 60.887 | 第58図参照 | 中世か | |
| ＳＫＰ27 | Ｂ４ | 33 | 29 | 32.0 | 61.284 | 黒褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ28 | Ｂ３ | 28 | 27 | 28.0 | 61.359 | 黒褐色土主体、モソモソしている | 中世か | |
| ＳＫＰ29 | Ｂ１ | 28 | 27 | 17.0 | 61.630 | 黒色土と褐色土の混合層 | 中世か | |
| ＳＫＰ30 | Ａ22 | 33 | 29 | 26.0 | 61.435 | 第58図参照 | 中世か | |
| ＳＫＰ31 | Ａ17 | 31 | 25 | 28.0 | 61.506 | 柱当：黒褐色土主体<br>掘り方：褐色土主体、黒褐色土塊20%混入 | 中世か | |
| ＳＫＰ32 | Ｅ22 | 30 | 28 | 30.5 | 59.740 | 柱当：黒褐色土主体<br>掘り方：暗褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ33 | Ａ24 | 31 | 31 | 25.0 | 61.059 | 注記なし | 中世か | |
| ＳＫＰ34 | Ｅ25 | 35 | 32 | 30.0 | 58.960 | 黒褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ35 | Ｆ４<br>Ｆ５ | 26 | 25 | 9.5 | 59.197 | 黒褐色土主体、淡黄色小塊２%混入 | 平安時代 | ＳＩ01より古い |
| ＳＫＰ36 | 凸区 | (66) | (24) | 51.0 | 59.456 | 第59図参照 | 中世か | 調査区外に広がる |
| ＳＫＰ37 | Ｃ23<br>Ｃ24 | 24 | 24 | 15.0 | 60.521 | 黒褐色土主体 | 中世か | |
| ＳＫＰ38 | Ｄ２ | 38 | 25 | 13.0 | 60.802 | 黒褐色土主体、礫混入 | 中世か | |
| ＳＫＰ39 | Ｃ22 | (33) | 32 | 47.0 | 60.293 | 黒褐色土主体、炭化物粒１%混入 | 中世か | |
| ＳＫＰ40 | Ｃ16 | (33) | (13) | 35.0 | 60.732 | 黒褐色土主体 | 中世か | |

【長軸・短軸】(　)：残存値

## 第35表　点取り遺物座標データ一覧（1）

| 個別No | X座標 | Y座標 | Z座標 |
|---|---|---|---|
| 45 | － 82908.801 | 24779.814 | 59.990 |
| 46 | － 82908.827 | 24779.441 | 59.957 |
| 47 | － 82908.439 | 24779.505 | 59.979 |
| 48 | － 82908.256 | 24780.086 | 60.026 |
| 49 | － 82907.816 | 24781.336 | 60.126 |
| 50 | － 82909.419 | 24780.443 | 59.942 |
| 51 | － 82909.516 | 24780.620 | 59.980 |
| 52 | － 82909.524 | 24780.837 | 60.014 |
| 53 | － 82909.886 | 24781.299 | 59.988 |
| 54 | － 82909.093 | 24781.704 | 60.050 |
| 55 | － 82908.850 | 24781.930 | 60.096 |
| 56 | － 82908.730 | 24782.208 | 60.146 |
| 57 | － 82908.810 | 24782.419 | 60.157 |
| 58 | － 82908.831 | 24782.512 | 60.165 |
| 59 | － 82908.499 | 24782.602 | 60.171 |
| 60 | － 82908.456 | 24783.045 | 60.208 |
| 61 | － 82908.384 | 24783.217 | 60.219 |
| 62 | － 82907.321 | 24779.543 | 60.007 |
| 63 | － 82907.857 | 24779.199 | 59.926 |
| 64 | － 82907.738 | 24779.232 | 60.026 |
| 65 | － 82909.455 | 24779.780 | 59.928 |
| 66 | － 82909.853 | 24780.941 | 59.995 |
| 67 | － 82909.073 | 24781.324 | 60.009 |
| 68 | － 82909.506 | 24781.603 | 60.053 |
| 69 | － 82909.341 | 24782.421 | 60.133 |
| 70 | － 82905.823 | 24785.865 | 60.588 |
| 71 | － 82905.787 | 24786.015 | 60.610 |
| 73 | － 82907.313 | 24780.439 | 60.089 |
| 74 | － 82907.572 | 24779.947 | 59.995 |
| 75 | － 82907.800 | 24779.902 | 60.025 |
| 76 | － 82908.127 | 24780.112 | 59.988 |
| 77 | － 82908.008 | 24779.527 | 59.943 |
| 78 | － 82908.737 | 24779.370 | 59.922 |
| 79 | － 82909.005 | 24779.278 | 59.840 |
| 80 | － 82908.773 | 24779.783 | 59.944 |
| 81 | － 82908.457 | 24780.230 | 59.976 |
| 82 | － 82908.815 | 24780.102 | 59.957 |
| 83 | － 82909.574 | 24780.037 | 59.851 |
| 84 | － 82909.402 | 24780.298 | 59.907 |
| 85 | － 82909.931 | 24781.101 | 59.959 |
| 86 | － 82909.726 | 24781.463 | 59.988 |
| 87 | － 82909.585 | 24781.514 | 60.028 |
| 88 | － 82909.292 | 24781.651 | 60.028 |
| 89 | － 82909.734 | 24781.809 | 60.037 |
| 90 | － 82909.721 | 24781.907 | 60.057 |
| 91 | － 82908.989 | 24781.768 | 60.059 |
| 92 | － 82908.838 | 24781.926 | 60.083 |
| 93 | － 82909.199 | 24782.205 | 60.061 |
| 94 | － 82909.149 | 24782.413 | 60.127 |
| 95 | － 82909.055 | 24782.575 | 60.126 |
| 96 | － 82907.948 | 24781.793 | 60.123 |
| 97 | － 82909.372 | 24781.629 | 60.009 |
| 98 | － 82908.418 | 24783.292 | 60.199 |
| 99 | － 82908.718 | 24783.177 | 60.185 |
| 100 | － 82908.934 | 24783.911 | 60.236 |
| 101 | － 82908.797 | 24784.602 | 60.285 |
| 102 | － 82910.187 | 24783.978 | 60.112 |
| 103 | － 82911.231 | 24783.397 | 59.986 |
| 104 | － 82910.678 | 24785.118 | 60.156 |
| 105 | － 82910.528 | 24786.089 | 60.209 |
| 106 | － 82915.513 | 24781.832 | 59.347 |
| 107 | － 82909.962 | 24781.070 | 59.953 |
| 108 | － 82909.095 | 24782.014 | 60.034 |
| 109 | － 82909.023 | 24782.408 | 60.100 |
| 110 | － 82910.181 | 24784.033 | 60.108 |
| 111 | － 82901.844 | 24789.407 | 60.956 |
| 112 | － 82901.783 | 24789.500 | 60.974 |
| 113 | － 82901.641 | 24789.306 | 60.934 |
| 114 | － 82901.720 | 24789.634 | 60.958 |
| 115 | － 82901.783 | 24789.652 | 60.960 |
| 116 | － 82902.010 | 24789.742 | 60.955 |
| 117 | － 82902.089 | 24789.756 | 60.944 |
| 118 | － 82902.004 | 24789.432 | 60.955 |
| 119 | － 82902.027 | 24789.311 | 60.966 |
| 120 | － 82902.069 | 24789.249 | 60.956 |
| 121 | － 82902.243 | 24789.375 | 60.950 |
| 122 | － 82902.294 | 24789.495 | 60.959 |
| 123 | － 82902.375 | 24789.405 | 60.951 |
| 124 | － 82902.413 | 24789.397 | 60.947 |
| 125 | － 82902.284 | 24789.822 | 60.961 |
| 126 | － 82902.448 | 24789.767 | 60.946 |
| 127 | － 82902.509 | 24789.917 | 60.993 |
| 128 | － 82902.682 | 24789.820 | 60.942 |
| 129 | － 82902.822 | 24789.823 | 60.947 |
| 130 | － 82902.827 | 24789.898 | 60.950 |
| 131 | － 82902.760 | 24789.831 | 60.920 |
| 132 | － 82902.437 | 24790.123 | 60.982 |
| 133 | － 82902.273 | 24789.961 | 61.003 |
| 134 | － 82902.057 | 24789.571 | 60.979 |
| 135 | － 82901.965 | 24789.441 | 60.929 |
| 136 | － 82901.748 | 24789.306 | 60.954 |
| 137 | － 82899.306 | 24790.068 | 61.143 |
| 138 | － 82899.905 | 24789.820 | 61.076 |
| 139 | － 82900.033 | 24789.760 | 61.036 |
| 140 | － 82899.994 | 24789.951 | 61.083 |
| 141 | － 82901.673 | 24789.320 | 61.253 |
| 142 | － 82901.822 | 24789.515 | 61.243 |
| 143 | － 82901.732 | 24789.633 | 61.255 |
| 144 | － 82901.906 | 24789.790 | 61.261 |
| 145 | － 82902.013 | 24789.685 | 61.252 |
| 146 | － 82902.126 | 24789.570 | 61.267 |
| 147 | － 82902.135 | 24789.642 | 61.256 |
| 148 | － 82902.079 | 24789.382 | 61.274 |
| 149 | － 82901.839 | 24789.576 | 61.272 |
| 150 | － 82895.751 | 24792.811 | 61.588 |
| 151 | － 82895.854 | 24793.015 | 61.599 |
| 152 | － 82896.339 | 24792.646 | 61.545 |
| 153 | － 82896.539 | 24792.384 | 61.467 |
| 154 | － 82896.563 | 24792.334 | 61.461 |
| 155 | － 82897.821 | 24793.879 | 61.427 |
| 156 | － 82898.981 | 24793.108 | 61.323 |
| 157 | － 82898.488 | 24791.152 | 61.201 |
| 158 | － 82899.422 | 24791.778 | 61.230 |
| 159 | － 82899.829 | 24791.693 | 61.168 |
| 160 | － 82900.189 | 24792.024 | 61.191 |
| 161 | － 82900.625 | 24791.729 | 61.142 |
| 162 | － 82899.858 | 24791.899 | 61.211 |
| 163 | － 82898.712 | 24791.539 | 61.159 |
| 164 | － 82899.161 | 24793.203 | 61.303 |
| 165 | － 82899.083 | 24793.339 | 61.309 |
| 166 | － 82899.632 | 24793.598 | 61.349 |
| 167 | － 82900.068 | 24792.961 | 61.263 |
| 168 | － 82900.427 | 24792.658 | 61.242 |
| 169 | － 82900.401 | 24792.217 | 61.219 |
| 170 | － 82900.415 | 24792.220 | 61.209 |
| 171 | － 82901.162 | 24792.650 | 61.159 |
| 172 | － 82901.260 | 24792.561 | 61.211 |
| 173 | － 82900.442 | 24793.064 | 61.208 |
| 174 | － 82900.217 | 24793.115 | 61.216 |
| 175 | － 82900.652 | 24792.407 | 61.197 |
| 176 | － 82900.584 | 24792.100 | 61.223 |
| 177 | － 82899.628 | 24789.996 | 61.082 |
| 178 | － 82899.625 | 24789.948 | 61.064 |
| 179 | － 82900.511 | 24789.129 | 60.866 |
| 180 | － 82900.716 | 24788.938 | 60.976 |
| 181 | － 82901.037 | 24788.974 | 60.879 |
| 182 | － 82900.116 | 24790.261 | 61.082 |
| 183 | － 82900.378 | 24790.524 | 61.076 |
| 184 | － 82901.187 | 24790.637 | 61.016 |
| 185 | － 82900.969 | 24789.972 | 60.979 |
| 186 | － 82900.794 | 24789.639 | 60.973 |
| 187 | － 82901.013 | 24789.657 | 60.955 |
| 188 | － 82901.266 | 24789.374 | 60.936 |
| 189 | － 82901.332 | 24789.630 | 60.954 |
| 190 | － 82901.374 | 24789.869 | 61.004 |
| 191 | － 82901.391 | 24790.481 | 60.989 |
| 192 | － 82901.395 | 24790.764 | 61.005 |
| 193 | － 82901.703 | 24790.560 | 61.015 |
| 194 | － 82901.791 | 24790.553 | 61.028 |
| 195 | － 82901.821 | 24790.519 | 61.026 |
| 196 | － 82901.960 | 24790.420 | 61.018 |
| 197 | － 82901.874 | 24790.267 | 61.014 |
| 198 | － 82901.647 | 24790.074 | 60.981 |
| 199 | － 82901.234 | 24789.540 | 60.953 |
| 200 | － 82900.704 | 24790.673 | 61.041 |
| 201 | － 82900.947 | 24790.180 | 60.993 |
| 202 | － 82901.280 | 24789.859 | 60.963 |
| 203 | － 82901.934 | 24792.721 | 61.115 |
| 204 | － 82901.943 | 24792.303 | 61.112 |
| 205 | － 82903.063 | 24791.853 | 61.018 |
| 206 | － 82902.604 | 24791.221 | 60.988 |
| 207 | － 82902.086 | 24791.946 | 61.090 |
| 208 | － 82902.761 | 24791.011 | 60.935 |
| 209 | － 82901.412 | 24788.991 | 60.927 |
| 210 | － 82901.760 | 24788.794 | 60.854 |
| 211 | － 82901.991 | 24788.680 | 60.840 |
| 212 | － 82902.015 | 24788.548 | 60.810 |
| 213 | － 82902.281 | 24788.794 | 60.844 |
| 214 | － 82902.189 | 24788.573 | 60.796 |
| 215 | － 82902.291 | 24788.508 | 60.793 |
| 216 | － 82902.453 | 24788.374 | 60.790 |
| 217 | － 82902.631 | 24788.523 | 60.864 |
| 218 | － 82902.704 | 24788.506 | 60.832 |
| 219 | － 82902.568 | 24788.239 | 60.805 |
| 220 | － 82902.596 | 24788.168 | 60.834 |
| 221 | － 82902.706 | 24788.112 | 60.827 |
| 222 | － 82902.760 | 24788.004 | 60.786 |
| 223 | － 82902.835 | 24788.078 | 60.825 |
| 224 | － 82902.815 | 24788.367 | 60.788 |
| 225 | － 82902.859 | 24788.280 | 60.803 |
| 226 | － 82902.807 | 24788.662 | 60.760 |
| 227 | － 82901.883 | 24789.238 | 60.938 |
| 228 | － 82902.010 | 24789.454 | 60.907 |
| 229 | － 82902.128 | 24789.312 | 60.933 |
| 230 | － 82902.230 | 24789.322 | 60.923 |
| 231 | － 82902.151 | 24789.353 | 60.920 |
| 232 | － 82902.111 | 24789.428 | 60.907 |
| 233 | － 82902.020 | 24789.618 | 60.923 |
| 234 | － 82902.173 | 24789.581 | 60.917 |
| 235 | － 82902.014 | 24789.681 | 60.937 |
| 236 | － 82902.052 | 24789.696 | 60.932 |
| 237 | － 82902.085 | 24789.685 | 60.920 |
| 238 | － 82902.111 | 24789.814 | 60.935 |
| 239 | － 82902.087 | 24789.858 | 60.929 |
| 240 | － 82902.259 | 24789.903 | 60.942 |
| 241 | － 82902.447 | 24789.948 | 60.924 |
| 242 | － 82902.595 | 24789.768 | 60.905 |
| 243 | － 82902.587 | 24789.766 | 60.904 |
| 244 | － 82902.660 | 24789.687 | 60.893 |
| 245 | － 82902.346 | 24789.204 | 60.947 |
| 246 | － 82902.575 | 24789.310 | 60.890 |
| 247 | － 82902.642 | 24789.187 | 60.882 |
| 248 | － 82902.779 | 24789.210 | 60.894 |
| 249 | － 82903.057 | 24789.205 | 60.850 |

## 第35表　点取り遺物座標データ一覧（2）

| 個別No | X座標 | Y座標 | Z座標 |
|---|---|---|---|
| 250 | − 82903.409 | 24789.038 | 60.819 |
| 251 | − 82902.006 | 24789.542 | 60.912 |
| 252 | − 82902.143 | 24789.519 | 60.912 |
| 253 | − 82902.191 | 24789.492 | 60.900 |
| 254 | − 82902.200 | 24789.497 | 60.898 |
| 255 | − 82902.222 | 24789.415 | 60.886 |
| 256 | − 82902.267 | 24789.591 | 60.876 |
| 257 | − 82902.149 | 24789.854 | 60.932 |
| 258 | − 82902.221 | 24789.911 | 60.934 |
| 259 | − 82902.212 | 24789.811 | 60.909 |
| 260 | − 82902.330 | 24789.839 | 60.927 |
| 261 | − 82902.646 | 24789.327 | 60.851 |
| 262 | − 82902.788 | 24789.116 | 60.872 |
| 263 | − 82902.867 | 24789.086 | 60.849 |
| 264 | − 82903.407 | 24789.469 | 60.856 |
| 265 | − 82903.521 | 24789.470 | 60.871 |
| 266 | − 82903.761 | 24789.117 | 60.808 |
| 267 | − 82903.847 | 24789.330 | 60.827 |
| 268 | − 82903.612 | 24789.615 | 60.854 |
| 269 | − 82903.465 | 24789.000 | 60.811 |
| 270 | − 82903.718 | 24789.401 | 60.834 |
| 271 | − 82903.388 | 24789.334 | 60.820 |
| 272 | − 82902.958 | 24789.078 | 60.864 |
| 273 | − 82901.906 | 24789.273 | 60.927 |
| 274 | − 82903.559 | 24789.325 | 60.811 |
| 275 | − 82903.095 | 24789.347 | 60.858 |
| 276 | − 82902.768 | 24790.537 | 60.954 |
| 277 | − 82902.849 | 24790.429 | 60.969 |
| 278 | − 82902.868 | 24790.626 | 60.964 |
| 279 | − 82903.094 | 24790.530 | 60.957 |
| 280 | − 82903.109 | 24790.722 | 60.953 |
| 281 | − 82903.506 | 24791.250 | 60.960 |
| 282 | − 82903.447 | 24789.798 | 60.876 |
| 283 | − 82903.199 | 24790.862 | 60.942 |
| 284 | − 82903.376 | 24790.870 | 60.917 |
| 285 | − 82904.456 | 24789.370 | 60.799 |
| 286 | − 82905.383 | 24788.629 | 60.676 |
| 287 | − 82906.046 | 24788.834 | 60.672 |
| 288 | − 82906.105 | 24788.797 | 60.657 |
| 289 | − 82902.934 | 24787.912 | 60.810 |
| 290 | − 82903.040 | 24787.949 | 60.827 |
| 291 | − 82903.103 | 24788.071 | 60.832 |
| 292 | − 82903.241 | 24788.104 | 60.804 |
| 293 | − 82902.983 | 24787.682 | 60.835 |
| 294 | − 82902.979 | 24787.614 | 60.771 |
| 295 | − 82902.958 | 24787.779 | 60.792 |
| 296 | − 82903.092 | 24787.524 | 60.735 |
| 297 | − 82903.100 | 24787.391 | 60.784 |
| 298 | − 82903.260 | 24787.419 | 60.787 |
| 299 | − 82903.210 | 24787.571 | 60.813 |
| 300 | − 82903.212 | 24787.647 | 60.795 |
| 301 | − 82903.199 | 24787.786 | 60.776 |
| 302 | − 82903.487 | 24787.991 | 60.786 |
| 303 | − 82903.706 | 24788.327 | 60.818 |
| 304 | − 82904.177 | 24788.305 | 60.780 |
| 305 | − 82904.290 | 24787.932 | 60.742 |
| 306 | − 82904.376 | 24787.746 | 60.764 |
| 307 | − 82903.809 | 24787.923 | 60.755 |
| 308 | − 82903.830 | 24787.736 | 60.773 |
| 309 | − 82903.360 | 24787.508 | 60.776 |
| 310 | − 82903.414 | 24787.495 | 60.796 |
| 311 | − 82903.560 | 24787.350 | 60.777 |
| 312 | − 82903.618 | 24787.126 | 60.762 |
| 313 | − 82903.751 | 24787.013 | 60.719 |
| 314 | − 82903.858 | 24786.990 | 60.743 |
| 315 | − 82903.901 | 24786.811 | 60.712 |
| 316 | − 82904.006 | 24786.767 | 60.739 |
| 317 | − 82904.053 | 24786.876 | 60.696 |
| 318 | − 82904.119 | 24786.790 | 60.721 |
| 319 | − 82904.201 | 24786.764 | 60.718 |
| 320 | − 82904.139 | 24786.881 | 60.722 |
| 321 | − 82904.226 | 24786.801 | 60.702 |
| 322 | − 82904.362 | 24786.761 | 60.705 |
| 323 | − 82904.337 | 24786.656 | 60.704 |
| 324 | − 82903.965 | 24787.298 | 60.765 |
| 325 | − 82904.292 | 24787.211 | 60.746 |
| 326 | − 82904.326 | 24787.287 | 60.748 |
| 327 | − 82904.453 | 24786.952 | 60.717 |
| 328 | − 82903.575 | 24787.027 | 60.644 |
| 329 | − 82903.731 | 24788.289 | 60.818 |
| 330 | − 82903.295 | 24788.273 | 60.837 |
| 331 | − 82904.058 | 24787.842 | 60.782 |
| 332 | − 82904.776 | 24787.648 | 60.659 |
| 333 | − 82904.898 | 24787.364 | 60.692 |
| 334 | − 82903.870 | 24786.695 | 60.682 |
| 335 | − 82904.137 | 24786.506 | 60.679 |
| 336 | − 82902.880 | 24787.431 | 60.743 |
| 337 | − 82904.691 | 24786.534 | 60.663 |
| 338 | − 82904.978 | 24786.659 | 60.678 |
| 339 | − 82905.104 | 24786.783 | 60.632 |
| 340 | − 82905.094 | 24787.114 | 60.676 |
| 341 | − 82905.717 | 24786.672 | 60.576 |
| 342 | − 82905.198 | 24786.204 | 60.584 |
| 343 | − 82905.692 | 24785.808 | 60.557 |
| 344 | − 82905.701 | 24785.460 | 60.524 |
| 345 | − 82905.875 | 24785.785 | 60.542 |
| 346 | − 82906.330 | 24786.301 | 60.570 |
| 347 | − 82905.834 | 24785.984 | 60.528 |
| 348 | − 82906.485 | 24788.071 | 60.624 |
| 349 | − 82907.849 | 24788.372 | 60.545 |
| 350 | − 82907.924 | 24788.027 | 60.532 |
| 351 | − 82908.808 | 24783.595 | 60.230 |
| 352 | − 82909.040 | 24783.316 | 60.191 |
| 353 | − 82909.389 | 24783.011 | 60.150 |
| 354 | − 82909.801 | 24783.046 | 60.106 |
| 355 | − 82909.767 | 24782.870 | 60.120 |
| 356 | − 82909.779 | 24782.798 | 60.108 |
| 357 | − 82909.519 | 24782.526 | 60.121 |
| 358 | − 82909.664 | 24782.458 | 60.112 |
| 359 | − 82909.719 | 24782.595 | 60.121 |
| 360 | − 82909.873 | 24782.208 | 60.065 |
| 361 | − 82894.314 | 24793.925 | 61.730 |
| 362 | − 82894.363 | 24793.945 | 61.715 |
| 363 | − 82894.577 | 24793.983 | 61.639 |
| 364 | − 82894.883 | 24793.749 | 61.602 |
| 365 | − 82895.005 | 24793.801 | 61.606 |
| 366 | − 82894.988 | 24793.877 | 61.613 |
| 367 | − 82894.824 | 24793.835 | 61.614 |
| 368 | − 82896.141 | 24793.208 | 61.536 |
| 369 | − 82898.759 | 24794.935 | 61.537 |
| 370 | − 82899.949 | 24793.254 | 61.272 |
| 371 | − 82900.069 | 24792.733 | 61.205 |
| 372 | − 82900.424 | 24793.165 | 61.236 |
| 373 | − 82900.274 | 24793.047 | 61.199 |
| 374 | − 82900.821 | 24792.886 | 61.191 |
| 375 | − 82900.791 | 24792.448 | 61.154 |
| 376 | − 82900.741 | 24792.239 | 61.157 |
| 377 | − 82899.965 | 24792.173 | 61.208 |
| 378 | − 82900.072 | 24792.108 | 61.205 |
| 379 | − 82900.384 | 24790.890 | 61.073 |
| 380 | − 82900.183 | 24790.609 | 61.045 |
| 381 | − 82900.295 | 24790.121 | 61.013 |
| 382 | − 82901.064 | 24789.954 | 60.960 |
| 383 | − 82900.575 | 24790.903 | 61.024 |
| 384 | − 82900.645 | 24789.762 | 60.952 |
| 385 | − 82900.551 | 24789.850 | 60.983 |
| 386 | − 82902.046 | 24789.440 | 60.907 |
| 387 | − 82901.951 | 24789.527 | 60.867 |
| 388 | − 82902.031 | 24789.667 | 60.886 |
| 389 | − 82902.094 | 24789.639 | 60.889 |
| 390 | − 82902.144 | 24789.540 | 60.902 |
| 391 | − 82902.080 | 24789.596 | 60.884 |
| 392 | − 82902.225 | 24789.440 | 60.856 |
| 393 | − 82902.201 | 24789.466 | 60.856 |
| 394 | − 82902.602 | 24789.339 | 60.858 |
| 395 | − 82902.482 | 24789.771 | 60.879 |
| 396 | − 82902.833 | 24789.931 | 60.855 |
| 397 | − 82903.087 | 24789.309 | 60.851 |
| 398 | − 82903.504 | 24789.447 | 60.848 |
| 399 | − 82902.008 | 24788.755 | 60.801 |
| 400 | − 82902.588 | 24788.158 | 60.825 |
| 401 | − 82902.627 | 24788.115 | 60.811 |
| 402 | − 82902.642 | 24788.123 | 60.811 |
| 403 | − 82902.907 | 24788.081 | 60.803 |
| 404 | − 82903.019 | 24788.351 | 60.790 |
| 405 | − 82903.055 | 24788.330 | 60.782 |
| 406 | − 82902.095 | 24789.494 | 60.908 |
| 407 | − 82902.218 | 24789.311 | 60.926 |
| 408 | − 82902.203 | 24789.435 | 60.894 |
| 409 | − 82902.404 | 24789.274 | 60.851 |
| 410 | − 82903.134 | 24788.449 | 60.827 |
| 411 | − 82902.933 | 24787.567 | 60.761 |
| 412 | − 82903.099 | 24787.369 | 60.697 |
| 413 | − 82903.171 | 24787.573 | 60.814 |
| 414 | − 82903.110 | 24788.084 | 60.761 |
| 415 | − 82903.459 | 24788.163 | 60.805 |
| 416 | − 82904.076 | 24787.360 | 60.693 |
| 417 | − 82903.684 | 24787.319 | 60.685 |
| 418 | − 82904.578 | 24788.106 | 60.730 |
| 419 | − 82902.119 | 24792.609 | 61.081 |
| 420 | − 82902.750 | 24791.627 | 61.008 |
| 421 | − 82902.337 | 24792.715 | 61.050 |
| 422 | − 82902.409 | 24791.041 | 60.969 |
| 423 | − 82902.428 | 24790.776 | 60.949 |
| 424 | − 82902.734 | 24791.339 | 60.978 |
| 425 | − 82903.265 | 24791.464 | 60.962 |
| 426 | − 82903.333 | 24791.101 | 60.952 |
| 427 | − 82904.095 | 24790.418 | 60.844 |
| 428 | − 82903.454 | 24789.822 | 60.870 |
| 429 | − 82904.584 | 24791.227 | 60.952 |
| 430 | − 82904.879 | 24790.869 | 60.834 |
| 431 | − 82906.289 | 24789.050 | 60.662 |
| 432 | − 82899.761 | 24792.481 | 61.199 |
| 433 | − 82900.739 | 24792.027 | 61.136 |
| 434 | − 82900.689 | 24792.003 | 61.147 |
| 435 | − 82900.620 | 24791.192 | 61.058 |
| 436 | − 82900.515 | 24789.754 | 60.924 |
| 437 | − 82900.542 | 24789.781 | 60.922 |
| 438 | − 82902.040 | 24789.665 | 60.852 |
| 439 | − 82902.083 | 24789.609 | 60.870 |
| 440 | − 82902.032 | 24789.606 | 60.853 |
| 441 | − 82902.123 | 24789.579 | 60.867 |
| 442 | − 82902.112 | 24789.526 | 60.898 |
| 443 | − 82902.124 | 24789.541 | 60.891 |
| 444 | − 82902.169 | 24789.536 | 60.891 |
| 445 | − 82902.122 | 24789.466 | 60.845 |
| 446 | − 82902.149 | 24789.446 | 60.851 |
| 447 | − 82902.165 | 24789.460 | 60.848 |
| 448 | − 82902.183 | 24789.322 | 60.891 |
| 449 | − 82902.208 | 24789.330 | 60.898 |
| 450 | − 82902.410 | 24789.225 | 60.847 |
| 451 | − 82902.404 | 24789.187 | 60.822 |
| 452 | − 82903.045 | 24788.379 | 60.766 |
| 453 | − 82903.055 | 24788.292 | 60.777 |

## 第35表　点取り遺物座標データー覧（3）

| 個別No | X座標 | Y座標 | H座標 |
|---|---|---|---|
| 454 | － 82903.035 | 24788.322 | 60.739 |
| 455 | － 82903.126 | 24788.401 | 60.775 |
| 456 | － 82903.516 | 24788.508 | 60.812 |
| 457 | － 82903.353 | 24791.576 | 60.947 |
| 458 | － 82903.650 | 24791.787 | 60.960 |
| 459 | － 82903.669 | 24789.801 | 60.827 |
| 460 | － 82903.562 | 24789.923 | 60.833 |
| 461 | － 82903.757 | 24789.889 | 60.838 |
| 462 | － 82903.612 | 24789.783 | 60.821 |
| 463 | － 82903.441 | 24790.068 | 60.856 |
| 464 | － 82903.671 | 24789.853 | 60.835 |
| 465 | － 82902.140 | 24789.562 | 60.871 |
| 466 | － 82902.157 | 24789.506 | 60.873 |
| 467 | － 82895.781 | 24793.211 | 61.547 |
| 468 | － 82897.111 | 24792.359 | 61.286 |
| 469 | － 82898.529 | 24791.521 | 61.221 |
| 470 | － 82899.785 | 24790.474 | 61.065 |
| 471 | － 82899.530 | 24791.889 | 61.165 |
| 472 | － 82899.742 | 24790.549 | 61.061 |
| 473 | － 82900.368 | 24793.168 | 61.191 |
| 474 | － 82900.096 | 24792.970 | 61.195 |
| 475 | － 82900.310 | 24792.709 | 61.174 |
| 476 | － 82900.461 | 24792.741 | 61.177 |
| 477 | － 82900.652 | 24792.584 | 61.156 |
| 478 | － 82900.651 | 24792.385 | 61.149 |
| 479 | － 82899.761 | 24790.003 | 61.024 |
| 480 | － 82900.655 | 24790.849 | 60.991 |
| 481 | － 82900.711 | 24790.868 | 61.012 |
| 482 | － 82901.932 | 24789.685 | 60.875 |
| 483 | － 82902.945 | 24789.182 | 60.793 |
| 484 | － 82903.566 | 24788.922 | 60.778 |
| 485 | － 82902.563 | 24788.159 | 60.711 |
| 486 | － 82903.019 | 24788.308 | 60.749 |
| 487 | － 82904.014 | 24789.639 | 60.815 |
| 488 | － 82904.002 | 24790.541 | 60.812 |
| 489 | － 82903.950 | 24788.300 | 60.751 |
| 490 | － 82903.646 | 24787.290 | 60.733 |
| 491 | － 82904.111 | 24787.303 | 60.692 |
| 492 | － 82904.220 | 24786.982 | 60.685 |
| 493 | － 82893.282 | 24794.689 | 61.559 |
| 494 | － 82893.444 | 24794.394 | 61.719 |
| 495 | － 82893.786 | 24794.216 | 61.645 |
| 496 | － 82894.517 | 24793.996 | 61.578 |
| 497 | － 82899.010 | 24793.063 | 61.227 |
| 498 | － 82899.000 | 24792.455 | 61.207 |

| 個別No | X座標 | Y座標 | H座標 |
|---|---|---|---|
| 499 | － 82899.613 | 24791.907 | 61.054 |
| 500 | － 82900.482 | 24792.042 | 61.127 |
| 501 | － 82900.932 | 24791.978 | 61.021 |
| 502 | － 82900.756 | 24792.091 | 61.109 |
| 503 | － 82900.938 | 24792.138 | 61.085 |
| 504 | － 82900.894 | 24792.234 | 61.087 |
| 505 | － 82901.034 | 24792.584 | 61.095 |
| 506 | － 82901.301 | 24792.842 | 61.131 |
| 507 | － 82900.748 | 24792.690 | 61.127 |
| 508 | － 82900.509 | 24792.321 | 61.120 |
| 509 | － 82900.510 | 24792.572 | 61.115 |
| 510 | － 82900.534 | 24792.769 | 61.156 |
| 511 | － 82900.353 | 24792.953 | 61.165 |
| 512 | － 82900.107 | 24792.737 | 61.164 |
| 513 | － 82900.087 | 24792.971 | 61.191 |
| 514 | － 82900.090 | 24793.133 | 61.161 |
| 515 | － 82900.111 | 24793.182 | 61.127 |
| 516 | － 82900.185 | 24793.472 | 61.151 |
| 517 | － 82899.972 | 24793.619 | 61.162 |
| 518 | － 82900.817 | 24793.068 | 61.116 |
| 519 | － 82900.225 | 24794.016 | 61.153 |
| 520 | － 82900.700 | 24793.417 | 61.151 |
| 521 | － 82896.392 | 24792.315 | 61.322 |
| 522 | － 82908.026 | 24787.859 | 60.481 |
| 523 | － 82898.662 | 24791.741 | 61.191 |
| 524 | － 82900.964 | 24792.607 | 61.062 |
| 525 | － 82911.875 | 24781.274 | 59.785 |
| 526 | － 82911.890 | 24782.964 | 59.858 |
| 527 | － 82903.564 | 24787.062 | 60.626 |
| 528 | － 82904.194 | 24788.777 | 60.743 |
| 529 | － 82898.211 | 24791.979 | 61.162 |
| 530 | － 82894.509 | 24793.537 | 61.393 |
| 531 | － 82894.659 | 24794.128 | 61.475 |
| 532 | － 82895.632 | 24793.130 | 61.269 |
| 533 | － 82895.991 | 24792.911 | 61.261 |
| 534 | － 82896.087 | 24792.423 | 61.115 |
| 535 | － 82896.239 | 24792.392 | 61.075 |
| 536 | － 82896.962 | 24792.054 | 61.061 |
| 537 | － 82897.617 | 24791.538 | 61.005 |
| 538 | － 82896.894 | 24792.895 | 61.054 |
| 539 | － 82896.311 | 24794.139 | 61.221 |
| 540 | － 82896.507 | 24793.808 | 61.155 |
| 541 | － 82895.885 | 24793.454 | 61.284 |
| 542 | － 82895.735 | 24793.462 | 61.264 |
| 543 | － 82902.483 | 24792.645 | 60.911 |

| 個別No | X座標 | Y座標 | H座標 |
|---|---|---|---|
| 544 | － 82902.604 | 24791.441 | 60.804 |
| 545 | － 82900.379 | 24792.863 | 60.991 |
| 546 | － 82904.588 | 24786.907 | 60.606 |
| 547 | － 82903.230 | 24787.829 | 60.597 |
| 548 | － 82902.803 | 24788.498 | 60.671 |
| 549 | － 82901.226 | 24790.781 | 60.758 |
| 550 | － 82899.723 | 24790.320 | 60.685 |
| 551 | － 82899.800 | 24790.083 | 60.680 |
| 552 | － 82899.816 | 24789.946 | 60.626 |
| 553 | － 82899.550 | 24790.425 | 60.698 |
| 554 | － 82899.789 | 24791.194 | 60.892 |
| 555 | － 82899.661 | 24791.144 | 60.840 |
| 556 | － 82899.596 | 24791.221 | 60.821 |
| 557 | － 82899.599 | 24791.382 | 60.934 |
| 558 | － 82899.431 | 24791.172 | 60.814 |
| 559 | － 82899.191 | 24791.760 | 60.836 |
| 560 | － 82899.014 | 24791.963 | 60.857 |
| 561 | － 82898.671 | 24792.051 | 60.927 |
| 562 | － 82897.140 | 24792.140 | 61.027 |
| 563 | － 82898.863 | 24793.848 | 61.112 |
| 564 | － 82899.178 | 24794.042 | 61.119 |
| 565 | － 82899.137 | 24794.096 | 61.153 |
| 566 | － 82899.411 | 24793.276 | 60.999 |
| 567 | － 82901.078 | 24788.940 | 60.574 |
| 568 | － 82902.009 | 24788.243 | 60.526 |
| 569 | － 82902.192 | 24788.304 | 60.507 |
| 570 | － 82902.312 | 24789.228 | 60.755 |
| 571 | － 82902.159 | 24789.426 | 60.696 |
| 572 | － 82901.920 | 24789.830 | 60.718 |
| 573 | － 82903.814 | 24786.984 | 60.552 |
| 574 | － 82905.444 | 24785.910 | 60.496 |
| 575 | － 82894.587 | 24795.065 | 61.676 |
| 576 | － 82895.015 | 24795.856 | 61.638 |
| 577 | － 82895.061 | 24796.268 | 61.694 |
| 578 | － 82893.809 | 24795.327 | 61.739 |
| 579 | － 82893.982 | 24795.388 | 61.687 |
| 580 | － 82892.985 | 24795.033 | 61.569 |
| 581 | － 82908.420 | 24783.340 | 60.181 |
| 582 | － 82908.519 | 24783.085 | 60.157 |
| 583 | － 82896.302 | 24792.655 | 61.145 |
| 584 | － 82896.596 | 24793.867 | 61.149 |
| 585 | － 82896.952 | 24791.807 | 60.823 |
| 586 | － 82897.853 | 24791.391 | 60.788 |
| 587 | － 82897.935 | 24791.420 | 60.829 |
| 588 | － 82897.338 | 24791.446 | 60.898 |

# Ⅵ まとめ

## 1　後期旧石器時代

本遺跡では、台形石器群、基部加工ナイフ形石器を中心とする石刃石器群、細石刃石器群の３時期の石器群が確認された。残念ながら、良好な接合資料に恵まれなかったため、剥片剥離技術の検討はできないが、個別の石器から、各石器群の内容を見ていく。

### （１）第Ⅰ文化層以前（台形石器群）

本遺跡で出土した石器群はすべてが盛土層出土であるため、本来の帰属すべき堆積層がどこに当たるのか不明と言わざるをえない。そのため、詳細な石器組成・剥片剥離技術の検討を加えることはできない。ここでは、出土した５点の台形石器の特徴を挙げ、大まかな年代観を提示するにとどめる。本遺跡では、素材剥片を倒位に用いて、二側縁もしくは刃部以外の側縁に二次加工を施して台形にするタイプ（掲載No １～３）と石刃や縦長剥片を数個に分割し、分割した面に二次加工を施して、台形にするタイプ（同４・５）の２種類がある。隣接する秋田県では吉川耕太郎氏によって詳細な分析（秋田県教育委員会 2006）が行われており、少なくとも台形石器群の中でも、１～３の台形石器を持つグループは古い時期に相当するとしている。このまま、本資料と対比することはできないが、本石器群は、少なくとも、後期旧石器時代前半期に収まる可能性が高いことを指摘しておく。なお、詳細な検討は本石器群の包含層の検出を待って検討したい。

### （２）第Ⅰ文化層（石刃石器群）

本遺跡で第Ⅰ文化層とした石器群である。剥片類 28 点（石刃４点、縦長剥片１点、剥片 14 点、砕片９点）、礫５点を除く 36 点の石器組成を見ると、掻器・掻削器のスクレパー類（６点：約 17%）、台石（10 点:約 28%）が多い特徴が挙げられる。１点のみであるが、基部加工ナイフ形石器が組成する。村木敬氏・米田寛氏によって、当該期の石器群の編年案が提示されている（村木・米田 2009）。この案が最新の県内の編年案であることから、この案を参考にすると、後期旧石器時代後半期古層（姶良Ｔｎ火山灰上位）に位置づけられるⅣ期に相当する可能性が高い。しかし、調査区域外に本石器群の範囲が広がる可能性が高く、現段階で組成していない（出土していない）大形の基部加工ナイフ形石器や神山型彫器等の石器の有無を特定できないため、可能性が高いことを指摘するにとどめる。

剥片剥離技術に関しては、接合資料が１点しか確認できず、剥片剥離工程の復元できる資料は皆無である。そのため、剥片剥離技術を特定することは困難である。本石器群の目的剥片でもある石刃や縦長剥片を観察すると、背面の剥離面の構成は剥離方向と対向する剥離面が観察されるものがあり、両設打面石核から剥離されていることが窺える。打面と最大幅の位置を比較すると、大きく２種類見られる。打面調整や頭部調整が行われ、石刃頭部の正面観が台形状を呈するものと打面調整や頭部調整が行われず、最大幅が打面もしくは打面付近の上部に位置するものである。前者は真正な石刃技法、後者は祖形もしくは広義の石刃技法の範疇に収まるものと判断できるが、剥片の頭部が剥離時の衝撃によって残存していないものも多いため、今回の出土資料のみで、詳細な検討を加えることはできない。しかし、同じ石器群のなかにも時間幅がある可能性が考えられる。石器組成も含めて、本調査区周辺の調査を待って検討したい。

### （3）第Ⅱ文化層（細石刃石器群）

本文化層は、第Ⅰ文化層以上に出土数が少なく、詳細な検討は困難である。本文化層を構成する全45点のうち、剥片・砕片・礫を除く９点の組成は彫器１点、掻器１点、ＲＦ１点、細石刃３点、礫器１点、台石２点である。これらの石器類にも時期を特定できる特徴的な資料がないため、詳細な年代観を提示することはできないが、後期旧石器時代終末期であることは確かである。

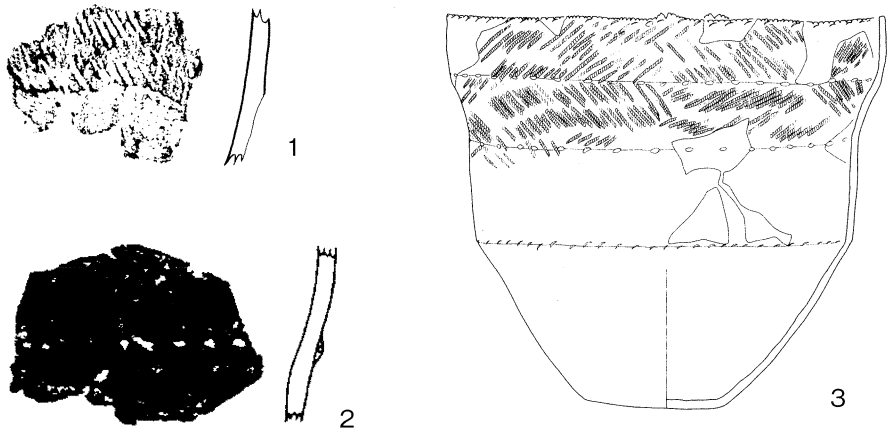
## 2　縄　文　時　代

### （1）縄文時代草創期の遺物について

No106（個別No200、第62図１）は、類似する資料が少なく、時期の特定に苦慮した資料である。また、体部片であるため、全体の器形が不明である点もその一因となっている。この土器の特徴は、第Ⅴ章第２節第３項や第23表でもふれているが、器厚が５㎜前後と非常に薄手、焼成が良好で堅い、外面は黒褐色～暗褐色を呈する、胎土に繊維を含まない、無節縄文（Ｒ）を横位に施文するなどが挙げられる。出土層位は縄文時代早期中葉～末葉の遺物を包含するⅤ層の下のⅥ層の最下部で、細石刃石器群の文化層を含むⅦＡ層との層理面に貼りつくように出土している。少なくとも早期中葉以前の土器である可能性が高いと推察していた。そこで、より詳細な年代観を得るために、土器に付着物していた炭化物の年代測定を行うこととした。分析に係る詳細な報告は附編の放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）を参照して頂きたいが、10020±60yrBPという結果が得られた。また、同一ブロック内から出土した炭化物が11490±50yrBPとの測定結果が得られた。やや時間幅があるものの、草創期の範囲に収まるもので、層位的な前後関係とも矛盾は見られない。

花巻市大迫町のアバクチ洞穴遺跡でも資料数は１点と少ないが、類似する土器片（第62図２）が出土している。その特徴は、４～５㎜と非常に薄手であること、胎土に繊維を含まないこと、単節縄文が施文されていること、頸部に低い隆帯を巡らして連続刺突文を施文していることが挙げられる。本遺跡の資料とは、無節と単節の違いはあるものの、縄文を施文すること、非常に薄手であること、胎土に繊維を含まないことなどが類似している。この遺跡で比較対象として挙げられているのが、新潟県東蒲原郡阿賀町に所在する室谷洞窟の室谷下層式といわれる第Ⅰ群土器である。

室谷下層式は隅丸方形を呈する平底の深鉢形土器である。口縁部や胴部がそろばん玉状に張り出す




１：斉羽場館跡
２：アバクチ洞穴遺跡
３：櫛引遺跡

１・２は縮尺約 1/2
３は縮尺約 1/5

第62図　縄文時代草創期の遺物

もの、口縁部に段を巡らすものなどの特徴があり、文様は、口縁部文様帯が意識され、胴部文様帯とは区別される。回転施文の縄文を主体とし、押圧縄文、絡条体圧痕文、爪形文、櫛目文、無文が施文される。その中でも、主体となる縄文には、羽状縄文の施文が特徴的である。口縁部文様帯の施文は横位回転を基本としており、このことは本資料にも当てはまるが、無節縄文の有無は不明である。

室谷下層式期の土器が出土した遺跡として、平成９年に発掘調査が行われ、平成11年に調査報告書が発刊された青森県八戸市の櫛引遺跡が挙げられる。草創期第１号土坑から、完形に復元された土器（第62図３）が出土しており、数少ない全体の様相がわかる資料として注目された。特徴は①器形は、口縁下と胴部のほぼ中央、胴下半で３段に屈曲する深鉢、②器高26.3cm、口径は楕円形で長軸28.8cm、短軸26cm、底径９cm、器厚４mm、③焼成は良好で堅く、外面の色調は黒褐色～褐色、④口縁部は平口縁で、対となる二つの山形状の小突起を持つ、⑤文様は胴中央部の屈曲部までＬＲ縄文の縦位回転とＲＬ縄文の横位回転を、屈曲部を境にして原体と回転方向を変ながら、羽状に施文している、⑥外面の口唇直下・胴下半屈曲部に爪形文、胴上半と胴中央屈曲部には、縄端刺突が連続して施文される、などがある。本遺跡の資料は断片的な資料であるため、口縁部や器形等の比較はできないが、焼成が良好で堅く、器厚が４～５mm、縄文が施文されることが類似している。同じような器形とすると、本遺跡の資料は胴上半部～胴中央部の屈曲部の間の資料と考えられる。

県内では室谷下層式期の可能性がある資料は前述のアバクチ洞穴遺跡の１点のみで、草創期の資料で中心となるのは、前段階にあたる爪形文系土器群である。これらの資料は県央部の盛岡市を中心に散見される。発掘調査が行われた遺跡としては、盛岡市の安倍館遺跡、同大館町遺跡、同大新町遺跡、同前九年遺跡、滝沢村の室小路15遺跡、二戸市浄法寺町のコアスカ館遺跡、岩泉町の龍泉新洞遺跡、同森の越遺跡の８遺跡が挙げられる。本遺跡の資料は１点と少ないながらも、これらの爪形文系土器群に後続し、花巻市の上台Ⅰ遺跡をはじめとする草創期末葉～早期初頭の平底無文土器群の前段階に位置づけられる多縄文土器群の一資料として重要である。室谷洞窟や櫛引遺跡の出土資料に、無節縄文の存在はうかがえないが、不明なことの多い当該期の資料には、あまり見られない原体としても、注意して観察する必要があろう。このような意味でも、本遺跡の出土資料は貴重な資料と考えられる。

註）本遺跡の資料を原田昌幸氏に見て頂いたところ、無節縄文であること以外は室谷下層式期の土器と類似しており、爪形文系土器群と無文土器群をつなぐ多縄文系土器群に位置付けられるのではないかとのご教授を頂いた。

### （２）縄文時代早期の集落について

本遺跡では、１基であるが、縄文時代早期中葉の土坑が検出された。そこで、他の時代・時期に比べ調査事例の少ない、当該期の集落について概観する。

当該期の竪穴住居跡が確認されている遺跡は、二戸市馬立Ⅰ遺跡、同長瀬Ｂ遺跡、同大久保遺跡、同米沢遺跡、一戸町小井田Ⅲ遺跡、田野畑村真木沢Ⅰ遺跡、盛岡市大新町遺跡、同薬師社脇遺跡、紫波町西田遺跡、遠野市張山遺跡、住田町小松Ⅰ遺跡である。この内、詳細な時期が判明しているものは、白浜・小舟渡平式期が13棟（大新町遺跡１棟、薬師社脇遺跡10棟、西田遺跡２棟）、寺の沢式期が９棟（長瀬Ｂ遺跡５棟、米沢遺跡１棟、小井田Ⅲ遺跡２棟、薬師社脇遺跡１棟）、吹切沢式期が１棟（真木沢Ⅰ遺跡１棟）、鳥木沢式期が17棟（馬立Ⅰ遺跡16棟、大久保遺跡１棟）である。県南部や沿岸部でも調査事例はあるものの、盛岡市以北の北上川流域や馬淵川流域に集中している。特に、早期中葉でも古い段階では、盛岡市周辺に集中する傾向が見られる。竪穴住居跡以外の遺構が確認された遺跡は、早期前葉～中葉の土坑９基が確認された盛岡市庄ヶ畑Ａ遺跡、吹切沢式期の土坑１基が確

認された盛岡市宿田遺跡、詳細な時期は判明していないが、当該期の土坑１基が確認された大日向Ⅱ遺跡がある。いずれにしても遺構が確認されるのは盛岡市以北が圧倒的に多く、県南部にあたる本遺跡での土坑の検出は空白域を埋める貴重なものと考えられる。また、遺構は確認されていないが、同じ稲瀬地区の岩脇遺跡や阿弥陀堂遺跡では当該期の土器がまとまって出土している。今後、この稲瀬地区を含む北上川左岸地域も遺跡の増加が期待される。

**第36表　縄文時代早期中葉の主な遺跡**

| 遺跡名 | 市町村 | 種　別 | 遺構数 | 型　式 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 庄ヶ畑Ａ遺跡 | 盛岡市 | 土坑 | ９基 | | 早期前葉～中葉 |
| 大館町遺跡 | 盛岡市 | 竪穴住居跡 | １棟 | 白浜・小舟渡平式 | |
| 西田遺跡 | 紫波町 | 竪穴住居跡 | ２棟 | 白浜・小舟渡平式 | |
| 平船Ⅲ遺跡 | 一戸町 | 包含層 | | 白浜・小舟渡平式 | |
| 薬師社脇遺跡 | 盛岡市 | 竪穴住居跡 | 10棟 | 白浜・小舟渡平式 | |
| | | | １棟 | 寺の沢式 | |
| | | | ８棟 | | |
| 長瀬Ｂ遺跡 | 二戸市 | 竪穴住居跡 | ５棟 | 寺の沢式 | |
| 小井田Ⅲ遺跡 | 一戸町 | 竪穴住居跡 | ２棟 | 寺の沢式 | |
| 米沢遺跡 | 二戸市 | 竪穴住居跡 | １棟 | 寺の沢式 | |
| | | 焼土遺構 | ２基 | 寺の沢式 | |
| 真木沢Ⅰ遺跡 | 田野畑村 | 竪穴住居跡 | １棟 | 吹切沢式 | 埋土中から焼けて破砕した礫が多量に出土 |
| 宿田遺跡<br>第６次調査 | 盛岡市 | 土坑 | １基 | 吹切沢式 | |
| 馬立Ⅰ遺跡 | 二戸市 | 竪穴住居跡 | 16棟 | 鳥木沢式 | |
| 大久保遺跡 | 二戸市 | 竪穴住居跡 | １棟 | 鳥木沢式 | |
| 張山遺跡 | 遠野市 | 竪穴住居跡 | ３棟 | | |
| 大日向Ⅱ遺跡<br>第６～８次調査 | 軽米町 | 土坑 | １基 | | |
| 小松Ⅰ遺跡 | 住田町 | 竪穴住居跡 | ４棟 | | |

## 3　平　安　時　代

当該期の遺構は竪穴住居跡１棟、土坑１基、柱穴２個である。細長い調査区のなかで、Ｅ区のみに分布している。Ｅ区は段丘の縁辺部にあたり、遺構の集中する部分では一番低い場所に相当する。局所的にしか確認できないため、集落がどのように広がるか判断に苦慮するところであるが、現在水田として利用されている南東側にも、同じような標高の平坦面が広がっていることから、集落は南東側に広がるものと思われるが、小規模なものと思われる。時期は分析の結果To-aとされた火山灰がカマド構築土中に混入していることや出土遺物から10世紀前半代と考えられる。

## 4　中　　世

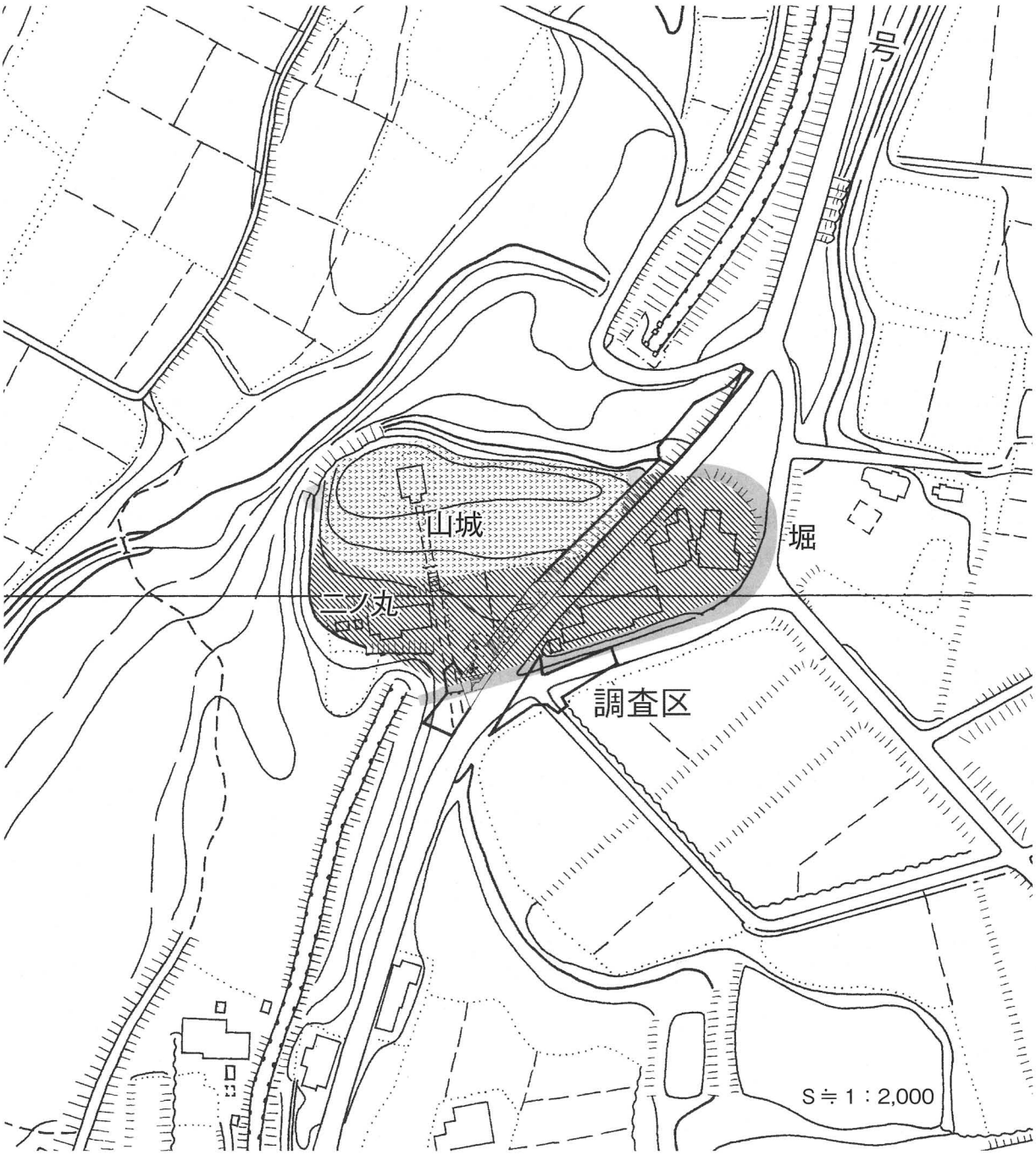
斉（斎）羽場館は、「葛西御家臣衆座列」註1）にあるように、天正十八年（1590年）の豊臣秀吉による奥州仕置により没落した葛西氏の御家臣衆であった及川若狭守吉種の居城とされている。また、『宮城県史』第32巻に収録されている、延宝五年（1677年）頃に記されたとされる「仙台領古城書立之覚」註２）にも城主及川若狭と記されている。このことより少なくとも16世紀末には、斉（斎）羽場館があったということになる。

発掘調査で検出された当該期の遺構は、堀跡１条、溝跡２条、柱穴18個である。これらの遺構は斉

羽場館に関係する遺構の可能性が高く、地形と合わせて、斉羽場館の構造を検討する。

現況の地形に、検出した遺構や地形を考慮して、想定した斉羽場館の構造を第63図に示した。本調査区は二ノ丸の中央部の一部であった可能性が高く、ＳＤ01堀跡と直交もしくは平行する配置をとると考えられる柱穴（ＳＫＰ６・８・９・12・24・26・40）が建物を構成する可能性が高い。しかし、県道14号の拡幅部分のみの細長い調査区であることや昭和46年度の調査地点を特定できず、その調査成果とつき合わせることができなかったことから、建物の配置など詳細な特定は今後の調査を待つしかない。

本遺跡周辺には、南方へ約３kmのところに比浦柵の擬定地である兵部館柵、北方へ約４kmのところに川岸遺跡（黒沢尻柵）、北上川を隔てた西に相去城（鶴野館）などがあり、北上川の水運を利用した要害の地であったことが窺える。




第63図　斉羽場館縄張り想定図

註１）　宮城県桃生郡河北町皿見　及川友文家文書
葛西御家臣衆座列
（前略）
総家臣次第不足
（中略）
及川若狭　同（江刺郡）　　下門岡邑主
（中略）
斎羽場城　山城33間　　15間　　下門岡村
二ノ丸20間　18間
城主　　及川若狭吉種　　天正18年一家同時没落
註２）　仙台領古城書立之覚
江　刺　郡　　弐拾四ヶ城
（中略）
下門岡村
一　山斎羽城　同九間　　一　二ノ丸　同廿三間
同八間　　同　十間
右城主　及川若狭ト申ス者居住之由申シ候

## 5　総　　括

昭和46年度の調査結果から、後期旧石器時代、縄文時代早期、縄文時代前期、縄文時代中期、中世と断続的に利用されてきた場所であることが想定されていたが、今回の調査で、さらに縄文時代草創期、平安時代にも利用されていたことが判明した。各時代・時期との遺構数・遺物量が少ないため、詳細な様相の検討は、今後の調査成果を待たねばならないが、北上川左岸域に貴重な資料を提供できたものと考えられる。判明したことを列挙すると、次のようになる。①後期旧石器時代はナイフ形石器を含む石刃石器群・細石刃石器群の２文化層とともに、台形石器を中心とする石器群の３時期があり、どの時期もキャンプサイト的な要素が強い。②縄文時代草創期の室谷下層式期と考えられる土器片が石器とともにブロックを形成して出土し、土器付着炭化物の放射性炭素年代は10020±60yrBPであった。③縄文時代早期中葉の土坑が１基検出され、集落として利用された可能性が高い。縄文土器の中心となる時期もこの時期であった。④縄文時代前期や中期の遺物も少量ながら出土し、周辺に集落が存在する可能性が示唆される。⑤平安時代（10世紀前半）には集落として利用されていた。段丘縁辺部のやや低い平坦面で竪穴住居跡が検出され、縁辺部を中心に集落が営まれた可能性が考えられる。⑥葛西氏の家臣の一人である及川若狭守吉種の居城で、遺跡名ともなっている「斉羽場館」に関係する堀跡・溝跡・柱穴や15世紀代のかわらけ・中国産青磁が出土した。詳細な縄張りは不明であるが、「葛西御家臣衆座列」や「仙台領古城書立之覚」にあるような、本丸と二ノ丸があることが想定され、調査区は二ノ丸の中央部に相当する可能性が高い。遺構・遺物からは多様な時代・時期のものが確認できたものの、数量的に少なく、詳細な検討が困難であった。今後、隣接地する場所の発掘調査が行われ、今回の成果を含めて検討されることを期待する。

## 引用・参考文献（編著者姓の五十音順）


青森県教育委員会　1999　『櫛引遺跡－東北縦貫自動車道八戸線（八戸～八戸）建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－』青森県埋蔵文化財調査報告書第263集

青森県八戸市教育委員会　2008　『田向冷水遺跡Ⅲ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第118集

秋田県教育委員会

1984　『此掛沢Ⅱ遺跡・上の山Ⅱ遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第114集

1985　『七曲台遺跡群発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第125集

1991　『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅷ－小出Ⅰ遺跡・小出Ⅱ遺跡・小出Ⅲ遺跡・小出Ⅳ遺跡－』秋田県文化財調査報告書第206集

1992　『一般国道7号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ　－鴨子台遺跡・八幡台遺跡－』秋田県文化財調査報告書第230集

1993　『家の下遺跡（2）旧石器時代編　－県営ほ場整備事業（琴丘地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』秋田県文化財調査報告書第275集

1996　『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ⅩⅩⅡ－岩瀬遺跡－』秋田県文化財調査報告書第263集

2006　『縄手下遺跡　－一般国道7号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅦ－』秋田県文化財調査報告書第410集

秋田市教育委員会　1986　「地蔵田Ｂ遺跡」『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』

1993　「狸崎Ｂ遺跡」『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』

胆沢町教育委員会　1988　『上萩森遺跡－調査報告書－』胆沢町埋蔵文化財調査報告書第19集

伊藤博幸　1998　「北上盆地南部」『東北地方の古代集落』第3分冊　第24回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム資料集

岩手県教育委員会　1972　『斉羽場城跡－昭和46年度緊急調査報告－』

1982　『下成沢遺跡　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅹ　Ⅶ（北上地区）』岩手県文化財調査報告書第72集

1986　『岩手県中世城館跡分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集

1992　『岩手県内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ』岩手県文化財調査報告書第91集

岩手県滝沢村教育委員会　1999　『室小路土地区画整理事業発掘調査報告書－室小路Ⅰ・7・11・15・16遺跡－』滝沢村文化財調査報告書第31集

岩手県立博物館　1993　『北上市和賀町愛宕山遺跡』岩手県立博物館調査研究報告書第9冊

2000　『気仙郡住田町小松洞穴発掘調査報告書』岩手県立博物館調査研究報告書第16冊

大川清・鈴木公雄・工楽善道編　1996　『日本土器事典』雄山閣

大平山元Ⅰ遺跡発掘調査団編　1999　『大平山元Ⅰ遺跡の考古学調査－旧石器文化の終末と縄文文化の起源に関する問題の探究－』

大渡賢一　2004　「岩脇遺跡出土の縄文時代早期貝殻文土器について」『北上市立埋蔵文化財センター紀要』第3号 pp. 1～10

菊池強一　2000　「龍泉新洞遺跡」『いわて未来への遺産　遺跡は語る　旧石器～古墳時代』岩手日報社　pp.42

北上市教育委員会（岩手県）

1987　『北上川東岸遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』北上市文化財調査報告第46集

1996　『北上遺跡群（1995年度）本宿・岩脇』北上市埋蔵文化財調査報告第23集

2003　『国見山廃寺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第55集

北村忠昭・丸山浩治　2009　「2　縄文時代（1）草創期・早期」『岩手考古学　岩手考古学会設立20周年記念　岩手考古学・回顧と展望』岩手考古学第20号　pp.23～32

小林達雄　1994　『縄文土器の研究』小学館

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

1992　『石曽根遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第165集

1995　『大渡Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第215集

1996　『岩脇遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第235集

1996　『柏山館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第242集

1997 『白井坂Ⅰ・Ⅱ発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第248集
1999 『峠山牧場Ⅰ遺跡Ａ地区発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第291集
2004 『早坂平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第437集
2006 『二の台長根遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第476集
2006 『金附遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第482集
2009 『境遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第539集

財団法人福島県文化振興事業団
2003 『こまちダム遺跡発掘調査報告１　沢目木遺跡』福島県文化財調査報告書第410集

財団法人福島県文化センター
1994 『東北横断自動車道遺跡調査報告25　六郎次遺跡・塩喰岩陰遺跡』福島県文化財調査報告書第296集

財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター
1997 『仙人西遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第８集

杉沢昭太郎　2003 「（３）陸奥北部１－岩手県－　２）13世紀～16世紀のかわらけ」『中世奥羽の土器・陶磁器』東北中世考古学会編　pp.42～48

鈴木孝志　1968 「北上川中流域の無土器文化－北上市周辺の遺跡－」『北上市史第１巻原始・古代（一)』北上市編

竹岡俊樹　2003 『旧石器時代の型式学』学生社

東北学院大学文学部歴史学科佐川ゼミナール・山形県東置賜郡高畠町教育委員会・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
2006 『日向洞窟遺跡西地区出土石器群の研究Ⅰ-縄文時代草創期の槍先形尖頭器を中心とする石器製作址の様相-』

百々幸雄・瀧川渉・澤田純明編　2003 『北上山地に日本更新世人類化石を探る－岩手県大迫町アバクチ・風穴洞穴遺跡の発掘－』東北大学出版会

中川久夫ほか　1963 「北上川上流沿岸の第四系および地形」『地質学雑誌』69　pp.163～171

中村　裕　2000 「コアスカ館遺跡」『いわて未来への遺産　遺跡は語る　旧石器～古墳時代』岩手日報社　pp.48

西井幸雄ほか　1991 「武蔵野台地・大宮台地の様相」『石器文化研究』３　pp.13～26

花巻市博物館　2005 『上台Ⅰ遺跡発掘調査報告書（１)』花巻市博物館調査研究報告書第２集

三浦謙一　2007 「北東北３県における縄文時代草創期・早期の様相－その１」『紀要』ＸＸⅥ　財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　PP. １～24

宮城開発株式会社・盛岡市教育委員会　2008 『薬師社脇遺跡』

宮城県　1970 『宮城県史』第32巻　宮城県史刊行会

村木　敬・米田　寛　2009 「１　旧石器時代」『岩手考古学　岩手考古学会設立20周年記念　岩手考古学・回顧と展望』岩手考古学第20号　pp.11～22

盛岡市教育委員会
1990 『大館遺跡群（大新町遺跡）－平成元年度発掘調査概報－』
2000 『盛岡市内遺跡群－平成11年度発掘調査概報－』
2001 『盛岡市内遺跡群－平成12年度発掘調査概報－』
2002 『盛岡市内遺跡群－平成13年度発掘調査概報－』
2005 『盛岡市内遺跡群－平成15年度・平成16年度発掘調査概要－』
2006 『盛岡市内遺跡群－平成17年度発掘調査概要－』

八木光則ほか　1998 「馬淵川流域」『東北地方の古代集落』第１分冊　第24回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム資料集

山本忠尚・松井　章　1988 『Japanese-English Dictionary of Japanese Archaeology（日本考古学用語英訳辞典《稿本》』奈良国立文化財研究所

# 附編　斉羽場館跡の自然科学分析

## 黒曜石産地同定

㈱第四紀地質研究所

## 1　実　験　条　件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製ＪＳＸ－3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（ＦＰ法）による自動定量計算システムが採用されており、６Ｃ～９２Ｕまでの元素分析ができ、ハイパワーＸ線源(最大30ｋＶ、4ｍＡ）の採用で微量試料～最大290ｍｍφ×80ｍｍＨまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクＦＰ法でおこなった。ＦＰ法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、Ｘ線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクＦＰ法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、Ｘ線管ターゲット素材＝Ｒｈ、加速電圧＝30ｋＶ、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K,　P,　Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝０と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下２桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量％では小数点以下３～４桁の微量となり、小数点以下２桁では０と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下４桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）でSiO2-Al2O3,Fe2O3-TiO2,K2O-CaOの各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の４組の組み合わせで図を作成した。

## 2　分　析　結　果

附表１化学分析表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

1）　斉羽場館跡―２，４，５，６は小赤沢産の黒曜石であることは附図２Fe2O3-TiO2図と附図３K2O-CaO図から明らかである。

2）　斉羽場館跡―１と３は附図２Fe2O3-TiO2図と附図３K2O-CaO図では小赤沢の領域から出ており、他の領域との関連性に乏しく、産地を特定することは難しい。この現象を被熱によるものとすれば、３は明らかにK2Oの値が高く、被熱にみられる現象を示しているようであり、小赤沢産の遺物が被熱したものではなかろうか。

### 引用文献

井上　巌　2000「東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析（ＸＲＦ）」『北越考古学』第11号、23-38.

井上　巌　2001「テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言」『軽石学雑誌』第７号　23-51.

井上　巌　2008『東北日本の原産地黒曜石　関東・中部・東海編』

井上　巌　2008『東北日本の原産地黒曜石　東北・北陸編』

井上　巌　2008『東北日本の原産地黒曜石　北海道編』

井上　巌　2008『東北日本の原産地黒曜石写真集』

## 3　調査担当者所見

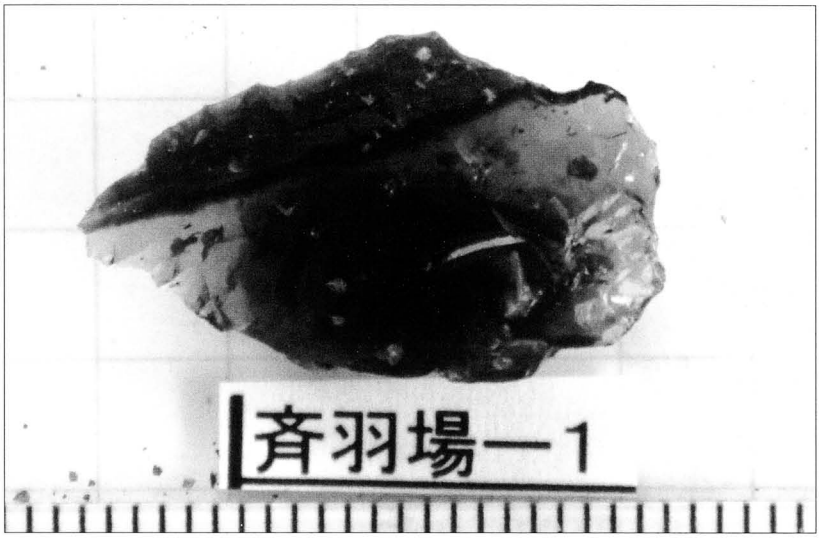
今回の分析試料は前述の６点で、斉羽場館跡－１（掲載№202）はＤ区・Ⅲ層出土、斉羽場館跡－２（掲載№201）はＣグリッド・Ⅴ層出土、斉羽場館跡－３（掲載№156）はＤ区・Ⅳ層出土、斉羽場館跡－４はＤ区・Ⅳ層出土、斉羽場館跡－５はＤ区・Ⅲ層出土、斉羽場館跡－６はＥ区・Ⅳ層出土である。斉羽場館跡－２が縄文時代早期中葉～後葉の遺物を包含する堆積層であるⅤ層から出土している以外は、盛土層（Ⅲ層）から盛土以前の表土層（Ⅳ層）出土資料であるため、詳細な時期の特定は困難である。いずれにしても、縄文時代に帰属する石器であることは疑いないが、すべての遺物が黒曜石の原産地としては一番近い場所である、雫石町の小赤沢産であることを考慮すると、石器石材は近隣で採取可能なものを選択していた可能性が高い。

**附表１　化学分析表**

| 試料番号 | $Na_2O$ | MgO | $Al_2O_3$ | $SiO_2$ | $P_2O_5$ | $K_2O$ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 斉羽場－１ | 3.8308 | 0.1567 | 11.7355 | 77.3761 | 0.8115 | 3.6466 |
| 斉羽場－２ | 4.6426 | 0.1144 | 11.9776 | 77.2192 | 0.3463 | 2.8648 |
| 斉羽場－３ | 3.5836 | 0.0968 | 11.6131 | 77.2211 | 0.2951 | 4.6181 |
| 斉羽場－４ | 5.1631 | 0.1686 | 11.9904 | 76.3517 | 0.3121 | 3.0317 |
| 斉羽場－５ | 3.9886 | 0.0006 | 12.0312 | 77.6890 | 0.4913 | 2.8369 |
| 斉羽場－６ | 4.4583 | 0.0274 | 11.5651 | 77.7927 | 0.5934 | 2.7333 |

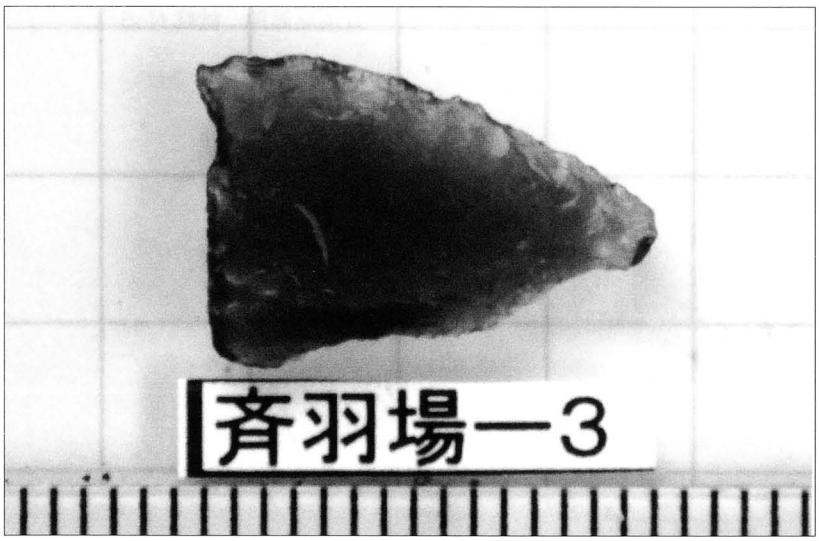
| 試料番号 | CaO | $TiO_2$ | MnO | $Fe_2O_3$ | $Rb_2O$ | SrO |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 斉羽場－１ | 1.0842 | 0.1600 | 0.0232 | 1.1382 | 0.0076 | 0.0109 |
| 斉羽場－２ | 1.1597 | 0.1919 | 0.0195 | 1.4313 | 0.0075 | 0.0071 |
| 斉羽場－３ | 0.9904 | 0.1552 | 0.0237 | 1.3629 | 0.0105 | 0.0078 |
| 斉羽場－４ | 1.2209 | 0.1925 | 0.0238 | 1.5062 | 0.0058 | 0.0104 |
| 斉羽場－５ | 1.2157 | 0.1841 | 0.0158 | 1.4963 | 0.0077 | 0.0133 |
| 斉羽場－６ | 1.1951 | 0.1895 | 0.0099 | 1.3995 | 0.0044 | 0.0041 |

| 試料番号 | $Y_2O_3$ | $ZrO_2$ | Total | Rb | Sr | 原産地 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 斉羽場－１ | 0.0027 | 0.0159 | 99.9999 | 603 | 850 | 小赤沢・被熱？ |
| 斉羽場－２ | 0.0027 | 0.0154 | 100.0000 | 625 | 579 | 小赤沢 |
| 斉羽場－３ | 0.0050 | 0.0166 | 99.9999 | 823 | 594 | 小赤沢・被熱？ |
| 斉羽場－４ | 0.0024 | 0.0204 | 100.0000 | 453 | 792 | 小赤沢 |
| 斉羽場－５ | 0.0097 | 0.0197 | 99.9999 | 577 | 971 | 小赤沢 |
| 斉羽場－６ | 0.0042 | 0.0230 | 99.9999 | 338 | 313 | 小赤沢 |



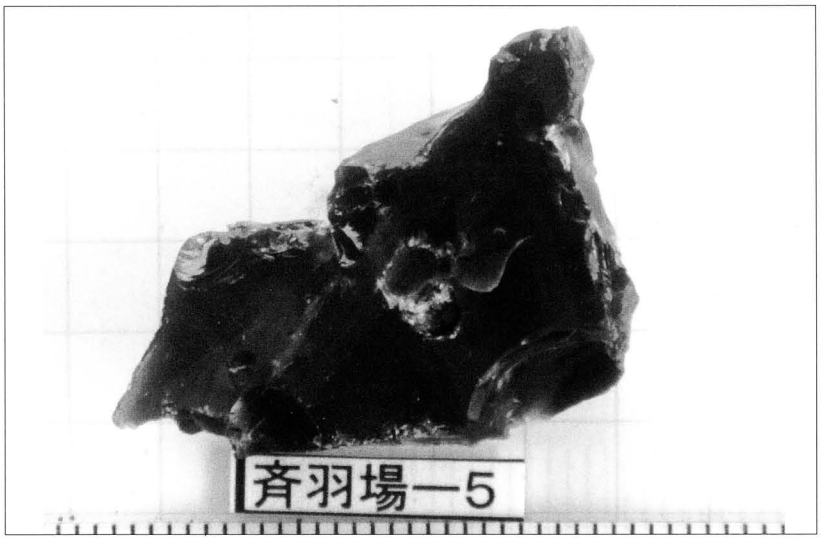

斉羽場館跡　試料 No1

斉羽場館跡　試料 No2



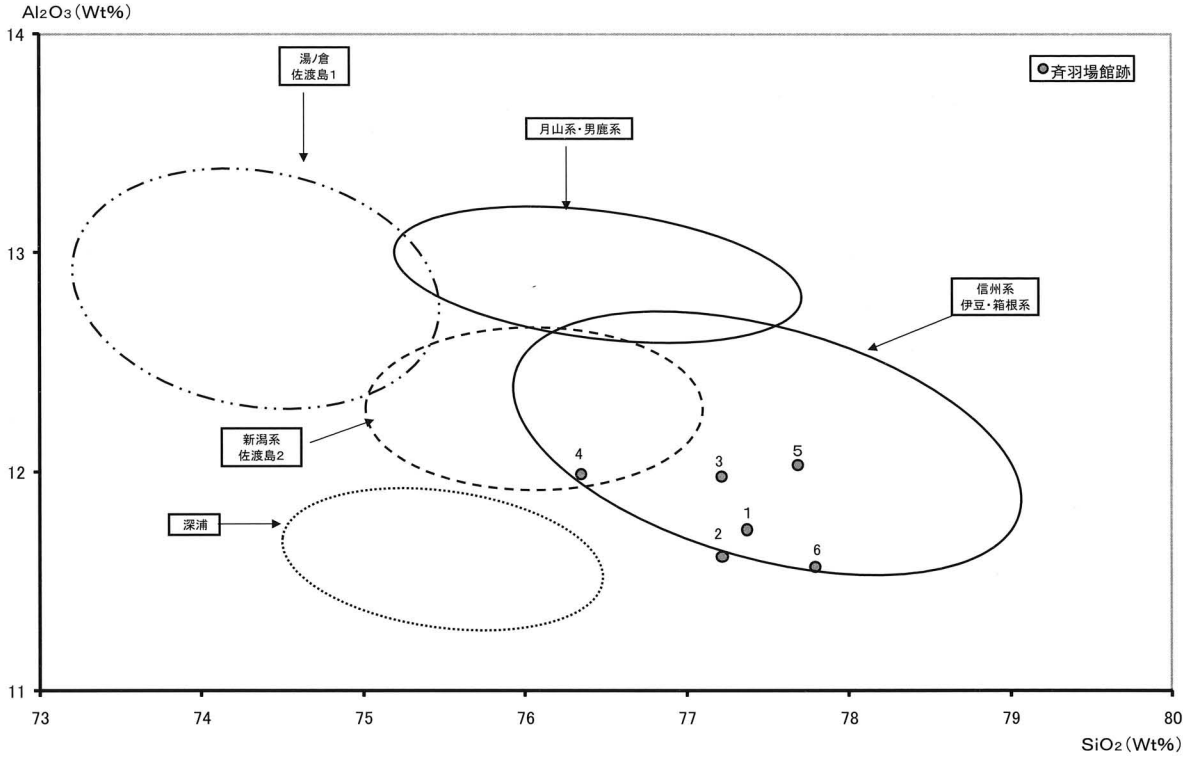

斉羽場館跡　試料 No3

斉羽場館跡　試料 No4

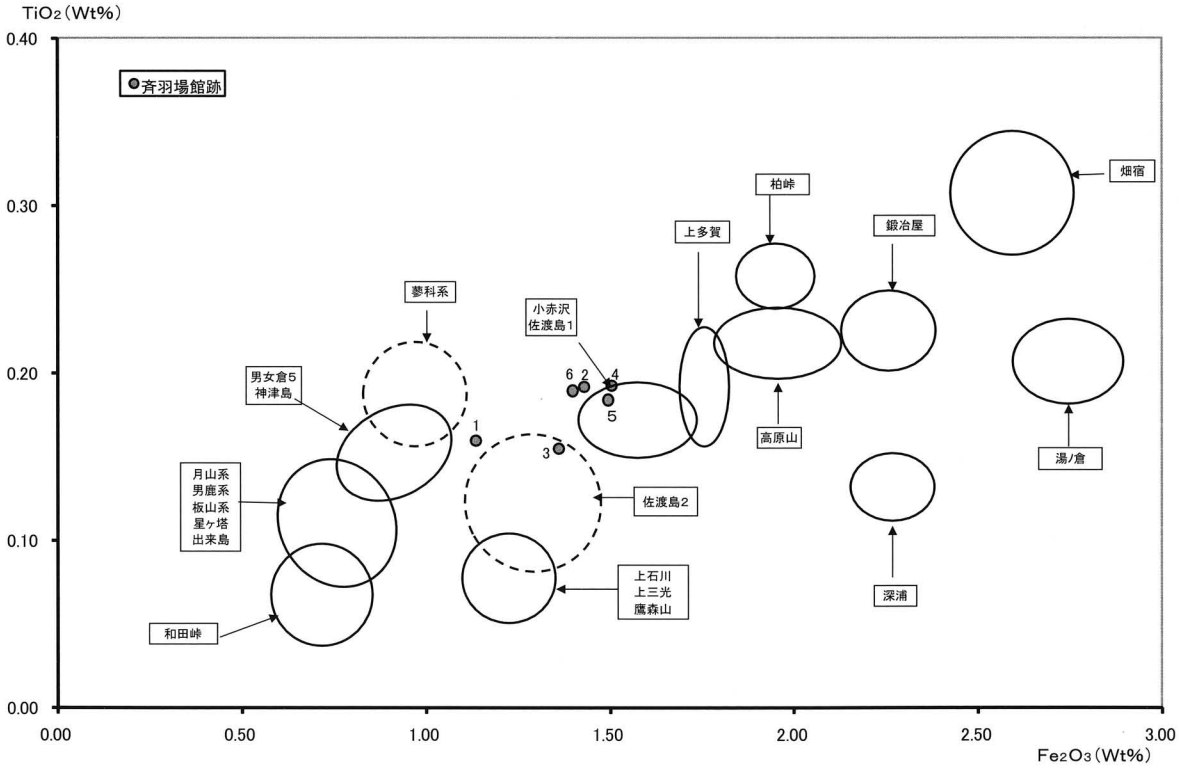



斉羽場館跡　試料 No5

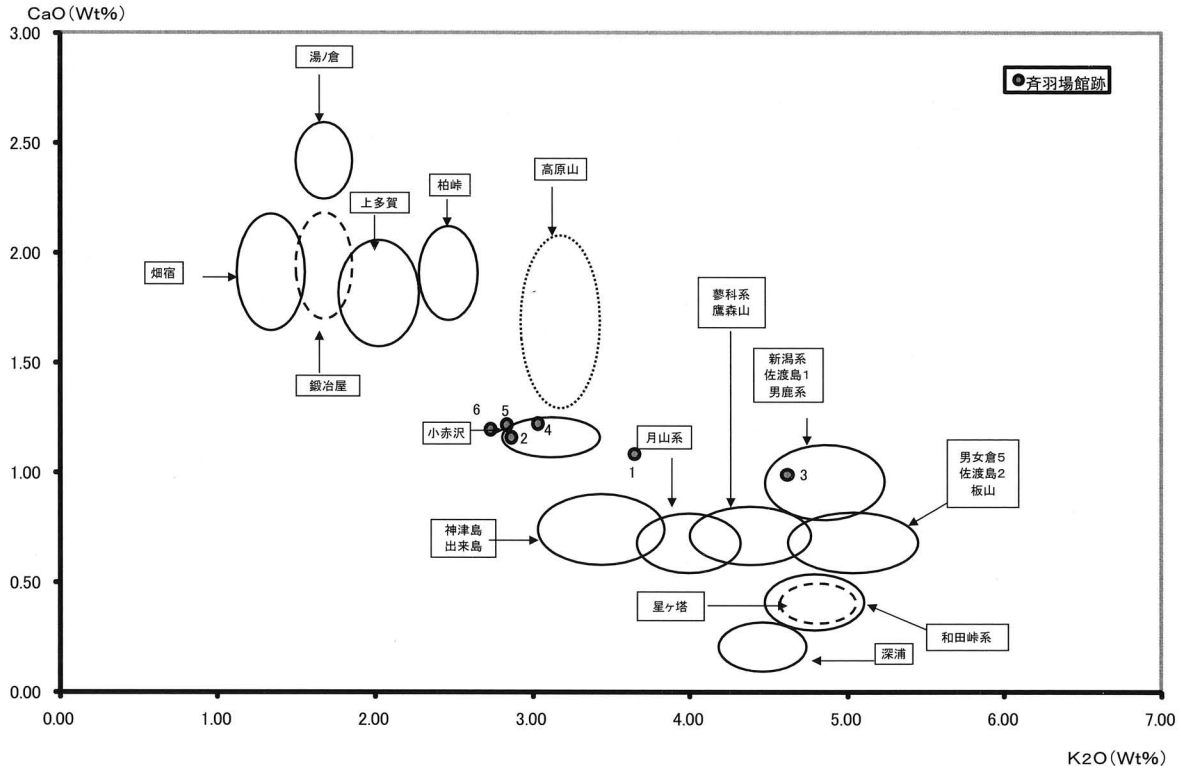
斉羽場館跡　試料 No6



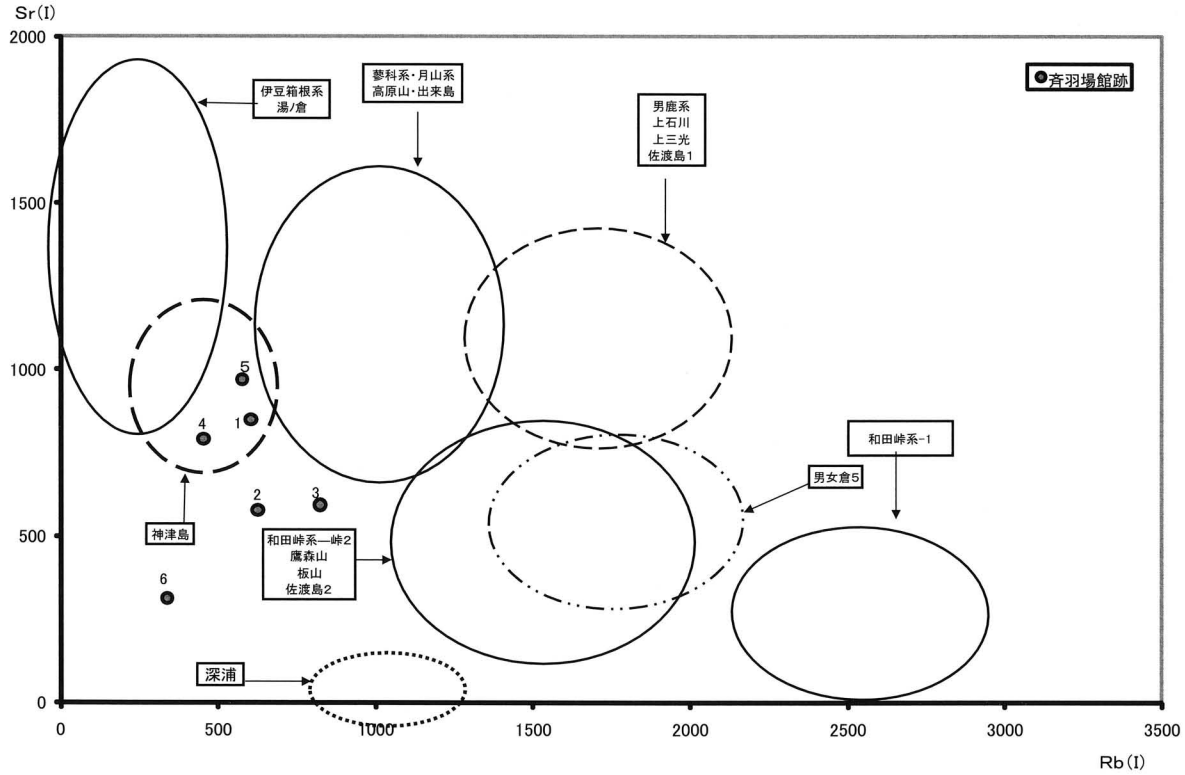

附図１　関東・中部・東海・東北・北陸：Ｓｉ０$_2$－Ａｌ$_2$Ｏ$_3$図（黒曜石）




附図２　関東・中部・東海・東北・北陸：Ｆｅ$_2$Ｏ$_3$－Ｔｉ$_2$Ｏ$_2$図（黒曜石）




附図３　関東・中部・東海・東北・北陸：Ｋ$_2$Ｏ－ＣａＯ図（黒曜石）




附図４　関東・中部・東海・東北・北陸：Ｒｂ－Ｓｒ図（黒曜石）

# 火山灰分析

株式会社　火山灰考古学研究所

## 1　はじめに

東北地方岩手県北上市域とその周辺には、焼石、栗駒、鳴子、十和田火山など東北地方の火山のほか、洞爺、阿蘇、姶良など北海道や九州など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層や遺構が認められた北上市斉羽場館跡でも、発掘調査担当者により採取されたテフラ試料を対象に、テフラ組成分析と火山ガラスの屈折率測定を行って、テフラの検出と指標テフラとの同定を実施し、土層や遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。分析の対象となった試料は、発掘調査担当者により採取されたＳＩ01埋土上位火山灰（試料①）、ＳＩ01・Ｈ１・２層（試料②）、Ａ20グリッド西壁Ⅷａ層（試料③）である。

## 2　テフラ組成分析

### （1）分析試料と分析方法

テフラ粒子のうち、火山ガラスは大規模な噴火の際に、鉱物などとともにマグマの破片として大量に生産噴出され、しかもその比重や形態などの関係で、とくに遠方まで到達する。さらに、マグマの多様性を反映して、形態や色調さらに屈折率、主成分化学組成などに特徴があり、さまざまな分析により特徴を把握しやすい。このことから、テフラを過去の時空指標として利用する火山灰編年学の分野では、とくに火山ガラスの特徴把握が重視される。そこで、最初に３試料に含まれる火山ガラスの色調・形態別比率を求める火山ガラス比分析を実施した。また、あわせて重鉱物組成分析も実施してテフラ組成分析とした。分析の手順は次のとおりである。

1）試料15gを秤量。
2）超音波洗浄により泥分を除去。
3）80℃で恒温乾燥。
4）実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴を観察。
5）分析篩により1/4～1/8mmおよび1/8～1/16mmの粒子を篩別。
6）偏光顕微鏡下で1/4～1/8mmの250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。
7）偏光顕微鏡下で1/4～1/8mmの重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析）。

### （2）分　析　結　果

３試料の火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果を、テフラ組成ダイヤグラムにして附図５に、

その内訳を附表２と附表３に示す。ＳＩ01埋土上位火山灰（試料①）には、スポンジ状に発泡した白色軽石型ガラス（最大径1.2㎜）が特徴的に含まれている。この試料に含まれる火山ガラスは、比率が高い順に繊維束状に発泡した軽石型（4.8％）、無色透明のバブル型（1.6％）、スポンジ状に発泡した軽石型（1.2％）、分厚い中間型（0.4％）である。

ＳＩ01・Ｈ１・２層（試料②）にも、スポンジ状に発泡した白色軽石型ガラス（最大径1.2㎜）が特徴的に含まれている。この試料に含まれる火山ガラスは、比率が高い順に繊維束状に発泡した軽石型（4.0％）、スポンジ状に発泡した軽石型（2.4％）、中間型および無色透明のバブル型（各0.4％）である。

Ａ20グリッド西壁Ⅷａ層（試料③）に含まれる火山ガラスは、前述２試料に含まれるそれと比較すると非常に細粒（最大径0.2㎜）である。この試料では、無色透明のバブル型と中間型ガラスが少量ずつ認められた（各0.4％）。

## ３　火山ガラスの屈折率測定

### （１）測定試料と測定方法

３試料に含まれる1/8～1/16㎜サイズの火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製MAIOT）を利用して、屈折率（n）の測定を実施した。

### （２）測　定　結　果

屈折率の測定結果を附表４に示す。ＳＩ01埋土上位火山灰（試料①）に含まれる火山ガラス（30粒子）の屈折率（n）は、1.500－1.509である。また、ＳＩ01・Ｈ１・２層（試料②）に含まれる火山ガラス（31粒子）の屈折率（n）も、1.500－1.508である。一方、Ａ20グリッド西壁のⅧａ層（試料③）に含まれる火山ガラスの屈折率（n）はbimodalで、1.504－1.505（７粒子）と1.513（１粒子）の２種類の値が得られた。

## ４　考　　察

ＳＩ01埋土上位火山灰（試料①）およびＳＩ01・Ｈ１・２層（試料②）に含まれるテフラ粒子の多くは、比較的粗粒のスポンジ状に発泡した白色軽石型ガラスを特徴的に含むこと、火山ガラスの屈折率、さらに斜方輝石および単斜輝石を多く含むことなどから、915年に十和田火山から噴出した十和田ａ火山灰（To-a，大池，1972，町田ほか，1981，山田・井上，1990）に由来する可能性が高い。ただ、試料中の火山ガラスの比率はさほど高くなく、送られてきた試料で純度はさほど高いとは言いにくい。送付された写真をみると高純度の火山灰がブロックあるいはレンズ状に認められたらしい。試料の純度は、試料採取の方法にも関係することから、テフラを野外で詳細に記載できるテフラ分析担当者による試料採取を望みたい。

一方、Ａ20グリッド西壁Ⅷａ層（試料③）に含まれる火山ガラスの比率は非常に低く、テフラの一次堆積層の可能性はないと思われる。火山ガラスのうち、より低い屈折率をもつものは、その値から約4.1万年前以前あるいは約５～６万年前[*1]に焼石火山から噴出したと推定されている焼石村崎野テフラ（Yk-M，大上・吉田，1984，澤口，1992，小岩，1996，町田・新井，2003など）、約3.5～約５万年前に岩手火山から噴出したと考えられている西岩手雪浦・小出テフラ（Iw-Y・Od，大上・土井，

1978, 土井, 1984, 1991, 2000)、約 1.5 ～ 1.65 万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 2003, 古環境研究所, 1999）あるいはその一部と考えられる浅間草津黄色軽石（As-YPk, 新井, 1962, 町田・新井, 2003 など）、さらに、約 1.5 万年前に十和田火山から噴出した十和田八戸テフラ（To-H, 中川ほか, 1972, 早川, 1983, Hayakawa, 1995, 町田・新井, 2003）などに由来する可能性が考えられる。

一般的に、後二者は本地域とその周辺でいわゆるローム層の最上部付近にあること（火山灰考古学研究所, 未公表資料）を考えると、それらの可能性は低いように思われる。したがって、現段階ではⅧa 層について Yk-M より上位の土層の可能性を指摘しておく。今後、信頼度の高い EPMA をもちいた火山ガラスの主成分化学組成分析を実施して、その起源に関する資料を収集すると良い。なお、屈折率がとくに高い火山ガラスの起源については現在のところ不明で、遺跡周辺での地質調査やテフラ分析による今後の資料の蓄積を待ちたい。

## 5　ま　と　め

北上市斉羽場館跡において、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、テフラ組成分析と火山ガラスの屈折率測定を行った。その結果、焼石村崎野テフラ（Yk-M, 約 4.1 万年前あるいは約 5 ～ 6 万年前）あるいは西岩手雪浦・生出テフラ（Iw-Y･Od, 約 3.5 ～約 5 万年前）に由来すると思われるテフラ粒子が検出された。また、十和田 a 火山灰（To-a, 915 年）も本遺跡には降灰しているようである。

＊1：新しい指標テフラの年代観をもとにすると、約 6.8 ～ 7.8 万年前とする研究もある（Koiwa, 2003)。Yk-Y については、ほかに 82,000 ± 19,000 年前の FT 年代（渡辺ほか, 2003)、70,000 ± 10,000 年前や 70,000 ± 12,000 年前の TL 年代（長友ほか, 2005）などがある。

### 文献


新井　房夫　1962　関東盆地北西部の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1－79.

土井　宣夫　1984　岩手火山, 篠ケ森火砕流と雪浦降下軽石について．地質雑, 90, p.117－120.

土井　宣夫　1991　岩手火山, 雪浦降下軽石と生出黒色火山灰の噴出源について．中川久夫教授退官記念地質学論文集, 13, p.13－22.

土井　宣夫　2000　岩手山の地質－火山灰が語る噴火史．岩手県滝沢村教育委員会, 234p.

早川由紀夫　1983　火山豆石として降下堆積した十和田火山八戸火山灰．火山, 28, p.25－40.

Hayakawa, Y.　1985　Pyroclastic geology of Towada volcano. Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo,60, p.507-592.

小岩　直人　1996　岩手県夏油川扇状地における後期更新世の河谷埋積期に関する新知見．第四紀研究, 35, p.35－39.

小岩直人・柴　正俊・葛西優貴　2007　十和田大不動テフラの AMS14C 年代．第四紀研究, 46, p.437－441.

Koiwa, N.　2003　Three-dimensional structure of involutions formed in a late Pleistocene tephra layer, northeastern Japan. Geomorphology, 52, p.131-140.

古環境研究所　1999　富谷町三ケ森遺跡のテフラ．富谷町教育委員会編「三ケ森遺跡発掘調査報告書－国道 4 号拡幅に伴う埋蔵文化財の調査－」, p.96－99.

町田　洋・新井房夫　1992　火山灰アトラス．東京大学出版会, 276p.

町田　洋・新井房夫　2003　新編火山灰アトラス．東京大学出版会, 336p.

町田　洋・新井房夫・森脇　広　1981　日本海を渡ってきたテフラ．科学，51，p.562－569.

長友恒人・西村誠治・下岡順直　2005　金取遺跡における地層のルミネッセンス年代．宮守村教育委員会編「金取遺跡－第２・３次発掘調査報告書」，p.64－68.

中川久夫・中馬教充・石田琢二・松山　力・七崎　修　1972　十和田火山発達史概要．岩井淳一教授記念論文集，p.7－17.

大池昭二　1972　十和田火山東麓における完新世テフラの編年．第四紀研究，11，p.232－233.

大池昭二・中川久夫　1979　地形並びに表層地質調査．「三戸地域広域農業開発基本調査報告書」，東北農政局，103p.

大池昭二・中川久夫・七崎　修・松山　力・米倉伸之　1966　馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰．第四紀研究，５，p.29－35.

大上和良・土井宣夫　1978　北部北上低地帯の鮮新－更新両統の層序について．岩手大学工学部研究報告，31，p.63－78.

大上和良・吉田　充　1984　北上川中流域，胆沢扇状地における火山灰層序．岩手大工学部研究報告，37，p.69－81.

澤口晋一　1992　北上川流域における最終氷期後半の化石周氷河現象－ソリフラクションローブ，階状土の形成期と古環境－．季刊地理学，44，p.18－28.

渡辺満久・壇原　徹・藤原　治　2003　北上低地帯南部における第四紀テフラのFT年代と河成段丘面の編年．日本地理学会春季学術大会予稿集，p.111.

## 6　調査担当者所見

今回の分析試料は３点で、１点はＡ20グリッド西壁Ⅷａ層から採取したもの、その他の２点はＳＩ01竪穴住居跡の埋土から採取したものである。ＳＩ01竪穴住居跡から採取した試料は調査担当者の想定していた通りの結果となった。また一つ貴重なデータを提示することができたと考えられる。

Ⅷａ層から採取した試料は焼石村崎野テフラもしくは西岩手雪浦・生出テフラに由来すると考えられるテフラ粒子との結果であった。Ⅶ層から出土した石器には年代を決定できる資料がほとんどなかったための分析であったが、結果的には３万年前以降との大まかな年代観しか得られず、詳細な年代は不明のままとなってしまった。しかし、段丘面の同定が困難である北上川左岸において、段丘面の比較に活用できるデータが得られたことは重要であると考えられる。

### 附表２　火山ガラス比分析結果

| 地点名 | 試料 | bw (cl) | bw (pb) | bw (br) | md | pm (sp) | pm (fb) | その他 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＩ01 | 埋土上位　火山灰 | 4 | 0 | 0 | 1 | 3 | 12 | 230 | 250 |
| ＳＩ01 | Ｈ１・２層 | 1 | 0 | 0 | 1 | 6 | 10 | 232 | 250 |
| Ａ20西壁 | Ⅷａ層 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 248 | 250 |

bw：バブル型，pm：軽石型，md：中間型，cl：無色透明，pb：淡褐色，br：褐色，
sp：スポンジ状，fb：繊維束状.
数字は粒子数.

### 附表３　重鉱物組成分析結果

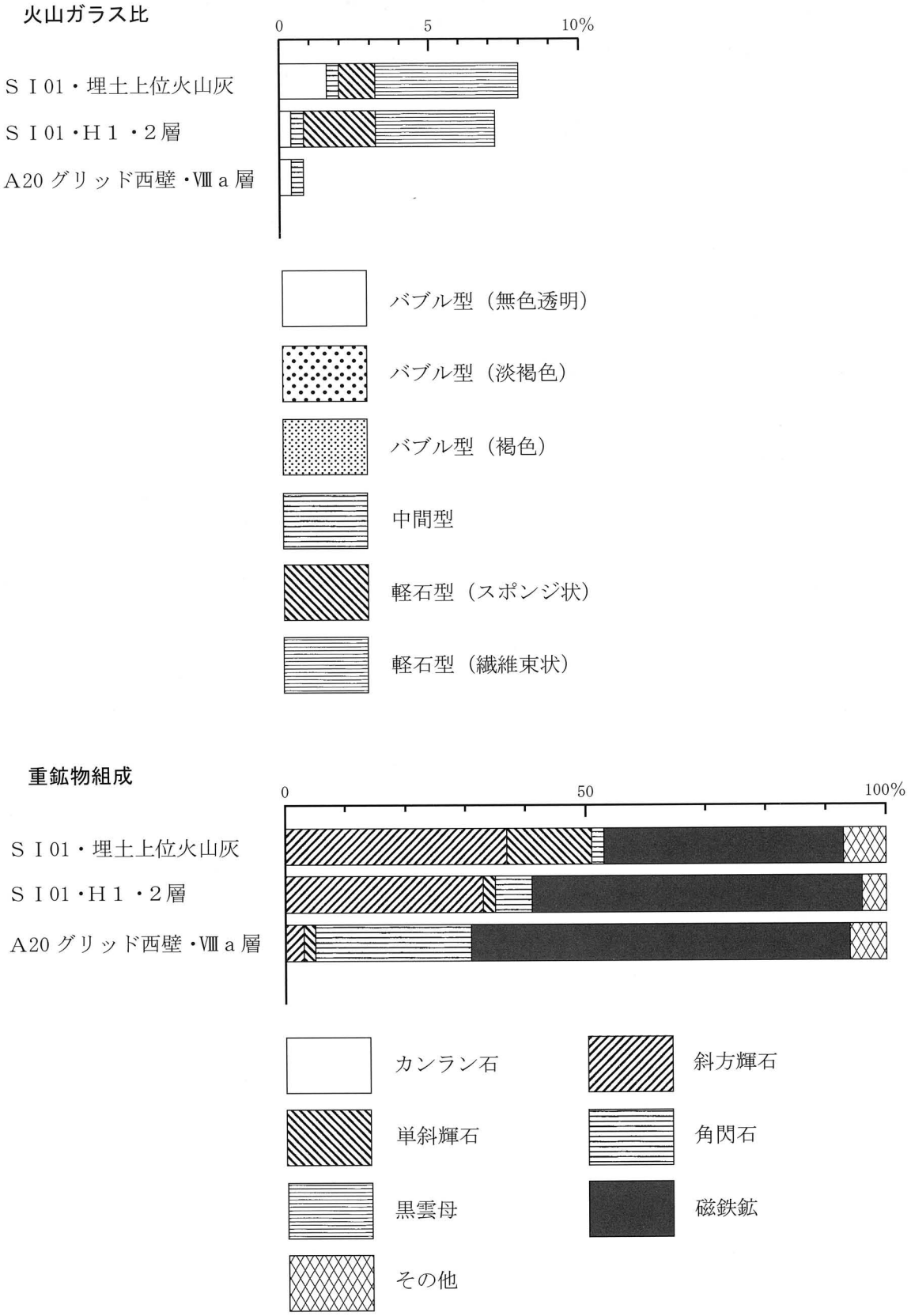
| 地点名 | 試料 | ol | opx | cpx | am | bi | mt | その他 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＩ01 | 埋土上位　火山灰 | 0 | 94 | 33 | 5 | 0 | 101 | 17 | 250 |
| ＳＩ01 | Ｈ１・２層 | 0 | 79 | 8 | 15 | 0 | 138 | 10 | 250 |
| Ａ20西壁 | Ⅷａ層 | 0 | 8 | 4 | 68 | 0 | 155 | 15 | 250 |

ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石，bi：黒雲母，mt：磁鉄鉱.
数字は粒子数.

### 附表４　屈折率測定結果

| 地 点 名 | 試料・テフラ | 火山ガラス | |
|---|---|---|---|
| | | 屈折率（n） | 測定点数 |
| ＳＩ01 | 埋土上位火山灰 | 1.500－1.509 | 30 |
| ＳＩ01 | Ｈ１　２層 | 1.500－1.508 | 31 |
| Ａ20西壁 | Ⅷａ層 | 1.504－1.505, 1.513 | 7, 1 |
| 指標テフラ | 白頭山苫小牧（B-Tm） | 1.511－1.522 | |
| | 十和田ａ（To-a） | 1.500－1.508 | |
| | 十和田中掫（To-Cu） | 1.508－1.512 | |
| | 鬼界アカホヤ（K-Ah） | 1.508－1.516 | |
| | 肘折尾花沢（Hj-O） | 1.499－1.504 | |
| | 十和田八戸（To-H） | 1.502－1.509 | |
| | 浅間板鼻黄色（As-YP） | 1.501－1.505 | |
| | 鳴子潟沼上原（Nk-U） | 1.492－1.500 | |
| | 姶良 Tn（AT） | 1.498－1.501 | |
| | 十和田大不動（To-Of） | 1.505－1.511 | |
| | 西岩手雪浦・生出（Iw-Y・Od） | 1.505－1.508 | |
| | 焼石村崎野（Yk-M） | 1.503－1.508 | |
| | 焼石山形（Yk-Y） | 1.500－1.503 | |
| | 鳴子柳沢（Nr-Y） | 1.500－1.503 | |
| | 阿蘇４（Aso-4） | 1.506－1.510 | |
| | 鳴子荷坂（Nr-N） | 1.500－1.502 | |
| | 肘折北原（Hj-Kth） | 1.499－1.502 | |
| | 三瓶木次（SK） | 1.496－1.498 | |
| | 洞爺（Toya） | 1.494－1.498 | |

屈折率の測定は，温度変化型屈折率測定装置（MAIOT）による.
指標テフラの屈折率は，町田・新井（2003）.




附図５　斉羽場館跡のテフラ組織ダイヤグラム

# 放射性炭素年代（ＡＭＳ測定）

（株）加速器分析研究所

## 1　測定対象試料

斉羽場館跡は、岩手県北上市稲瀬町字前田164-1（北緯39° 15′ 10″、東経141° 07′ 14″）に所在する。測定対象試料は、Ｓｂ04（Ｂ５:520)・Ⅶ Ａ層から出土した炭化物（No 1:IAAA-82647)、Ｓｂ05（Ａ25：472)・Ⅵ層から出土した炭化物（新No ２：IAAA-82648)、Ｓｂ05（Ｂ５：473)・Ⅵ層から出土した炭化物（No ３：IAAA-82649)、Ｄ２（464)・Ⅵ層から出土した炭化物（No ４：IAAA-82650)、Ｃ22（275)・Ⅵ層から出土した炭化物（No ５：IAAA-82651)、Ｓｂ05（Ｃ21：200)・Ⅵ層から出土した土器付着炭化物（新No ６：IAAA-82652)、Ｃ24（71)・Ⅵ層から出土した炭化物（No ７：IAAA-82653)、ＳＩ01カマド２層から出土した炭化物（No ８：IAAA-82654）の合計８点である。新No ６では、土器片４点の内外面に付着した微量の炭化物を採取した。

## 2　測定の意義

土器・石器、竪穴住居跡の帰属する年代を決定する資料としたい。

## 3　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
（2）酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA:Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では１Ｎの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では１Ｎの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が１Ｎ未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では１Ｎの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
（3）試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で２時間加熱する。
（4）液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO2）を精製する。
（5）精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
（6）グラファイトを内径１㎜のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

## 4　測定方法

測定機器は、３ＭＶタンデム加速器をベースとした$^{14}$C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）

を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 5 算 出 方 法

（1）年代値の算出には、Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polash 1977）。

（2）14C 年代（Libby Age:yrBP）は、過去の大気中 14C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年（0 yrBP）として遡る年代である。この値は、δ 13C によって補正された値である。14C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、14C 年代の誤差（± 1 σ）は、試料の 14C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。

（3）δ 13C は、試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により 13C/12C を測定した場合には表中に（AMS）と注記する。

（4）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の 14C 濃度の割合である。

（5）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の 14C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の 14C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ = 68.2%）あるいは 2 標準偏差（2 σ = 95.4%）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない 14C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース（Reimer et al 2004）を用い、OxCalv4.0 較正プログラム（Bronk Ramsey 1995　Bronk Ramsey 2001　Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001）を使用した。

## 6 測 定 結 果

Ｓｂ04（Ｂ５：520）・Ⅶ Ａ層出土炭化物の14C年代は11820±50yrBP（No１）である。Ｓｂ05・Ⅵ層出土炭化物は、11490±50yrBP（Ａ25：472、新No２）、10840±50yrBP（Ｂ５：473、No３）である。Ｄ２（464）・Ⅵ層の炭化物（No４）は11450±50yrBP、Ｃ22（275）・Ⅵ層の炭化物（No５）が11510±50yrBP、Ｓｂ05（Ｃ21：200）・Ⅵ層の土器付着炭化物（新No６）が10020±60yrBP、Ｃ24（71）・Ⅵ層の炭化物（No７）が6930±40yrBPである。No７は出土位置が他の試料から離れており、年代も縄文時代早期に相当し、他と異なる。それ以外は縄文時代草創期に相当する。それぞれ年代幅があるが、中心となるのは11500yrBP前後の年代である。試料の出土位置や遺物との共伴関係から、それぞれの年代値の妥当性を判断する必要がある。ＳＩ01カマド２層から出土した炭化物は1270±30yrBPである。その暦年較正年代（１σ）は、688～730ＡＤ（37.2%）・735～772ＡＤ（31.0%）である。

炭化物の炭素含有率はすべて60%以上であった。一方、土器付着炭化物（新No６）の炭素含有率は炭化物としては低く10.7%であった。この理由として、付着物が微量であり、土壌などの炭化物ではない付着物を一緒に採取した可能性を否定できない。その点で年代の信頼性が低い可能性もあり、検討の余地がある。

**参考文献**

Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

## 7　調査担当者所見

今回の分析試料は前述の８点である。斉羽場館跡は北上川左岸に立地し、北上川からわずか250 mほどしか離れていない。北上川の左岸に位置する本遺跡周辺では石器の出土する面の対比が右岸と比較すると、不明なことが多く、困難な場合が多い。そこで、年代観を得るために分析を行った。

ⅦＡ層として取り上げた炭化物の年代は同一ブロックの石器の年代観とは大きな隔たりがある。これは、上層Ⅵ層から自然の営力などにより落ち込んだものをⅦＡ層として取り上げた可能性も考えられる。傍証にしかならないが、Ⅵ層では炭化物がある程度確認できたものの、ⅦＡ層では年代測定の試料としたもの以外には確認できなかった。このことが、今回、ⅦＡ層として採取した試料がⅥ層からの落ち込みであったことの可能性を示唆するものと考えられる。

Ⅵ層から取り上げた炭化物の年代はNo 7を除いて11,500 yrBP前後とまとまっている。新No 6（土器片付着炭化物）との年代差があるものの、縄文時代草創期の範疇に収まるものである。本遺跡のⅥ層は縄文時代草創期の遺物を包含する堆積層で、Ⅵ層から出土した遺物（主に石器）の多くは縄文時代草創期に属する可能性が非常に高いと考えている。

新No 6は土器片に付着した炭化物を測定したものである。この土器が出土したⅥ層は石器が主体で、この土器片以外では、非常に小さな土器片が数点出土しているにすぎない。そのため、土器の年代観を決定するのに、苦慮していた。同一層準（Ⅵ層）から出土した炭化物の分析を行う予定はしていたが、より確実性のある年代観を得たいと考えていた。すると、土器片をよく観察すると、炭化物と思われる黒色の付着物が裏面に付着しており、この黒色の付着物が炭化物であれば、より確実な年代観が得られると考え、黒色の付着物（炭化物）の年代測定を試みたところである。その結果、前述のような測定結果が得られ、縄文時代草創期後半期の土器である可能性が非常に高くなったと考えている。

No 7は近接して出土した163の尖頭器の詳細な時期を特定したいと考え、分析を行った試料である。No 7もⅥ層として取り上げた炭化物であるが、本試料の位置する斜面下方は、斜面上方に比べ、明瞭なⅤ層の堆積の確認ができず、また、Ⅵ層自体もあまり良好な堆積状況をしていない。そのため、本来はⅤ層に帰属すべきものをⅥ層として取り上げた可能性は否定できない。

No 8はＳＩ01竪穴住居跡から採取した試料である。本遺構から出土した土師器はロクロが利用されており、９世紀以降であることは疑いないが、炭化物の分析結果とは大きな隔たりが見られる。詳細な原因は不明といわざるを得ない。

附表５　分析結果一覧（１）

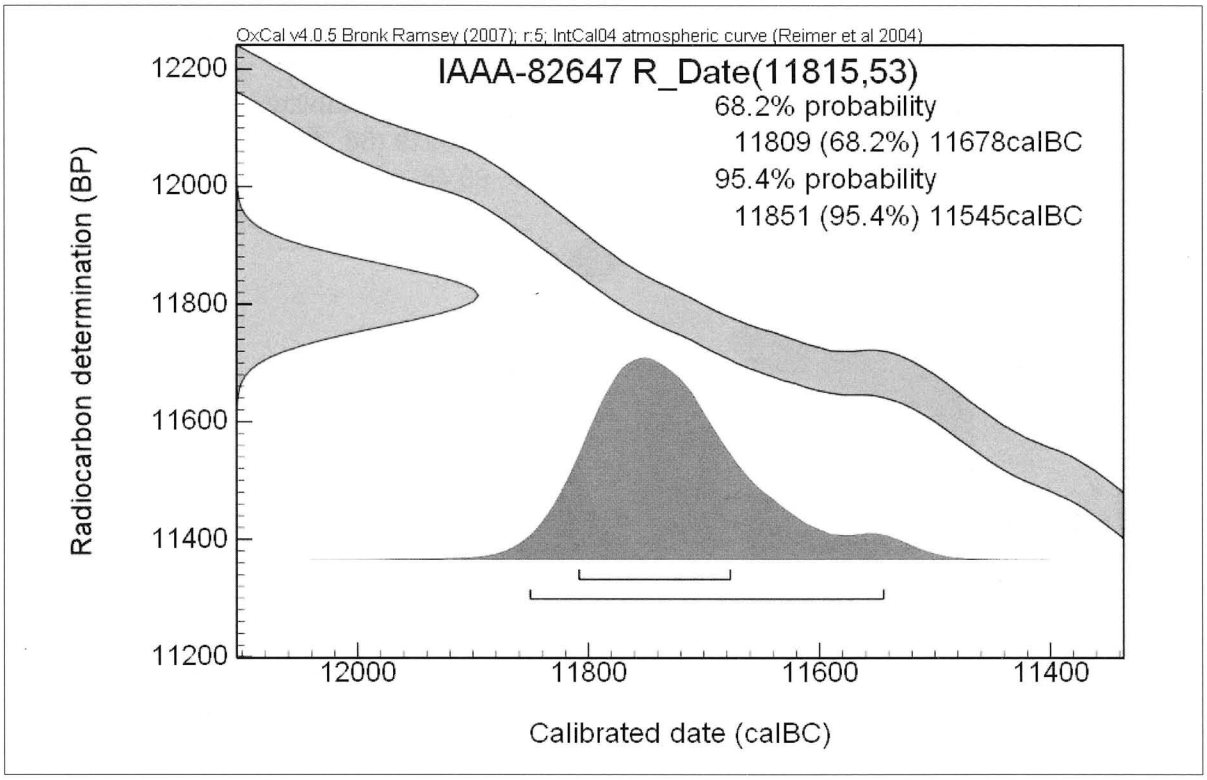
| 測定番号 | 試料名 | 採取場所 | 試料形態 | 処理方法 | δ 13C(‰) (AMS) | δ 13C 補正あり | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | Libby Age (yrBP) | pMC (%) |
| IAAA－82647 | No 1 | Ｓｂ04(Ｂ５:520) Ⅶ Ａ層 | 炭化物 | AAA | － 28.10 ± 0.63 | 11,820 ± 50 | 22.97 ± 0.15 |
| IAAA－82648 | 新 No 2 | Ｓｂ05(Ａ25:472) Ⅵ層 | 炭化物 | AaA | － 26.96 ± 0.61 | 11,490 ± 50 | 23.92 ± 0.15 |
| IAAA－82649 | No 3 | Ｓｂ05(Ｂ５:473) Ⅵ層 | 炭化物 | AaA | － 23.96 ± 0.71 | 10,840 ± 50 | 25.95 ± 0.17 |
| IAAA－82650 | No 4 | Ｄ２(464)　Ⅵ層 | 炭化物 | AAA | － 25.21 ± 0.69 | 11,450 ± 50 | 24.04 ± 0.15 |
| IAAA－82651 | No 5 | Ｃ22(275)　Ⅵ層 | 炭化物 | AaA | － 26.50 ± 0.64 | 11,510 ± 50 | 23.87 ± 0.16 |
| IAAA－82652 | 新 No 6 | Ｓｂ05(Ｃ21:200) Ⅵ層 | 土器片付着炭化物 | AaA | － 30.10 ± 0.54 | 10,020 ± 60 | 28.74 ± 0.19 |
| IAAA－82653 | No 7 | Ｃ24(71)　Ⅵ層 | 炭化物 | AaA | － 26.48 ± 0.89 | 6,930 ± 40 | 42.22 ± 0.22 |
| IAAA－82654 | No 8 | ＳＩ01　カマド２層 | 炭化物 | AAA | － 29.20 ± 0.65 | 1,270 ± 30 | 85.39 ± 0.33 |

[#2714]

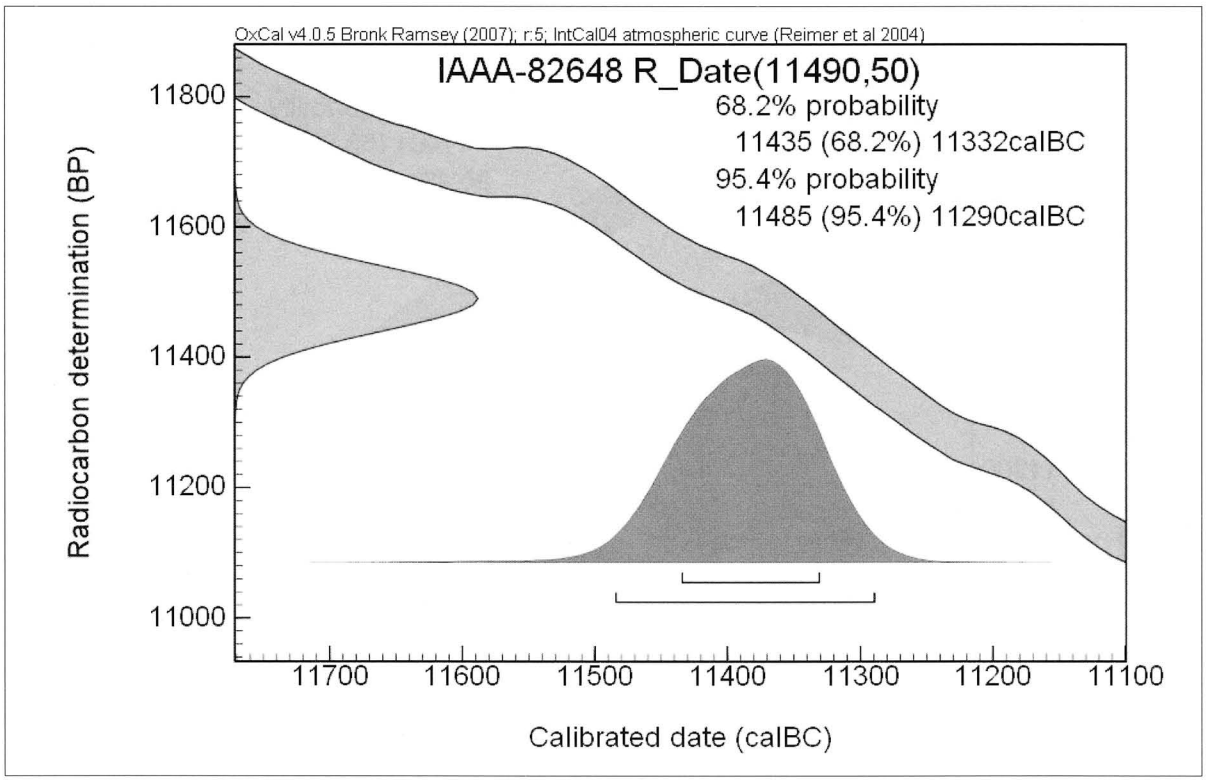
附表５　分析結果一覧（２）

| 測定番号 | δ 13C 補正なし | | 暦年較正用 (yrBP) | 1 σ 暦年代範囲 | 2 σ 暦年代範囲 |
|---|---|---|---|---|---|
| | Age (yrBP) | pMC (%) | | | |
| IAAA－82647 | 11,870 ± 50 | 22.83 ± 0.15 | 11,815 ± 53 | 11809BC－11678BC(68.2%) | 11851BC－11545BC(95.4%) |
| IAAA－82648 | 11,520 ± 50 | 23.83 ± 0.15 | 11,490 ± 50 | 11435BC － 11332BC(68.2%) | 11485BC－11290BC(95.4%) |
| IAAA－82649 | 10,820 ± 50 | 26.01 ± 0.16 | 10,836 ± 51 | 10919BC － 10871BC(68.2%) | 10950BC－10846BC(95.4%) |
| IAAA－82650 | 11,450 ± 50 | 24.03 ± 0.15 | 11,450 ± 51 | 11401BC － 11301BC(68.2%) | 11458BC－11263BC(95.4%) |
| IAAA－82651 | 11,530 ± 50 | 23.80 ± 0.15 | 11,506 ± 53 | 11448BC － 11342BC(68.2%) | 11505BC－11293BC(95.4%) |
| IAAA－82652 | 10,100 ± 50 | 28.44 ± 0.19 | 10,017 ± 54 | 9740BC － 9730BC (2.0%)<br>9671BC － 9439BC(61.4%)<br>9429BC － 9406BC (4.8%) | 9804BC－9331BC(95.4%) |
| IAAA－82653 | 6,950 ± 40 | 42.10 ± 0.21 | 6,926 ± 41 | 5842BC － 5746BC(68.2%) | 5898BC－5724BC(95.4%) |
| IAAA－82654 | 1,340 ± 30 | 84.65 ± 0.31 | 1,269 ± 31 | 688AD － 730AD(37.2%)<br>735AD － 772AD(31.0%) | 664AD－783AD(89.2%)<br>788AD－814AD (4.6%)<br>844AD－858AD (1.6%) |

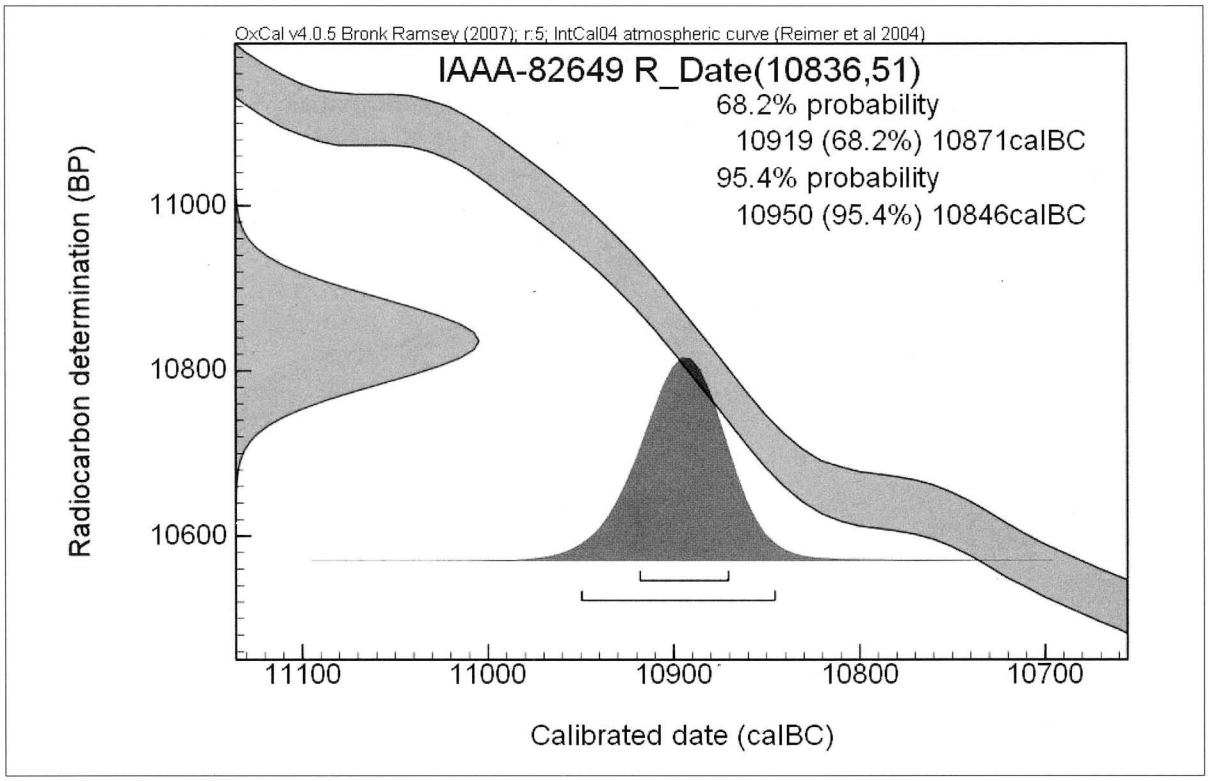
[参考値]



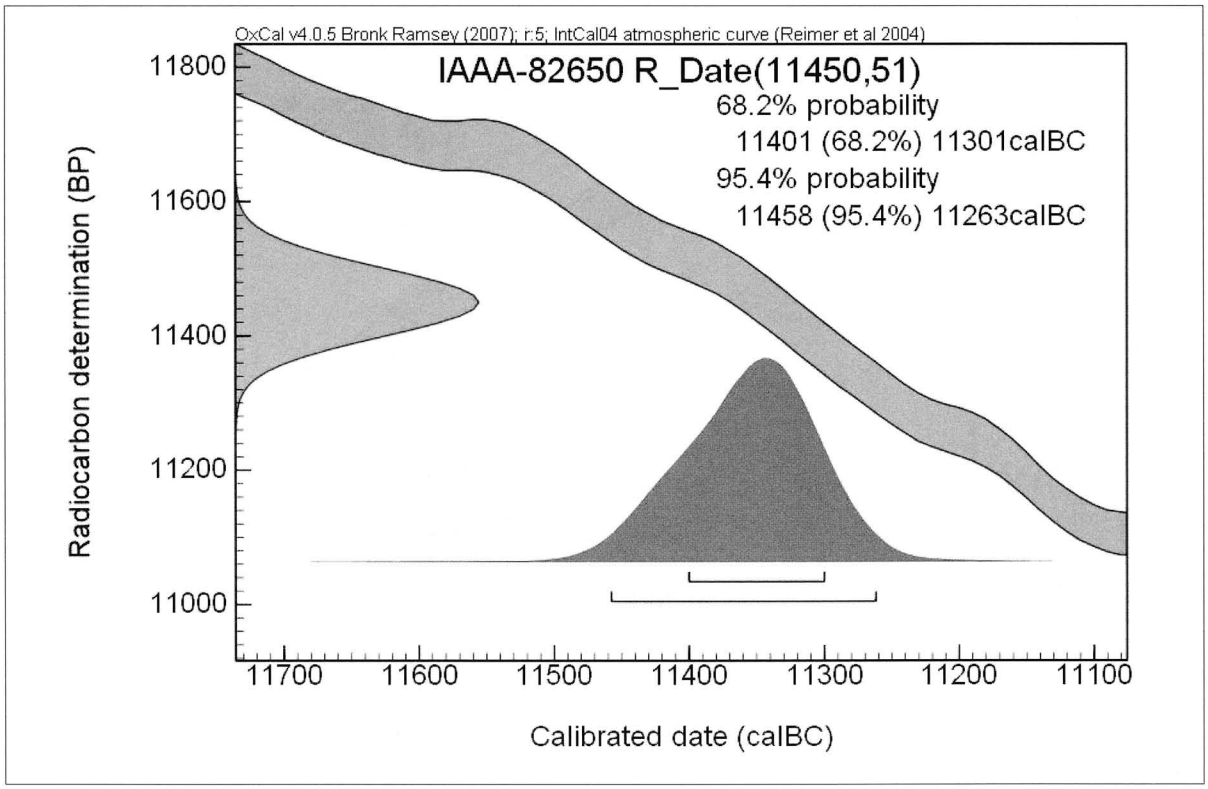

試料名：No 1



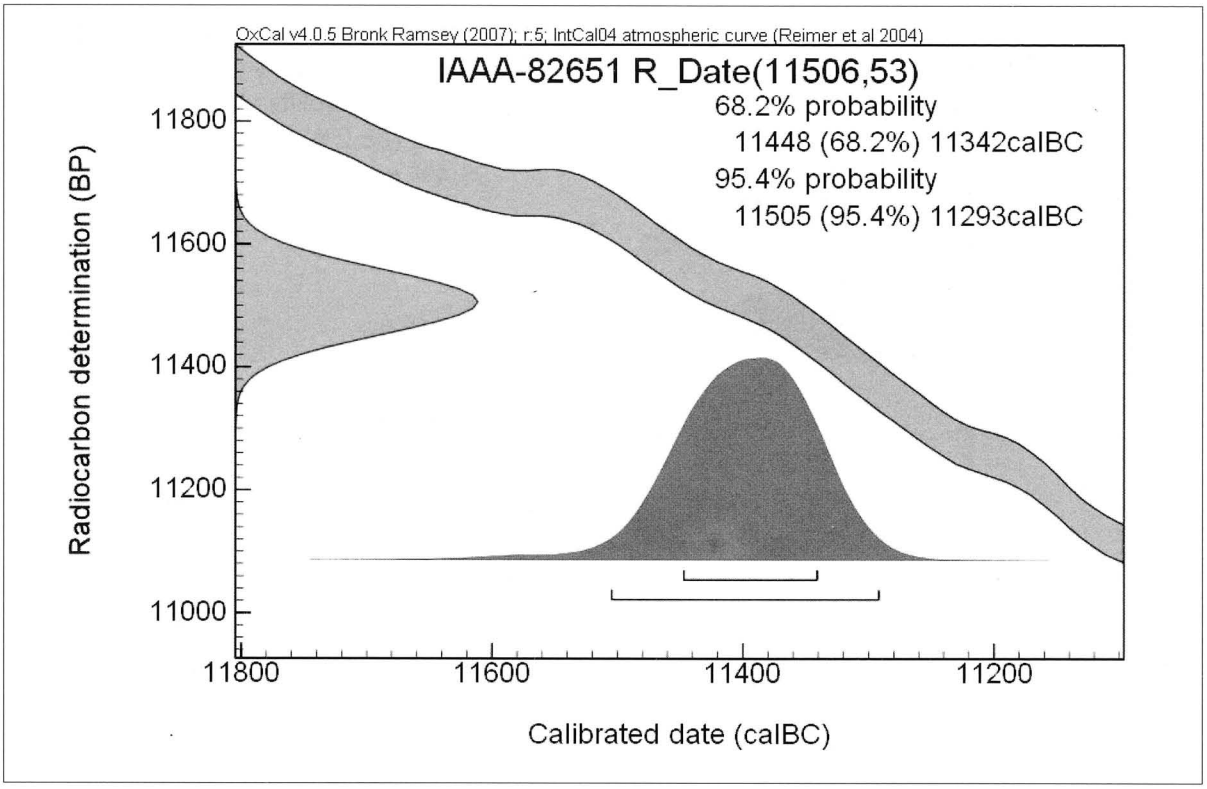

試料名：新 No 2



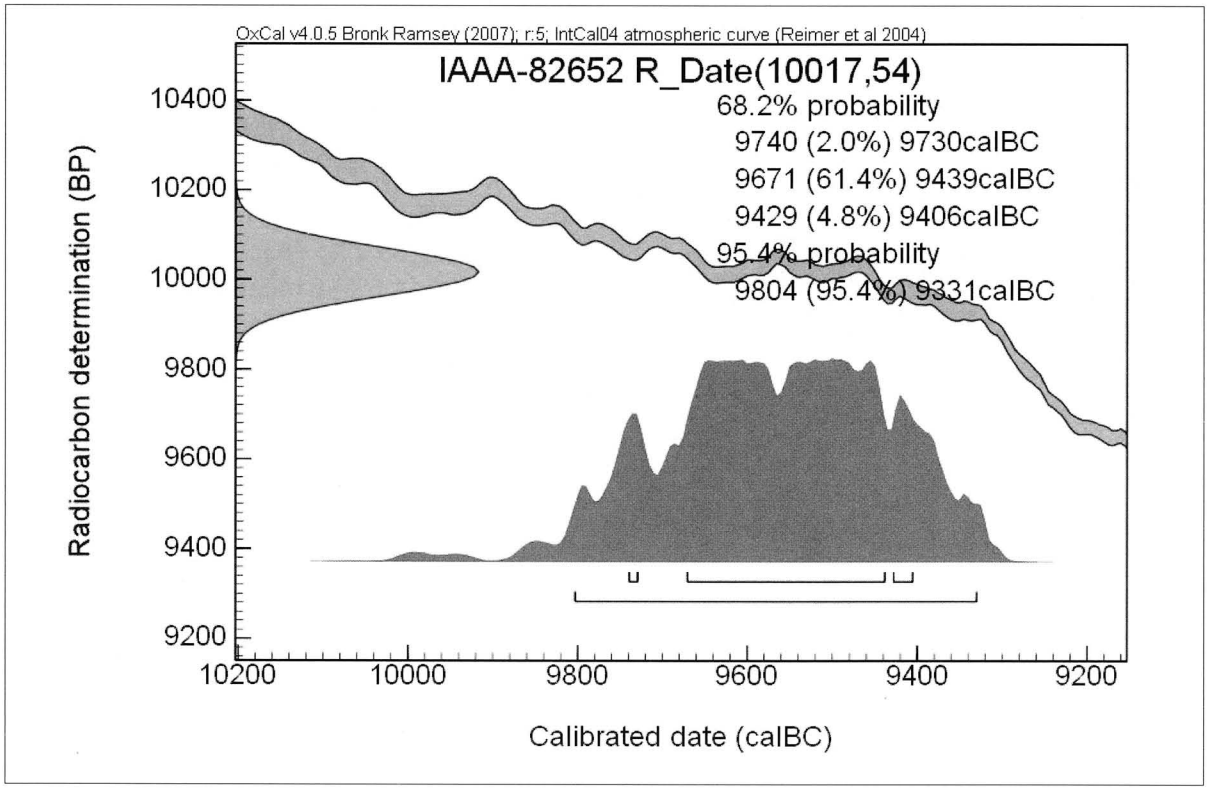

試料名：No 3



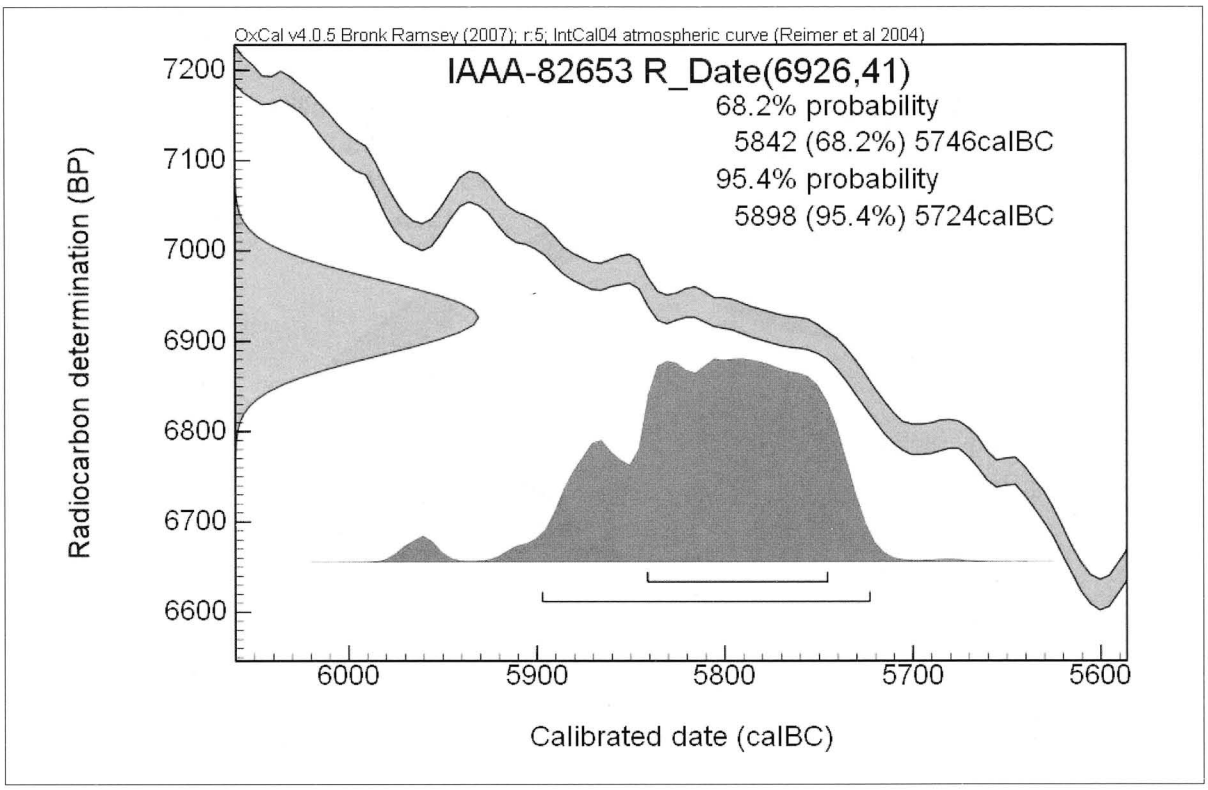

試料名：No 4



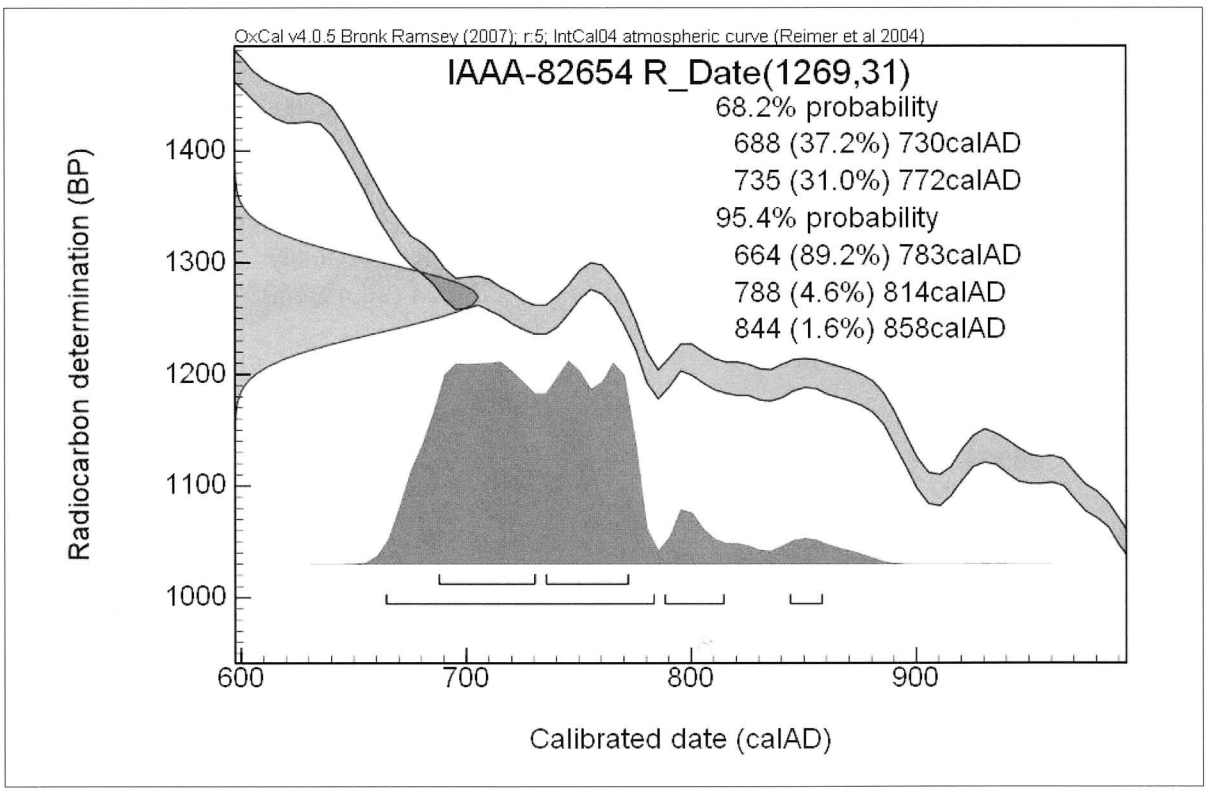

試料名：No 5




試料名：新 No 6




試料名：No 7



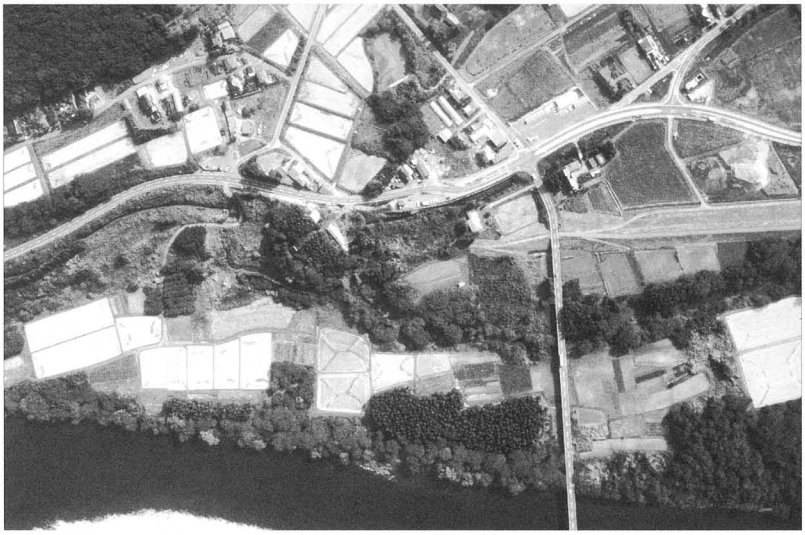

試料名：No 8

［参考］暦年較正年代グラフ

# 写　真　図　版

写真図版１　空撮（１）

遺跡遠景（上が北）



遺跡近景（上が東）

調査区全景（上が東）

写真図版２　空撮（２）

A区（西から）

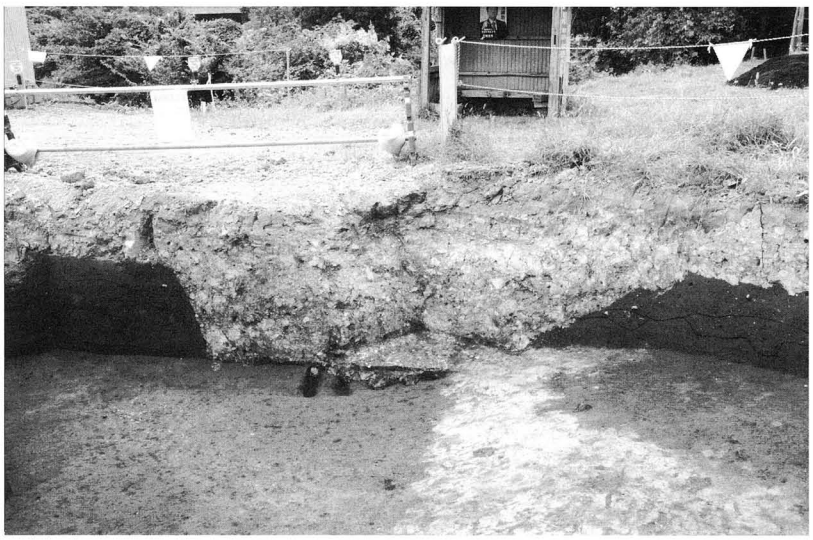
C区周辺（南西から）

D区（南から）

写真図版３　調査前現況

A20 グリッド（南西から）

C18 グリッド（南西から）

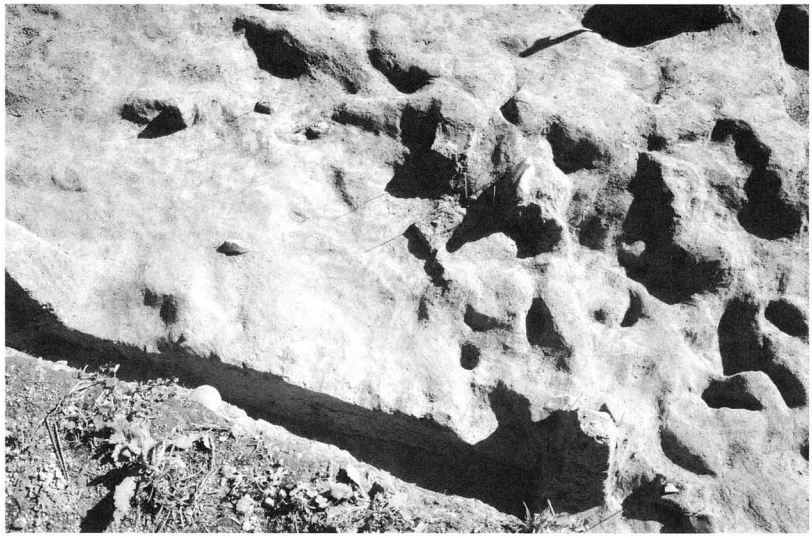


E 区（北東から）

写真図版４　層序

Ｓｂ 01 遺物出土状況（北西から）

Ｓｂ 02 遺物出土状況（東から）



Ｓｂ 03 遺物出土状況（西から）

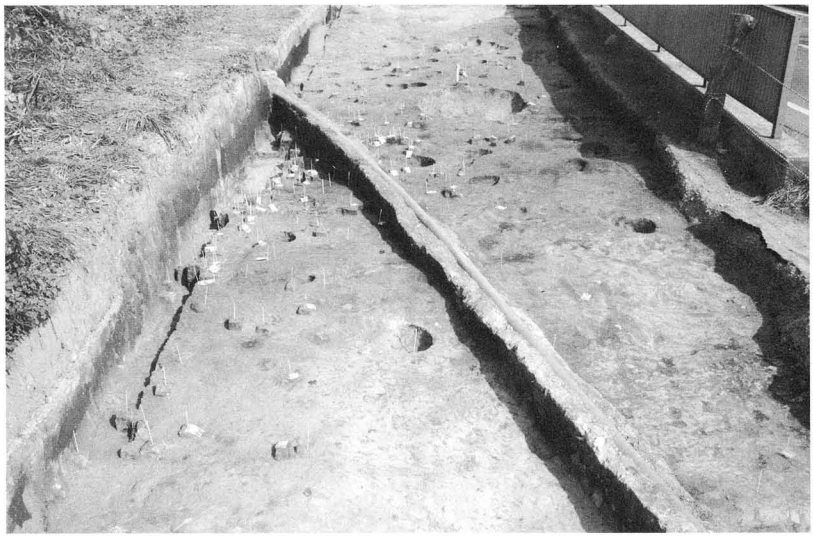
写真図版５　第Ｉ文化層（１）

第Ⅰ文化層 D1 遺物出土状況
（南西から）

第Ⅰ文化層 B4 遺物出土状況（東から）

Ｓｂ 04 遺物出土状況（東から）

写真図版６　第Ⅰ文化層（２）、第Ⅱ文化層



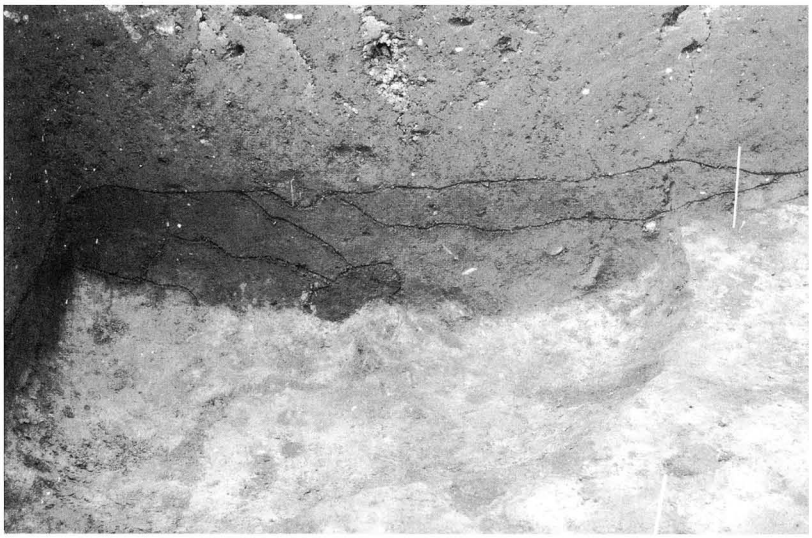
Ｓｂ 05 遺物出土状況（南西から）

Ｓｂ 06 遺物出土状況（東から）

Ｃ 24 尖頭器出土状況（南西から）

写真図版７　縄文時代の遺構（１）

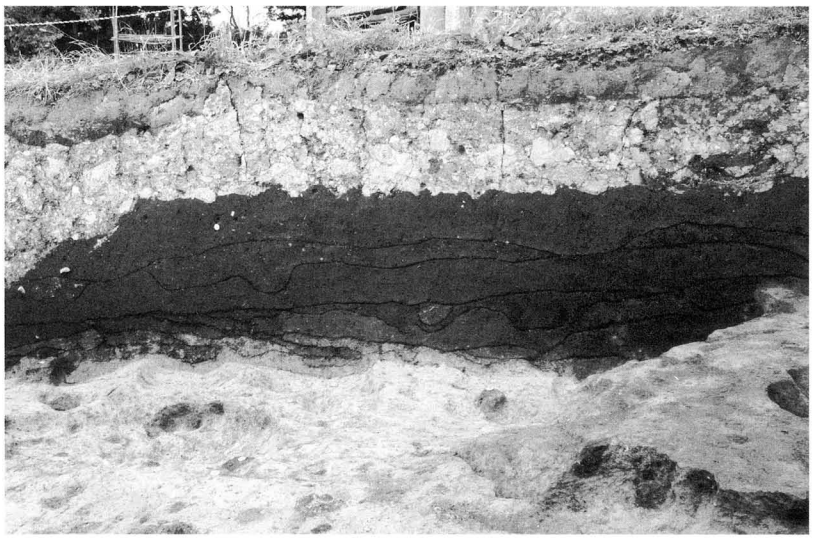
ＳＫ 02 完掘（東から）



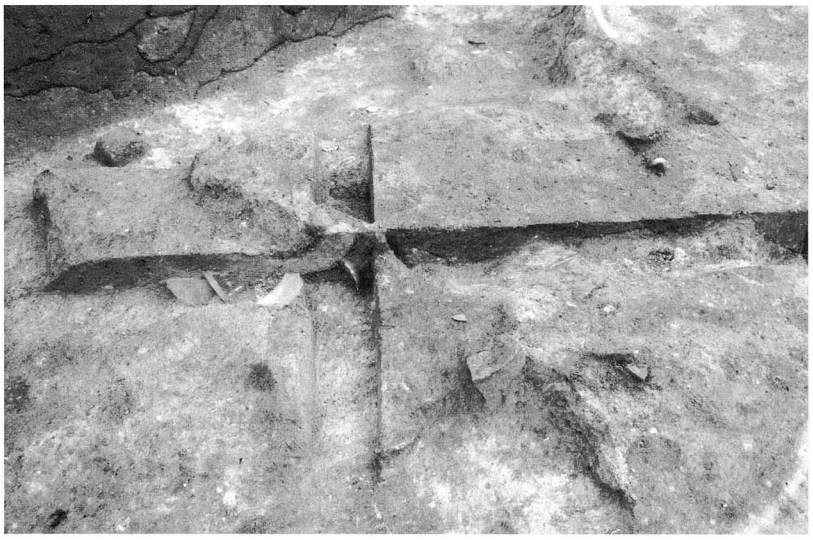
ＳＫ 02 断面（東から）

ＳＩ 01 新段階 完掘（南西から）

写真図版８　縄文時代の遺構（２）、平安時代の遺構（１）



ＳＩ01 断面（南東から）



ＳＩ01 カマド断面（南から）

ＳＩ01 煙道部断面（南から）

写真図版９　平安時代の遺構（２）

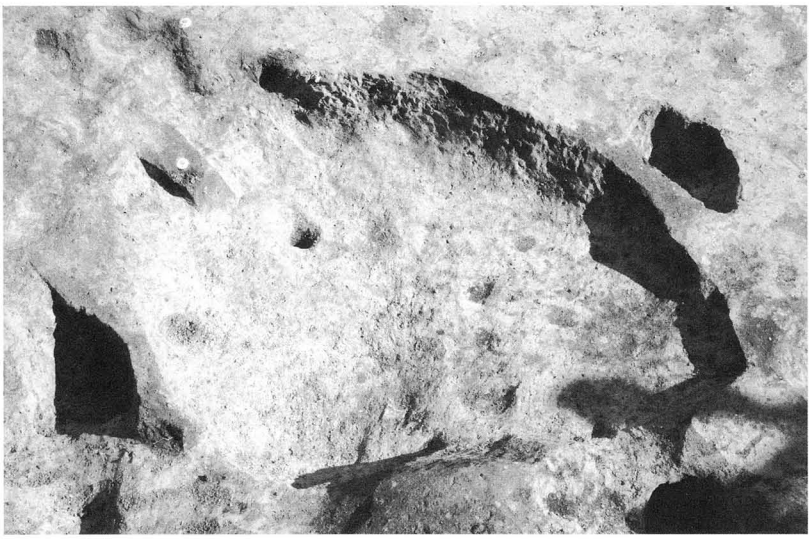
ＳＩ01 カマド検出・遺物出土状況
（南西から）

ＳＩ01 煙道部遺物出土状況（北東から）

ＳＩ01 古段階 完掘（南西から）

写真図版 10　平安時代の遺構（3）

ＳＩ 01 旧カマド燃焼部断面（南から）



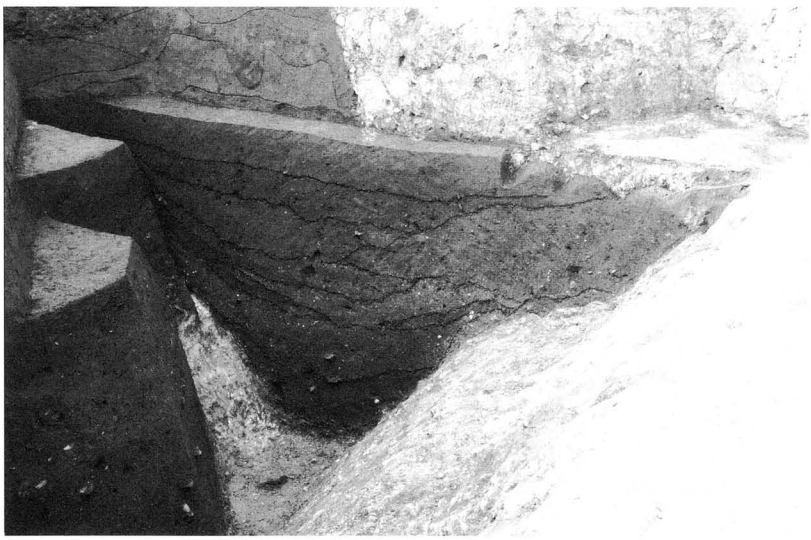
ＳＫ 05 完掘（南西から）

ＳＫ 05 断面（南から）

写真図版 11　平安時代の遺構（４）

ＳＤ 01 東側完掘（南西から）

ＳＤ 01 西側完掘（東から）



ＳＤ 01 西側断面（東から）

写真図版 12　中世の遺構（1）

ＳＤ 03 完掘（南から）

ＳＤ 03 断面（南東から）

ＳＤ 04 完掘（東から）

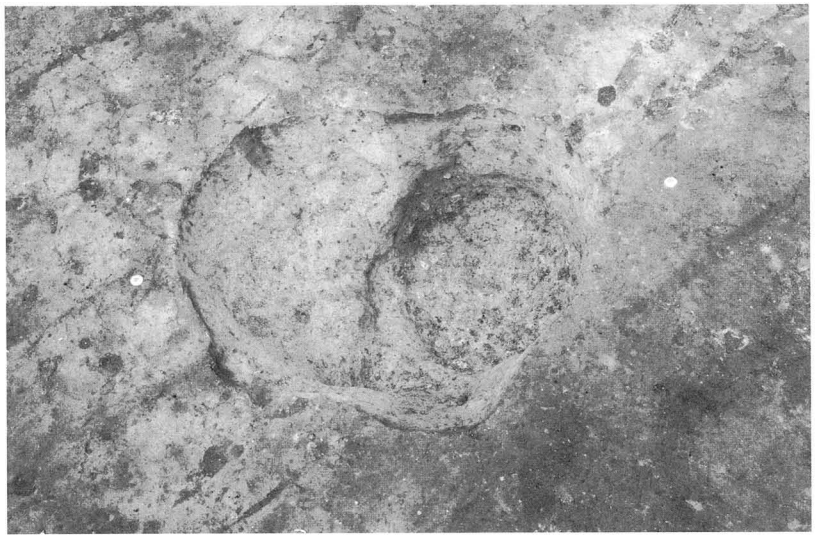
写真図版３　中世の遺構（２）

ＳＤ04断面（西から）

Ｄ区柱穴群完掘（南西から）

Ｅ区柱穴群完掘（南西から）

写真図版14　中世の遺構（３）



ＳＫ 01 完掘（南から）

ＳＫ 01 断面（南西から）

ＳＫ 04 完掘（南東から）

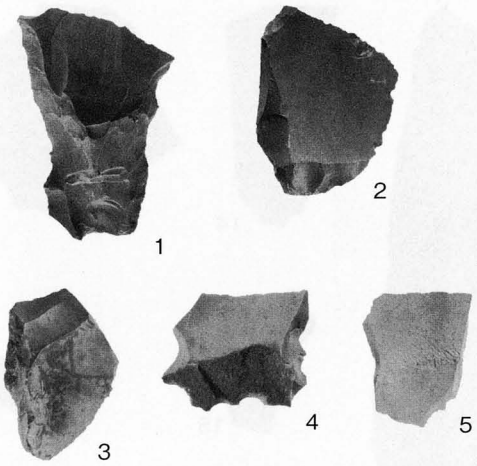
写真図版 15　ＳＫ 01・ＳＫ 04

D・E区古代・中世面終了（南西から）

凸区後期旧石器時代面終了（東から）

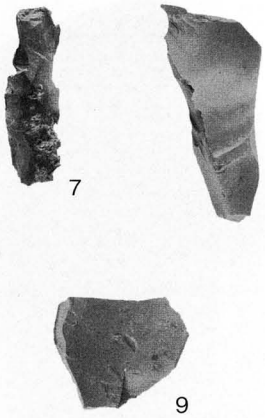
D区後期旧石器時代面終了（南西から）

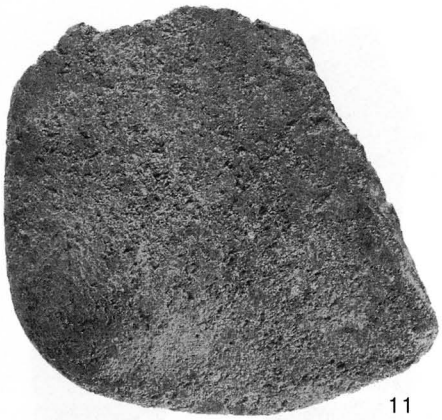
写真図版 16　終了状況




第Ⅰ文化層以前

Ｓｂ 01

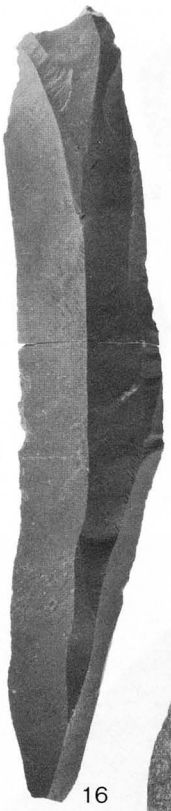


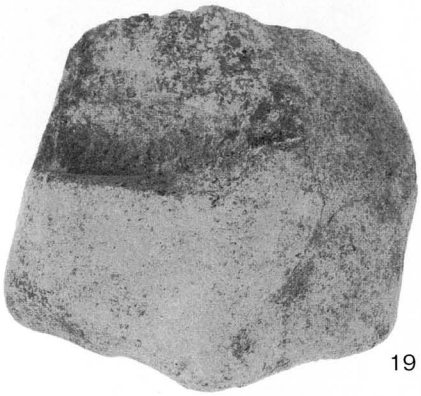


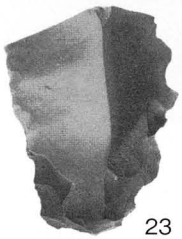

Ｓｂ 02①

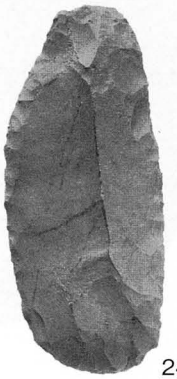
写真図版 17　第Ⅰ文化層以前の遺物、第Ⅰ文化層の遺物（1）

Ｓｂ 02②

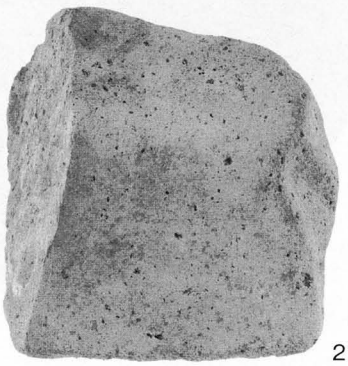






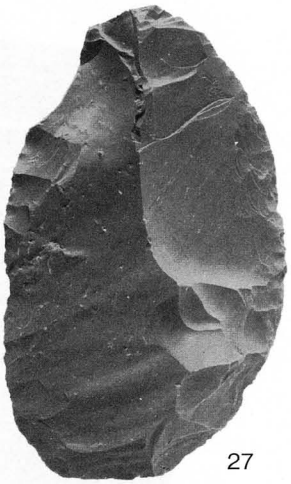
第Ⅰ文化層　ブロック外①

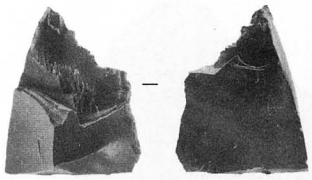



Ｓｂ 03

写真図版 18　第Ⅰ文化層の遺物（2）

26

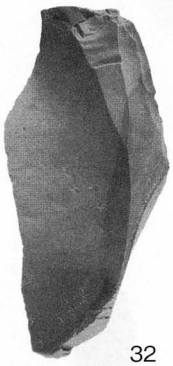

27


28

29

30

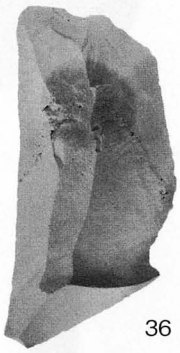
31


32

33

34

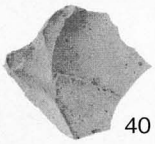
35

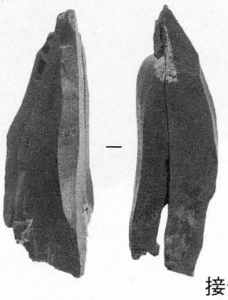

36

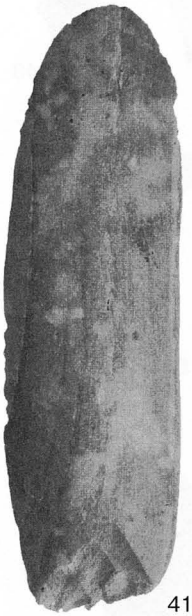
37

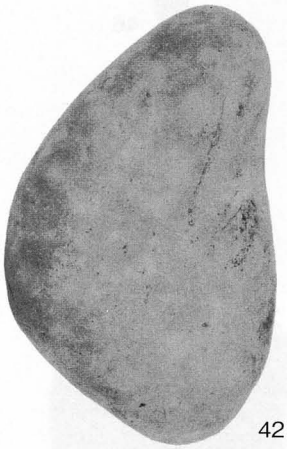
38

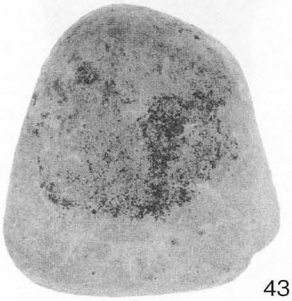
39


40


接合資料１


41


42


43

第Ⅰ文化層　ブロック外②

写真図版 19　第Ⅰ文化層の遺物（３）

44

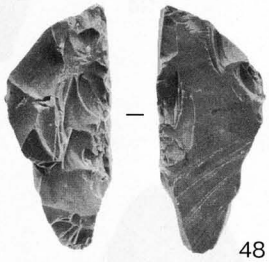
45

第Ⅰ文化層　ブロック外③

46

47

Ｓｂ 04



48

49

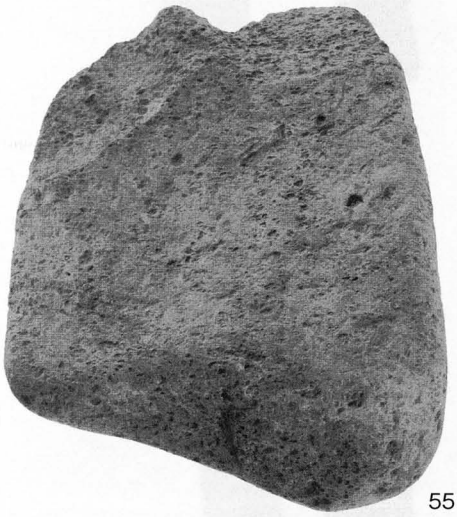
52

54

53

50

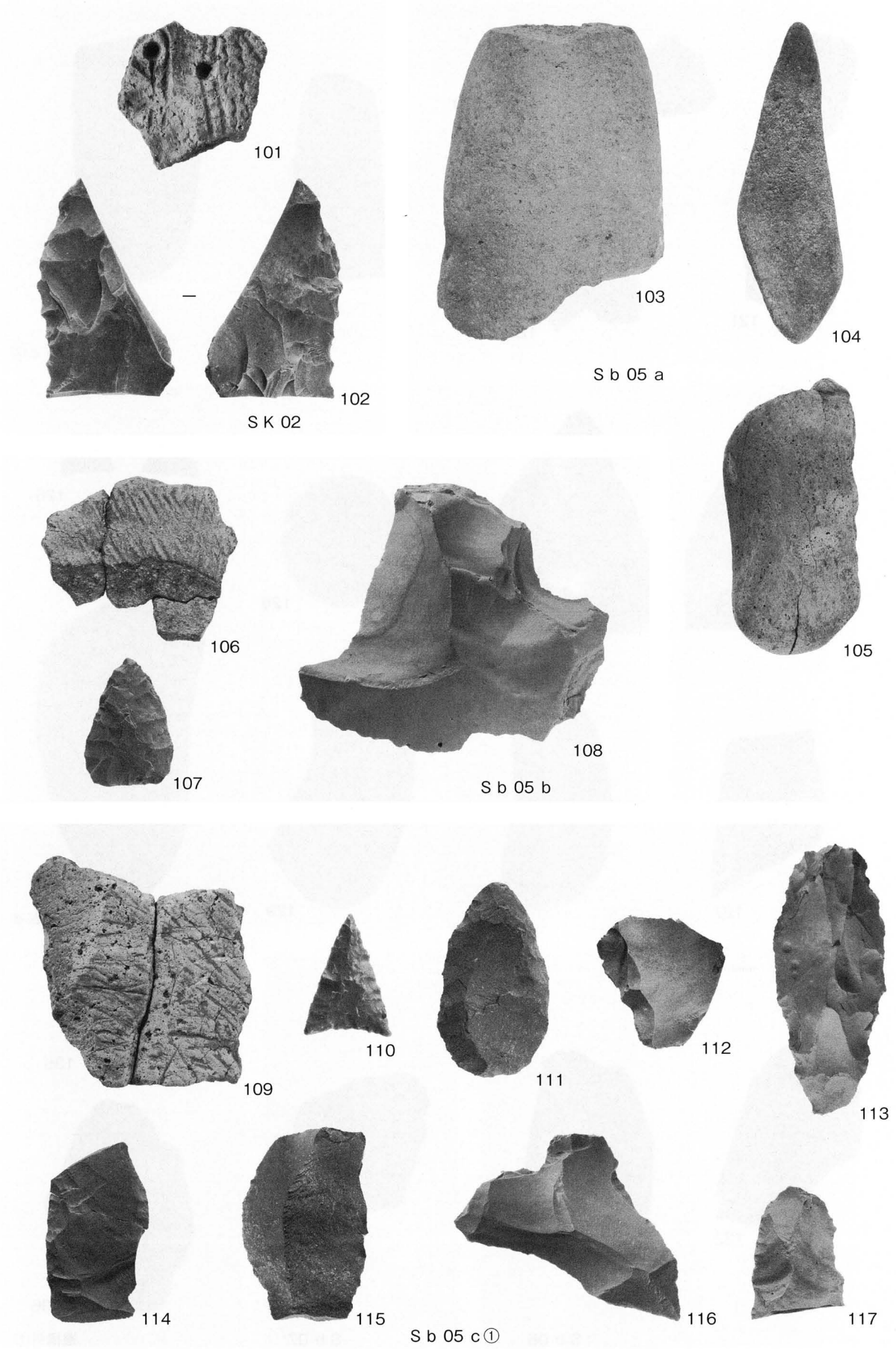
51



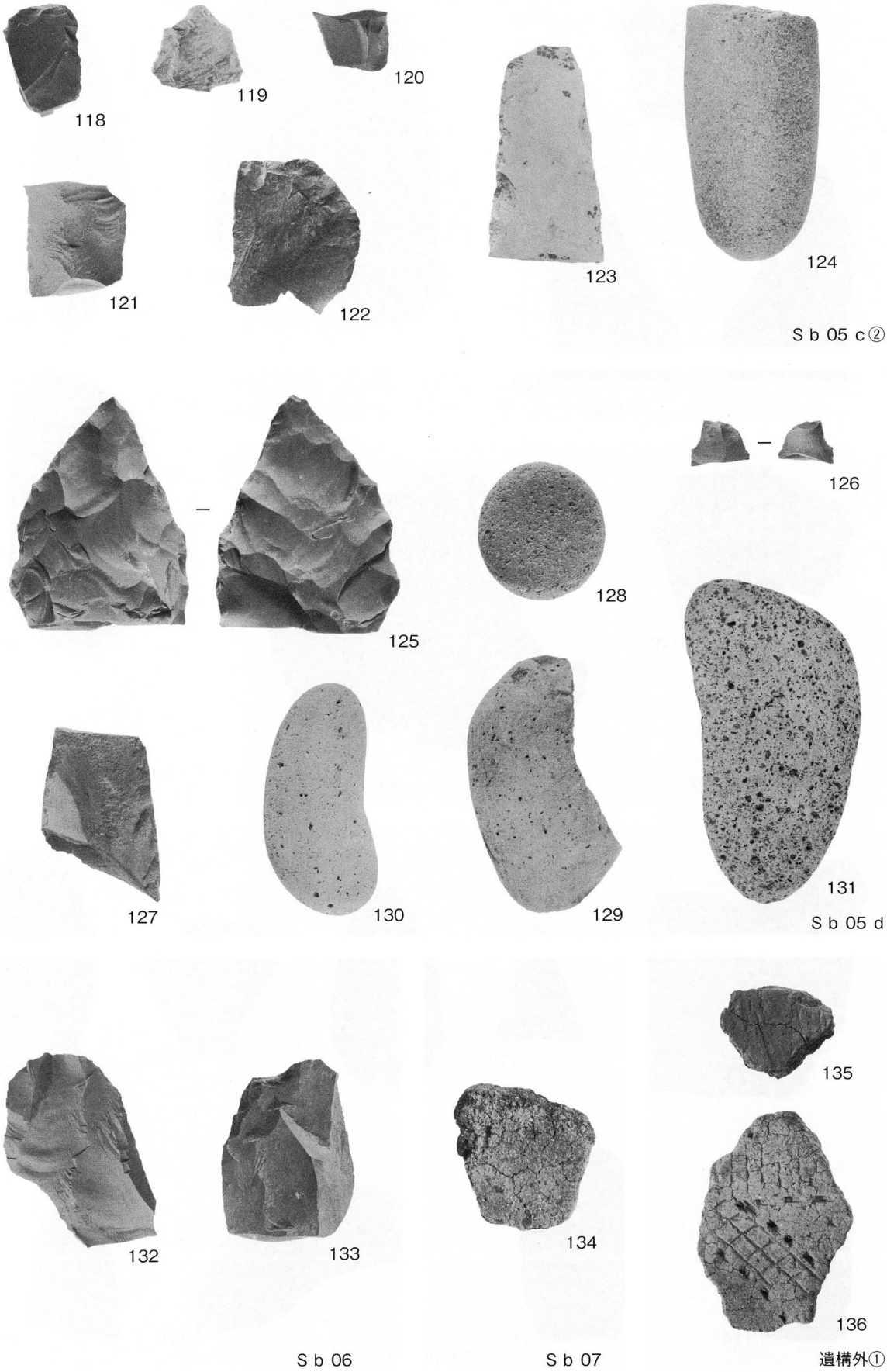
55

第Ⅱ文化層　ブロック外

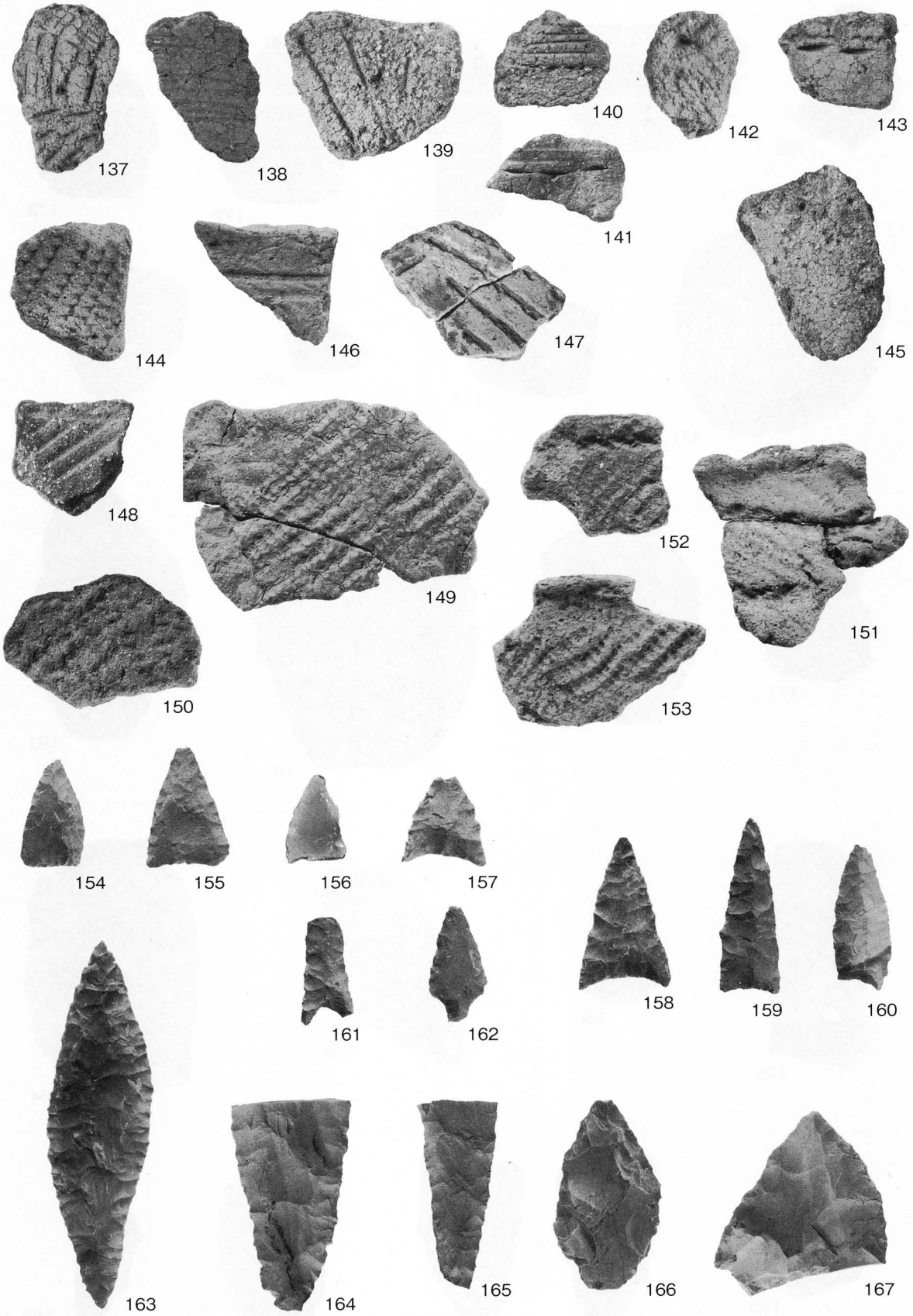
写真図版 20　第Ⅰ文化層の遺物（4）、第Ⅱ文化層の遺物




写真図版 21　縄文時代の遺物（1）

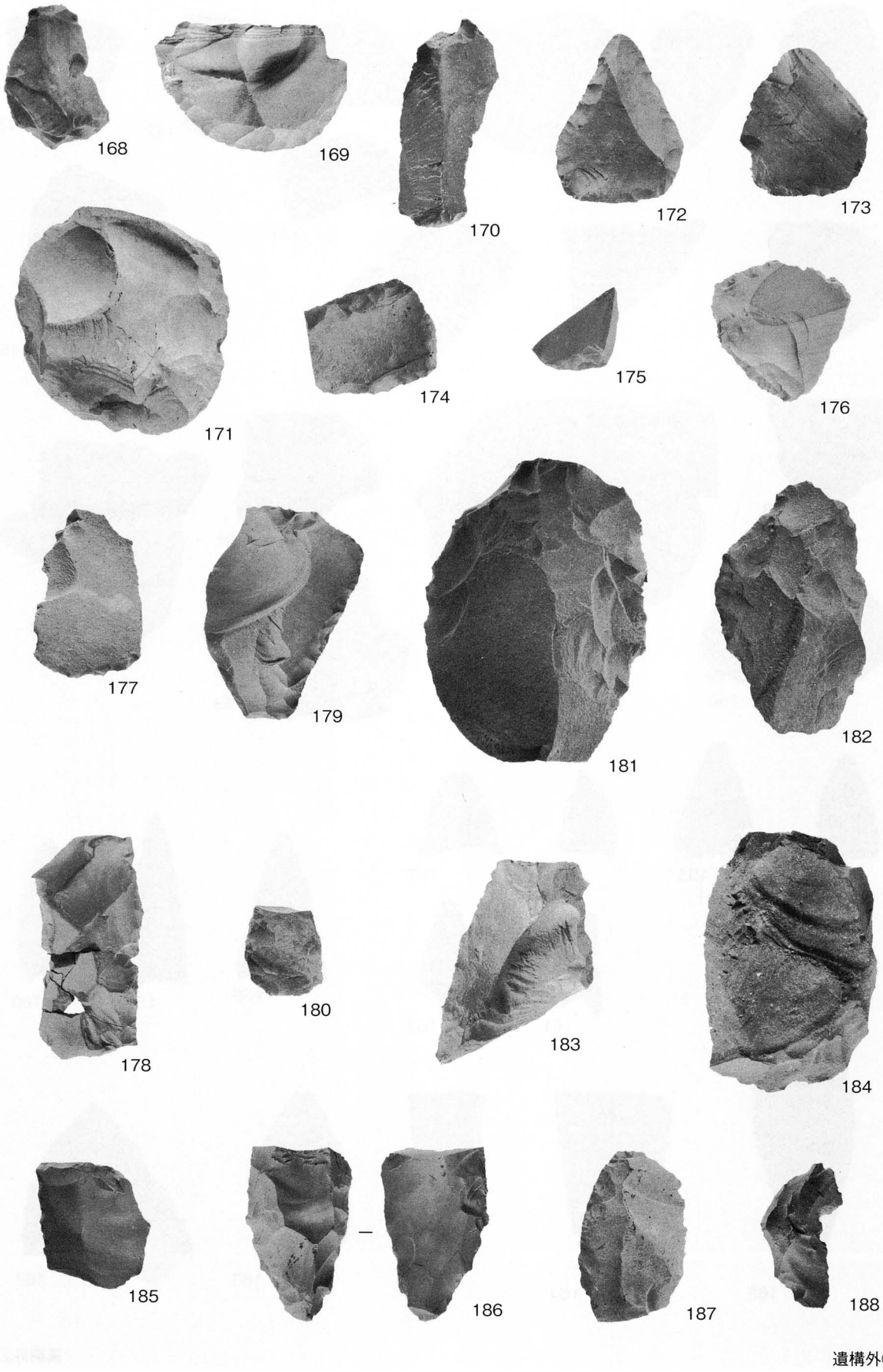



写真図版 22　縄文時代の遺物（２）

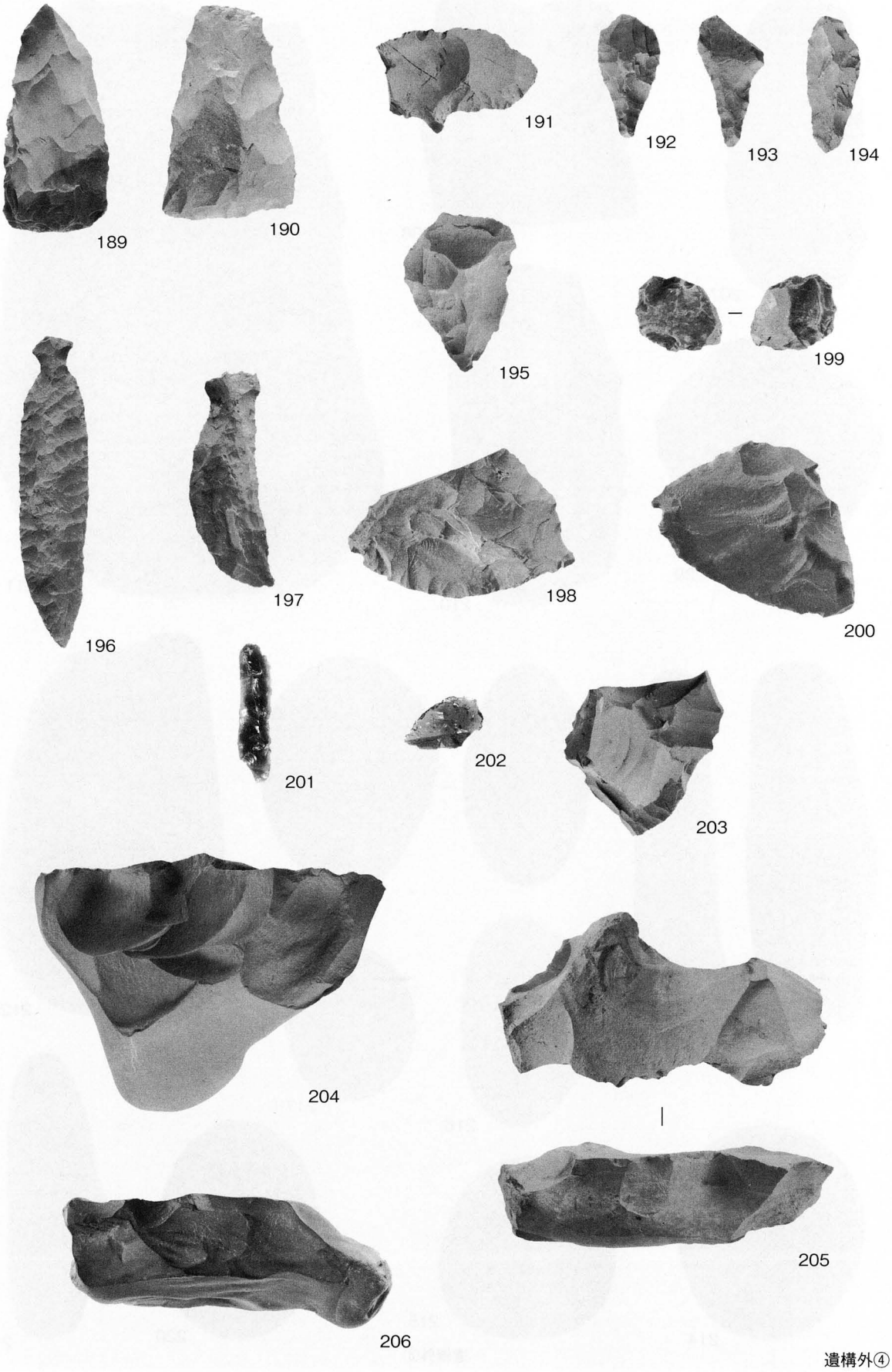



遺構外②

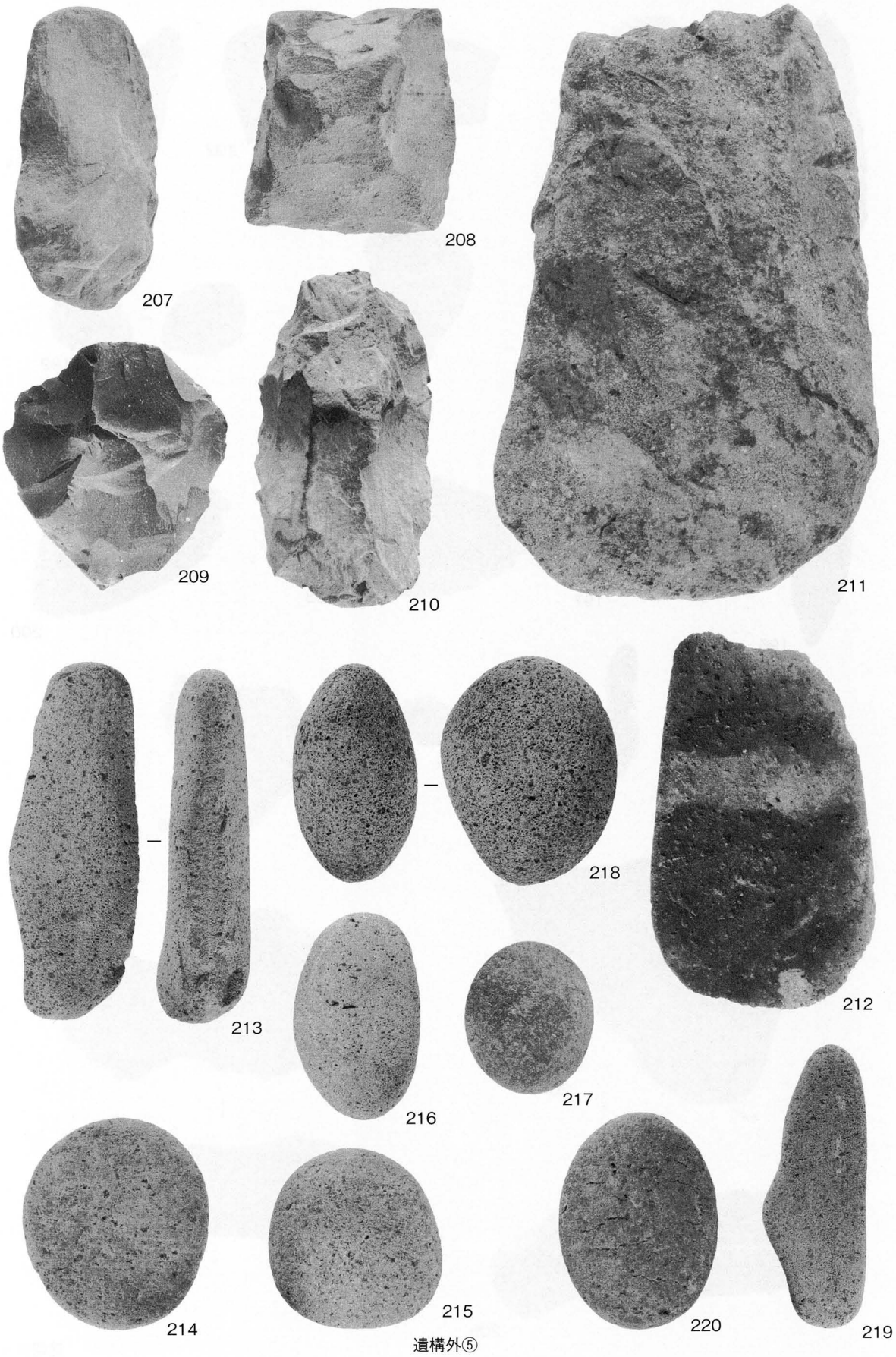
写真図版 23　縄文時代の遺物（3）



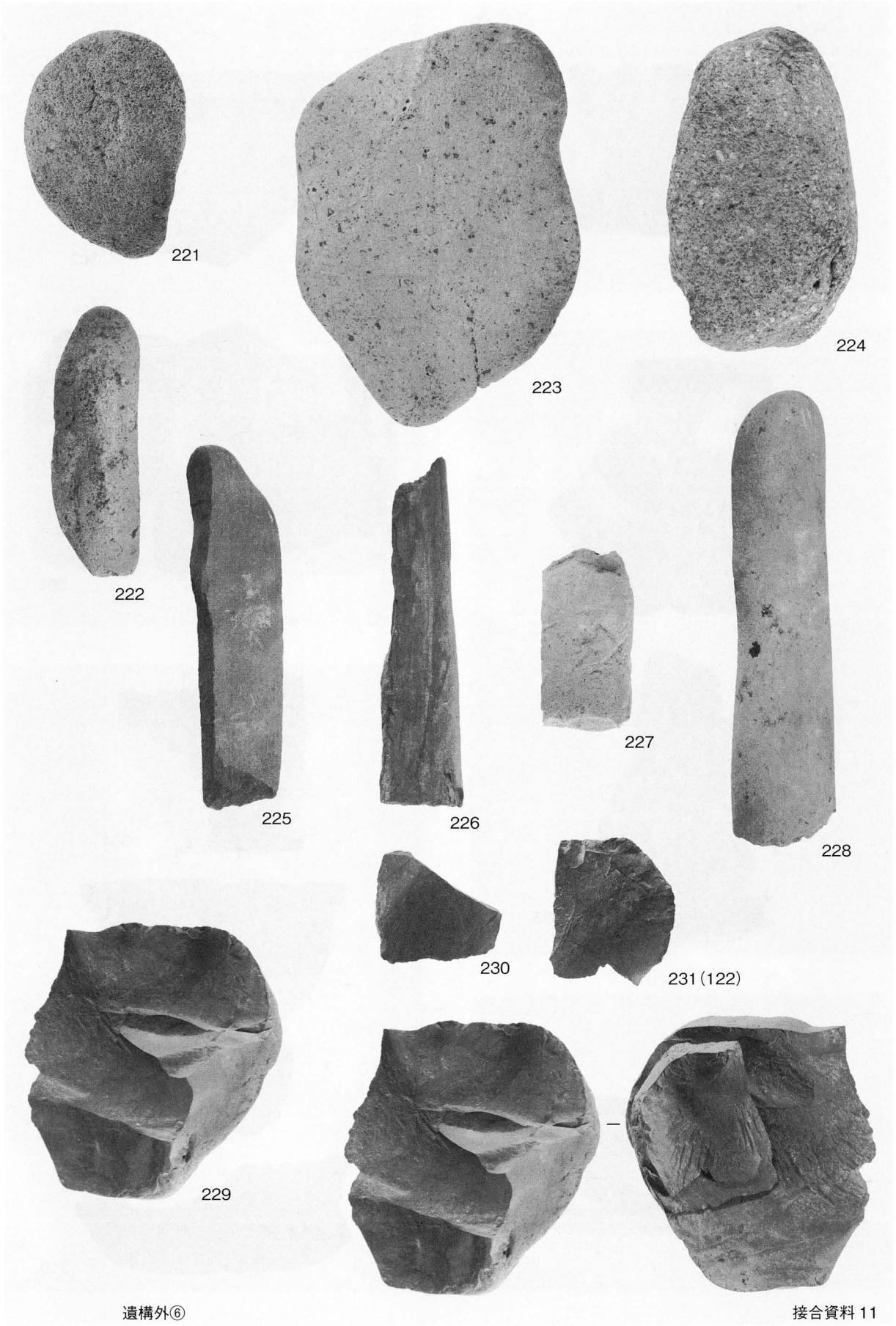

写真図版 24　縄文時代の遺物（4）



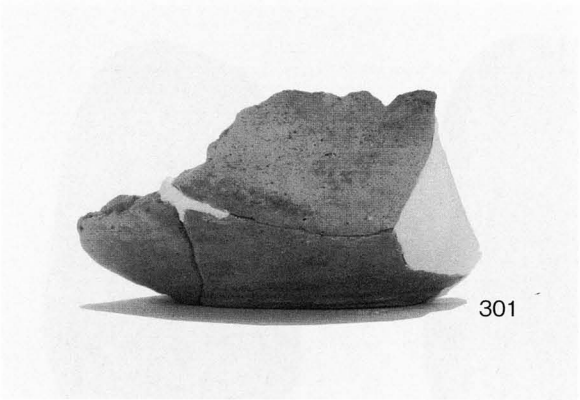

写真図版 25　縄文時代の遺物（5）

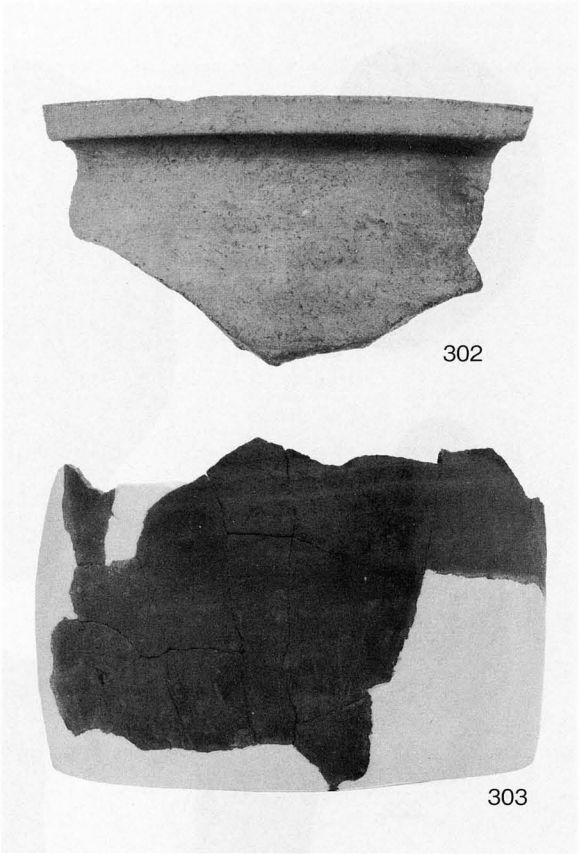


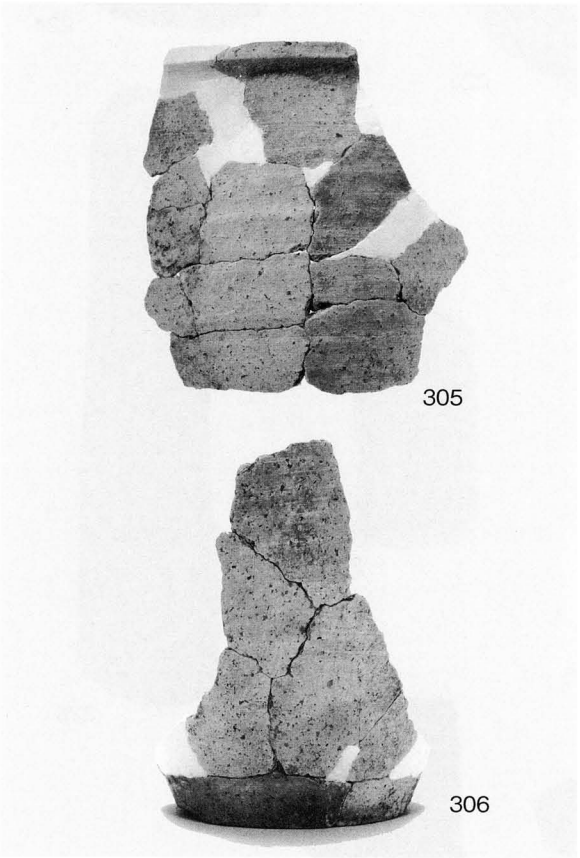

写真図版 26　縄文時代の遺物（6）

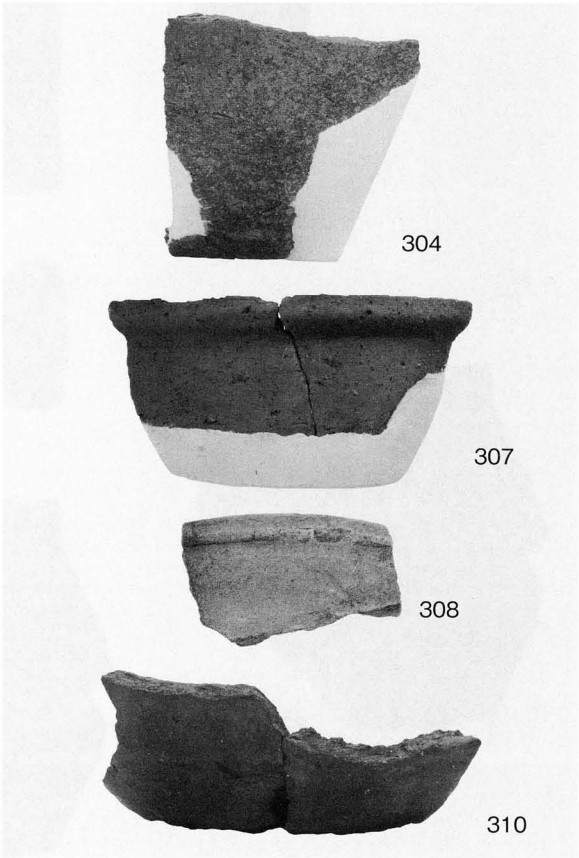


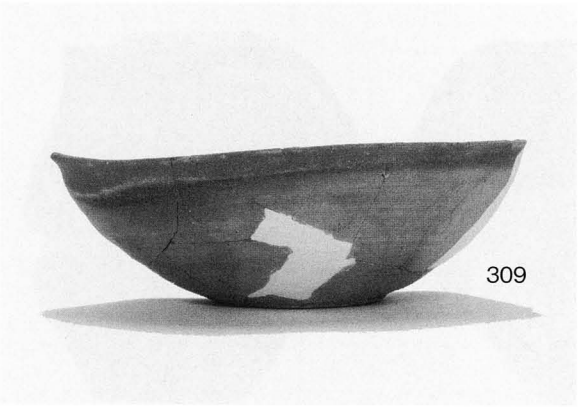

写真図版 27　縄文時代の遺物（7）



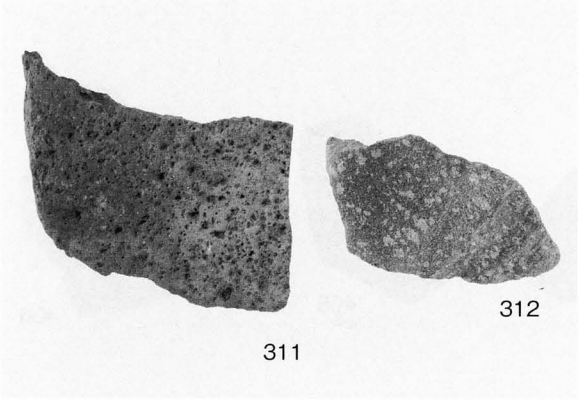



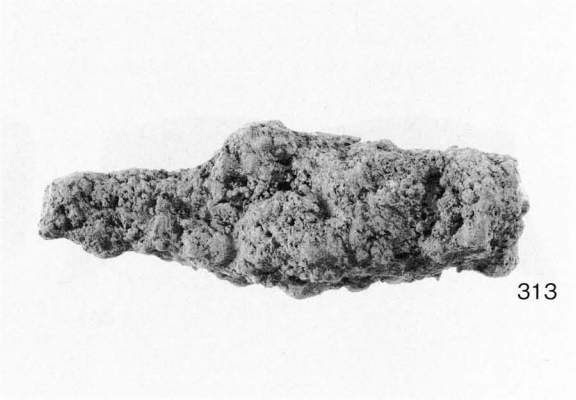



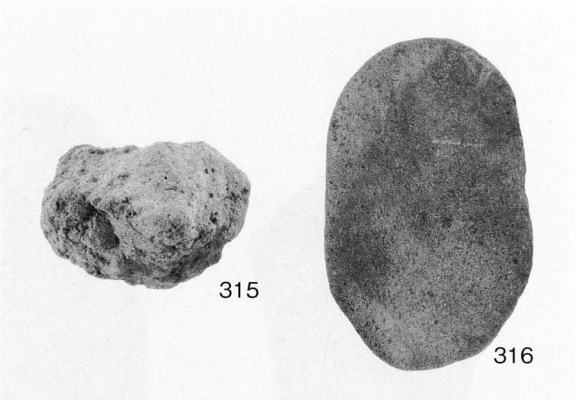



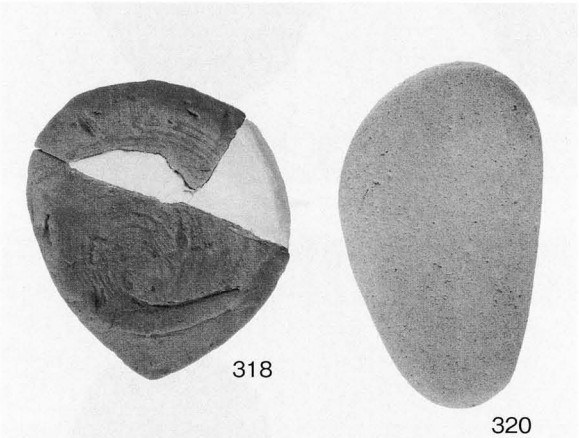



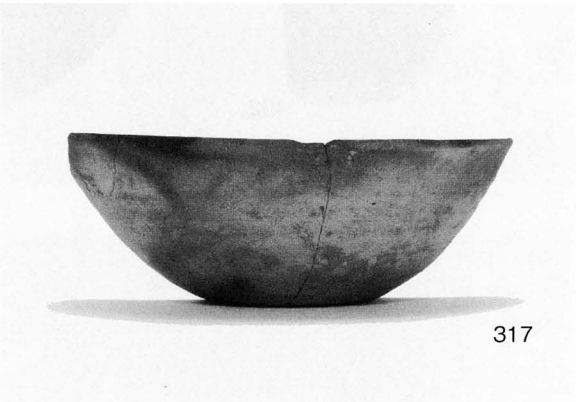

写真図版 28　平安時代の遺物（1）

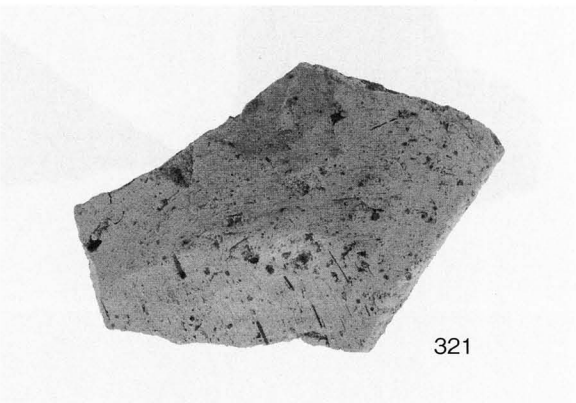


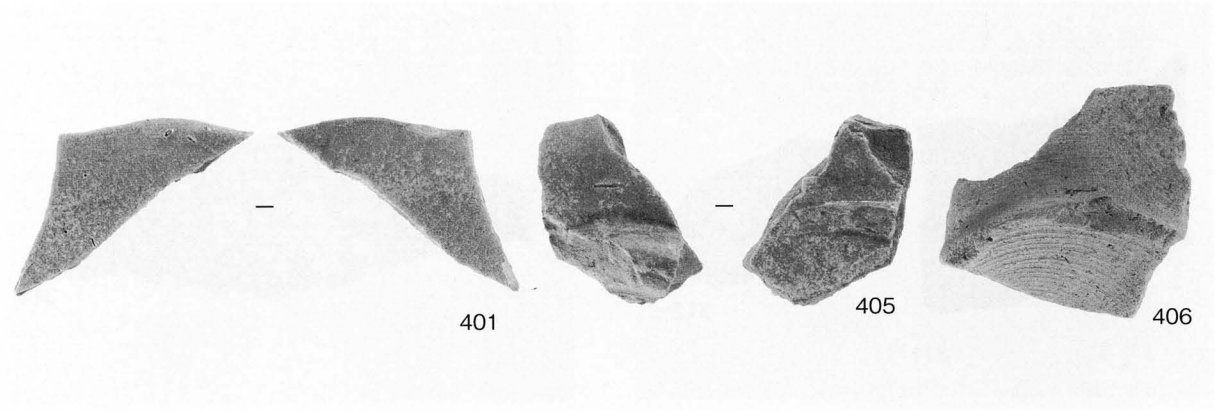


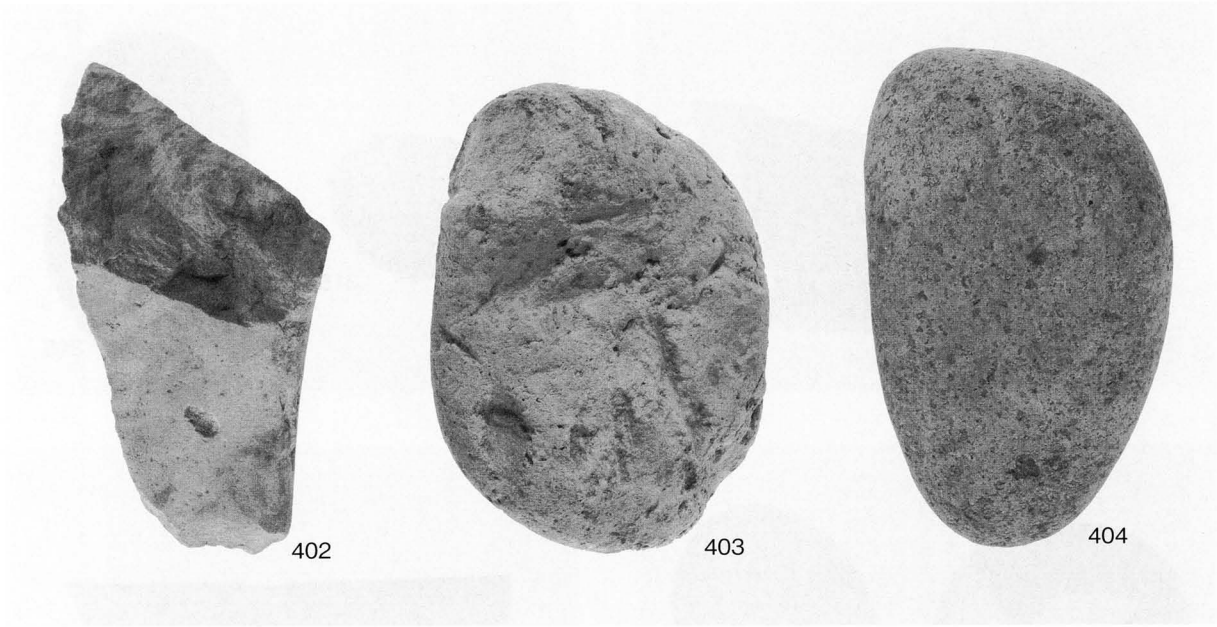



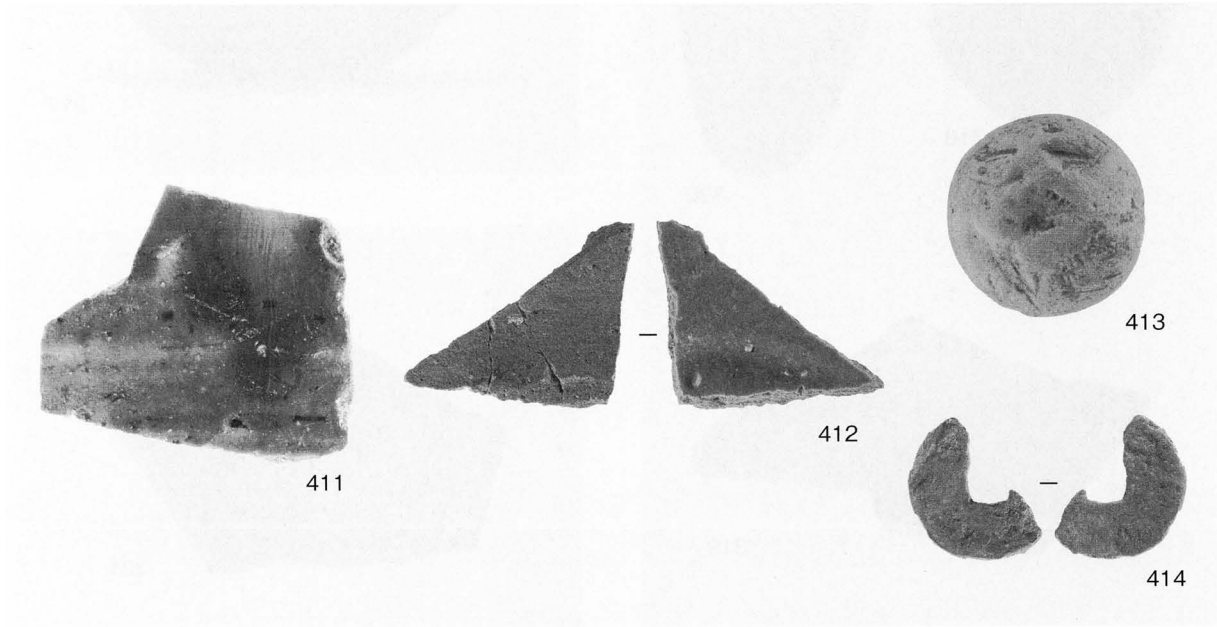






写真図版 29　平安時代の遺物（2）




写真図版 30　中世の遺物、時期不明の遺物

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | さいのはばたてあとはっくつちょうさほうこくしょ |
| 書名 | 斉羽場館跡発掘調査報告書 |
| 副書名 | 緊急地方道路整備事業下門岡地区関連遺跡発掘調査 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第561集 |
| 編著者名 | 北村忠昭 |
| 編集機関 | (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　TEL（019）638－9001 |
| 発行年月日 | 2010年1月29日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 斉羽場館跡（さいのはばたてあと） | 岩手県北上市稲瀬町字前田164-1（いわてけんきたかみしいなせちょうあざまえでん） | 03206 | ME76-2110 | 39度<br>15分<br>10秒 | 141度<br>07分<br>14秒 | 2008.09.01<br>～<br>2008.11.21 | 1,290㎡ | 緊急地方道路整備事業 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 斉羽場館跡 | キャンプ地 | 後期旧石器時代 | ブロック4箇所 | ナイフ形石器1点、台形石器5点、彫器1点、掻器4点、掻削器3点、削器1点、礫器3点、石斧1点、敲石2点、磨石1点、台石11点、剥片 | 石刃石器群と細石刃石器群の2枚の文化層を確認 |
| | 集落跡 | 縄文時代 | 土坑1基<br>ブロック4箇所 | 縄文土器中コンテナ1箱<br>石器中コンテナ4.5箱、石製品5点 | 草創期～早期中葉のブロックを確認 |
| | 集落跡 | 平安時代 | 竪穴住居跡1棟<br>土坑1基<br>柱穴2個 | 土師器・須恵器中コンテナ1箱<br>刀子1点 | |
| | 城館 | 中世 | 堀跡1条<br>溝跡2条<br>柱穴36個 | 磁器2点<br>石器・石製品中コンテナ0.5箱 | |
| | 散布地 | 近世 | | 磁器1点、寛永通寶1点 | |
| | | 時期不明 | 土坑2基 | 陶器3点、磁器4点、角釘2点、土製品1点 | |


要約

斉羽場館跡は北上市役所の南南西約3.2kmに位置し、北上川左岸の河岸段丘上に立地する。戦国時代には葛西氏の家臣である及川若狭守吉種の居城として知られ、正保2年の破却古城書上にも書上げられている城跡である。

調査区は主要地方道一関北上線を挟んで、東西に分かれており、遺構・遺物の大半は西側で検出した。後期旧石器時代は、ナイフ形石器・掻器を中心とする石刃石器群と細石刃石器群の2枚の文化層を確認し、前者を第Ⅰ文化層、後者を第Ⅱ文化層とした。また、盛土層を中心に台形石器が出土し、周辺には第Ⅰ文化層以前の石器群が存在する可能性が高い。縄文時代は早期中葉の土坑、草創期～中期の遺物が出土し、草創期～早期中葉を中心とする。特にＳｂ05ｂ出土の土器は付着炭化物の放射性炭素年代測定を行ったところ、約1万年前との結果が得られ、草創期後半の多縄文土器群である室谷下層式期に相当する。明確な居住域は確認できなかったが、隣接する場所に存在する可能性が高い。平安時代は10世紀代の竪穴住居跡が確認され、居住域であることが判明した。現状の地形を見る限りでは、平坦面は狭く、小規模な集落跡と考えられる。中世では、斉羽場館に関係する堀跡・溝跡、柱穴、中国産青磁・かわらけが出土した。現在の金毘羅神社の場所周辺を堀によって区画していたことが判明したが、狭い調査区であるため、館全体の構造は不明である。

今回の調査で、昭和46年度に行われた調査内容を補強する遺構・遺物が出土し、後期旧石器時代から現代まで、断続的に利用されてきた場所であることが判明した。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第561集

# 斉羽場館跡発掘調査報告書

緊急地方道路整備事業下門岡地区関連遺跡発掘調査

印　刷　平成22年1月25日

発　行　平成22年1月29日

編　集　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話（019）638－9001

発　行　岩手県県南広域振興局北上総合支局土木部

〒024－8520　岩手県北上市芳町2－8

電話（0197）65－2738

(財)岩手県文化振興事業団

〒020－0023　岩手県盛岡市内丸13番1号

電話（019）654－2235

印　刷　株式会社五六堂印刷

〒020－0021　岩手県盛岡市中央通3－16－15

電話（019）654－5610

ⓒ(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2010